

2022 Study Guide

スタディガイド

[学校教育系]

令和4年度入学生用



東京学芸大学

スタディガイドとは？

「2022 スタディガイド[学校教育系]」は、入学時に定められている授業の履修方法及び履修基準等が記載されており、4年間の学修を総合的にサポートするためのものです。また、教育職員免許状・資格及び受験資格取得に必要な事項についても記載されています。

「スタディガイド」は、入学時のみ配布され、4年間使用するものです。
卒業するまで大切に保管してください。

なお、授業科目名や開設時期等に変更が生じた場合は、掲示板や学芸ポータル等でお知らせを行います。各自確認を行ってください。

授業ガイドとは？

授業ガイドは、スタディガイドに掲載されている授業科目が「いつ・どこで・誰が・どのように」実施しているかを、ウェブ上で確認することができます。

東京学芸大学ウェブサイトのトップページから、「授業ガイド(シラバス等)」の閲覧が可能です。特に、シラバスには、授業の目標やスケジュール等の記載がありますので、参照の上、履修登録を行きましょう。

目 次

1 東京学芸大学の概要	1
2 カリキュラム用語集	3
3 課程及び授業科目区分の略称	4
4 カリキュラムの特色	5
5 東京学芸大学の科目ナンバリング	7
6 教育組織	11
7 学群・教室一覧	12
8 授業時間割及び履修上の注意事項	13
9 GPA(グレード・ポイント・アヴェレージ)による成績評価	17
10 教育実習とインターンシップ,多摩地区国立5大学単位互換制度	18
11 介護等体験について	22
12 教員養成高度化プロジェクトについて	23
13 指導教員制度と指導体制	24
14 オフィスアワーについて	24
15 学生による授業アンケート	25
16 履修基準	26
17 卒業要件	30
18 開設授業科目一覧の見方	31
19 教養科目	41
① 総合学芸領域 (CA)	41
② 健康・スポーツ領域 (CH)	45
③ 語学領域 (CL)	46
20 教育基礎科目	
① 教職の意義等(EW)	49
② 教育の基礎理論(EF)	49
③ 教育課程及び指導法に関する科目(ET)	49
④ 生徒指導及び教育相談(EC)	52
⑤ 教職実践演習(EE)	53
⑥ 教職に関する科目〔選択〕	53
⑦ 教育実習・養護実習(EP)	54
21 専攻科目	
① 教科・教職に関する科目(共通SE)	59
② 小学校の教科に関する専門的事項(SP)	60
初等教育教員養成課程(A類)	
中等教育教員養成課程(B類)	
③ 国語 (A・B類)	62
④ 社会 (A・B類)	66

⑤ 数学 (A・B類)	75
⑥ 理科 (A・B類)	79
⑦ 音楽 (A・B類)	87
⑧ 美術 (A・B類)	93
⑨ 保健体育 (A・B類)	99
⑩ 家庭 (A・B類)	103
⑪ 英語 (A・B類)	107
⑫ 学校教育 (A類)	111
⑬ 学校心理 (A類)	113
⑭ 国際教育 (A類)	115
⑮ 情報教育 (A類)	117
⑯ 環境教育 (A類)	119
⑰ ものづくり技術 (A類)	121
⑱ 幼児教育 (A類)	123
⑲ 技術 (B類)	125
⑳ 書道 (B類)	128
特別支援教育教員養成課程 (C類)	130
養護教育教員養成課程 (D類)	134

22 学校教育系学生のための教員免許状の取得方法

(1) 幼稚園教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法	138
(2) 小学校教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法	140
(3) 中学校教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法	142
(4) 高等学校教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法	143
(5) 中学校・高等学校教諭各種免許状取得に必要な「教科に関する専門的事項」, 「各教科の指導法」及び「大学が独自に設定する科目」の履修方法(教科別)	144
(6) 各種免許状取得に必要な「大学が独自に設定する科目」について	168
(7) 特別支援学校教諭免許状取得に必要な「特別支援教育に関する科目」の履修方法	173
(8) 養護教諭一種免許状の取得に必要な授業科目の履修方法	175

23 資格又は受験資格取得に必要な単位及び履修方法(諸資格)

1. 司書教諭	177
2. 保育士	177
3. 司書	178
4. 学校司書	179
5. 社会教育主事(社会教育士)	180
6. 学芸員	181
7. その他	182

24 学校教育系 専攻・選修ガイド..... 183

1 東京学芸大学の概要

－ 教育への情熱 知の創造 －

東京学芸大学は、日本の教育系大学の中心に位置し、優れた人材を社会に送り出してきました。この標語は、教育と文化の世紀といわれる21世紀において教育と知の創造者であり、開拓者であろうとする本学の姿勢を端的に表現したものです。

【大学の目的】

東京学芸大学は、人権を尊重し、すべての人々が共生する社会の建設と世界平和の実現に寄与するため、豊かな人間性と科学的精神に立脚した学芸諸般の教育研究活動を通して、高い知識と教養を備えた創造力・実践力に富む有為の教育者を養成することを目的としています。

【教育理念】

東京学芸大学は、我が国の教員養成の基幹大学として、豊かな人間性と科学的精神に立脚した学芸諸般の教育研究活動を通して、高い知識と教養を備えた創造力と実践力に富む有為の教育者を養成することを目的としています。

【基本目標】

- 1 創造力と実践力を身につけ、今日の学校教育における諸課題に積極的に取り組む教員を養成する。
- 2 精深な知性と高邁な精神を身につけ、広く生涯学習社会において指導的な役割を担う人材を養成する。
- 3 我が国の教育実践を先導する研究活動を推進し、その研究成果に立脚した独創的な教育を行う。
- 4 学校教育と教員養成・研修に関する情報を幅広く収集・整理し、国内外に向けて発信する体制を構築する。
- 5 社会に開かれた大学として、社会貢献活動や国際交流活動を積極的に推進する。

【ディプロマ・ポリシー】(学位授与の方針)

東京学芸大学所定の単位を修得し、深い教養と豊かな知性を身につけた上で、さらに高度な専門性と優れた実践力を兼ね備えた教員となりうる能力を有すると認められる者、または、教育の基礎理論と教育支援の専門知識、ならびに協働力・ネットワーク力・マネジメント力を習得し、学校現場と協働して様々な現代的教育課題の解決を支援する人材となりうる能力を有すると認められる者に学位を授与します。

【カリキュラム・ポリシー】(教育課程編成・実施の方針)

東京学芸大学は、教員養成を主目的とした学校教育系4課程と、学校現場と協働して様々な現代的教育課題の解決を支援できる人材を養成する教育支援課程の計5課程で構成されており、大学全体として、以下のような特徴をもったカリキュラム構成となっています。

なお、学修の成果の評価にあたっては、客観性、厳格性を確保するため、学生に対し評価基準をあらかじめ明示し、その基準に従って適切に行っています。

1. 本学の「教養教育」は、人権を尊重し、国際的視野を基盤とした共生社会の実現に貢献できるよう、深い教養と豊かな知性を身につけることを目的に、「総合学芸領域」、「健康・スポーツ領域」、「語学領域」の3領域にわたって学修します。
特に本学は、人権教育を重視しており、「人権教育」を全学必修科目に加えています。
2. 学校教育系4課程においては現代的な教育課題に関連する科目群、教育支援課程においては広く教育支援人材養成を行うことに関連する科目群を中心に、それぞれに選修・専攻・コースの枠を超えて共通に履修する科目群を設けています。
3. 専門性を深める「専攻科目」は、課程、選修・専攻ごとに開設されています。
特に「卒業研究」は4年間の学びの集大成として位置づけ全学必修科目となっています。
4. 全学的に、選修・専攻・コースごとに初年次向けの専門基礎科目（入門セミナー）を開設するなどして、新入生が大学における学修に円滑・効果的に取り組めるようにしています。

【特色】

（総合的な学問の府）

本学は、教育系の単科大学でありながら、学校教育系4課程、教育支援系1課程があり、総合大学に匹敵する総合性を有しています。附属図書館の教育系図書80万冊は全国最大級です。

（伝統ある教員養成の基幹大学）

本学の創立は明治6年。創立から140年以上の長い伝統を持ち、21世紀の日本の教育を幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校などの附属学校と共に担っています。

（ふれあい溢れる学生生活）

本学には、数多くの自主ゼミナールが組織され、それぞれ専門的に興味深いテーマを追究しています。
また、特色ある文化サークル・体育サークルが学内外を舞台に活躍しています。
どちらも東京学芸大学らしいふれあい溢れる場となっています。

2 カリキュラム用語集

- 1 教養科目** 教養科目は、大学生として社会の中に生きる人間として必要な教養を身に付けたり、教育や教科の基礎となる概念や学習技術を幅広い観点から学ぶ科目群です。
- 2 教育基礎科目** 教育職員免許状取得に必要な科目を中心に構成された科目群です。
- 3 専攻科目** 所属している専攻・選修・コースについて学習する科目群です。
- 4 必修科目** 卒業するために必ず履修し単位を修得しなければならない科目です。
- 5 選択科目** 指定された科目群の中から科目を選択し、所定の単位数を修得する必要のある科目です。
- 6 自由選択** 自由選択は、自分の専攻・選修・コースの分野を超えて、幅広い知識や技術を身に付けてもらうために、他の課程や専攻・選修・コースで開設している授業科目を履修できるようにしたものです。
- 7 卒業研究** 卒業研究は、大学生活を締めくくる最後の授業科目です。卒業年次に指導教員の指導を受けながら研究を行います。
- 8 年 次** 入学してからの年数のことです。
- 9 開設学期** 授業科目が標準に開設される学期を示しています。Ⅰ期(1年次春学期)～Ⅷ期(4年次秋学期)まであります。授業科目は、標準開設学期に履修し単位を修得することが望まれます。
- 10 集中授業** 授業を一定期間にまとめて行う授業形態のことです。
- 11 単 位** 「単位」とは「信頼(trust)」を意味する「クレジット(credit)」のことであって、単位制は大学における教育の基本であるだけに、単位を充足することは、きわめて重要です。
本学においては、各授業科目の単位数を45時間の学修を必要とする内容を持って1単位とし、次のとおり単位を計算しています。
1 講義及び演習については、1週1時限、15週又は30週の授業をもって2単位とする。
2 実験・実習及び実技については、1週1時限、30週又は45週の授業をもって2単位とする。
ただし、特定の授業科目、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、別に定める時間の授業をもって1単位としています。
- 12 シラバス** 授業科目のねらいや到達目標、学修内容、テキスト、参考文献、成績評価の方法、授業スケジュール(展開計画)、受講制限等を記したものです。
- 13 履修カルテシステム** 「教職実践演習」の履修に向けて、4年間の教職関連科目の履修状況を記録・省察し、教員として必要な知識技能について自身の到達点と課題を確認するためのものです。
このシステムは、学芸ポータルからアクセスすることができます。
- 14 CAP制** 半期及び年間の履修登録単位数を制限する制度です。

3 課程及び授業科目区分の略称

1 課程の略称

本学では教育組織（課程）は、以下の略称を一般的に使用しています。これは本学独自の略称であり、公には使用しませんので注意してください。

A類＝ 初等教育教員養成課程

B類＝ 中等教育教員養成課程

C類＝ 特別支援教育教員養成課程

D類＝ 養護教育教員養成課程

E類＝ 教育支援課程

2 授業科目区分及び略称

授業科目区分について、本学では略称を用いることがあります。これも本学独自の略称です。

○教養科目

・CA＝総合学芸領域

・CH＝健康・スポーツ領域

・CL＝語学領域

○教育基礎科目

・EW＝教職の意義等

・EF＝教育の基礎理論

・ET＝教育課程及び指導法に関する科目

・EC＝生徒指導及び教育相談に関する科目

・EE＝教職実践演習

・EP＝教育実習・養護実習

○専攻科目

・**専攻 SE, 共通 SE**＝教科〔養護〕・教職に関する科目（学校教育系のみ）

・**SS**＝課程共通科目（教育支援系のみ）

・**SP**＝小学校の教科に関する専門的事項（A 類（幼児教育を除く）・C 類小免コースのみ）

・**SK**＝幼稚園の教科に関する専門的事項（A 類幼児教育のみ）

・**S**＝必修科目

・**SA**＝選択科目A

・**SB**＝選択科目B

・**SZ**＝卒業研究

4 カリキュラムの特色

本学では、今日の学校教育における諸課題に積極的に取り組む教員と広く生涯学習社会において指導的な役割を担う人材を養成することを目的としています。そのために必要な社会的教養と教育に対する深い理解を在学中に体得してもらい、また、多様な資質と履修歴を持つ学生に対して、その個性が伸ばせるように柔軟に対応する力を身に付けてもらえるようなカリキュラムになっています。

本学のカリキュラムの特色は、①現代的教育課題に対応できる実践的な能力をもった教員養成のための実践的・開発的なカリキュラム、②教育界を中心に広く生涯学習社会において活躍する人材を養成するためのカリキュラム、③明確なキャリア(職業)意識をもって学習できるカリキュラム、④学校現場と協働して様々な現代的教育課題の解決を支援できる人材を養成できる実践的なカリキュラム、が挙げられます。

【学校教育系】

学校教育系のカリキュラムは、子どもたちの「生きる力」を育むことのできる、資質と能力を持った教員の養成を目的としたカリキュラムです。「ピーク制*」を維持しつつ、同時に学校教育における諸課題及び教科内容の総合性に対応したカリキュラムを特色とし、創造力・探究力等を含む実践的指導力を有する教員の養成を目的としています。

*ピーク制：全教科にわたって広く履修するとともに、特定の教科あるいは分野について深く専門的に学ぶこと。

＜カリキュラムの基本構造＞

- ・学校教育系のカリキュラムは、「教養科目」、「教育基礎科目」及び「専攻科目」の3科目群からなっています。
- ・授業科目は、原則として半期で完結するセメスター制となっています。

(教養科目)

教養科目は教員としての深い教養と基礎的技能を獲得することを目的としており、総合学芸領域、健康・スポーツ領域、語学領域から構成されています。

① 総合学芸領域(CA)

- ・総合学芸領域は、現代社会に生き、将来の日本・世界を創造する役割を担う学生のために、多様な視点から学習の素材を提供しようとするものです。「日本国憲法」、「人権教育」、「情報」が必修です。

② 健康・スポーツ領域(CH)

- ・健康・スポーツ領域は、「スポーツ・フィットネス実習」と「ウェルネス概論」が必修です。

③ 語学領域(CL)

- ・語学領域は、「英語コミュニケーションA・B」、「初習語学」、「専門基礎外国語」、「選択外国語」の科目があります。

(教育基礎科目)

教育基礎科目は、教育職員免許法に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」など、教職

に関する基本的な事項を学習します。

- ・「教育実地研究Ⅱ」は必修ではありませんが、教員になることを強く志望する学生はできる限り受講してください。

(専攻科目)

専攻科目は、教科に関する専門的なことがらを学習します。

① 教科・教職に関する科目(共通 SE)

- ・教育基礎科目で学習した教職に関する理論等と教科専門とを橋渡しする科目です。
学校教育系の学生全員が履修可能な横断的な内容の科目となっています。

② 教科・教職に関する科目(専攻 SE)

- ・教育基礎科目で学習した教職に関する理論等と教科専門とを橋渡しする科目であり、所属する課程の専攻・選修で専門とする分野を中心とした内容の科目となっています。

③ 専攻に関する科目

- ・それぞれの専攻・選修の専門に関することを学習します。

④ 卒業研究(SZ)

- ・卒業研究は、4年間の学習の総まとめです。
所属する課程・専攻・選修の履修方法に従って履修してください。

(自由選択)

所属する課程・専攻・選修の履修基準で定められている単位数を履修してください。

自分の関心や問題意識に従って計画的に履修して、自分の得意分野を作れるように工夫すると良いでしょう。

たとえば、以下のような場合が自由選択の単位となります。

- 1) 他の課程・専攻・選修・コースでのみ開設している授業科目の単位を修得した場合
- 2) 教養科目について、履修基準で定めている22単位を超えた単位
- 3) 自専攻・選修・コースの専攻科目の履修基準を超えて修得した単位

自由選択は、原則的にはどの科目も授業担当教員の許可が得られれば選択可能ですが、特定の授業科目については履修制限を行っていますので注意してください。

- 4) 多摩地区国立5大学単位互換協定により他大学で履修した単位

5 東京学芸大学の科目ナンバリング

科目ナンバリングは、東京学芸大学で開講している教育学部、大学院教育学研究科（修士課程）、大学院教育学研究科（教職大学院の課程）、特別支援教育特別専攻科の科目に付けられたナンバーのことで、その科目のカリキュラム上の科目区分、水準・順次性、授業開設講座・教室等、授業形態を表しています。なお、ナンバリングは毎年付番するものではなく、授業科目に固定したのですが、変更が生じた際は再付番を行います。

1. 科目ナンバリングの形式

<u>1</u>	<u>2</u>	<u>3</u>	<u>0 4</u>	<u>5</u>
①	②	③	④	⑤

2. コードの意味（教育学部抜粋）

① 学位対象プログラム（1桁）

教育学部、大学院教育学研究科（修士課程）、大学院教育学研究科（教職大学院の課程）、特別支援教育特別専攻科の別を表しています。

分類	コード
教育学部	1

② 科目区分（1桁）

教育学部のカリキュラムは「教養科目」「教育基礎科目」及び「専攻科目」の科目区分からなっています。

課程科目区分	コード
教育学部 教養科目	1
教育学部 教育基礎科目	2
教育学部 専攻科目	3
教育学部 学校教育系は専攻科目、学校支援系は教育基礎科目	4

③ 標準修学段階（1桁）

本学の学生が学習する内容において、当該科目を履修することが概ね相応しい学年（標準開設学期）やカリキュラムにおける履修の順次性を表しています。

配当年次	コード
1年生	1

配当年次	コード
2 年生	2
3 年生	3
4 年生	4
1 年生又は 2 年生	5
2 年生又は 3 年生	6
3 年生又は 4 年生	7

④ 授業開設講座・教室・分野等（2桁）

授業科目を開講する講座・教室・分野等を英数字 2 文字で表しています。

講座・教室等名	コード
学校教育	03
学校心理	05
幼児教育	07
特別支援教育	09
家庭科	10
国語科	12
英語科	13
社会科	14
社会科教育学	15
地理学	16
歴史学	17
哲学	18
法学・政治学	19
経済学	20
社会学	21
数学科	24
理科	25
理科教育学	26
物理学	27
化学	28
生物学	29
地学	30
技術科	31
情報教育（A 類）	32

講座・教室等名	コード
音楽科	34
美術科	35
書道科	36
保健体育科	37
養護教育	38
国際教育（A類）	39
生涯学習（N類）	42
環境教育（F類）	45
環境教育（A類）	47
次世代教育研究センター	67
情報教育授業運営部会	90
留学生センター	94
複数教室／複数分野	97
教員養成カリキュラム改革推進本部	98
その他	99
生涯学習（E類）	E1
カウンセリング（E類）	E2
ソーシャルワーク	E3
多文化共生教育	E4
情報教育（E類）	E5
表現教育	E6
生涯スポーツ（E類）	E7

⑤ 授業形態（1桁）

「講義」「演習」「実験」等の授業形態を表しています。

授業形態	コード
講義	1
演習	2
実技，実験又は実習	3
講義と演習	4
講義と実習	5
演習及び実技，実験又は実習	6
講義及び実技，実験又は実習	7
卒業研究等	8

◆ナンバリングの例

科目名称 音楽と文化

- ① 学位対象プログラム： 教育学部
- ② 科目区分： 教養科目
- ③ 標準修学段階： 2年生
- ④ 授業開設講座・教室・分野等： 音楽科
- ⑤ 授業形態： 講義

1 1 2 34 1

① ② ③ ④ ⑤

6 教 育 組 織

1 学校教育系

学校教育系は、次の課程,専攻・選修から構成されています。

初等教育教員養成課程(A類)

国語選修	社会選修	数学選修
理科選修	音楽選修	美術選修
保健体育選修	家庭選修	英語選修
学校教育選修	学校心理選修	国際教育選修
情報教育選修	環境教育選修	ものづくり技術選修
幼児教育選修		

中等教育教員養成課程(B類)

国語専攻	社会専攻	数学専攻
理科専攻	音楽専攻	美術専攻
保健体育専攻	家庭専攻	技術専攻
英語専攻	書道専攻	

特別支援教育教員養成課程(C類)

聴覚障害教育専攻	言語障害教育専攻	発達障害教育専攻
学習障害教育専攻		

養護教育教員養成課程(D類)

養護教育専攻

2 教育支援系

教育支援系は、次の課程, 専攻・コース・サブコースから構成されています。

教育支援課程(E類)

教育支援専攻

生涯学習コース	生涯学習サブコース
	文化遺産教育サブコース
カウンセリングコース	
ソーシャルワークコース	
多文化共生教育コース	多言語多文化サブコース
	地域研究サブコース
情報教育コース	
表現教育コース	
生涯スポーツコース	

7 学群・教室一覧

本学では、教育研究を円滑に運営するために学部を、課程及び専攻・選修・コース別に、**4つの学群(総合教育科学群、人文社会科学群、自然科学群、芸術・スポーツ科学群)**に分けています。学生は各自の専攻・選修・コースにより、この4つの群のいずれかに所属します。

群	学 校 教 育 系		教 育 支 援 系	
	教 室	学生が所属する 課程(類)・専攻(選修)	教 室	学生が所属する 課程(類)・コース
総合教育科学群	学校教育	A類 学校教育	生涯学習	E類 生涯学習
	学校心理	A類 学校心理	カウンセリング	E類 カウンセリング
	幼児教育	A類 幼児教育		
	特別支援教育	C類 特別支援教育		
	家庭科	A・B類 家庭		
	国際教育	A類 国際教育		
	環境教育	A類 環境教育		
人文社会科学群	国語科	A・B類 国語	ソーシャルワーク	E類 ソーシャルワーク
	英語科	A・B類 英語	多文化共生教育	E類 多文化共生教育
	社会科	社会科教育学		
		地理学		
		歴史学		
		哲学		
		法学・政治学		
		経済学		
		社会学		
自然科学群	数学科	A・B類 数学	情報教育	E類 情報教育
	理 科	理科教育学		
		物理学		
		化学		
		生物学		
		地学		
	技術科	A類 ものづくり技術 B類 技術		
	情報教育	A類 情報教育		
芸術・スポーツ科学群	音楽科	A・B類 音楽	表現教育	E類 表現教育
	美術科	A・B類 美術	生涯スポーツ	E類 生涯スポーツ
	書道科	B類 書道		
	保健体育科	A・B類 保健体育		
	養護教育	D類 養護教育		

8 授業時間割及び履修上の注意事項

1 授業時間

授業時間は、次のとおりです。(春・秋学期共通)

第1時限	8：50～10：20
第2時限	10：30～12：00
第3時限	12：50～14：20
第4時限	14：30～16：00
第5時限	16：10～17：40

2 時間割編成上の区分

時間割は、原則として課程、専攻・選修・コースごとに編成されています。

3 履修上の注意

履修にあたっては、春学期開始時に授業の時間割やシラバスが公開されますが、カリキュラムには定められた規則があるので、これに十分注意して履修しなければなりません。特に必要な項目を抜粋して次に掲げておきます。また、履修上いろいろな制限があるので、卒業に支障のないよう、十分に注意してください。

1) 単位の認定

単位は、当該授業科目の単位数全体について認定するものとし、授業科目の単位数の一部を認定することはできません。ただし、学則第25条の規定により交換留学する学生が履修する通年科目については、分割して認定される場合があります。必ず事前に学務課まで照会ください。

2) 出席時数

学生は、公欠を含め授業の3分の2以上出席しなければなりません。(カリキュラム実施細則第6条)

3) 公欠制度

次の各号の事由によりやむを得ず履修中の講義(ただし集中講義を除く。)を欠席する場合は、これを公欠として取扱い、単位認定要件に係る欠席扱いとしないこととなります。

- (1) 感染症に罹患、あるいは罹患している疑いやおそれがあることにより、出席停止の措置を受けた場合
- (2) 親族(第3親等まで)が死亡した場合
- (3) 国、地方公共団体又は全国規模の団体からの要請により、行事等に大学が学生を派遣する場合
- (4) 大学が指定する事業(教育実習、介護等体験など)に参加する場合
- (5) その他学長が必要と認める場合

(公欠の具体的な基準及び手続きについては、学芸ポータル等で確認してください。)

4) 履修手続

- (1) 学生は、当該年度に履修しようとする授業科目を、年度初めの指定された期間内に所定の手続により登録しなければなりません。
- (2) 履修登録は、春学期において年間(春・秋学期)登録を行うことが望ましいです。
なお、秋学期開設授業科目については、秋学期になってからの修正は可能です。
- (3) 履修登録をしていない授業科目については、単位は与えられません。
- (4) 学年ごとに履修登録の締切日を指定する場合があるので、その際は指示に従ってください。

5) 修得単位の取消し

既に修得した単位は、取り消すことができません。ただし、授業料若しくは入学料の未納を理由として除籍された場合又は試験における不正行為により懲戒処分を受けた場合は、この限りではありません。

6) 履修方法

- (1) 学生は、所属する課程、専攻・選修・コースに開設された授業科目を履修しなければなりません。
ただし、履修上必要と認められた科目については、この限りではありません。
- (2) **授業科目は、標準開設学期において履修することが原則です。**
- (3) 同一の曜日・時限において2つの授業科目を履修することはできません。
- (4) 自由選択として履修する場合、教養科目、教育基礎科目及び専攻科目（「卒業研究」を除く。）の授業科目から履修することができます。ただし、他の課程、専攻・選修・コースに開設された授業科目を履修する場合は、授業担当教員の承諾を得なければなりません。

7) 標準開設学期以外の履修

- (1) 授業科目は、標準開設学期において履修することを原則としていますが、**授業担当教員の承諾を得て**、1年次上位の標準開設学期に開設されている授業科目を履修することができます。
(カリキュラム実施細則第10条)

8) 履修登録単位数の上限

本学では学生の主体的で計画的な学習（それぞれの授業科目の予習・復習の時間を含む。）を促すため、履修登録単位数に制限を設ける**CAP制**を導入しています。

1～3年次は、各学期における履修登録単位数は28単位、年間では52単位(C類は56単位)が上限となります。

ただし、以下の科目についてはCAP制の除外対象とし、履修登録単位数の上限を計算する際は、単位数に含まれないものとします。

- (1) 集中授業（ただし、「スタディガイド」の「標準開設学期」で集中授業として定められている科目のみを除外対象とする。）
- (2) 教育実習・養護実習（EP）
- (3) 再履修科目（前学期以前の成績が「F」もしくは「失」の科目）
- (4) 諸資格科目（司書教諭、司書、社会教育主事、学芸員、社会福祉士、及びスクールソーシャルワーカーの資格取得のための科目）

なお、「学校司書」のみに必要な授業科目となっている以下の授業科目は、CAP制の除外対象とはなりません。〔履修登録単位数の上限を計算する際に含まれます。〕

「教育の理念と歴史」「教育心理学」「特別支援教育の理解」
「**教育課程の理論と実践**」（いずれも教育基礎科目）
「特別な教育的ニーズの理解と支援」（C類専攻SE）

- (5) 語学技能検定（p. 39 参照）や留学等による認定科目

また、4年次は、全ての授業科目をCAP制の対象外（履修登録単位数の制限無し）とします。

9) 受講条件がある授業科目

・「教育実地研究Ⅰ」、「教育実地研究Ⅱ」を履修するための受講条件

詳しくは p.56 ～ を参照。

・「教職実践演習」の受講条件

「教職実践演習」を履修する前年度末において、次の①②の条件を満たしていること。

① 「事前・事後の指導」及び「教育実地研究Ⅰ」を修得。

② ①を含み 99 単位以上を修得。

・卒業研究の受講条件

当該教室が指定した授業科目の単位修得を受講条件とする場合があります。専攻・選修ガイド(p.183～)も併せて確認してください。

10) 履修制限

授業の教育効果を高めるために、以下の授業科目については、履修制限を行う場合があります。

(1) 標準履修年次での履修が望ましい授業科目

(2) 教室の収容人数等により履修制限が必要な授業科目

(3) 履修クラスが指定されている授業科目

11) 試験等

(1) 試験は、授業科目毎の授業期間内で次のとおり行うものとします。

① 学期毎に終了する授業科目にあつては、学期末とします。

② 通年編成の授業科目にあつては、学年末とします。

(2) 上記(1)にかかわらず、論文、作品等を課し、学年末又は学期末試験に代えることがあります。

12) 追試験

(1) 傷病、災害等やむを得ない事情のために試験等を欠いた者で、出席時数を充足している者に限り、願い出により追試験を行うことができます。

(2) 上記(1)により追試験を受けようとする者は、所定の追試験願に診断書等必要な証明書を添付し、授業終了後 1 週間以内に学務課を経て、授業科目担当教員の承認を得なければなりません。

(3) 追試験は、次学期開始後 1 ヶ月以内に実施するものとします。ただし、傷病、災害等やむを得ない事情が次学期開始後まで継続した場合は、その事情解消後 1 ヶ月以内に行います。

(4) 上記(3)にかかわらず、卒業年次の追試験の期間は都度定めます。

13) 再試験

不合格の認定を受けた授業科目の再試験は行いません。

14) 成績評価の方法

(1) 成績評価は、学期毎に終了する授業科目にあつては学期末、通年編成の授業科目にあつては学年末に行います。ただし、留学生（「留学」の許可を受けて海外の大学等に留学する学生）の履修する通年編成の授業科目の成績評価については、学期末に行います。

(2) 教育実習（A～C 類向け副免用の小・中学校教育実習及び選択科目は除く。）の成績評価（以下「総合評価」という。）は、学期ごとに行う評価（以下「中間評価」という。）を総合して行います。

(3) 中間評価に不合格があつた場合、総合評価を合格とすることはできません。ただし、当該不合格の部分履修し合格した場合は、総合評価を合格とします。

(4) 上記(1)による留学生が履修する、通年編成の授業科目の成績評価は、上記(3)を準用します。

15)成績通知

学生への成績通知は、次学期開始までに行われます。

16)評語及び配点基準

成績に関する評語及び配点基準は、次表のとおりとなります。

評 語	区 分	内 容
S・A・B・C 合	合 格	高点順にS・A・B・Cに区分する。 合は、学校及び総合インターンシップ科目について適用する。
F 否	不 合 格	試験等の成績が不合格と判定されたもの 否は、学校及び総合インターンシップ科目について適用する。
失	失 格	出席時数が3分の2に満たない者又は途中で授業を放棄した者(試験の無断欠席を含む。)試験における不正行為により懲戒処分を受けた者
追	追 試 験	出席時数が3分の2以上で、傷病、災害等やむを得ない事情のために学期末又は学年末試験等を欠いた者
N(R)	認 定	学則第25条の規定による留学生の認定単位
N(G)		学則第6条の規定による既修得単位の認定
N(K)		学則第7条の規定による既修得単位の認定
N(T)		学則第23条の規定による既修得単位の認定

評 価	配点基準(100点満点)	基 準
S	100～90	到達目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果を収めている。
A	89～80	到達目標を十分に達成している。
B	79～70	到達目標を達成している。
C	69～60	到達目標を最低限達成している。
F	59以下	到達目標を達成していない。

17)学芸ポータルおよび学生情報トータルシステム

本学では、学生の皆さんにお知らせなどの学内の情報を発信するために、「学芸ポータル」というポータルサイトを用意しています。大学の行事、スケジュール、学生センターや授業担当教員からのお知らせは、学芸ポータルを使用してお伝えします。

(URL <https://portal.u-gakugei.ac.jp>)

また、皆さんの修学を支援するために「学生情報トータルシステム」を用意しています。学生情報トータルシステムには、履修登録、成績確認・印刷、教育実習、介護等体験の登録、オフィスアワー、シラバス、休講情報の閲覧等の機能が搭載されています。

(URL <https://tgulc.u-gakugei.ac.jp>)

9 GPA(グレード・ポイント・アヴェレージ)による成績評価

学生自身が学年の初めに1年間の学習計画を十分に立て、自分の学習目標をしっかりと定めたうえで、履修する授業科目を選択させることを目的に、平成15年度からGPA(グレード・ポイント・アヴェレージ)による成績評価制度を導入しています。

GP(グレード・ポイント)とは、授業科目の成績(S・A・B・C・F)に与えられた点数(4・3・2・1・0)を意味し(表1を参照)、GPAとは、GPの単位当たりの平均値です。

GPAの算出方法は、各科目のGPにその科目の単位数を乗じた数の合計を、履修登録した科目の総単位数で割ります。

履修した結果、「不合格(F)」あるいは履修登録した科目数が多すぎて途中で授業を放棄した結果、「失格(失)」となった科目が多いなど、成績評価が低ければ、GPAの値も低くなります。

GPAの値が4.0に近ければ、学習の到達度が高いと評価され、反対に0.0に近ければ、学習の到達度は低いと評価されます。

従って、学年の初めに学習計画を十分に立て、自分の学習目標をしっかりと定めたうえで履修する科目を選択してください。

なお、S・A・B・C・F・失の評価を行わない科目は、GPAの対象としません。

GPAは、各学期終了後に通知する成績通知表に記載されます。

GPAは指導教員にも通知され、学習の到達度が低いと判断された学生に対しては、学習指導や助言等を行ないます。

表1：GP(グレード・ポイント)

評価(グレード)	GP
S	4.0
A	3.0
B	2.0
C	1.0
F	0.0
失	0.0

4.0・・・3.0・・・2.0・・・1.0・・・0.0

←高い <学習到達度> 低い→

【GPA(グレード・ポイント・アヴェレージ)の算出例】

算出方法：各科目のGPに、その科目の単位数を乗じた数の合計を、履修登録した科目の総単位数で割ります。

(例)

日本国憲法＝S(4.0×2単位) 人権教育＝A(3.0×2単位) 情報処理＝B(2.0×2単位)
 教育心理学＝B(2.0×2単位) 社会学＝C(1.0×2単位) 生物学＝F(0.0×2単位)
 英語学＝失(0.0×2単位)

※履修登録単位数は、14単位

※取得単位数は、10単位

※GPの総和(24)÷(14単位)＝1.714

※GPAは、1.71(四捨五入)

10 教育実習とインターンシップ、多摩地区国立5大学単位互換制度

大学での学びは学内にとどまるものではありません。特に今日では、学内で自分の専門を深く追求するとともに、学外に出て、実践的な力を身につけることが強く求められています。ここで取り上げる教育実習とインターンシップはその代表的な機会です。

I 教育実習

教員免許を取得するためには、教育実習を履修することが必要です。教育実習は、大学での学びとともに、学校現場で子どもたちを目の前にして、実際に授業をする貴重な機会です。

1. 教育実習と関連科目～4年間にわたる「学校現場での学び」

教育実習とそれに関連する授業科目は、次のように4年間に渡って配置されています。これは、「大学での学び」と「学校現場での学び」を有機的に結びつけることをねらいとしているためです。

○教育実習・養護実習と関連する科目

	授業科目名	履修形態	単位数	開設学期	備考
1	教職入門	必修	2単位	1年次(Ⅱ期)	学校参観を含む
2	授業観察演習	選択	1単位	2年次(Ⅲ期)	
3	事前・事後の指導	必修	1単位	3年次(Ⅴ期)	課程ごとの詳細は 次ページの表を 参照
	教育実地研究Ⅰ	必修	4単位 (A・B・C類) 4単位(D類:養護実習)	3年次(Ⅴ期)	
	事前・事後の指導	必修	1単位(C類のみ)	3年次(Ⅴ期)	
	特別支援学校実習	必修	3単位(C類のみ)	3年次(Ⅵ期)	
4	教育実地研究Ⅱ	選択	2単位 (A・B・D類)	4年次(Ⅶ期)	教職志望者向け
5	教職実践演習	必修	2単位	4年次(Ⅷ期)	講義+演習+確認

「教職入門」「事前・事後の指導」「教育実地研究Ⅰ」「教職実践演習」は、教員免許を取得するための必修科目で、この順序で履修することが必要です。

2. 教育実習の構成

次のように、課程・専攻・選修により、教育実習の構成が異なりますので十分に注意してください。以下の教育実習は必修です。

なお、教育実習・養護実習を履修するには一定条件を満たす必要があります。詳細は、56 ページを参照してください。

(A類)

①小学校各選修「小学校教育実習(A)」5単位

「事前・事後の指導」(1単位) + 「教育実地研究Ⅰ」(附属小学校) (4単位)

②幼児教育選修「幼稚園教育実習」5単位

「事前・事後の指導」(1単位) + 「教育実地研究Ⅰ」(附属幼稚園) (4単位)

(B類):「中学校教育実習(B)」5単位

「事前・事後の指導」(1単位) + 「教育実地研究Ⅰ」(附属中・高・中等教育学校) (4単位)

(C類)

①小免コース「小学校教育実習(C)」5単位 + 「特別支援学校教育実習(C)」4単位

「小学校教育実習(C)」=「事前・事後の指導」(1単位) + 「教育実地研究Ⅰ」(附属小学校) (4単位)

「特別支援学校教育実習(C)」=「事前・事後の指導」(1単位) + 「特別支援学校教育実習」

(特別支援・ろう学校) (3単位)

②中免コース「中学校教育実習(C)」5単位 + 「特別支援学校教育実習(C)」4単位

「中学校教育実習(C)」=「事前・事後の指導」(1単位) + 「教育実地研究Ⅰ」

(附属中・高・中等教育学校) (4単位)

「特別支援学校教育実習(C)」=「事前・事後の指導」(1単位) + 「特別支援学校教育実習」

(特別支援・ろう学校) (3単位)

(D類):「養護実習」5単位

「事前・事後の指導」(1単位) + 「教育実地研究Ⅰ」(附属小・中・高・中等教育学校) (4単位)

なお、**養護実習はD類生のみ対象です。他の学生は履修できません。**

○教育実習・養護実習の構成

	課 程	区分	単位数	単 位 構 成			
学 校 教 育 系	A類（小）	教育実習	5単位	事前・事後 の指導 （1単位）	教育実地研究Ⅰ （附属小学校） （4単位）		
	A類（幼）				教育実地研究Ⅰ （附属幼稚園） （4単位）		
	B類				教育実地研究Ⅰ （附属中・高・ 中等教育学校） （4単位）		
	C類（小）	9単位	教育実地研究Ⅰ （附属小学校） （4単位）		事前・事後の指導 （1単位）	特別支援学校実習 （特別支援・ ろう学校） （3単位）	
	C類（中）		教育実地研究Ⅰ （附属中・高・ 中等教育学校） （4単位）				
	D類	養護実習	5単位		教育実地研究Ⅰ （附属小・中・高・ 中等教育学校） （4単位）		

*事前・事後指導は、教育実地研究Ⅰ及び特別支援学校実習をはさんでその前後に行われます。

事前・事後指導は、教育実地研究Ⅰ及び特別支援学校実習と同一年度に履修することが必要です。

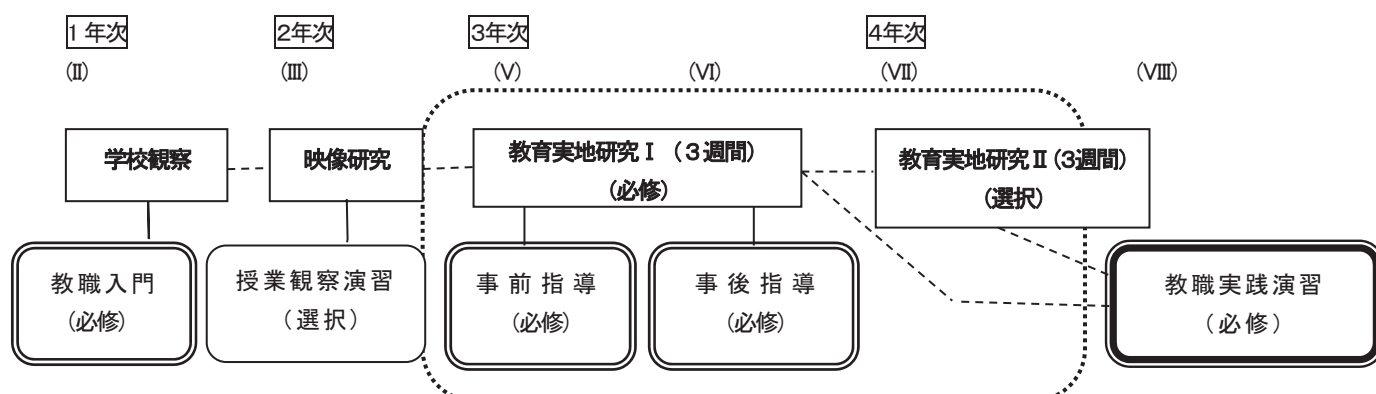
*教育実地研究Ⅱは教職志望者向けの教育実習です。

附属学校で行われる教育実地研究Ⅰでの省察に基づいた課題に対して、実践的な探究をするために協力学校・園において教育実習を行います。

*学校教育系の学生は副免許取得ができます。

Ⅵ期からⅧ期の間に、副免許取得に必要な選択の教育実習を別途履修することになります。

*Ⅲ期に開設される「観察実地研究」及びⅧ期に開設される「研究実習」は、教員免許取得のための教育実習の単位としては加算できません。



3. 注意事項(書類提出, オリエンテーション, 連絡掲示について)

教育実習は対外的な責任を伴う授業科目ですので、「教育実習学生調査票」や「情報管理・守秘義務等に関する誓約書」など多くの書類を事前に提出する必要があります。それらの手続の方法や教育実習の概要・心得などについては、「オリエンテーション」を2年次より段階的に実施し説明を行いますので、必ず参加してください。オリエンテーションの無断欠席者や必要書類の未提出者は、教育実習を行うことができませんので、十分注意をしてください。

なお、オリエンテーションの開催連絡(日程, 会場, 対象者等)、書類の配布・提出の連絡、実習配当校の発表などは学内掲示等で行いますので、日常的にチェックする習慣を必ず身につけてください。

また、教育実習と授業が重なる学生は、公欠の手続きをしてください。※ P.13 3)公欠制度 参照

II インターンシップ

インターンシップとは、学生の皆さんが実際の職業現場に出向き、そこで職業活動を体験することを行います。大学では、将来の就業への円滑な移行を支援するために、大学教育に資する学生の学外活動を単位化し、皆さんの積極的な参加を呼びかけています。

なお、インターンシップの単位化を希望する学生は、毎年開催されるインターンシップに関するガイダンスに必ず参加してください。

1. インターンシップの対象となる活動

対象となる活動は次の4種類のインターンシップです。

- ①近隣市・区及び附属学校等が実施する「学校インターンシップ」(大学指定)
- ②官公庁が実施するインターンシップ
- ③美術館、博物館、公共ホールなど公的機関、あるいは非営利団体によるインターンシップ
- ④企業によるインターンシップ

※ ②～④については、単位取得のための要件があります。詳しくは、ガイダンスで配付する履修ガイドを参照すること。

2. インターンシップ科目の配置・単位認定

1)授業科目名・科目数

- ・「学校インターンシップA・B」の2科目(各2単位)
- ・「総合インターンシップA・B」の2科目(各2単位)

(「総合インターンシップ」は、「1. インターンシップの対象となる活動」に示した学校以外を包含するものです。)

2)履修条件

- ・履修時に2年生以上の学生であること。
- ・この科目の単位が修得できないと卒業要件が満たせないという状況ではないこと。
- ・学校インターンシップの履修においては、既に「教職入門」の単位を修得していること。
- ・大学が実施する「インターンシップガイダンス」を受講していること。
- ※学校インターンシップ履修者向けのガイダンスと総合インターンシップ履修者向けのガイダンスは、それぞれ別に開催します。履修する活動にあわせて、ガイダンスを受講すること。
- ・大学の授業に支障がないこと。

3)単位認定と成績評価

- ・「単位」は合計2科目(4単位)まで認定します。修得した単位は「自由選択」になります。
- ・「単位」修得には、1つの学校・企業・公(共)的機関で60時間以上のインターンシップを行う必要があります。
- ・活動計画、活動報告、インターンシップ先の発行する活動証明書を総合的に判断して、合否を決定します。

3. 単位認定手続きの注意事項

1)「学校インターンシップA・B」

実施年度：大学へ申込書提出→受入れ学校と面談→大学へ活動計画書提出→インターンシップ→評価書の作成・提出→単位認定

2)「総合インターンシップA・B」

実施年度：大学経由，若しくは個人で企業等へ応募→選考等ののち受け入れ確定→大学へ受け入れ確定及び単位修得意思を報告→大学と受け入れ先で覚書の取り交わし→大学へ活動計画書提出→インターンシップ→評価書の作成・提出→単位認定

3)活動計画・活動記録・活動報告

履修者は，事前に活動計画を作成提出し，活動中は活動記録をとり，事後には活動報告を提出することになります。

4)活動期間

インターンシップは，大学の授業に支障を来たさないように，空き時間（長期休暇中も含め）に行います。インターンシップの期間は，春～秋学期にわたってもよいですが，年度を超えることはできません。単位認定の関係で，当該年度の1月末日までに60時間以上のインターンシップを終了しなければなりません。

Ⅲ 多摩地区国立5大学単位互換制度

本制度は，多摩地区国立5大学単位互換に関する協定に基づき，大学間の相互の交流と教育課程の充実を図ることを目的としています。この制度は，在学中に参加大学で授業科目を履修し，修得した単位を本学の単位として認定します。

（参加大学） 東京外国語大学，東京農工大学，一橋大学，電気通信大学，東京学芸大学

1. 出願資格

派遣時に2年生以上の学部学生（ただし，卒業年次の学生は，卒業予定月を含む学期の授業科目（通年科目を含む）に係る出願はできない。）

2. 派遣スケジュール

	春学期派遣	秋学期派遣
オリエンテーション	1月中旬	6月中旬
申請期間	1月下旬	6月下旬
決定通知送付	3月下旬	9月下旬
派遣期間	各大学の授業暦による	同左
成績反映	10月ごろ	4月ごろ

※ 派遣スケジュールは，都合により変更になる場合があります。
掲示等を必ず確認するようにしてください。

3. 留意事項

- ・出願にあたっては，事前オリエンテーションに必ず参加し，各大学の募集要項を確認してください。
- ・受講希望者が多い授業科目は，順位を付して推薦します。
- ・修得した単位は，本学において修得した単位（自由選択）として認定されます。
- ・協定に基づき，検定料・入学科・授業料は徴収しません。
- ・秋学期に履修した科目は翌年度4月頃に単位が認定されるため，4年次の秋学期は履修できません。

1 1 介護等体験について

1 制度の概要

教育職員免許状の取得には、卒業に必要な単位及び当該免許取得に必要な単位を修得するほかに、「介護等体験特例法」により、介護等の体験＜7日間＞及び介護等体験証明書が必要です。
本学では、1年次に特別支援学校で2日間、2年次に社会福祉施設で5日間の体験と定めています。

2 対象

A類幼児教育選修及びC類を除く学校教育系学生

3 主な日程

- ・ 体験先及び日程は、学生の個別の希望は受け付けません。
- ・ 事前オリエンテーションを欠席した学生には、体験参加を認めません。必ず出席してください。

① 特別支援学校2日間

A類の学生 : 体験先・・・附属特別支援学校
事前オリエンテーション : 1年次の4月下旬または6月下旬
実施時期 : 6月～翌年3月末日までに実施
(ただし1日目(A体験)が3月実施の場合
の2日目(B体験)は2年次に実施)

オリエンテーション出席後に配当が決定します。

B・D類の学生 : 体験先・・・都立特別支援学校

事前オリエンテーション : 1年次の5月上旬
実施時期 : 6月～翌年3月末日までに実施

オリエンテーション出席後に配当が決定します。

② 社会福祉施設5日間 *申し込みが必要です。

体験の申し込み : 2年次の4月中旬以降
体験先と体験時期の通知 : 2年次の6月下旬
事前オリエンテーション : 2年次の7月中旬～下旬
実施時期 : 8月中旬～翌年3月末日までに実施

その他 注意事項(保険、費用について)

- ・ 介護等体験に関する案内は、学芸ポータル及び掲示を通じて行ないます。
- ・ 介護等体験実施に際しては、事前に賠償責任保険「学生教育研究災害傷害保険と学研災付帯賠償責任保険」の加入が必要です。(入学手続きの際に加入をお願いしています。)
- ・ 「麻疹(はしか)に対する免疫の確認書」の提出がない場合、介護等体験ができません。(「確認書」は入学手続きの際に提出することになっています。)
- ・ 体験で生じる交通費や昼食費等の実費は、全て学生本人の負担となります。
- ・ 特別支援学校での体験費用は不要ですが、社会福祉施設での体験には、体験費用及び資料代として11,500円が必要です。体験費用等は、体験の申し込み時に大学が徴収します。
- ・ 体験は、授業期間中に配当されることがあります。授業と重なる学生は、公欠の手続きしてください。介護等体験に伴う公欠届は事前申請が原則です。事後申請は受け付けません。
※ P13. 3)公欠制度 参照
- ・ 対象年次で体験に参加できなかった場合には、速やかに学務課窓口に申し出てください。

1 2 教員養成高度化プロジェクトについて

本学では、教員養成の高度化を進めるため、平成 30 年度より教員養成高度化プロジェクトを立ち上げ、教職大学院に接続する以下の 2 コースを作りました。

1) 次世代学校リーダー養成コース（ステップアッププログラム）

強い教員志望と優れた適性を有する学生を対象に、学部 3 年次から教職大学院 2 年までの 4 年間を通して高度専門職業人としての準備教育を施し、次世代の学校システムのリーダーとなりうる教員を育成するために設けられた登録制のコースです。学部 3 年次秋学期の「内部選考」に合格した者は、学部 4 年次に教職大学院入学者選抜試験を「特別選抜」区分で受験できます。

希望者は、学部 2 年次秋学期に登録申請を行います。

なお、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校のいずれかの教諭の免許状又は養護教諭の免許状を学部卒業時に取得することが条件です。

2) 教員養成高度化大学間連携コース（スタートパスプログラム）

連携協定を結んでいる大学あるいは本学から推薦された強い教員志望と優れた適性を有する学生を対象に、学部 4 年次に高度専門職業人としての準備教育を施し、学部生の資質向上と教職大学院への効果的な接続を図るために設けられた登録制のコースです。学部 4 年次に教職大学院入学者選抜試験を「特別選抜」区分で受験できます。

希望者は、学部 3 年次秋学期に登録申請を行います。

なお、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校のいずれかの教諭の免許状又は養護教諭の免許状を学部卒業時に取得することが条件です。

※ 2 コースとも、説明会等の詳細は掲示で周知します。

13 指導教員制度と指導体制

本学では、学生が在学期間中学習目標を持ち健全な学生生活を送れるよう、入学時から各学生に指導教員を定め、修学、進路、学生生活全般にわたり指導・助言を行うことになっています。

指導教員は、学生の所属する課程・専攻・選修・コースを所管する教室の教員があたり、適切な機会を設定して定期的に指導学生との面談等を通じて指導・助言を行います。

また、指導教員は担当する学生が、休学・復学・退学など学生の身分異動が生じる場合や奨学金などの申請を行う場合、教育実習を申し込む場合など学生から事情を聞いて学長に具申するなどの仕事も受け持つなど、皆さんの学生生活に密接に関係しています。

※指導教員は、学生の所属する教室によって定め方が異なります。

(指導教員の主な役割)

指導教員は、担当する学生の修学、進路等学生生活全般にわたり指導・助言を行うものとし、次の役割を担います。

1. 適切な機会(オフィスアワー、教室による学生面談週間等)を設定し、定期的に学生と面談する。
2. 学生の単位の修得や成績などの修学状況を把握し、学生の進路希望等に応じて適切に指導・助言を行う。
3. 学生からの相談に応じ、必要な指導・助言を行う。
4. 学生の身分異動、各種奨学金の申込み、教育実習の申請等に際して、公正な意見書を作成し学長に具申する。
5. 担当する学生に不測の事態が発生した場合は、必要な対応を行う。

14 オフィスアワーについて

本学では、学生が本学において快適な生活をおくり、学習・研究に専念できるよう、教員が学生からの授業や修学に関する質問・相談を受け付け、支援するための時間帯を設定したオフィスアワー制度を実施しています。

詳しいオフィスアワーの時間帯については、学生情報トータルシステムを通じて掲載します。

15 学生による授業アンケート

本学では各授業科目について、「学生による授業アンケート調査」を実施しています。

学生が授業内容を理解し、知識や技能を習得したか、そして授業の内容や方法が学生にとって適切であったかをアンケート調査し、教員が今後の授業の内容や方法を改善していくためのものです。

アンケート調査の全体の集計結果は全学に公表されます。これら結果は今後のカリキュラムの検討資料としても利用されます。アンケート調査は全学的には学期末に実施されますが、授業によっては学期の途中で実施することもあります。

アンケートでは記載者が個人的に特定されないように配慮されています。学生番号を記入してもらいますが、上位4桁の数字のみを記入しますので、把握されるのは課程・専攻・選修・コースのみです。

「学生による授業アンケート調査」は、教員の授業能力を評価するものではありません。出席率が低く不熱心だった学生のアンケートや授業改善に直接かかわりの無い記載は、集計から除外される場合もあります。

授業アンケートの内容(Q16は教員の自由設定)

- Q1 : シラバス等により、授業開始時に適切に示された項目を全て選択してください。
- Q2 : 授業の目標に応じた知識や能力が身についた。
- Q3 : 毎回の授業の目標は明確だった。
- Q4 : (自由記述)その理由を具体的に下の欄に記載してください。
- Q5 : 授業の進む速さや内容の量は適切だった。
- Q6 : (自由記述)その理由を具体的に下の欄に記載してください。
- Q7 : 遠隔授業での話し方や資料の提示方法など授業の実施方法は適切だった。
- Q8 : (自由記述)その理由を具体的に下の欄に記載してください。(遠隔での実施にあたっての課題や、対面授業との比較についてお気づきのことがあれば記載してください)
- Q9 : 授業理解を助ける工夫となっていたものは何ですか。(複数回答可)
- Q10 : (自由記述)Q9に関連して遠隔授業に取り入れて欲しい工夫を具体的に下の欄に記載してください。
- Q11 : 遠隔授業を受講するにあたって、Webclass、Stream、Teams 等のツールの利用等に問題はなかった。
- Q12 : (自由記述)Q11に関連してあなたが問題だと思った点を具体的に下の欄に記載してください。
- Q13 : 予習・復習・レポート等に充てた時間は、1回の授業に対して、平均してどの程度でしたか。最後の授業が終わるまでの学習時間を含めて回答してください。(教員から指示を受けた課題作成への対応や、リアクションペーパー作成、試験準備等を含む。)
- Q14 : この授業内容についてみずから学習する意欲が高まった。
- Q15 : (自由記述)その理由を具体的に下の欄に記載してください。
- Q16 : 自由設定(選択式(5択))
- Q17 : 学生番号(数字上4桁・学部学生以外は入力しないこと)
(記入例:A12-3456 ⇒ 1234)

※令和2年度(秋)授業アンケート

16 履修基準

初等教育教員養成課程（A類）

科 目 等 選 修			国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	家庭	英語	学校教育	学校心理	国際教育	情報教育	環境教育	ものづくり技術	幼児教育
教 養 科 目	総合学芸領域（CA）		14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
	健康・スポーツ領域（CH）		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	語学領域（CL）（英語2＋初習語学4）		6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	計		22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
教育基礎科目	教職の意義等（EW）		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	教育の基礎理論（EF）		8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	教育課程及び指導法に関する科目(ET)		28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	18
	生徒指導及び教育相談（EC）		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	教育実習（EP）		5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	教職実践演習（EE）		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	計		49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	39
専 攻 科 目	小学校の教科に関する専門的事項(SP) 幼稚園の教科に関する専門的事項(SK)		16	16	16	16	18	18	18	16	16	18	18	※16	※16	※16	※16	16
	教科・教職に関する科目	教科・教職に関する科目 （共通SE）	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	※3	※3	※3	※3	3
		教科・教職に関する科目 （専攻SE）	4	4	4	4	2	2	2	4	4	2	2	※4	※4	4	4	8
	専攻に関する科目	必修科目（S）	20	10	18	14	22	20	23	12	14	14	18	16	10	14	10	14
		選択科目A（SA）	8	18	10	14	6	8	5	16	14	14	10	12	18	14	18	18
		選択科目B（SB）																
	卒業研究（SZ）		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	計		55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	63
	自 由 選 択 ※p.6 参照			5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
合 計			131	131	131	131	131	131	131	131	131	131	131	131	131	131	131	129

○「国際教育選修」「情報教育選修」「環境教育選修」「ものづくり技術選修」は、
「小学校の教科に関する専門的事項」について、16単位に満たない単位数は必修指定外の「小学校の教科に関する専門的事項」、
若しくは専攻SE・共通SEから併せて16単位となるよう科目を履修すること。（上表の※部分） p.61参照

中等教育教員養成課程（B類）

科 目 等			専 攻	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	家庭	技術	英語	書道
教養科目	総合学芸領域（CA）			14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
	健康・スポーツ領域（CH）			2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	語学領域（CL）（英語2＋初習語学4）			6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
	計			22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	
教育基礎科目	教職の意義等（EW）			2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	教育の基礎理論（EF）			8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	教育課程及び指導法に関する科目（ET）			16	16	16	16	16	16	16	16	20	16	20
	生徒指導及び教育相談（EC）			4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	教育実習（EP）			5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	教職実践演習（EE）			2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	計			37	37	37	37	37	37	37	37	41	37	41
専攻科目	教科・教職に関する科目	教科・教職に関する科目（共通SE）	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
		教科・教職に関する科目（専攻SE）	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	専攻に関する科目	必修科目（S）	24	26	36	22	22	34	36	27	31	29	40	
		選択科目A（SA）	28	26	16	30	30	18	16	25	21	23	14	
		選択科目B（SB）												
	卒業研究（SZ）			4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	計			67	67	67	67	67	67	67	67	67	67	69
	自由選択 ※p.6 参照			6	6	6	6	6	6	6	6	2	6	0
合 計			132	132	132	132	132	132	132	132	132	132	132	

○ 技術及び書道は、「教育課程及び指導法に関する科目」について、20単位修得する。

特別支援教育教員養成課程（C類）

コ ー ス 科 目 等		
----------------------------	--	--

○「小学校の教科に関する専門的事項」について、16単位に満たない単位数は必修指定外の「小学校の教科に関する専門的事項」、若しくは専攻SE・共通SEから併せて16単位となるよう科目を履修すること。（上表の※部分） p.61参照

養護教育教員養成課程（D類）

科 目 等			専 攻	養護教育
教養科目	総合学芸領域（CA）			14
	健康・スポーツ領域（CH）			2
	語学領域（CL）（英語2＋初習語学4）			6
	計			22
教育基礎科目	教職の意義等（EW）			2
	教育の基礎理論（EF）			8
	教育課程及び指導法に関する科目(ET)			8
	生徒指導及び教育相談（EC）			4
	養護実習（EP）			5
	教職実践演習（EE）			2
	計			29
専 攻 科 目	養護・教職に関する科目（専攻SE）			8
	専攻に関する科目	必修科目（S）		47
		選択科目A（SA）		10
		選択科目B（SB）		
	卒 業 研 究（SZ）			4
計			69	
自 由 選 択 ※p.6 参照				8
合 計				128

17 卒業要件

本学に4年以上在学し、課程ごとに定める履修基準により所定の単位を修得した者について、教授会の議を経て、卒業を認定します。

学校教育系については、更に各課程の卒業要件として、次に掲げる教育職員免許状の取得要件を満たす必要があります。

学校教育系の卒業要件として指定されている教育職員免許状

課 程	専 攻（ 選 修 ）	取 得 を 要 す る 免 許 状
初等教育 教員養成課程	国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 家庭, 英語, 学校教育, 学校心理, 国際教育, 情報教育, 環境教育, ものづくり技術	小学校教諭一種免許状
	幼児教育	幼稚園教諭一種免許状
中等教育 教員養成課程	国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 家庭, 英語, 技術, 書道	各専攻教科に対応する中学校教諭及び 高等学校教諭一種免許状 ただし, 社会専攻の高等学校は地理歴史 又は公民のいずれか一種類とする。 技術専攻の高等学校は工業とする。 書道専攻の中学校は国語とする。
特別支援教育 教員養成課程	聴覚障害教育	特別支援学校教諭一種免許状 (聴覚障害者)(知的障害者) (肢体不自由者)(病弱者)の4領域及び 小学校教諭一種免許状又は 中学校教諭一種免許状のいずれか一種類
	言語障害教育	
	発達障害教育	
	学習障害教育	
養護教育 教員養成課程	養護教育	養護教諭一種免許状

教育職員免許状を取得するには、教育職員免許法第5条に定める基礎資格と単位修得を要するが単位の修得方法については、さらに同法施行規則で細かく規定されている。

18 開設授業科目一覧の見方

1 開設授業科目一覧の見方

開設授業科目記載例

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考
人権教育	2	講	I・II	日本史 物理学	社会福祉士 (人体の構造と機能及び疾病)	必修
日本史概論	2	講	I			
線形数学	④	講	I II			
物理学演習	2	演	III			
医学概論	2	講	II 奇			

2 「授業科目」欄

授業科目の正式名が記載されている。

3 「単位数」欄

授業を履修し、修得できる単位数が記載されており、「2」は半期(春学期又は秋学期)で2単位修得できることを示し、「④」は通年(1年間)で4単位修得できることを示す。

4 「講演実」欄

授業の形態が記載されており、「講」は講義を、「演」は演習を、「実」は実技、実験又は実習を示す。

5 「標準開設学期」欄

ア「I」は1年春学期を、「II」は1年秋学期を……「VII」は4年春学期を、「VIII」は4年秋学期を示す。

イ「I」は1年春学期に開設することを示す。

ウ「I II」は1年春学期から1年秋学期にかけて通年で開設することを示す。

エ「I・II」は、1年春学期と1年秋学期にそれぞれ開設することを示す。

オ「奇」は、奇数年度に開設されることを示し、「偶」は、偶数年度に開設されることを示す。

カ「集中」は、通常の授業時間枠以外の特定時期に、集中して授業を行う科目であることを示す。

キ **授業科目は標準開設学期において履修することを原則とする。**

6 「免許法上の科目」欄

授業科目が教育職員免許法上、どの科目に該当するかが記載されている。

7 「諸資格」欄

授業科目が諸資格取得上、どの科目に該当するかが記載されている。

8 「備考」欄

授業科目の履修上の注意等が記載されている。

19

教養科目

教 養 科 目

教養科目は、教育や教科の基礎となる概念や学習技術を幅広い視点から学ぶとともに、大学生として、そして社会の中に生きる人間として、必要な教養を身につけるための科目群です。これらは、「総合学芸領域」(CA)、「健康・スポーツ領域」(CH)、「語学領域」(CL)の3つの領域からなり、それぞれの領域において定められた単位を修得しなければなりません。

総合学芸領域 (CA)

4つの分野

「総合学芸領域」は、後述の必修科目のほか、(A)思想・哲学・芸術・文学・言語・人間、(B)社会・生活・文化・歴史、(C)自然科学・環境・情報、その他の4つの科目群(分野と呼びます)から構成されます。履修方法は、41ページの上段に記載されています。

総合学芸領域の科目履修

「総合学芸領域」の科目については、必ず修得しなければならない単位数は14単位(7科目)ですが、みなさんの興味と関心に従って、これ以上の単位を履修し、修得することも可能です。ただし、学校教育系及び教育支援系いずれの場合も、「日本国憲法」(2単位)、「人権教育」(2単位)、「情報」(2単位)は必修科目です。以下に記された分野ごとの解説をよく読み、履修してください。

必修科目

「日本国憲法」

我が国の憲法を学び、法の総体を知ることによって、国家と市民を理解するための科目です。

「人権教育」

人権を学び、他との違いを理解し、その権利を認め合うことを学ぶ科目です。

「情報」

「情報」は、高度情報化社会における技術の発展やそれに伴う社会の変化に対し、主体的に対応できる能力と態度を育成することを目指し、全学共通の基礎科目として設置されました。また、この科目は教育職員免許法上の必修科目「情報機器の操作」に対応し、教員および社会を支える一員として必要な情報機器の操作を題材とした実習中心の授業形態をとります。ただし、ワードプロセッサや表計算等のアプリケーションソフトウェアの具体的な使用方法を教授する授業ではありません。単なる技能としてではなく、その概念や原理を理解し、正しく情報機器を利用する能力と情報を扱う力(情報活用能力)を育むことを目指します。

分野別科目案内

■ (A) 思想・哲学・芸術・文学・言語・人間

思想・哲学・芸術・文学・言語・人間の科目群は、人間という存在の根幹を学術的に問うことに関わります。「人とは何か」「人の知的営為はどのようなされるのか」「言語と思考様式はどのように関わるか」「人は何故に美を感じるのか」「文学はどのように世界と関わるのか」等々、みずみずしい感性を持つ学生時代に、これらの科目の履修を通して、自分なりの人間観・世界観を育んでいくことは、その後の人生にとっての深みを与えます。

■（Ｂ）社会・生活・文化・歴史

経済活動が地球規模で展開される現在、国際社会の動きと無縁でいられる国はないでしょう。国際化の進展が著しい現在は、多様な言語・社会・文化を有する人間同士の相互理解が何より求められています。多彩で多様な社会や文化を学び、理解することは、それを作り出した人間の多様性を発見することであると同時に、共通の世界観・人生観、生きる喜びを発見することでもあります。また、学校の安全や、女性の保健、身体と栄養、生活習慣病、心の健康など身の回りの生活に必要な知識についても学ぶことができます。

社会・生活・文化・歴史分野の科目群をきっかけに、問題意識を高め、今後の方策について知見を深めていきましょう。

■（Ｃ）自然科学・環境・情報

（自然科学）

みなさんは子どものころ、身の回りの不思議なこと、奇妙なものに興味をもったことでしょう。それを解明するのが自然科学であり、得られた知識を生活に生かすのが科学技術です。

自然科学にはいろいろな学問分野があります。そのうちのいくつかの分野についてどのような研究がなされ、現在どのようなことが分かっているかについて、わかりやすく講義します。自然系の科目を学ぶことによって、自然科学がみなさんの生活やものの見方・考え方と深くかかわっていること、また、それらは生活に必要な知恵や能力を与えること、さらに21世紀を切り開くみなさんの世界観・生き方や判断・意志決定にかかわっていることを学ぶことができます。

（環境）

世界規模での人口の増加と産業社会の拡大は、快適で利便性の高い生活の実現と引換えに、生態系の破壊や地球の温暖化など、人間と動植物の生存する地球環境に極めて大きな負荷を与えています。生活環境が悪化し資源が枯渇してしまえば、快適生活のための開発も成り立ちません。将来にわたって環境と資源を守りながら開発を進めて行く「持続可能な開発」（sustainable development）のあり方を探ることが喫緊の課題となっています。

そうした環境問題に対処する最も有効な方法のひとつが環境教育です。環境に関する知識とその教育方法は、近年、教師としての基礎的能力と言われています。また、環境教育は、学際的な研究方法と直接体験的な学習方法を特色とした、まったく新しい統合的な学問領域です。東京学芸大学は、そうした環境教育の研究・実践を最先端で切り開いています。授業では、スライド・ビデオ・パソコンなど視聴覚メディアのほか、環境教育実践施設などの身近なフィールドでの実物教材、ディベート・ワークショップ・ロールプレイなどを活用します。

（情報）

現代は高度情報化社会と言われています。社会のあらゆる分野、さらに家庭までもさまざまな情報機器が入り込み、それらが日常生活にとって必須の道具になっています。代表的な情報機器はコンピュータですが、いまや、コンピュータは原義である「計算機」であるだけでなく、マルチメディア情報機器として、文字・音声・静止画・動画などを迅速・大量に処理・伝達できる道具に成長しています。さらに、インターネットの普及により、世界中のコンピュータがネットワークでつながり、ウェブやEメールを媒介として、様々な情報の伝達・検索や物品・サービスの売買・取引が日常的に行われるようになりました。教員にとっても、情報処理は必須の基礎的能力・技能です。

情報分野の科目群では、さまざまな学問を修めるために必要な「情報」および「情報処理」の知識と技術を学びます。

■その他

本学の学校教育系の学生と教育支援系の学生が共修する教養科目としての科目です。

学芸フロンティア科目

物事に対する多面的な理解と総合的な洞察力ならびに現代社会の諸課題を総合的に判断し対処しうる能力の養成のために、「学芸フロンティア科目」が設置されています。社会で幅広く活動され、実績・経験の豊富なゲストスピーカーに21世紀における大学のあり方・教育のあり方について語っていただく科目や、代表的な日本文化の一つを実践的に学ぶことによって21世紀のグローバル社会で活躍するための文化的奥行きを広げる科目などが開設されます。

外国人留学生短期プログラム科目（英語による授業について）

本学では、留学生のために英語による「外国人留学生短期プログラム科目」（短プロ）が開設されていますが、その中のいくつかの授業が「総合学芸領域」に組み入れられて、日本人学生にも正規の科目として履修できるようになっています。さまざまな国からの留学生が履修していますので、留学生との交流に関心ある学生や、将来留学を希望している学生は異文化交流の場として、これらの授業を積極的に活用してください。

健康・スポーツ領域（CH）

「健康・スポーツ領域」とは

健康・スポーツ領域は、知性、感性、身体性の統合的な教育によって教養を深めようとする「共通科目」の理念を実現するために設けられました。「健康・スポーツ領域」の授業を履修することによって、身体にかかわる教養と技能を身につけ、現在の大学生生活の充実を図ることができます。この身体的教養と技能とは、次のようなことを意味しています。

- ・スポーツ文化に対する深い認識
- ・生活の場で積極的に運動やスポーツに取り組む態度
- ・良好な人間関係を作り出す能力
- ・大学生として必要な自己健康管理能力
- ・生涯にわたる健康づくりや管理に関する知識と技能

このような教養や技能を培うことによって有為な社会人、さらに教育者・指導者として基礎的な素養を身につけることをこの領域の大きなねらいとしています。

「健康・スポーツ領域」のねらいと性格

基礎的な「生涯スポーツ」の理論と実践の場を提供する授業です。これらの授業を通じて、基礎的な体力の向上や運動・スポーツ技術の学習、また体力科学を中心とした幅広いスポーツ、身体についての基礎知識を身につけることを主な目的としています。

このため、これらの授業は学校教育系の学生だけではなく、教育支援系の学生に対しても必修として位置づけられています。教員免許の取得希望の有無にかかわらず、全学生は必ず指定された学期にこれらの科目を履修してください。このコースは履修学生の定員と施設を考慮して開設してありますので、やむを得ず再履修をしなければいけない学生を除いて、指定された学期以外での履修はできません。

このコースには原則として実技である「スポーツ・フィットネス実習」、理論である「ウェルネス概論」がそれぞれ開設されています。

「スポーツ・フィットネス実習」

「スポーツ・フィットネス実習」は、半期の定期コース（4～5種目）と集中コース（8コース）から構成されています。クラスに指定された標準的な科目の中から、自分の希望する内容の実習を自由に選択することができます。（受講希望者の人数によっては調整することもあります。）

受講希望の抽選は最初のオリエンテーション時に行いますので、必ず出席してください。

身体に何らかの障害がある場合や、病気や怪我のため、「スポーツ・フィットネス実習」を他の学生と同じプログラムに参加が困難な学生には、特別に「個別プログラム」を用意しています。

「ウェルネス概論」

「ウェルネス概論」では、「ウェルネス」という考え方、すなわち「各人がそのライフスタイルを自己変容することにより効率的で、生産性の高い生活を営むことを不断に目指すこと」を理論的に理解し、実践できることをねらいとしています。具体的には、個人のライフスタイルに影響を与える構成要素である運動、食生活、休養、ストレス等とライフスタイルとの関係を明らかにするとともに、健全なライフスタイルの形成に向けて身体的、知的、情緒的、精神的、社会的な側面で積極的に取り組むための方法や知識の講義が行われます。

「ウェルネス概論」においても「スポーツ・フィットネス実習」同様に、指定された時間枠内で異なった内容の講義が開講されていますので、自分の希望に合った内容の講義を選択し履修します。「スポーツ・フィットネス実習」とは異なり全体でのオリエンテーションは行いませんので、直接希望する教室に最初の授業から参加してください。

語学領域（CL）

必修科目

英語コミュニケーション

「英語コミュニケーションA」

「英文を音読して、訳して終わり」では本当に英語を使ったことにはなりません。この科目では英語で読んだり聞いたりして得た情報について簡単な英語で口頭発表できるようになることを目指します。コミュニケーションの重要さが叫ばれる昨今ですが、まず英語で情報を得るということが大切です。いきなり英語で口頭発表となると日本語から訳してしまいがちです。情報を得たら、それをまとめて英語で発表、簡単なスピーチをすることが大切です。

「英語コミュニケーションB」

この科目では英語で得た情報をもとにクラスメートとの意見の交換を行えるようにします。まず英語で情報を得ることで始まる点は「英語コミュニケーションA」と変わりませんが、この科目では、一方的に口頭発表するだけではなく、クラスメートの発表を聞いてどう思うかなどの意見交換をします。

初習語学

今日の多言語多文化社会において、世界のさまざまな国の人々と互いに理解し合うためには、「ことば」がとても重要なアイテムとなります。また、いろいろな国から来られた多くの留学生も本学で学んでいます。本学では、英語はもちろんのこと、英語以外の外国語教育にも力を入れています。皆さんは、初めて学ぶ英語以外の外国語（初習語学）として、ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語、イタリア語、スペイン語を1年次で履修することができます。「ことば」の力を大いに活用して、大学生活、研究活動、そして就職へとつなげていくことを期待します。

履修は、別々の言語を4単位組み合わせることはできません。ただし、A・B類理科の学生に限り専門基礎外国語2単位を以って、「〇〇語基礎Ⅲ」「〇〇語基礎Ⅳ」の2単位に替えることができます。

「〇〇語基礎Ⅰ」

主に発音から学び、初級文法や簡単な会話を学びます。

「〇〇語基礎Ⅱ」

「聞く・話す・読む・書く」ための基礎的な力を総合的に養います。

「〇〇語基礎Ⅲ」

基礎Ⅰ・基礎Ⅱをベースとして、中級レベルの文法や会話などを学びます。

「〇〇語基礎Ⅳ」

「聞く・話す・読む・書く」ための総合的なレベルアップを行います。

専門基礎外国語

専門基礎外国語には、理科関係の専門基礎英語として4種類8科目を開設しています。必ずセットで履修してください。

これらの科目は、A・B類理科の学生に限り初習語学の「〇〇語基礎Ⅲ・Ⅳ」2単位の代わりに履修することができます。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| ■ 1：理科専門基礎英語AⅠ・AⅡ | 物理学の専門領域に関わる英語の基礎 |
| ■ 2：理科専門基礎英語BⅠ・BⅡ | 化学の専門領域に関わる英語の基礎 |
| ■ 3：理科専門基礎英語CⅠ・CⅡ | 生物学の専門領域に関わる英語の基礎 |
| ■ 4：理科専門基礎英語DⅠ・DⅡ | 地学の専門領域に関わる英語の基礎 |

選択科目

英語

■トピック別科目

「メディア英語A・B」

新聞、ニュース誌、テレビ、インターネット、テレビドラマ、映画などを用いて、メディアで使われる英語表現を習得します。

■技能別科目

「英語リーディングA・B」

さまざまな題材を用い、英語リーディング能力を養います。

「英語リスニング&スピーキングA・B」

リスニング、スピーキングを中心に、英語の実践的コミュニケーション能力を養います。

「上級英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」

ディベートを含むオーラルコミュニケーション能力を高めます。

「上級英語ライティングⅠ・Ⅱ」

高度な英語の文章や英語の論文を書く訓練を行います。

■集中演習

「英語集中演習A・B・C」

文法や和訳はさんざん学んだけれど、英語を実際にある期間集中して使ってみる機会がない、使ってみたくてうずうずしている。そんな人いますよね。そういう人たちに最適なのがこの科目です。1年分の演習を夏や秋の休暇中、1週間から10日間集中して行います。授業は少人数制で、内容は、英語の歌あり、ゲームあり、ディベート、ディスカッションあり、と盛りだくさんです。集中的に英語にどっぷり浸って、いつの間にか英語に慣れてしまいましょう。文法や発音の間違いなんか気にする必要はちっともありません。言いたいことを片言の英語でいいから相手に伝えましょう。このコースの後には充実した達成感と心地よい疲労感があるはずです。「英語集中演習A」は上級レベル、「英語集中演習B・C」は中級レベルです。

選択外国語

初習語学を履修したのち、語学力のブラッシュアップのために、2年次に以下の科目を履修することができます。ただし、ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語のみの開設となりますので、ご注意ください。

■ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語

「〇〇語コミュニケーションAⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ」

日常的な会話や表現を学びます。

「〇〇語表現」

高度な会話能力や表現能力を養います。

「〇〇語プレゼンテーション」

高度なプレゼンテーション能力を養います。

○語学技能検定に関する単位の認定について

大学以外の教育施設等における学修において一定以上の級・スコアを有している者は、**所定の手続き（単位認定申請）**により、本学の授業科目の単位として認定する事ができる。

申請希望者は、下記の申請期間内に、学務課に申請書類を提出してください。

申請期間： 春学期 4月1日～ 4月末日
秋学期 10月1日～ 10月末日

【注意事項】

- ・申請期間は掲示で周知します。期限を過ぎたものは一切受付けないので注意してください。
- ・休学期間中は、申請および認定を受けることはできません。

申請書類： ① 大学以外の教育施設等における学修に係る単位認定申請書（大学所定書式。申請者本人の署名・押印と指導教員の確認が必要です。）
② 該当する学修についての証明書の写し（合格通知書等では受け付けられません。）

大学以外の教育施設等における学修の種類及び級・資格等			履修したとみなす授業科目 及び認定する単位数
実用英語技能検定（（公財）日本英語検定協会）		2級以上	以下科目の1単位まで ・英語コミュニケーションA または ・英語コミュニケーションB
TOEFL (Educational Testing Service)	Paper-Based Test	480点以上	
	Computer-Based Test	157点以上	
	Internet-Based Test	54点以上	
TOEIC (Educational Testing Service)	Listening & Reading Test	600点以上	
IELTS		5.0以上	以下科目の2単位まで ・英語コミュニケーションA ・英語コミュニケーションB 及び以下科目の2単位まで ・メディア英語A ・メディア英語B ・英語リーディングA ・英語リーディングB ・英語リスニング & スピーキング A ・英語リスニング & スピーキング B ・英語集中演習A ・英語集中演習B ・英語集中演習C ・上級英語コミュニケーション I ・上級英語コミュニケーション II ・上級英語ライティング I ・上級英語ライティング II の合計4単位まで
実用英語技能検定（（公財）日本英語検定協会）		準1級 1次試験 合格以上	
TOEFL (Educational Testing Service)	Internet-Based Test (IBT)	80点以上	
TOEIC (Educational Testing Service)	Listening & Reading Test	730点以上	
IELTS		6.0以上	

大学以外の教育施設等における学修の種類及び級・資格等		履修したとみなす授業科目 及び認定する単位数
漢語水平考試 (HSK) ((一社)日本青少年育成協会 HSK日本実施委員会)	5級 (195点) 以上	中国語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 4単位まで
中国語検定 (一財)日本中国語検定協会)	2級以上	
韓国語能力試験 ((公財)韓国教育財団)	TOPIKⅠ (初級)の 2級以上	コリア語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 4単位まで
ハングル能力検定試験 (NPO法人ハングル能力検定協会)	4級以上	
ドイツ語技能検定試験 ((公財)ドイツ語学文学振興会)	2級以上	ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 4単位まで
実用フランス語技能検定試験 ((公財)フランス語教育振興協会)	2級以上	フランス語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 4単位まで
DELF : Diplôme d' Etudes en Langue Française (フランス国民教育省フランス語学力資格試験) (アンスティチュ・フランセ日本)	B1以上	
TEF : Test d' Evaluation de Français (パリ商工会議所フランス語能力認定試験) (株)日仏文化協会)	レベル3 以上	
TCF : Test de Connaissance du Français (フランス国民教育省フランス語学力試験) (アンスティチュ・フランセ日本)	レベル3 以上	

19 教養科目

教養科目は、各領域で定められた修得単位数を含め、学校教育系、教育支援系共に合計で22単位以上を履修する。

① 総合学芸領域(CA)

① 下記の授業科目から、日本国憲法2単位、人権教育2単位、情報2単位の計6単位を含め、更に(A)～(C)までの各分野2単位、計6単位を含めて14単位以上修得する。

② 留学生は、総合学芸領域の全ての授業科目の中から、日本国憲法2単位、人権教育2単位、情報2単位の計6単位を含めて14単位以上修得する。

③ 外国人留学生短期プログラム科目(短プロ)は、英語で授業が行われる。

(総合学芸領域)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	分 野 等	履 修 区 分
日 本 国 憲 法	2	講	I・II	日 本 国 憲 法		必修
人 権 教 育	2	講	I・II			必修
情 報	2	講演	I	情 報 機 器 の 操 作		必修
Cultural Social Psychology of the Japanese	2	講	I		短プロ	
Theatre Workshop	2	演	I		短プロ	
Introduction to Psychophysiology	2	講演	I		短プロ	
Exploring the Cultural Diversity of Japan I	2	演	I		短プロ	
Exploring the Cultural Diversity of Japan II	2	演	II		短プロ	
Global Japan Studies A	2	演	I		短プロ	
Global Japan Studies B	2	演	II		短プロ	
Traditional Performing Arts of Japan	2	講演	II		短プロ	
音 楽 と 文 化	2	講	IV		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
第 九 を 歌 お う	2	演	II		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
第 九 を 奏 で よ う (管 弦 楽)	2	演	II		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
ク ラ シ ッ ク 音 楽 鑑 賞 I	2	講	III		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
ク ラ シ ッ ク 音 楽 鑑 賞 II	2	講	IV		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
現 代 社 会 と 日 本 語	2	講	II		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
ワ ー ク シ ョ ッ プ の 技 法	2	演	I		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
視 覚 芸 術 と 社 会 I	2	演	III		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
視 覚 芸 術 と 社 会 II	2	演	III		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
イ ン ド 哲 学 入 門	2	講	II		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
発 達 と 障 害 の 心 理 A	2	講	I		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
発 達 と 障 害 の 心 理 B	2	講	II		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
心 の 科 学	2	講	I		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
心 と 健 康	2	講	II		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
心 と 社 会	2	講	I		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	分 野 等	履 修 区 分
近 代 文 学 A	2	講	I		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
近 代 文 学 B	2	講	II		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
古 典 文 学 A	2	講	I		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
古 典 文 学 B	2	講	II		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
視 覚 芸 術 と 社 会 教 育	2	演	IV		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
書 写 指 導 と 板 書 の 書 法	2	演 実	IV		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
ヨ ー ロ ッ パ の 人 と 暮 ら し	2	講	III		(B) 社会・生活・文化・歴史	
欧 米 の 政 治 と 社 会	2	講	IV		(B) 社会・生活・文化・歴史	
歴 史 と 社 会 ・ 文 化	2	講	I		(B) 社会・生活・文化・歴史	
地 域 ・ 文 化 ・ 環 境 か ら 読 む 世 界	2	講	I		(B) 社会・生活・文化・歴史	
市 民 社 会 と 法	2	講	I		(B) 社会・生活・文化・歴史	
現 代 の 経 済	2	講	I		(B) 社会・生活・文化・歴史	
現 代 社 会 の 諸 問 題	2	講	II		(B) 社会・生活・文化・歴史	
イスラームの社会と文化	2	講	II		(B) 社会・生活・文化・歴史	
民 俗 文 化	2	講	III		(B) 社会・生活・文化・歴史	
現 代 の 企 業	2	講	I		(B) 社会・生活・文化・歴史	
コ マ ー シ ャ ル を 考 え る	2	演	III		(B) 社会・生活・文化・歴史	
ジ ェ ン ダ ー と 日 本 社 会	2	講	I		(B) 社会・生活・文化・歴史	
生 活 文 化	2	講	IV		(B) 社会・生活・文化・歴史	
中 国 文 化	2	講	II		(B) 社会・生活・文化・歴史	
日 本 の 文 化 と 社 会	2	講	II		(B) 社会・生活・文化・歴史	
文化財の保存・修復の歴史と現状	2	講	II		(B) 社会・生活・文化・歴史	
ボ ラ ン テ ィ ア と N P O ・ N G O	2	講	IV		(B) 社会・生活・文化・歴史	
多 文 化 共 生 を 考 え る	2	講	I		(B) 社会・生活・文化・歴史	
多 言 語 多 文 化 A	2	講	III		(B) 社会・生活・文化・歴史	
多 言 語 多 文 化 B	2	講	III		(B) 社会・生活・文化・歴史	
多 言 語 多 文 化 C	2	講	IV		(B) 社会・生活・文化・歴史	
多 言 語 多 文 化 D	2	講	IV		(B) 社会・生活・文化・歴史	
中 国 古 典	2	講	I		(B) 社会・生活・文化・歴史	
日 本 語 学	2	講	I		(B) 社会・生活・文化・歴史	
学 校 の 安 全 と 環 境	2	講	II		(B) 社会・生活・文化・歴史	
女 性 の た め の 保 健 概 論	2	講	II		(B) 社会・生活・文化・歴史	
心 の 健 康 と ス ト レ ス 管 理	2	講	II		(B) 社会・生活・文化・歴史	

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	分 野 等	履 修 区 分
生活習慣病予防と運動・スポーツ	2	講	I		(B) 社会・生活・文化・歴史	
ウエイトコントロールと栄養	2	講	II		(B) 社会・生活・文化・歴史	
入 門 物 理 学	2	講	I		(C) 自然科学・環境・情報	
入 門 化 学	2	講	I		(C) 自然科学・環境・情報	
入 門 生 物 学	2	講	I		(C) 自然科学・環境・情報	
入 門 地 学	2	講	I		(C) 自然科学・環境・情報	
学 校 園 の 基 礎 と 展 開	2	講	III		(C) 自然科学・環境・情報	
現 代 物 理 学 の 基 礎	2	講	IV		(C) 自然科学・環境・情報	
生 物 学 へ の い ざ な い	2	講	IV (集中)		(C) 自然科学・環境・情報	
身 近 な 現 象 と 化 学	2	講	II		(C) 自然科学・環境・情報	
宇 宙 と 地 球 と 人 間	2	講	I		(C) 自然科学・環境・情報	
コンピュータ・ネットワーク	2	演	II		(C) 自然科学・環境・情報	
コンピュータ・アート	2	演	III		(C) 自然科学・環境・情報	
コンピュータ・プログラミング	2	演	II		(C) 自然科学・環境・情報	
メディアリテラシー	2	演	III		(C) 自然科学・環境・情報	
I T を 活 用 し た 授 業 づ くり	2	演	III・IV		(C) 自然科学・環境・情報	
W e b コ ン ピ ュ ー テ ィ ン グ	2	演	IV		(C) 自然科学・環境・情報	
W e b パ ブ リ ッ シ ン グ	2	演	II		(C) 自然科学・環境・情報	
教 師 ・ 教 育 支 援 者 の た め の 情 報 セ キ ュ リ テ ィ	2	演	IV		(C) 自然科学・環境・情報	
科 学 技 術 と 環 境	2	講	II		(C) 自然科学・環境・情報	
教 師 ・ 教 育 支 援 者 の た め の 紙 面 ・ 映 像 編 集	2	演	III		(C) 自然科学・環境・情報	
気 候 変 動 と 社 会	2	講	II		(C) 自然科学・環境・情報	
自 然 と 数 理 A	2	講	I		(C) 自然科学・環境・情報	
自 然 と 数 理 B	2	講	II		(C) 自然科学・環境・情報	
数 理 の 世 界 A	2	講	I		(C) 自然科学・環境・情報	
数 理 の 世 界 B	2	講	II		(C) 自然科学・環境・情報	
学 芸 フ ロ ン テ ィ ア 科 目 A	2	講	I		その他	
学 芸 フ ロ ン テ ィ ア 科 目 B	2	講	I		その他	
学 芸 フ ロ ン テ ィ ア 科 目 C	2	講	II		その他	
学 芸 フ ロ ン テ ィ ア 科 目 D	2	講	II		その他	
学 芸 フ ロ ン テ ィ ア 科 目 E	2	講	I (集中)		その他	
学 芸 フ ロ ン テ ィ ア 科 目 F	2	講	I		その他	
学 芸 フ ロ ン テ ィ ア 科 目 G	2	講	II		その他	
学 芸 フ ロ ン テ ィ ア 科 目 H	2	講	II		その他	
学 芸 フ ロ ン テ ィ ア 科 目 I	2	講	II		その他	

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	分 野 等	履 修 区 分
多 文 化 共 修 科 目 A	2	演	I		その他	
多 文 化 共 修 科 目 B	2	演	II		その他	
多 文 化 共 修 科 目 C	2	演	I		その他	
多 文 化 共 修 科 目 D	2	演	II		その他	
多 文 化 共 修 科 目 E	2	演	I		その他	
多 文 化 共 修 科 目 F	2	演	II		その他	
教 育 コ ラ ボ レ ー シ ョ ン 演 習	2	演	V (集中)		その他	
教 育 ネ ッ ト ワ ー ク 演 習	2	演	III (集中)		その他	
教 育 マ ネ ジ メ ン ト 演 習	2	演	IV (集中)		その他	

② 健康・スポーツ領域(CH)

下記の授業科目は必修なので、2単位を必ず修得する。

(健康・スポーツ領域)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目		履 修 区 分
ス ポ ー ツ ・ フ ィ ッ ト ネ ス 実 習	1	実	I・II	体	育	必修
ウ ェ ル ネ ス 概 論	1	講	II	体	育	必修

③ 語学領域(CL)

「英語コミュニケーションA・B」の2単位及び初習語学「〇〇語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(同一言語)の4単位の計6単位を必ず修得する。

留学生は、留学生対象科目を含めたすべての語学領域から「英語コミュニケーションA・B」の2単位を含め6単位以上を修得する。

留学生対象科目は留学生のみが履修できる。なお、日本語を母語としない留学生は、初習語学(〇〇語基礎)の履修について、自身にとっての「外国語」に限るものとし、自身の母語及び自身が受けてきた高等学校までの学校教育における教授言語を履修することは認めない。

(語学領域)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	履 修 区 分
英 語 コミュニケーション A	1	演	I・II	外 国 語 コミュニケーション	必修
英 語 コミュニケーション B	1	演	I・II	外 国 語 コミュニケーション	必修
ド イ ツ 語 基 礎 Ⅰ	1	演	I		初習語学
ド イ ツ 語 基 礎 Ⅱ	1	演	II		初習語学
ド イ ツ 語 基 礎 Ⅲ	1	演	III		初習語学
ド イ ツ 語 基 礎 Ⅳ	1	演	IV		初習語学
フ ラ ン ス 語 基 礎 Ⅰ	1	演	I		初習語学
フ ラ ン ス 語 基 礎 Ⅱ	1	演	II		初習語学
フ ラ ン ス 語 基 礎 Ⅲ	1	演	III		初習語学
フ ラ ン ス 語 基 礎 Ⅳ	1	演	IV		初習語学
中 国 語 基 礎 Ⅰ	1	演	I		初習語学
中 国 語 基 礎 Ⅱ	1	演	II		初習語学
中 国 語 基 礎 Ⅲ	1	演	III		初習語学
中 国 語 基 礎 Ⅳ	1	演	IV		初習語学
コ リ ア 語 基 礎 Ⅰ	1	演	I		初習語学
コ リ ア 語 基 礎 Ⅱ	1	演	II		初習語学
コ リ ア 語 基 礎 Ⅲ	1	演	III		初習語学
コ リ ア 語 基 礎 Ⅳ	1	演	IV		初習語学
イ タ リ ア 語 基 礎 Ⅰ	1	演	I		初習語学
イ タ リ ア 語 基 礎 Ⅱ	1	演	II		初習語学
イ タ リ ア 語 基 礎 Ⅲ	1	演	III		初習語学
イ タ リ ア 語 基 礎 Ⅳ	1	演	IV		初習語学
ス ペ イ ン 語 基 礎 Ⅰ	1	演	I		初習語学
ス ペ イ ン 語 基 礎 Ⅱ	1	演	II		初習語学
ス ペ イ ン 語 基 礎 Ⅲ	1	演	III		初習語学
ス ペ イ ン 語 基 礎 Ⅳ	1	演	IV		初習語学

(専門基礎外国語)

A・B類理科の学生に限り、専門基礎外国語①～④(1単位+1単位)を初習語学「〇〇語基礎Ⅲ・Ⅳ」の2単位に替えることができる。

	授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	履 修 区 分
①	理 科 専 門 基 礎 英 語 A I	1	演	Ⅲ		専門基礎
	理 科 専 門 基 礎 英 語 A II	1	演	Ⅳ		専門基礎
②	理 科 専 門 基 礎 英 語 B I	1	演	Ⅲ		専門基礎
	理 科 専 門 基 礎 英 語 B II	1	演	Ⅳ		専門基礎
③	理 科 専 門 基 礎 英 語 C I	1	演	Ⅲ		専門基礎
	理 科 専 門 基 礎 英 語 C II	1	演	Ⅳ		専門基礎
④	理 科 専 門 基 礎 英 語 D I	1	演	Ⅲ		専門基礎
	理 科 専 門 基 礎 英 語 D II	1	演	Ⅳ		専門基礎

(選択外国語)

	授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	履 修 区 分
	メ デ ィ ア 英 語 A	1	演	I		選択
	メ デ ィ ア 英 語 B	1	演	II		選択
	英 語 リ ー デ ィ ン グ A	1	演	I		選択
	英 語 リ ー デ ィ ン グ B	1	演	II		選択
	英語リスニング&スピーキングA	1	演	I		選択
	英語リスニング&スピーキングB	1	演	II		選択
	上級英語コミュニケーションⅠ	1	演	Ⅲ		選択
	上級英語コミュニケーションⅡ	1	演	Ⅳ		選択
	上 級 英 語 ラ イ テ ィ ン グ Ⅰ	1	演	Ⅲ		選択
	上 級 英 語 ラ イ テ ィ ン グ Ⅱ	1	演	Ⅳ		選択
	英 語 集 中 演 習 A	2	演	I (集中)		選択
	英 語 集 中 演 習 B	2	演	I (集中)		選択
	英 語 集 中 演 習 C	2	演	I (集中)		選択

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	履 修 区 分
ドイツ語コミュニケーションAⅠ	1	演	Ⅲ奇		選択
ドイツ語コミュニケーションAⅡ	1	演	Ⅳ奇		選択
ドイツ語コミュニケーションBⅠ	1	演	Ⅲ偶		選択
ドイツ語コミュニケーションBⅡ	1	演	Ⅳ偶		選択
ド イ ツ 語 表 現	1	演	Ⅳ		選択
ドイツ語プレゼンテーション	1	演	Ⅲ		選択
フランス語コミュニケーションAⅠ	1	演	Ⅲ奇		選択
フランス語コミュニケーションAⅡ	1	演	Ⅳ奇		選択
フランス語コミュニケーションBⅠ	1	演	Ⅲ偶		選択
フランス語コミュニケーションBⅡ	1	演	Ⅳ偶		選択
フ ラ ン ス 語 表 現	1	演	Ⅳ		選択
フランス語プレゼンテーション	1	演	Ⅲ		選択
中国語コミュニケーションAⅠ	1	演	Ⅲ奇		選択
中国語コミュニケーションAⅡ	1	演	Ⅳ奇		選択
中国語コミュニケーションBⅠ	1	演	Ⅲ偶		選択
中国語コミュニケーションBⅡ	1	演	Ⅳ偶		選択
中 国 語 表 現	1	演	Ⅳ		選択
中国語プレゼンテーション	1	演	Ⅲ		選択
コリア語コミュニケーションAⅠ	1	演	Ⅲ奇		選択
コリア語コミュニケーションAⅡ	1	演	Ⅳ奇		選択
コリア語コミュニケーションBⅠ	1	演	Ⅲ偶		選択
コリア語コミュニケーションBⅡ	1	演	Ⅳ偶		選択
コ リ ア 語 表 現	1	演	Ⅳ		選択
コリア語プレゼンテーション	1	演	Ⅲ		選択

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	履 修 区 分
日 本 語 表 現 法 A (ラ イ テ ィ ン グ Ⅰ)	1	演	Ⅰ		留学生対象科目
日 本 語 表 現 法 B (ラ イ テ ィ ン グ Ⅱ)	1	演	Ⅱ		留学生対象科目
日 本 語 表 現 法 C (口 頭 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン Ⅰ)	1	演	Ⅲ		留学生対象科目
日 本 語 表 現 法 D (口 頭 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン Ⅱ)	1	演	Ⅳ		留学生対象科目

20

教育基礎科目

- ①**教職の意義等(EW)**
- ②**教育の基礎理論(EF)**
- ③**教育課程及び指導法に関する科目(ET)**
- ④**生徒指導及び教育相談(EC)**
- ⑤**教職実践演習(EE)**
- ⑥**教職に関する科目〔選択〕**
- ⑦**教育実習・養護実習(EP)**

20 教育基礎科目

① 教職の意義等(EW)

下記の授業科目は必修なので、A・B・C・D類の学生は2単位を必ず修得する。(教育基礎科目)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
教 職 入 門	2	講	Ⅱ	教職・意義	A・B・C・D類

② 教育の基礎理論(EF)

下記の授業科目は必修なので、A・B・D類の学生は8単位、C類の学生は6単位を必ず修得する。(教育基礎科目)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
教 育 の 理 念 と 歴 史	2	講	I・Ⅱ	教職・理念	学校司書	A・B・C・D類
教 育 組 織 論	2	講	I・Ⅱ	教職・制度	スクール(学校)ソーシャルワーカー	A・B・C・D類
教 育 心 理 学	2	講	Ⅲ	教職・発達	学校司書	A・B・C・D類
特 別 支 援 教 育 の 理 解	2	講	I・Ⅱ	教職・特支	学校司書	A・B・D類

③ 教育課程及び指導法に関する科目(ET)

a 教育課程の意義及び編成の方法

A類・B類・C類・D類対象

下記の授業科目は必修なので、対象により2単位を必ず修得する。(教育基礎科目)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
保 育 ・ 幼 児 教 育 課 程 総 論	2	講	V	教職・課程	学校司書	A類幼対象
教 育 課 程 の 理 論 と 実 践	2	講	Ⅳ	教職・課程	学校司書	A・B・C・D類 (A類幼除く)

b 道徳の理論及び指導法

A類(幼児教育を除く)・B類・C類・D類対象

下記の授業科目は必修なので、2単位を必ず修得する。(教育基礎科目)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
道 徳 教 育 の 指 導 法	2	講	Ⅲ・Ⅳ	道徳の指導法	

c 特別活動の指導法、総合的な学習の時間の指導法

A類(幼児教育を除く)・B類・C類・D類対象

下記の授業科目は必修なので、2単位を必ず修得する。(教育基礎科目)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2	講	V・Ⅵ	特別活動、総合的な 学習の時間の指導法	

d 教育の方法及び技術、情報通信技術を活用した教育の理論及び方法

A類・B類・C類・D類対象

下記の授業科目は必修なので、2単位を必ず修得する。

(教育基礎科目)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
教 育 の 方 法 と I C T	2	講	Ⅳ	教職・方法技術 教職・情報		A・B・C・D類

e 小学校各教科指導法

A類(幼児教育を除く)・C類小免コース対象

下記の授業科目から、10教科20単位を修得する。

自教科生はⅢ又はⅣ期開設の授業科目を、他教科生(B類生を含む)はⅣ・Ⅴ及びⅥ期開設の授業科目を履修すること。

(教育基礎科目)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
初 等 国 語 科 教 育 法	2	講	Ⅳ	教職・指導法	A類国語
初 等 社 会 科 教 育 法	2	講	Ⅲ	教職・指導法	A類社会
初 等 算 数 科 教 育 法	2	講	Ⅳ	教職・指導法	A類数学
初 等 理 科 教 育 法	2	講	Ⅲ	教職・指導法	A類理科・環境
初 等 音 楽 科 教 育 法	2	講	Ⅲ	教職・指導法	A類音楽
初 等 図 画 工 作 科 教 育 法	2	講	Ⅲ	教職・指導法	A類美術
初 等 体 育 科 教 育 法	2	講	Ⅳ	教職・指導法	A類保健体育
初 等 家 庭 科 教 育 法	2	講	Ⅲ	教職・指導法	A類家庭
初 等 英 語 科 教 育 法	2	講演	Ⅲ	教職・指導法	A類英語
初 等 国 語 科 教 育 法	2	講	Ⅳ・Ⅴ	教職・指導法	他教科・B類
初 等 社 会 科 教 育 法	2	講	Ⅳ・Ⅴ	教職・指導法	他教科・B類
初 等 算 数 科 教 育 法	2	講	Ⅴ・Ⅵ	教職・指導法	他教科・B類
初 等 理 科 教 育 法	2	講	Ⅳ・Ⅴ	教職・指導法	他教科・B類
初 等 音 楽 科 教 育 法	2	講	Ⅴ・Ⅵ	教職・指導法	他教科・B類
初 等 図 画 工 作 科 教 育 法	2	講	Ⅳ・Ⅴ	教職・指導法	他教科・B類
初 等 体 育 科 教 育 法	2	講	Ⅳ・Ⅴ	教職・指導法	他教科・B類
初 等 家 庭 科 教 育 法	2	講	Ⅳ・Ⅴ	教職・指導法	他教科・B類
初 等 英 語 科 教 育 法	2	講演	Ⅲ・Ⅳ	教職・指導法	他教科・B類
初 等 生 活 科 教 育 法	2	講	Ⅳ・Ⅴ	教職・指導法	他教科・B類

f 中学校各教科指導法

B類・C類中免コース対象

下記の授業科目は必修なので、専攻教科と同一教科の教育法について8単位を必ず修得する。

社会科は、中等社会科教育法Ⅰ・Ⅱ(4単位)を必修とし、地理歴史科又は公民科のどちらかの教育法Ⅰ・Ⅱ(4単位)の計8単位を修得する。

技術科は、中等技術科教育法8単位及び工業科教育法4単位の計12単位を修得する。

書道科は、中等国語科教育法8単位及び書道科教育法4単位の計12単位を修得する。

なお、「保健」、「工芸」の免許取得を希望する場合は、必ず各々の教科の教育法を修得する必要がある。

(教育基礎科目)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
中 等 国 語 科 教 育 法 Ⅰ	2	講	Ⅲ	教職・指導法	国語・書道
中 等 国 語 科 教 育 法 Ⅱ	2	講	Ⅳ	教職・指導法	国語・書道
中 等 国 語 科 教 育 法 Ⅲ	2	講	Ⅴ	教職・指導法	国語・書道
中 等 国 語 科 教 育 法 Ⅳ	2	講	Ⅵ	教職・指導法	国語・書道

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
中 等 社 会 科 教 育 法 I	2	講	IV	教職・指導法	社会
中 等 社 会 科 教 育 法 II	2	講	V	教職・指導法	社会
中等社会科・地理歴史科教育法 I	2	講	V	教職・指導法	社会(地歴)
中等社会科・地理歴史科教育法 II	2	講	VI	教職・指導法	社会(地歴)
中等社会科・公民科教育法 I	2	講	V	教職・指導法	社会(公民)
中等社会科・公民科教育法 II	2	講	VI	教職・指導法	社会(公民)
中 等 数 学 科 教 育 法 I	2	講	III	教職・指導法	数学
中 等 数 学 科 教 育 法 II	2	講	IV	教職・指導法	数学
中 等 数 学 科 教 育 法 III	2	講	V	教職・指導法	数学
中 等 数 学 科 教 育 法 IV	2	講	VI	教職・指導法	数学
中 等 理 科 教 育 法 I	2	講	IV	教職・指導法	理科
中 等 理 科 教 育 法 II	2	講	V	教職・指導法	理科
中 等 理 科 教 育 法 III	2	講	VI	教職・指導法	理科
中 等 理 科 教 育 法 IV	2	講	VI	教職・指導法	理科
中 等 音 楽 科 教 育 法 I	2	講	I	教職・指導法	音楽
中 等 音 楽 科 教 育 法 II	2	講	II	教職・指導法	音楽
中 等 音 楽 科 教 育 法 III	2	講	III	教職・指導法	音楽
中 等 音 楽 科 教 育 法 IV	2	演	IV	教職・指導法	音楽
中 等 美 術 科 教 育 法 I	2	講	III	教職・指導法	美術
中 等 美 術 科 教 育 法 II	2	講	IV	教職・指導法	美術
中 等 美 術 科 教 育 法 III	2	講	V	教職・指導法	美術
中 等 美 術 科 教 育 法 IV	2	演	VI	教職・指導法	美術
中 等 工 芸 科 教 育 法 I	2	講	III	教職・指導法	工芸
中 等 工 芸 科 教 育 法 II	2	講	IV	教職・指導法	工芸
中等保健体育科教育法 I	2	講	III	教職・指導法	保健体育
中等保健体育科教育法 II	2	講	IV	教職・指導法	保健体育
中等保健体育科教育法 III	2	講	V	教職・指導法	保健体育
中等保健体育科教育法 IV	2	講	IV	教職・指導法	保健体育
中 等 保 健 科 教 育 法 I	2	講	IV	教職・指導法	保健
中 等 保 健 科 教 育 法 II	2	講	V	教職・指導法	保健
中 等 保 健 科 教 育 法 III	2	講	VI	教職・指導法	保健
中 等 保 健 科 教 育 法 IV	2	講	VII	教職・指導法	保健
中 等 家 庭 科 教 育 法 I	2	講	III	教職・指導法	家庭
中 等 家 庭 科 教 育 法 II	2	講	IV	教職・指導法	家庭
中 等 家 庭 科 教 育 法 III	2	講	V	教職・指導法	家庭
中 等 家 庭 科 教 育 法 IV	2	講	VI	教職・指導法	家庭
中 等 技 術 科 教 育 法 I	2	講	I	教職・指導法	技術
中 等 技 術 科 教 育 法 II	2	演	II	教職・指導法	技術
中 等 技 術 科 教 育 法 III	2	講	III	教職・指導法	技術
中 等 技 術 科 教 育 法 IV	2	演	IV	教職・指導法	技術

(教育基礎科目)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
工 業 科 教 育 法 I	2	講	V	教職・指導法	工業
工 業 科 教 育 法 II	2	講	VI	教職・指導法	工業
中 等 英 語 科 教 育 法 I	2	講	III	教職・指導法	英語
中 等 英 語 科 教 育 法 II	2	講	IV	教職・指導法	英語
中 等 英 語 科 教 育 法 III	2	講	V	教職・指導法	英語
中 等 英 語 科 教 育 法 IV	2	講	VI	教職・指導法	英語
書 道 科 教 育 法 I	2	講	III	教職・指導法	書道
書 道 科 教 育 法 II	2	講	IV	教職・指導法	書道

g 保育内容の指導法

A類幼児教育選修対象

下記の授業科目は必修なので、14単位を必ず修得する。

(教育基礎科目)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
保 育 内 容 「 健 康 」	2	演	III	教職・保育	幼稚園
保 育 内 容 「 環 境 」	2	演	II	教職・保育	幼稚園
保 育 内 容 「 人 間 関 係 」	2	演	IV	教職・保育	幼稚園
保 育 内 容 「 言 葉 」	2	演	III	教職・保育	幼稚園
保 育 内 容 「 表 現 A 」	2	演	V	教職・保育	幼稚園
保 育 内 容 「 表 現 B 」	2	演	III	教職・保育	幼稚園
保 育 内 容 「 表 現 C 」	2	演	V	教職・保育	幼稚園

④ 生徒指導及び教育相談(EC)

A類・B類・C類・D類対象

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。(幼児教育選修は授業科目が異なるので注意すること。)

(教育基礎科目)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
教 育 相 談 の 理 論 と 方 法	2	講	V・VI	教職・相談	全選修・専攻
生徒指導・進路指導の理論と方法	2	講	V・VI	教職・生徒 教職・進路	全選修・専攻 (A類幼除く)
幼 児 理 解 の 理 論 と 方 法	2	演	III	教職・生徒	A類幼対象

⑤ 教職実践演習(EE)

A類・B類・C類・D類対象

下記の授業科目は必修なので、2単位を必ず修得する。

(教育基礎科目)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
保 育 ・ 教 職 実 践 演 習 (幼 稚 園)	2	演	VIII	教職実践演習	A類幼
教 職 実 践 演 習 (小 ・ 中 ・ 高)	2	演	VIII	教職実践演習	全選修・専攻 (A類幼・D養護除く)
教 職 実 践 演 習 (養 護 教 諭)	2	演	VIII	教職実践演習	D養護

【注意】

「教職実践演習」は、本学の教員養成の仕上げをする科目として位置付くものです。大学での4年間の学修を通して、教員として必要な知識技能を修得したことを確認し、教員生活を円滑に始められるようにすることをねらいとしています。そのため、学校現場を実際に想定した授業内容で、学生自身の教員としての知識技能の到達点と課題を履修カルテやポートフォリオで具体的・明示的に確認します。

なお、1年次(秋学期)開設の「教職入門」は、この科目につながる重要な授業科目です。

履修にあたっては受講条件があります。(p.15 参照)

⑥ 教職に関する科目〔選択〕

下記の授業科目から、必要な科目を選択履修する。(自由選択として履修します。)

(教育基礎科目:選択)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
教 職 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論	2	講	VII (集中)			次世代学校リーダー 養成コース指定科目
グ ロー バ ル 教 育 演 習 (タ イ)	2	講演	IV (集中)			
グ ロー バ ル 教 育 演 習 (香 港)	2	講演	VI (集中)			
教 職 教 養 (法 規 ・ 時 事)	2	講	VI			
学 校 イン タ ー ン シ ッ プ A	2	実	III・IV			
学 校 イン タ ー ン シ ッ プ B	2	実	III・IV			
総 合 イン タ ー ン シ ッ プ A	2	実	III・IV			
総 合 イン タ ー ン シ ッ プ B	2	実	III・IV			
学 校 経 営 と 学 校 図 書 館	2	講	V		司書教諭 学校司書	
学 校 図 書 館 メ デ ィ ア の 構 成	2	講	V		司書教諭	
学 習 指 導 と 学 校 図 書 館	2	講	VI		司書教諭 学校司書	
読 書 と 豊 か な 人 間 性	2	講	V		司書教諭 学校司書	
情 報 メ デ ィ ア の 活 用	2	講	VI		司書教諭	
初等社会科の教科内容構成と指導法(歴史)	2	講演	IV			
高校歴史教育における教科内容構成	2	講演	IV			

※「学校インターンシップA・B」及び「総合インターンシップA・B」については、併せて4単位まで卒業単位として認定する。

⑦ 教育実習・養護実習(EP)

下記の表により、該当する課程(専攻・選修)に必要な教育実習の単位を修得する。

対 象		授 業 科 目	総合 単位	授 業 内 容	期間	単 位 数	講 演 実	開設 学期
学校 教育系 卒業要件 (主免許)	A類(小学校各選修)	小学校教育実習(A)	5	事前・事後の指導(A)	－	1	演	V
				教育実地研究Ⅰ(A:附属小学校での教育実習)	3週間 相当	4	実	V
	A類(幼児教育選修)	幼稚園教育実習	5	事前・事後の指導(幼)	－	1	演	V
				教育実地研究Ⅰ(A:附属幼稚園での教育実習)	3週間 相当	4	実	V
	B類(各専攻)	中学校教育実習(B)	5	事前・事後の指導(B)	－	1	演	V
				教育実地研究Ⅰ (B:附属中・高・中等教育学校での教育実習)	3週間 相当	4	実	V
	C類(小免コース)	小学校教育実習(C)	5	事前・事後の指導(C小)	－	1	演	V
				教育実地研究Ⅰ(C:附属小学校での教育実習)	3週間 相当	4	実	V
		特別支援学校 教育実習(C)	4	事前・事後の指導(C特)	－	1	演	V
				特別支援学校実習 (C:特別支援・ろう学校での教育実習)	3週間	3	実	Ⅵ・Ⅶ
	C類(中免コース)	中学校教育実習(C)	5	事前・事後の指導(C中)	－	1	演	V
				教育実地研究Ⅰ (C:附属中・高・中等教育学校での教育実習)	3週間 相当	4	実	V
		特別支援学校 教育実習(C)	4	事前・事後の指導(C特)	－	1	演	V
				特別支援学校実習 (C:特別支援・ろう学校での教育実習)	3週間	3	実	Ⅵ・Ⅶ
	D類(養護教育専攻)	養護実習	5	事前・事後の指導(D養)	－	1	演	V
				教育実地研究Ⅰ (D養:附属小・中・高・中等教育学校での養護実習)	3週間 相当	4	実	V
学校 教育系 副免許 等取得 希望者	B類・C類(中免コース)	小学校教育実習(Z)	2	附属小学校での教育実習	2週間	2	実	Ⅵ
	A類・C類(小免コース)	中学校教育実習(Z)	2	附属中・高・中等教育学校での教育実習	2週間	2	実	Ⅶ
	A類・B類	特別支援学校 教育実習(Z)	3	事前・事後の指導(Z特)	－	1	演	Ⅶ
				特別支援学校での教育実習	2週間	2	実	Ⅶ・Ⅷ
	D類	中学校教育実習(D)	5	事前・事後の指導(D中)	－	1	演	Ⅶ
				協力中・高・中等教育学校での教育実習	3週間 相当	4	実	Ⅶ・Ⅷ
選択科目	A類(小学校各選修)	教育実地研究Ⅱ	2	(A:協力小学校での教育実習)	3週間	2	実	Ⅶ
	A類(幼児教育選修)	教育実地研究Ⅱ	2	(A:協力幼稚園での教育実習)	3週間	2	実	Ⅶ
	B類(各専攻)	教育実地研究Ⅱ	2	(B:協力中・高・中等教育学校での教育実習)	3週間	2	実	Ⅶ
	D類(養護教育専攻)	教育実地研究Ⅱ	2	(D養:協力小・中・高・中等教育学校での養護実習)	3週間	2	実	Ⅶ
	D類(養護教育専攻)	養護実地研究	2	附属学校又は協力学校	2週間	2	実	Ⅶ
	学校教育系全課程	観察実地研究	1	附属学校での観察実地研究	1週間 相当	1	実	Ⅲ
		研究実習	2	附属学校・協力学校での研究的実習	2週間 相当	2	実	Ⅷ

* 選択科目の「観察実地研究」と「研究実習」は、教育職員免許法で定められた教育実習の単位とはなりません。

◎教育実習の履修方法

1. 教育実習及び養護実習

(1)初等教育教員養成課程(A類)の教育実習

①A類各選修(幼児教育選修を除く)

「小学校教育実習(A)」5単位を修得しなければならない。

具体的には3年次において、「事前・事後の指導」1単位及び「教育実地研究Ⅰ(附属小学校での教育実習－9月～10月－)」4単位を修得する。

②A類(幼児教育選修)

「幼稚園教育実習」5単位を修得しなければならない。

具体的には3年次において、「事前・事後の指導」1単位及び「教育実地研究Ⅰ(附属幼稚園での教育実習－9月～10月－)」4単位を修得する。

(2)中等教育教員養成課程(B類)の教育実習

「中学校教育実習(B)」5単位を修得しなければならない。

具体的には3年次において、「事前・事後の指導」1単位及び「教育実地研究Ⅰ(附属中・高・中等教育学校での教育実習－9月～10月－)」4単位を修得する。

(3)特別支援教育教員養成課程(C類)の教育実習

①C類小免コース

「小学校教育実習(C)」5単位及び「特別支援学校教育実習(C)」4単位を修得しなければならない。

具体的には3年次において、「小学校教育実習(C)の事前・事後の指導」1単位及び「小学校教育実習(C)の教育実習－9月～10月附属小－」4単位、更に「特別支援学校教育実習(C)の事前・事後の指導」1単位及び「特別支援・ろう学校での教育実習」3単位を修得する。

②C類中免コース

「中学校教育実習(C)」5単位及び「特別支援学校教育実習(C)」4単位を修得しなければならない。

具体的には3年次において、「中学校教育実習(C)の事前・事後の指導」1単位及び「中学校教育実習(C)の教育実習－9月～10月－」4単位、更に「特別支援学校教育実習(C)の事前・事後の指導」1単位及び「特別支援・ろう学校での教育実習」3単位を修得する。

(4)養護教育教員養成課程(D類)の養護実習

「養護実習」5単位を修得しなければならない。

具体的には3年次において、「事前・事後の指導」1単位及び「教育実地研究Ⅰ(附属小・中・高・中等教育学校での養護実習－9月～10月－)」4単位を修得する。

なお、**養護実習はD類生のみとし、他の学生は履修できない。**

2. 「事前・事後の指導」について

「事前・事後の指導」は、「教育実地研究Ⅰ」、「特別支援学校実習」の前に行う「事前の指導」と、当該教育実習終了後に行う「事後の指導」からなります。

「事前の指導」

学校現場において教育実習(養護実習)を行うための準備として行なわれ、学校教育の諸相や教育実習の心得、授業観察、授業設計の基礎等を指導します。

「事後の指導」

教育実習(養護実習)を終えてからの各々の課題の整理と展開について指導します。

○注意事項

単位認定は、「事前」・「事後」併せて行います。例えば、「事後の指導」を受講しなかった場合、単位は認定されません。

「教育実地研究Ⅰ」、「特別支援学校実習」と同一年度に履修しなければなりません。また、「教育実地研究Ⅰ」、「特別支援学校実習」の単位を修得できなければ、「事前・事後の指導」の単位は認定されません。(「事前・事後の指導」の単位を修得できなければ、「教育実地研究Ⅰ」、「特別支援学校実習」の単位は認定されません。)

「事前」の仮合格が「教育実地研究Ⅰ」、「特別支援学校実習」を履修するための受講条件となります。

3. 教育実習または養護実習を履修するための受講条件 <重要>

(1)教育実地研究Ⅰを履修するための受講条件

「教育実地研究Ⅰ」を履修するためには、以下の①②③の全てを満たすことが条件となります。

① 教育実地研究Ⅰを履修する前年度末(3月末)において62単位以上修得していること。

② ①の62単位のうちに、以下に指定された科目・単位を含むこと。

<共通>

「教職入門」「教育の理念と歴史」「教育組織論」の3科目6単位

<A類(幼児教育選修を除く)及びC類小免コース>

「初等各教科教育法」の中から2科目4単位以上

<A類(幼児教育選修)>

「保育内容」の中から2科目4単位以上

<B類>

「中等各教科教育法(自専攻科目)」及び「教育の方法とICT」の中から1科目2単位以上

なお、実習教科が「英語」の場合は、上記に加え、以下のⅠまたはⅡの判定が必要となる。

Ⅰ:【修得済み授業科目による英語力の判定】

※教育実地研究Ⅰを履修する前年度末(3月末)までに、以下のCL選択外国語の中から
4単位以上修得

「メディア英語A」「メディア英語B」「英語リーディングA」「英語リーディングB」

「英語リスニング&スピーキングA」「英語リスニング&スピーキングB」

「英語集中演習A」「英語集中演習B」「英語集中演習C」

「上級英語コミュニケーションⅠ」「上級英語コミュニケーションⅡ」

「上級英語ライティングⅠ」「上級英語ライティングⅡ」

Ⅱ:【外部資格・検定試験のスコアによる英語力の判定】

※教育実地研究Ⅰを履修する前年度末(3月末)までに、下記いずれかの資格・検定試験の
スコア・証明書の提出が必要。

実用英語技能検定 準1級1次試験合格

TOEIC L&R 730点

TOEFL iBT 80点

IELTS 6.0

<C類中免コース>

「中等各教科教育法(実習教科)」及び「教育の方法とICT」の中から1科目2単位以上

※実習教科が「英語」の場合は、上記 B 類の英語実習の要件を満たすこと。

<D類>

「養護概説」及び「教育の方法とICT」の中から1科目2単位以上

③ 「事前・事後の指導」の仮合格を得ること。

(2)教育実地研究Ⅱを履修するための受講条件(学校教育系のみ)

「教育実地研究Ⅱ」を履修するためには、以下①②③④の全てを満たすことが条件となります。

① 教育実地研究Ⅱを履修する前年度春学期終了時において78単位以上を修得していること。

(この78単位には③の単位は含めない。)

② ①の78単位のうちに、以下に指定された科目・単位を含むこと。

<A類(小学校各選修)>

「初等各教科教育法」の中から4科目8単位以上

<A類(幼児教育選修)>

「保育内容」の中から3科目6単位以上

<B類>

「中等各教科教育法(自専攻科目)」及び「教育の方法とICT」の中から2科目4単位以上

<D類> 指定なし

③ 「事前・事後の指導」及び「教育実地研究Ⅰ」の合計5単位を修得していること。

(ただし、「教育実地研究Ⅰ」については、「B」以上の評価を得ることが必要。)

④ 教員採用試験を受験予定であること。(学校種は問わない。)

なお、「教育実地研究Ⅱ」は選択科目です。

教職に就くことを強く希望する学生はできる限り受講してください。

(3)副免許取得のための教育実習について(学校教育系のみ)

副免許取得のための教育実習を履修するためには、以下①②③又は①②④の3つの事項を満たすことが条件となります。

① 「事前・事後の指導」及び「教育実地研究Ⅰ」の合計5単位を修得していること。

(ただし、「教育実地研究Ⅰ」については、「B」以上の評価を得ることが必要。)

② 教員採用試験を受験予定であること。(学校種は問わない。)

③ 当該教育実習を履修する前学期終了時までに修得した科目・単位の中に、以下に指定された科目・単位を含むこと。

<A類, C類小免コースの中高免取得に係る選択実習の受講条件>

「中等各教科教育法」の中から2科目4単位以上を修得していること。

なお、実習教科が「英語」の場合は、上記に加え、以下のⅠまたはⅡの判定が必要となる。

Ⅰ:【修得済み授業科目による英語力の判定】

※ 当該教育実習を履修する前年度末(3月末)までに、以下のCL選択外国語の中から4単位以上修得。

「メディア英語A」「メディア英語B」「英語リーディングA」「英語リーディングB」

「英語リスニング&スピーキングA」「英語リスニング&スピーキングB」

「英語集中演習A」「英語集中演習B」「英語集中演習C」

「上級英語コミュニケーションⅠ」「上級英語コミュニケーションⅡ」

「上級英語ライティングⅠ」「上級英語ライティングⅡ」

Ⅱ:【外部資格・検定試験のスコアによる英語力の判定】

※ 当該教育実習を履修する前年度末(3月末)までに、下記いずれかの資格・検定試験のスコア・証明書の提出が必要。

実用英語技能検定 準1級1次試験合格

TOEIC L&R 730点

TOEFL iBT	80点
IELTS	6.0

＜B類, C類中免コースの幼・小免取得に係る選択実習の受講条件＞

「初等各教科教育法」3科目6単位以上を修得していること。

＜D類生の小・中・高免の取得に係る選択実習の受講条件＞

選択する免許種に応じて上記の受講条件を満たしていること。

④ 当該教育実習を履修する前年度終了時までに修得した科目・単位の中に、以下に指定された科目・単位を含むこと。

＜A・B類生の特別支援学校教諭免許状取得に係る選択実習の受講条件＞

- ① 「特別支援教育概論」「聴覚言語障害教育学A」の2科目4単位を修得していること。
(ろう学校実習希望者)
- ② 「特別支援教育概論」「知的障害教育学」の2科目4単位を修得していること。
(特別支援学校実習希望者)

○ A類, B類及びC類生の場合

選択の教育実習は、副免許状取得のためのものであり、免許状取得に必要な単位を充足したうえで履修しなければならない。実施時期と教育実習校は、希望する免許状等によって異なるが、詳細については後日学内掲示等で発表する。なお、選択の教育実習は、自由選択として修得することとなる。教職に就くことを強く希望する学生はできる限り受講すること。

○ D類生の場合

中学校・高等学校(保健)の免許の取得を希望する者は、D類生を対象とした「中学校教育実習(D)」5単位を履修する。

(4) 特別支援学校教育実習(C)を履修するための受講条件(C類生のみ)

- ① C類小免コースは「小学校教育実習(C)」の単位を、C類中免コースは「中学校教育実習(C)」の単位を修得していること。
- ② 「事前・事後の指導(C特)」の仮合格を得ること。

4. 情報管理・守秘義務等に関する誓約書について

教育実習に参加するためには、「情報管理・守秘義務等に関する誓約書」を提出する必要がある。この誓約書は実習校・園において知り得た個人情報等の適切な管理とその保護について誓約するものであり、これに反する行為をしたときは、当該教育実習以降に予定されている教育実習への参加が認められない場合がある。

5. その他の学校現場で実習を伴う科目について

A 観察実地研究 (教員免許法における教育実習の単位には含まない。)

観察実地研究は、Ⅲ期において行う。

B 研究実習 (教員免許法における教育実習の単位には含まない。)

研究実習は、Ⅷ期において行う。

21 専攻科目

21 専攻科目

① 教科・教職に関する科目(共通SE)

下記の授業科目から、必要な科目を選択履修する。(詳細は下記参照。)

※卒業要件として、A・B類、及びC類小免コースは3単位以上、C類中免コースは5単位以上の履修が必要。

上記の単位数を越えて履修する場合やD類生は自由選択として履修することになります。

また、科目によって適用できる免許種が異なるため、主免許に適用できる科目を履修するように注意して下さい。

※「授業観察演習」は実際の学校現場において本学の教育実習生が授業を行っている映像を観賞し、グループワークやディスカッションを行う授業です。

教育実習に行く前に実際の教育実習の様子を知る非常に貴重な機会となりますので、できるかぎり受講するようにしてください。

(共通SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
授 業 観 察 演 習	1	演	Ⅲ (集中)	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
日 本 教 育 史	2	講	Ⅵ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
西 洋 教 育 史	2	講	Ⅴ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
子 ど も 社 会 学	2	講	Ⅲ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
現 代 学 校 論	2	講	Ⅲ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
学 校 図 書 館 入 門	2	講	Ⅱ	大学独自 (小, 中, 高)	
学 級 経 営 論	2	講	Ⅵ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
教 員 の メンタルケアの基礎理論	2	講	Ⅴ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
環 境 と 教 育 実 践	2	講	Ⅰ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
教 育 評 価 の 理 論 と 実 践	2	講	Ⅴ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
教 室 集 団 の 人 間 関 係	2	講	Ⅳ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
子 ど も の 遊 び と 生 活	2	講	Ⅱ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
特 別 ニ ー ズ と 教 育	2	講	Ⅱ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
外 国 人 児 童 生 徒 へ の 日 本 語 教 育	2	講演	Ⅰ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
教 育 思 想 史	2	講	Ⅳ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
国 際 理 解 教 育 論	2	講	Ⅱ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
教 職 基 礎 と し て の 子 ど も の 安 全 管 理	2	講	Ⅳ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
小 学 校 に お け る プ ロ グ ラ ミ ン グ 教 育	2	講演	Ⅲ	大学独自 (小)	
国 際 バ カ ロ レ ア 教 育 論	2	講	Ⅵ	大学独自 (小, 中, 高)	
教 育 の た め の デ ー タ サ イ エ ン ス	1	講	Ⅳ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	(※1)
社 会 に 開 か れ た 探 究 と 創 造 の 学 び の デ ザ イン	1	講	Ⅴ後	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	(※1)
学 び を 支 え る フ ァ シ リ テ ー シ ョ ンの 技 法	1	講演	Ⅴ前	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	(※1)
チ ー ム 学 校 と 多 職 種 協 働	1	講	Ⅴ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	(※1)

教師のレジリエンスと自己管理能力の育成	1	講	V後	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	(※1)
学 校 教 育 に お け る SDGs	1	講	IV前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
教 育 評 価 の 理 論 と 実 践	1	講	V前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
環 境 と 教 育 実 践	1	講演	III前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
エ コ ス ク ー ル 論	1	講	IV前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
地 域 の 環 境 観 測 と そ の 実 践	1	講	III前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
子 ど も の 遊 び と 生 活	1	講	II前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
板 書 指 導 と 手 書 き 文 字	1	演	III前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
学校におけるプログラミング教育	1	講	III前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
遊 び と 発 育 ・ 発 達	1	講	II前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
学校図書館で深める主体的な学びのデザイン	1	講	II前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
Lesson Study in Japan	2	講演	VI	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
いじめ・不登校と変化する社会	1	講	IV前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
現代の学校と外国人児童・生徒	1	講	II前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
外国人児童生徒への日本語教育	1	講演	II前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
文 字 文 化 と 書 写 指 導	1	演	III前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
不 平 等 と 教 育	1	講演	III前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
特 別 ニ ー ズ と 教 育	1	講	II前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
インクルーシブ教育とユニバーサルデザイン	1	講	III前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
未 来 の 学 校 を み ん な で 創 る	1	講	III前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
現代の学校をめぐる諸課題と教育行政A	1	講	II前	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
現代の学校をめぐる諸課題と教育行政B	1	講	II後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
教師の省察的実践のための教育思想	1	講	III前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
現 代 学 校 論	1	講	III前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
教 室 集 団 の 人 間 関 係	1	講	IV前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
学 級 経 営 論	1	講	III前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
学校経営のための教育経営・教育政策	1	講	IV前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
Education in Japan (A)	2	講	V	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
Education in Japan (B)	2	講	IV	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
教 育 の 情 報 化 基 礎	1	講	II前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
学校保健・衛生管理とマネジメントサイクル	1	講	IV前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
教 職 基 礎 と し て の 子 供 の 安 全	1	講	II前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)

学 校 教 育 と 地 域 連 携	1	講	Ⅳ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	(※1)
-------------------	---	---	-----	-------------------------	------

(※1) ターム制科目。「前」は標準開設期の前半7回、「後」は標準開設期の後半7回で実施。具体的な期間はターム制の授業暦で確認すること。

A類(幼児教育除く)・C類小免コース対象科目

② 小学校の教科に関する専門的事項(SP)

次項「○小学校の教科に関する専門的事項(SP)のA類選修別履修方法一覧」に基づき、指定された単位を修得する。

(表1:選択必修科目)

(小教)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
国 語 科 研 究	2	講演	V・VI	国 語 (書写を含む)	
社 会 科 研 究	2	講	III・IV	社 会	
算 数 科 研 究	2	講	III・IV	算 数	
理 科 研 究	2	講	V・VI	理 科	
音 楽 科 研 究 I	1	実	V	音 楽	
図 画 工 作 科 研 究 I	1	演	V	図画工作	
体 育 科 研 究 I	1	実	V・VI	体 育	
家 庭 科 研 究	2	講	V・VI	家 庭	
英 語 科 研 究	2	講演	V・VI	英 語	
生 活 科 研 究	2	講演	V・VI	生 活	※
音 楽 科 研 究 II	1	実	VI	音 楽	
図 画 工 作 科 研 究 II	1	演	VI	図画工作	
体 育 科 研 究 II	1	実	VI	体 育	

※ 本授業はA・B・Cいずれかのコースを選択して履修する。
履修のオリエンテーションと選択は、2年次秋学期に行う。

○小学校の教科に関する専門的事項(SP)のA類選修別・C類(小免コース)履修方法一覧

免許法上の科目区分		本学の授業科目		指定修得単位数							
				選 修							
	科目名	単位	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健 体育	家庭	
教科に関する専門的事項	国語(書写を含む.)	国語科研究	2		2	2	2	2	2	2	
	社会	社会科研究	2	2		2	2	2	2	2	
	算数	算数科研究	2	2	2		2	2	2	2	
	理科	理科研究	2	2	2	2		2	2	2	
	生活	生活科研究	2	2	2	2	2	2	2	2	
	家庭	家庭科研究	2	2	2	2	2	2	2	2	
	英語	英語科研究	2	2	2	2	2	2	2	2	
	音楽	音楽科研究Ⅰ	1	1	1	1		1	1	1	
	図画工作	図画工作科研究Ⅰ	1	1	1	1	1		1	1	
	体育	体育科研究Ⅰ	1	1	1	1	1	1		1	
教科に関する専門的事項	音楽	音楽科研究Ⅱ	1	1	1	1	1	1	1	1	
	図画工作	図画工作科研究Ⅱ	1					1	1		
	体育	体育科研究Ⅱ	1					1	1		
指定修得単位数計				16	16	16	16	18	18	18	16

免許法上の科目区分		本学の授業科目		指定修得単位数							
				選 修							
	科目名	単位	英語	学校教育	学校心理	国際教育	情報教育	環境教育	ものづくり技術	C類(小免)	
教科に関する専門的事項	国語(書写を含む.)	国語科研究	2	2	2	2	2△	2		2	
	社会	社会科研究	2	2	2		2△	2◎	2		
	算数	算数科研究	2	2	2		2	2	2		
	理科	理科研究	2	2	2		2	2◎	2		
	生活	生活科研究	2	2	2	2	2△	2			
	家庭	家庭科研究	2	2	2		2△			2	
	英語	英語科研究	2	2	2	2	2△	2	2	2	
	音楽	音楽科研究Ⅰ	1	1	1	1	1	1	1	1	
	図画工作	図画工作科研究Ⅰ	1	1	1	1	1	1	1	1	
	体育	体育科研究Ⅰ	1	1	1	1	1	1	1	1	
教科に関する専門的事項	音楽	音楽科研究Ⅱ	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	図画工作	図画工作科研究Ⅱ	1								
	体育	体育科研究Ⅱ	1								
指定修得単位数計				16	18	18	10	10	14	12	10

△は国語科研究、社会科研究、生活科研究、家庭科研究、英語科研究のいずれかを選択必修(情報教育のみ)

◎は社会科研究、理科研究のどちらかを選択必修(環境教育のみ)

※指定修得単位数の計が16単位に満たない国際教育、情報教育、環境教育、ものづくり技術、C類(小免)は、16単位に満たない単位数を上表で指定外の小学校の教科に関する専門的事項、専攻SE、共通SEの中から指定修得単位数と併せて16単位となるよう科目を履修すること。この場合の専攻SE、共通SEは卒業基準を超えて修得した単位数になるので注意すること。

③ 国語

初等教育教員養成課程 国語選修〔A類 国語〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目から、4単位以上を修得する。

(A国語専攻SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
国 語 科 と 情 報	2	講演	Ⅱ	大学独自(幼, 小, 中・高(国))	
国 語 科 教 材 論 A	2	講	Ⅳ	大学独自(幼, 小, 中・高(国))	
国 語 科 教 材 論 B	2	講	Ⅲ	大学独自(幼, 小, 中・高(国))	
国 語 科 教 材 論 C	2	講	Ⅵ	大学独自(幼, 小, 中・高(国))	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、20単位を必ず修得する。

(A国語S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
国 語 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
日 本 語 学 概 論 Ⅰ	2	講	Ⅰ	国語学(音声言語, 文章表現を含む)	
日 本 語 学 概 論 Ⅱ	2	講	Ⅱ	国語学(音声言語, 文章表現を含む)	
日 本 文 学 史 Ⅰ	2	講	Ⅰ	国文学(国文学史を含む)	
日 本 文 学 史 Ⅱ	2	講	Ⅱ	国文学(国文学史を含む)	
日 本 文 学 概 論 Ⅰ	2	講	Ⅰ	国文学	
日 本 文 学 概 論 Ⅱ	2	講	Ⅱ	国文学	
中 国 古 典 文 基 礎	2	講	Ⅱ	漢文学	
日 本 語 教 育 概 論	2	講	Ⅰ	大学独自(幼, 小)	
中 学 書 写 A	2	講実	Ⅵ	書道(書写中心)(中免のみ)	

選択科目A(SA)

下記の授業科目から、8単位以上を修得する。

(A国語SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
日 本 語 音 声	2	講	Ⅵ	国語学(音声言語, 文章表現を含む)	
日 本 語 学 演 習 A	2	演	Ⅲ	国語学	
日 本 語 学 演 習 B	2	演	Ⅳ	国語学	
日 本 語 文 法	2	講	Ⅲ	国語学	
現 代 日 本 語 文 法 Ⅰ	2	講	Ⅲ	国語学	
現 代 日 本 語 文 法 Ⅱ	2	演	Ⅳ	国語学	
古 典 文 学 演 習 A	2	演	Ⅲ	国文学	
古 典 文 学 演 習 B	2	演	Ⅲ	国文学	
古 典 文 学 演 習 C	2	演	Ⅳ	国文学	
古 典 文 学 演 習 D	2	演	Ⅳ	国文学	

(A国語SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
近 代 文 学 演 習 A	2	演	Ⅲ	国文学	
近 代 文 学 演 習 B	2	演	Ⅲ	国文学	
近 代 文 学 演 習 C	2	演	Ⅳ	国文学	
近 代 文 学 演 習 D	2	演	Ⅳ	国文学	
中 国 古 典 演 習 A	2	演	Ⅲ	漢文学	
中 国 古 典 演 習 B	2	演	Ⅳ	漢文学	
中 国 古 典 演 習 C	2	演	Ⅴ	漢文学	
児 童 文 学	2	講	Ⅲ	国文学	
日 本 語 教 育 と 言 語 学	2	講	Ⅲ	大学独自(幼, 小)	
日 本 語 教 育 方 法 論	2	講演	Ⅲ	大学独自(幼, 小)	
日 本 語 教 育 教 材 開 発 論	2	講演	Ⅳ	大学独自(幼, 小, 中・高(国))	
日 本 語 政 策 論	2	講演	Ⅳ	大学独自(小, 中・高(国))	
言 語 習 得 と 発 達	2	講演	Ⅳ	大学独自(幼, 小)	
異 文 化 間 教 育	2	講演	Ⅴ	大学独自(幼, 小)	
年 少 者 日 本 語 教 育	2	演	Ⅵ	大学独自(幼, 小, 中・高(国))	
現 代 文 化 論	2	講	Ⅳ		
日 本 語 学 基 礎 研 究	2	演	Ⅴ		
日 本 語 学 応 用 研 究	2	演	Ⅵ		
古 典 文 学 基 礎 研 究	2	演	Ⅴ		
古 典 文 学 応 用 研 究	2	演	Ⅵ		
近 代 文 学 基 礎 研 究	2	演	Ⅴ		
近 代 文 学 応 用 研 究	2	演	Ⅵ		
中 国 古 典 学 基 礎 研 究	2	演	Ⅴ		
中 国 古 典 学 応 用 研 究	2	演	Ⅵ		
国 語 科 教 育 基 礎 研 究	2	演	Ⅴ		
国 語 科 教 育 応 用 研 究	2	演	Ⅵ		
日 本 語 教 育 基 礎 研 究	2	演	Ⅴ		
日 本 語 教 育 応 用 研 究	2	演	Ⅵ		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A国語SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標 準 開 設 学 期	専 攻 ・ 選 修	備 考 (対 象)
卒 業 研 究	④	ⅦⅧ	国語選修	

中等教育教員養成課程 国語専攻〔B類 国語〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目は必修なので、8単位を必ず修得する。

(B国語専攻SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
国 語 科 と 情 報	2	講演	Ⅱ	大学独自(幼, 小, 中・高(国))	
国 語 科 教 材 論 A	2	講	Ⅳ	大学独自(幼, 小, 中・高(国))	
国 語 科 教 材 論 B	2	講	Ⅲ	大学独自(幼, 小, 中・高(国))	
国 語 科 教 材 論 C	2	講	Ⅵ	大学独自(幼, 小, 中・高(国))	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、24単位を必ず修得する。

(B国語S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
国 語 専 攻 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
日 本 語 学 概 論 Ⅰ	2	講	Ⅰ	国語学(音声言語, 文章表現を含む)	
日 本 語 学 概 論 Ⅱ	2	講	Ⅱ	国語学(音声言語, 文章表現を含む)	
日 本 語 文 法	2	講	Ⅲ	国語学	
日 本 文 学 史 Ⅰ	2	講	Ⅰ	国文学(国文学史を含む)	
日 本 文 学 史 Ⅱ	2	講	Ⅱ	国文学(国文学史を含む)	
日 本 文 学 概 論 Ⅰ	2	講	Ⅰ	国文学	
日 本 文 学 概 論 Ⅱ	2	講	Ⅱ	国文学	
中 学 書 写 B	2	講実	Ⅳ	書道(書写中心)(中免のみ)	
中 国 古 典 文 基 礎	2	講	Ⅱ	漢文学	
中 国 古 典 文 学 概 論	2	講	Ⅰ	漢文学	
中 国 古 典 文 献 概 論	2	講	Ⅰ	漢文学	

選択科目A(SA)

下記の授業科目から、28単位以上を修得する。

(B国語SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
日 本 語 音 声	2	講	Ⅵ	国語学(音声言語, 文章表現を含む)	
日 本 語 学 演 習 A	2	演	Ⅲ	国語学	
日 本 語 学 演 習 B	2	演	Ⅳ	国語学	
現 代 日 本 語 文 法 Ⅰ	2	講	Ⅲ	国語学	
現 代 日 本 語 文 法 Ⅱ	2	演	Ⅳ	国語学	
古 典 文 学 演 習 E	2	演	Ⅲ	国文学	
古 典 文 学 演 習 F	2	演	Ⅲ	国文学	
古 典 文 学 演 習 G	2	演	Ⅲ	国文学	
古 典 文 学 演 習 H	2	演	Ⅳ	国文学	
古 典 文 学 演 習 I	2	演	Ⅳ	国文学	

(B国語SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
近 代 文 学 演 習 A	2	演	Ⅲ	国文学	
近 代 文 学 演 習 B	2	演	Ⅲ	国文学	
近 代 文 学 演 習 C	2	演	Ⅳ	国文学	
近 代 文 学 演 習 D	2	演	Ⅳ	国文学	
中 国 古 典 演 習 A	2	演	Ⅲ	漢文学	
中 国 古 典 演 習 B	2	演	Ⅳ	漢文学	
中 国 古 典 演 習 C	2	演	Ⅴ	漢文学	
児 童 文 学	2	講	Ⅲ	国文学	
日 本 語 教 育 と 言 語 学	2	講	Ⅲ	大学独自(幼, 小)	
日 本 語 教 育 方 法 論	2	講演	Ⅲ	大学独自(幼, 小)	
日 本 語 教 育 教 材 開 発 論	2	講演	Ⅳ	大学独自(幼, 小, 中・高(国))	
日 本 語 政 策 論	2	講演	Ⅳ	大学独自(小, 中・高(国))	
言 語 習 得 と 発 達	2	講演	Ⅳ	大学独自(幼, 小)	
異 文 化 間 教 育	2	講演	Ⅴ	大学独自(幼, 小)	
年 少 者 日 本 語 教 育	2	演	Ⅵ	大学独自(幼, 小, 中・高(国))	
現 代 文 化 論	2	講	Ⅳ		
日 本 語 学 基 礎 研 究	2	演	Ⅴ		
日 本 語 学 応 用 研 究	2	演	Ⅵ		
古 典 文 学 基 礎 研 究	2	演	Ⅴ		
古 典 文 学 応 用 研 究	2	演	Ⅵ		
近 代 文 学 基 礎 研 究	2	演	Ⅴ		
近 代 文 学 応 用 研 究	2	演	Ⅵ		
中 国 古 典 学 基 礎 研 究	2	演	Ⅴ		
中 国 古 典 学 応 用 研 究	2	演	Ⅵ		
国 語 科 教 育 基 礎 研 究	2	演	Ⅴ		
国 語 科 教 育 応 用 研 究	2	演	Ⅵ		
日 本 語 教 育 基 礎 研 究	2	演	Ⅴ		
日 本 語 教 育 応 用 研 究	2	演	Ⅵ		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(B国語SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標 準 開 設 学 期	専 攻 ・ 選 修	備 考 (対 象)
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	国語専攻	

④ 社会

初等教育教員養成課程 社会選修〔A類 社会〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目から「社会科と情報」2単位を含めて、4単位以上を修得する。

（A社会専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
社 会 科 と 情 報	2	演	Ⅱ	大学独自(小, 中(社), 高(地)(公))	必修
社 会 科 カ リ キ ュ ラ ム 論	2	講	Ⅲ	大学独自(小, 中(社), 高(地)(公))	
社 会 科 教 材 論 A	2	講	Ⅵ	大学独自(小, 中(社), 高(地)(公))	
社 会 科 教 材 論 B	2	講	Ⅵ	大学独自(小, 中(社), 高(地)(公))	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、10単位を必ず修得する。

（A社会S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
社 会 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	I		
社 会 科 概 論 A	2	講	Ⅱ		
地 理 学 概 論	2	講	I	地理学 人文地理学	
日 本 史 概 論	2	講	I	日本史	
法 学 政 治 学 概 論	2	講	Ⅱ	法律学(国際法を含む) 政治学(国際政治を含む)	

選択科目A(SA)

下記の授業科目から18単位以上を修得する。

（A社会SA）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
社 会 科 地 域 教 材 論 I	2	演	Ⅲ (集中)		
社 会 科 地 域 教 材 論 II	2	演	V (集中)		
社 会 科 地 域 教 材 論 III	2	演	VII (集中)		
歴 史 学 文 献 講 読 A	2	演	Ⅲ	日本史	
歴 史 学 文 献 講 読 B	2	演	Ⅲ	外国史	
歴 史 学 文 献 講 読 C	2	演	Ⅲ	外国史	
歴 史 学 概 論	2	講	Ⅲ	日本史	
歴 史 学 基 礎 演 習 A	2	演	Ⅳ	日本史	
歴 史 学 基 礎 演 習 B	2	演	Ⅳ	外国史	
日 本 史 演 習 A ー I	2	演	V	日本史	
日 本 史 演 習 B ー I	2	演	V	日本史	
日 本 史 演 習 C ー I	2	演	V		
日 本 史 演 習 A ー II	2	演	Ⅵ	日本史	
日 本 史 演 習 B ー II	2	演	Ⅵ	日本史	
日 本 史 演 習 C ー II	2	演	Ⅵ		

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
東 洋 史 概 論	2	講	Ⅱ	外国史	
東 洋 史 演 習 I	2	演	V	外国史	
東 洋 史 演 習 II	2	演	VI	外国史	
西 洋 史 概 論	2	講	Ⅱ	外国史	
西 洋 史 演 習 A ー I	2	演	V	外国史	
西 洋 史 演 習 B ー I	2	演	V	外国史	
西 洋 史 演 習 A ー II	2	演	VI	外国史	
西 洋 史 演 習 B ー II	2	演	VI	外国史	
日 本 史 研 究 A	2	講	VI	日本史	
日 本 史 研 究 B	2	講	VI	日本史	
日 本 史 研 究 C	2	講	VI		
東 洋 史 研 究	2	講	VI	外国史	
西 洋 史 研 究 A	2	講	VI	外国史	
西 洋 史 研 究 B	2	講	VI	外国史	
地 誌 学 概 論	2	講	Ⅳ	地理学(地誌を含む) 地誌	
自 然 環 境	2	講	Ⅲ	地理学 自然地理学	
地 理 学 研 究 法	2	講	Ⅱ	地理学 人文地理学	
地 理 学 基 礎 演 習 I	2	演	Ⅲ	地理学 人文地理学	
地 理 学 基 礎 演 習 II	2	演	Ⅳ	地理学 人文地理学	
自 然 地 理 学 研 究	2	講	Ⅳ	地理学 自然地理学	
人 文 地 理 学 研 究	2	講	Ⅲ	地理学 人文地理学	
地 誌 学 研 究	2	講	VI	地理学(地誌を含む) 地誌	
環 境 地 理 学 研 究	2	講	VI	地理学 自然地理学	
地 理 情 報 と 地 図	2	講	V	地理学 人文地理学	
地 域 調 査 法	2	講	Ⅲ (集中)	地理学 人文地理学	
自 然 地 理 学 実 習 I	1	実	V	地理学 自然地理学	
自 然 地 理 学 実 習 II	1	実	V	地理学 自然地理学	
人 文 地 理 学 実 習	1	実	VI	地理学 人文地理学	
臨 地 研 究 I	2	演	V	地理学(中免のみ)	
臨 地 研 究 II	2	演	VI	地理学(中免のみ)	
臨 地 研 究 実 習	1	実	VI (集中)		
地 理 学 演 習 I	2	演	VII	地理学 人文地理学	
地 理 学 演 習 II	2	演	VIII	地理学 人文地理学	

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
哲 学 ・ 倫 理 学 概 論	2	講	I	哲学・倫理学	
哲 学 と 宗 教	2	講	II	哲学・宗教学	
宗 教 思 想 基 礎 演 習	2	演	IV	倫理学・宗教学	
哲 学 ・ 倫 理 学 基 礎 演 習	2	演	IV	哲学・倫理学	
哲 学 基 礎 資 料 講 読	2	演	III	哲学	
応 用 倫 理	2	講	V	倫理学	
西 洋 哲 学 史	2	講	III	哲学	
東 洋 哲 学 史 I	2	講	III	哲学	
東 洋 哲 学 史 II	2	講	IV		
宗 教 思 想 の 諸 問 題	2	講	V	倫理学・宗教学	
心 の 哲 学 と 知 識 論	2	講	V	哲学	
哲 学 特 殊 研 究 A	2	演	VI	哲学	
哲 学 特 殊 研 究 B	2	演	VI	哲学	
哲 学 特 殊 研 究 C	2	演	VI	哲学	
憲 法 A	2	講	III 奇	法律学・政治学	
憲 法 B	2	講	IV 奇	法律学・政治学	
憲 法 C	2	講	IV 偶	法律学・政治学	
民 法 A	2	講	III 偶	法律学	
民 法 B	2	講	IV 偶	法律学	
民 法 C	2	講	III 奇	法律学	
刑 法 A	2	講	III 偶		
刑 法 B	2	講	IV 偶		
刑 法 C	2	講	III 奇		
教 育 と 法	2	講	III 偶	法律学	
政 治 学 A	2	講	III	政治学	
政 治 学 B	2	講	IV	政治学	
法 学 政 治 学 基 礎 演 習	2	演	IV	法律学・政治学	
法 学 政 治 学 演 習 I	2	演	V	法律学・政治学	
法 学 政 治 学 演 習 II	2	演	VI	法律学・政治学	
経 済 学 概 論	2	講	II	経済学(国際経済を含む)	
経 済 学 基 礎 A	2	講	III	経済学	
経 済 学 基 礎 B	2	講	IV	経済学	
経 済 学 応 用 A	2	講	V	経済学	
経 済 学 応 用 B	2	講	VI	経済学	
経 済 学 応 用 C	2	講	VI	経済学	
経 済 学 応 用 D	2	講	VI		

(A社会SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
経 済 学 基 礎 演 習 I	2	演	Ⅲ	経済学	
経 済 学 基 礎 演 習 II	2	演	Ⅳ	経済学	
経 済 学 演 習 I	2	演	Ⅴ	経済学	
経 済 学 演 習 II	2	演	Ⅵ	経済学	
社 会 学 概 論	2	講	I	社会学	
社 会 学 史	2	講	Ⅲ 奇	社会学	
コミュニケーションの社会学	2	講	Ⅳ 偶	社会学	
都 市 社 会 学	2	講	Ⅲ	社会学	
家 族 社 会 学	2	講	Ⅲ 偶	社会学	
ジェンダーの社会学	2	講	Ⅳ 奇	社会学	
社 会 学 入 門 演 習	2	演	Ⅲ	社会学	
社 会 学 基 礎 演 習	2	演	Ⅳ	社会学	
社 会 学 演 習 I	2	演	Ⅴ	社会学	
社 会 学 演 習 II	2	演	Ⅵ	社会学	
現 代 社 会 と 世 代	2	講	Ⅲ 偶	社会学	
アイデンティティと社会	2	講	Ⅳ 奇		
地 域 を 探 る 社 会 調 査 I	2	講	Ⅲ		
地 域 を 探 る 社 会 調 査 II	2	講	Ⅳ		
社 会 科 授 業 論	2	講	Ⅳ	大学独自(小)	
社 会 科 教 育 実 践 史	2	講	Ⅳ	大学独自(小)	
社 会 科 教 育 研 究 入 門	2	講	Ⅵ	大学独自(小)	
比 較 社 会 科 教 育 論 I	2	講	Ⅴ 奇		
比 較 社 会 科 教 育 論 II	2	講	Ⅴ 偶		
地 理 教 育 実 践 論	2	演	Ⅲ		
歴 史 教 育 実 践 論	2	演	Ⅳ		
公 民 教 育 実 践 論	2	演	Ⅵ		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A社会SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標 準 開 設 学 期	専 攻 ・ 選 修	備 考 (対 象)
卒 業 研 究	④	ⅦⅧ	社会選修	

中等教育教員養成課程 社会専攻〔B類 社会〕

教科・教職に関する科目(専攻SE)

下記の授業科目は必修なので、8単位を必ず修得する。

(B社会専攻SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
社 会 科 と 情 報	2	演	Ⅱ	大学独自(小, 中(社), 高(地)(公))	
社 会 科 カ リ キ ュ ラ ム 論	2	講	Ⅲ	大学独自(小, 中(社), 高(地)(公))	
社 会 科 教 材 論 A	2	講	Ⅵ	大学独自(小, 中(社), 高(地)(公))	
社 会 科 教 材 論 B	2	講	Ⅵ	大学独自(小, 中(社), 高(地)(公))	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、26単位を必ず修得する。

(B社会S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
社 会 専 攻 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
日 本 史 概 論	2	講	Ⅰ	日本史	
東 洋 史 概 論	2	講	Ⅱ	外国史	
西 洋 史 概 論	2	講	Ⅱ	外国史	
地 理 学 概 論	2	講	Ⅰ	地理学 人文地理学	
哲 学 ・ 倫 理 学 概 論	2	講	Ⅰ	哲学・倫理学	
法 学 政 治 学 概 論	2	講	Ⅱ	法律学(国際法を含む) 政治学(国際政治を含む)	
社 会 学 概 論	2	講	Ⅰ	社会学	
経 済 学 概 論	2	講	Ⅱ	経済学(国際経済を含む)	
自 然 環 境	2	講	Ⅲ	地理学 自然地理学	
地 誌 学 概 論	2	講	Ⅳ	地理学(地誌を含む) 地誌	
哲 学 と 宗 教	2	講	Ⅱ	哲学・宗教学	
社 会 科 概 論 B	2	講	Ⅱ		

選択科目A(SA)

下記の授業科目から26単位以上を修得する。(下記の事項に注意して履修すること。)

○高等学校(地理歴史)を選択する者は、免許法上の科目を参考に「日本史」「外国史」「人文地理学」「自然地理学」「地誌」の中から8単位以上を修得する。

○「高等学校(公民)を選択する者は、免許法上の科目を参考に「法律学」「政治学」「社会学」「経済学」「哲学」「倫理学」「宗教学」の中から10単位以上を修得する。

(B社会SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
社 会 科 地 域 教 材 論 I	2	演	Ⅲ (集中)		
社 会 科 地 域 教 材 論 II	2	演	V (集中)		
社 会 科 地 域 教 材 論 III	2	演	VII (集中)		
歴 史 学 文 献 講 読 A	2	演	Ⅲ	日本史	
歴 史 学 文 献 講 読 B	2	演	Ⅲ	外国史	
歴 史 学 文 献 講 読 C	2	演	Ⅲ	外国史	
歴 史 学 概 論	2	講	Ⅲ	日本史	
歴 史 学 基 礎 演 習 A	2	演	IV	日本史	
歴 史 学 基 礎 演 習 B	2	演	IV	外国史	
日 本 史 演 習 A ー I	2	演	V	日本史	
日 本 史 演 習 B ー I	2	演	V	日本史	
日 本 史 演 習 C ー I	2	演	V		
日 本 史 演 習 A ー II	2	演	VI	日本史	
日 本 史 演 習 B ー II	2	演	VI	日本史	
日 本 史 演 習 C ー II	2	演	VI		
東 洋 史 演 習 I	2	演	V	外国史	
東 洋 史 演 習 II	2	演	VI	外国史	
西 洋 史 演 習 A ー I	2	演	V	外国史	
西 洋 史 演 習 B ー I	2	演	V	外国史	
西 洋 史 演 習 A ー II	2	演	VI	外国史	
西 洋 史 演 習 B ー II	2	演	VI	外国史	
日 本 史 研 究 A	2	講	VI	日本史	
日 本 史 研 究 B	2	講	VI	日本史	
日 本 史 研 究 C	2	講	VI		
東 洋 史 研 究	2	講	VI	外国史	
西 洋 史 研 究 A	2	講	VI	外国史	
西 洋 史 研 究 B	2	講	VI	外国史	
地 理 学 研 究 法	2	講	II	地理学 人文地理学	
地 理 学 基 礎 演 習 I	2	演	Ⅲ	地理学 人文地理学	
地 理 学 基 礎 演 習 II	2	演	IV	地理学 人文地理学	

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
自 然 地 理 学 研 究	2	講	Ⅳ	地理学 自然地理学	
人 文 地 理 学 研 究	2	講	Ⅲ	地理学 人文地理学	
地 誌 学 研 究	2	講	Ⅵ	地理学(地誌を含む) 地誌	
環 境 地 理 学 研 究	2	講	Ⅵ	地理学 自然地理学	
地 理 情 報 と 地 図	2	講	Ⅴ	地理学 人文地理学	
地 域 調 査 法	2	講	Ⅲ (集中)	地理学 人文地理学	
自 然 地 理 学 実 習 Ⅰ	1	実	Ⅴ	地理学 自然地理学	
自 然 地 理 学 実 習 Ⅱ	1	実	Ⅴ	地理学 自然地理学	
人 文 地 理 学 実 習	1	実	Ⅵ	地理学 人文地理学	
臨 地 研 究 Ⅰ	2	演	Ⅴ	地理学(中免のみ)	
臨 地 研 究 Ⅱ	2	演	Ⅵ	地理学(中免のみ)	
臨 地 研 究 実 習	1	実	Ⅵ (集中)		
地 理 学 演 習 Ⅰ	2	演	Ⅶ	地理学 人文地理学	
地 理 学 演 習 Ⅱ	2	演	Ⅷ	地理学 人文地理学	
宗 教 思 想 基 礎 演 習	2	演	Ⅳ	倫理学・宗教学	
哲 学 ・ 倫 理 学 基 礎 演 習	2	演	Ⅳ	哲学・倫理学	
哲 学 基 礎 資 料 講 読	2	演	Ⅲ	哲学	
応 用 倫 理	2	講	Ⅴ	倫理学	
西 洋 哲 学 史	2	講	Ⅲ	哲学	
東 洋 哲 学 史 Ⅰ	2	講	Ⅲ	哲学	
東 洋 哲 学 史 Ⅱ	2	講	Ⅳ		
宗 教 思 想 の 諸 問 題	2	講	Ⅴ	倫理学・宗教学	
心 の 哲 学 と 知 識 論	2	講	Ⅴ	哲学	
哲 学 特 殊 研 究 A	2	演	Ⅵ	哲学	
哲 学 特 殊 研 究 B	2	演	Ⅵ	哲学	
哲 学 特 殊 研 究 C	2	演	Ⅵ	哲学	
憲 法 A	2	講	Ⅲ 奇	法律学・政治学	
憲 法 B	2	講	Ⅳ 奇	法律学・政治学	
憲 法 C	2	講	Ⅳ 偶	法律学・政治学	
民 法 A	2	講	Ⅲ 偶	法律学	
民 法 B	2	講	Ⅳ 偶	法律学	
民 法 C	2	講	Ⅲ 奇	法律学	
刑 法 A	2	講	Ⅲ 偶		
刑 法 B	2	講	Ⅳ 偶		
刑 法 C	2	講	Ⅲ 奇		

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
教 育 と 法	2	講	Ⅲ偶	法律学	
政 治 学 A	2	講	Ⅲ	政治学	
政 治 学 B	2	講	Ⅳ	政治学	
法 学 政 治 学 基 礎 演 習	2	演	Ⅳ	法律学・政治学	
法 学 政 治 学 演 習 I	2	演	V	法律学・政治学	
法 学 政 治 学 演 習 II	2	演	Ⅵ	法律学・政治学	
経 済 学 基 礎 A	2	講	Ⅲ	経済学	
経 済 学 基 礎 B	2	講	Ⅳ	経済学	
経 済 学 応 用 A	2	講	V	経済学	
経 済 学 応 用 B	2	講	Ⅵ	経済学	
経 済 学 応 用 C	2	講	Ⅵ	経済学	
経 済 学 応 用 D	2	講	Ⅵ		
経 済 学 基 礎 演 習 I	2	演	Ⅲ	経済学	
経 済 学 基 礎 演 習 II	2	演	Ⅳ	経済学	
経 済 学 演 習 I	2	演	V	経済学	
経 済 学 演 習 II	2	演	Ⅵ	経済学	
社 会 学 史	2	講	Ⅲ奇	社会学	
コミュニケーションの社会学	2	講	Ⅳ偶	社会学	
都 市 社 会 学	2	講	Ⅲ	社会学	
家 族 社 会 学	2	講	Ⅲ偶	社会学	
ジェンダーの社会学	2	講	Ⅳ奇	社会学	
社 会 学 入 門 演 習	2	演	Ⅲ	社会学	
社 会 学 基 礎 演 習	2	演	Ⅳ	社会学	
社 会 学 演 習 I	2	演	V	社会学	
社 会 学 演 習 II	2	演	Ⅵ	社会学	
現 代 社 会 と 世 代	2	講	Ⅲ偶	社会学	
アイデンティティと社会	2	講	Ⅳ奇		
地 域 を 探 る 社 会 調 査 I	2	講	Ⅲ		
地 域 を 探 る 社 会 調 査 II	2	講	Ⅳ		
日 本 史 基 礎 講 義	2	講	Ⅲ		
東 洋 史 基 礎 講 義	2	講	Ⅲ		
西 洋 史 基 礎 講 義	2	講	Ⅳ		
社 会 科 授 業 論	2	講	Ⅳ	大学独自(小)	
社 会 科 教 育 実 践 史	2	講	Ⅳ	大学独自(小)	

(B社会SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
社 会 科 教 育 研 究 入 門	2	講	Ⅵ	大学独自(小)	
比 較 社 会 科 教 育 論 Ⅰ	2	講	Ⅴ 奇		
比 較 社 会 科 教 育 論 Ⅱ	2	講	Ⅴ 偶		
地 理 教 育 実 践 論	2	演	Ⅲ		
歴 史 教 育 実 践 論	2	演	Ⅳ		
公 民 教 育 実 践 論	2	演	Ⅵ		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(B社会SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標 準 開 設 学 期	専 攻 ・ 選 修	備 考 (対 象)
卒 業 研 究	④	ⅦⅧ	社会専攻	

⑤ 数学

初等教育教員養成課程 数学選修〔A類 数学〕

教科・教職に関する科目(専攻SE)

下記の授業科目から、4単位以上を修得する。

(A数学専攻SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
数 学 カ リ キ ュ ラ ム 論	2	講演	Ⅵ	大学独自(小, 中・高(数))	
初 等 算 数 科 教 材 論	2	講演	Ⅴ	大学独自(小)	
算 数 科 教 育 臨 床	2	講演	Ⅵ	大学独自(小)	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、18単位を必ず修得する。

(A数学S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
数 学 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	I		
微 分 ・ 積 分 学	④	講	I II		
線 形 数 学	④	講	I II		
解 析 学 I	2	講	Ⅲ	解析学	
代 数 学 I	2	講	Ⅲ	代数学	
幾 何 学 I	2	講	Ⅲ	幾何学	
確 率 ・ 統 計 I	2	講	Ⅲ	確率論	

選択科目A(SA)

下記の授業科目から、10単位以上を修得する。

(A数学SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
微 分 ・ 積 分 学 演 習 I	1	演	I		
微 分 ・ 積 分 学 演 習 II	1	演	II		
線 形 数 学 演 習 I	1	演	I		
線 形 数 学 演 習 II	1	演	II		
解 析 学 II	2	講	IV	解析学	
代 数 学 II	2	講	IV	代数学	
幾 何 学 II	2	講	IV	幾何学	
確 率 ・ 統 計 II	2	講	IV	統計学	
位 相 数 学 I	2	講	Ⅲ	解析学	
位 相 数 学 II	2	講	IV	幾何学	

(A数学SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
コ ン ピ ュ ー タ 概 論	2	講	Ⅲ	コンピュータ	
解 析 学 各 論 A	2	講	V	解析学	
解 析 学 各 論 B	2	講	Ⅵ	解析学	
代 数 学 各 論	2	講	V	代数学	
幾 何 学 各 論	2	講	V	幾何学	
確 率 論 特 論 I	2	講	V	確率論	
統 計 学 特 論 I	2	講	V	統計学	
基 礎 数 学	2	講	I	幾何学	

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A数学SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標 準 開 設 学 期	専 攻 ・ 選 修	備 考 (対 象)
卒 業 研 究	④	VⅦⅧ	数学選修	

中等教育教員養成課程 数学専攻〔B類 数学〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目は必修なので、8単位を必ず修得する。

(B数学専攻SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
数 学 カ リ キ ュ ラ ム 論	2	講演	Ⅵ	大学独自(小, 中・高(数))	
数 学 科 教 材 論	2	講演	Ⅳ	大学独自(小, 中・高(数))	
数 学 科 教 育 臨 床	2	講演	Ⅴ	大学独自(中・高(数))	
数 学 教 育 研 究	2	講演	Ⅵ	大学独自(中・高(数))	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、36単位を必ず修得する。

(B数学S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
数 学 専 攻 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	I		
微 分 ・ 積 分 学	④	講	I II		
微 分 ・ 積 分 学 演 習 I	1	演	I		
微 分 ・ 積 分 学 演 習 II	1	演	II		
線 形 数 学	④	講	I II		
線 形 数 学 演 習 I	1	演	I		
線 形 数 学 演 習 II	1	演	II		
解 析 学 I	2	講	III	解析学	
解 析 学 II	2	講	IV	解析学	
代 数 学 I	2	講	III	代数学	
代 数 学 II	2	講	IV	代数学	
幾 何 学 I	2	講	III	幾何学	
幾 何 学 II	2	講	IV	幾何学	
確 率 ・ 統 計 I	2	講	III	確率論	
確 率 ・ 統 計 II	2	講	IV	統計学	
位 相 数 学 I	2	講	III	解析学	
基 礎 数 学	2	講	I	幾何学	
コ ン ピ ュ ー タ 概 論	2	講	III	コンピュータ	

選択科目A(SA)

下記の授業科目から、16単位以上を修得する。

(B数学SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
位 相 数 学 II	2	講	IV	幾何学	
解 析 学 特 論 A I	2	講	V	解析学	
解 析 学 特 論 A II	2	講	VI	解析学	
解 析 学 特 論 B I	2	講	V	解析学	
解 析 学 特 論 B II	2	講	VI	解析学	
解 析 学 特 論 C	2	講	V	解析学	
解 析 学 特 論 D	2	講	VI	解析学	
解 析 学 特 論 E	2	講	V	解析学	
代 数 学 特 論 A I	2	講	V	代数学	
代 数 学 特 論 A II	2	講	VI	代数学	
代 数 学 特 論 B I	2	講	V	代数学	
代 数 学 特 論 B II	2	講	VI	代数学	
幾 何 学 特 論 A I	2	講	V	幾何学	
幾 何 学 特 論 A II	2	講	VI	幾何学	
幾 何 学 特 論 B I	2	講	V	幾何学	
幾 何 学 特 論 B II	2	講	VI	幾何学	
確 率 論 特 論 I	2	講	V	確率論	
確 率 論 特 論 II	2	講	VI	確率論	
統 計 学 特 論 I	2	講	V	統計学	
統 計 学 特 論 II	2	講	VI	統計学	

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(B数学SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	数学専攻	

⑥ 理科

初等教育教員養成課程 理科選修〔A類 理科〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目から、4単位以上を修得する。

（A理科専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
理 科 教 材 開 発 基 礎 I	2	講	Ⅲ	大学独自(小, 中・高(理))	
理 科 教 材 開 発 基 礎 II	2	講	Ⅲ (集中)	大学独自(小, 中・高(理))	
科 学 教 材 開 発 研 究 論	2	講	Ⅲ	大学独自(小)	
理 科 学 習 指 導 論	2	講	V	大学独自(小, 中・高(理))	
理 科 カ リ キ ュ ラ ム 研 究	2	講	V	大学独自(小, 中・高(理))	
理 科 教 育 臨 床	2	講	Ⅵ	大学独自(小, 中・高(理))	

専攻に関する科目

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので、14単位を必ず修得する。

（A理科S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
理 科 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	I		
基 礎 物 理 学	2	講	I	理科(小免のみ)	
基 礎 化 学	2	講	I	理科(小免のみ)	
基 礎 生 物 学	2	講	I	理科(小免のみ)	
基 礎 地 学	2	講	I	理科(小免のみ)	
物 理 学 実 験	1	実	I・II	物理学実験(コンピュータ活用を含む)	
化 学 実 験	1	実	I・II	化学実験(コンピュータ活用を含む)	
生 物 学 実 験	1	実	I・II	生物学実験(コンピュータ活用を含む)	
地 学 実 験	1	実	I・II	地学実験(コンピュータ活用を含む)	

選択科目A(SA)

選択科目A及び選択科目Bの中から、14単位以上を修得する。

（A理科SA）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
理 科 教 育 測 定 ・ 評 価 論	2	講	Ⅲ	大学独自(小, 中・高(理))	
理 科 教 育 学 概 説	2	講	V	大学独自(小, 中・高(理))	
現 代 社 会 に お け る 理 科 教 育	2	講	Ⅱ	大学独自(小, 中・高(理))	
理 科 に お け る 環 境 教 育	2	講	Ⅵ	大学独自(小, 中・高(理))	
自 然 史 科 学	2	講	Ⅳ		
理 科 教 育 と 科 学 史	2	講	Ⅵ		
自 然 探 究 実 践 法	2	講	Ⅲ	大学独自(小, 中・高(理))	
放 射 線 教 育 I	2	講演	V (集中)		
放 射 線 教 育 II	2	講演	Ⅵ		

(A理科SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
理 科 教 育 セ ミ ナ ー I	1	演	VII (集中)		
理 科 教 育 セ ミ ナ ー II	1	演	VIII (集中)		
物 理 学 概 論	2	講	II	物理学	
物 理 学 演 習	2	演	III	物理学	
力 学 及 び 演 習 I	2	講	III	物理学	
力 学 及 び 演 習 II	2	講	IV	物理学	
電 磁 気 学 及 び 演 習 I	2	講	III	物理学	
電 磁 気 学 及 び 演 習 II	2	講	IV	物理学	
熱 力 学 及 び 演 習	2	講	V	物理学	
統 計 力 学 及 び 演 習	2	講	VI	物理学	
量 子 力 学 及 び 演 習 I	2	講	V	物理学	
量 子 力 学 及 び 演 習 II	2	講	VI	物理学	
物 理 数 学 I	2	講	III		
物 理 数 学 II	2	講	IV		
専 修 物 理 学 実 験 A	2	講実	V		
専 修 物 理 学 実 験 B	2	講実	VI		
専 修 物 理 学 演 習 A	2	講演	V		
専 修 物 理 学 演 習 B	2	講演	VI		
現 代 物 理 学	2	講	IV	物理学	
物 性 物 理 学	2	講	VI	物理学	
量 子 物 理 学 特 論	2	講	VII	物理学	
化 学 概 論	2	講	I	化学	
化 学 演 習	2	演	IV	化学	
基 礎 物 理 化 学	2	講	II	化学	
基 礎 有 機 化 学	2	講	III	化学	
有 機 化 学	2	講	IV	化学	
有 機 軌 道 論	2	講	V	化学	
有 機 反 応 基 礎 論	2	講	II	化学	
有 機 化 学 実 験	2	実	V	化学実験	
分 子 設 計 と 合 成	2	講	VI	化学	
物 理 化 学 I	2	講	III	化学	
物 理 化 学 II	2	講	IV	化学	
物 理 化 学 III	2	講	V	化学	
物 理 化 学 実 験	2	実	V	化学実験	
物 理 化 学 セ ミ ナ ー I	2	講	VII	化学	
物 理 化 学 セ ミ ナ ー II	2	講	VIII	化学	

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
基 礎 無 機 化 学	2	講	Ⅱ	化学	
無 機 化 学 Ⅰ	2	講	Ⅲ	化学	
無 機 化 学 Ⅱ	2	講	Ⅴ	化学	
分 析 化 学	2	講	Ⅳ	化学	
無 機 ・ 分 析 化 学 実 験	2	実	Ⅴ	化学実験	
高 分 子 化 学	2	講	Ⅵ	化学	
有 機 化 学 演 習	2	演	Ⅵ		
有 機 化 学 セ ミ ナ ー Ⅰ	2	演	Ⅶ	化学	
有 機 化 学 セ ミ ナ ー Ⅱ	2	演	Ⅷ	化学	
無 機 化 学 演 習	2	講	Ⅵ		
無 機 化 学 セ ミ ナ ー Ⅰ	2	演	Ⅶ	化学	
無 機 化 学 セ ミ ナ ー Ⅱ	2	演	Ⅷ	化学	
環 境 科 学	2	講	Ⅵ		
物 理 化 学 演 習	2	演	Ⅵ		
生 物 学 概 論	2	講	Ⅲ	生物学	
生 物 学 演 習	2	演	Ⅳ	生物学	
生 物 科 学 方 法 論	2	講	Ⅲ	生物学	
生 物 学 特 別 実 験	1	実	Ⅴ	生物学実験	
植 物 学 野 外 実 習	1	実	Ⅲ (集中)	生物学	
植 物 系 統 学	2	講	Ⅲ	生物学	
植 物 形 態 学	2	講	Ⅳ		
植 物 生 理 学	2	講	Ⅵ	生物学	
動 物 生 理 学	2	講	Ⅵ	生物学	
遺 伝 学	2	講	Ⅴ	生物学	
生 物 学 特 別 演 習 A Ⅰ	1	演	Ⅴ	生物学	
生 物 学 特 別 演 習 A Ⅱ	1	演	Ⅵ	生物学	
生 物 学 特 別 演 習 B Ⅰ	1	演	Ⅴ	生物学	
生 物 学 特 別 演 習 B Ⅱ	1	演	Ⅵ	生物学	
生 物 学 特 別 演 習 C Ⅰ	1	演	Ⅴ	生物学	
生 物 学 特 別 演 習 C Ⅱ	1	演	Ⅵ	生物学	
生 態 学	2	講	Ⅲ		
生 化 学	2	講	Ⅲ		
地 学 概 論	2	講	Ⅲ	地学	
地 学 演 習	2	演	Ⅳ	地学	
自 然 科 学 の た め の 数 学 A	2	講	Ⅰ		
自 然 科 学 の た め の 数 学 B	2	講	Ⅱ		
天 文 学 実 験	1	実	Ⅵ	地学実験	

(A理科SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
宇 宙 地 球 と 生 命	2	講	Ⅳ	地学	
気 象 学 概 説	2	講	Ⅳ	地学	
固 体 地 球 科 学 概 説	2	講	Ⅲ	地学	
地 球 物 理 学 実 験	1	実	Ⅵ	地学実験	
宇 宙 物 理 学 演 習	2	演	Ⅴ	地学	
地 球 科 学 野 外 実 習	2	実	Ⅵ (集中)	地学	
地 球 科 学 実 験	1	実	Ⅴ	地学実験	
宇 宙 物 理 学	2	講	Ⅴ	地学	
地 球 物 理 学	2	講	Ⅴ	地学	
古 生 物 学	2	講	Ⅴ	地学	
古 生 物 学 実 習	1	実	Ⅵ	地学	
地 球 化 学	2	講	Ⅴ	地学	
宇 宙 科 学 特 別 演 習	2	演	Ⅵ	地学	
天 文 学 特 別 演 習	2	演	Ⅵ	地学	
気 象 科 学 特 別 演 習	2	演	Ⅵ	地学	
地 球 物 理 学 特 別 演 習	2	演	Ⅵ	地学	
地 球 科 学 特 別 演 習 A	2	演	Ⅵ	地学	
地 球 科 学 特 別 演 習 B	2	演	Ⅵ	地学	
地 球 科 学 特 別 演 習 C	2	演	Ⅵ	地学	
地 球 環 境 科 学 特 別 演 習	2	演	Ⅵ	地学	
地 殻 物 質 論	2	講	Ⅲ	地学	
海 洋 科 学 教 育	2	講	Ⅲ	地学	
岩 石 鉱 物 学 実 験	1	実	Ⅵ	地学実験	
地 殻 構 成 論	2	講	Ⅳ	地学	

選択科目B(SB)

(A理科SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
環 境 保 全 生 態 学	2	講	Ⅰ		
地 球 環 境 論	2	講	Ⅰ		
地 球 環 境 論 演 習	2	演	Ⅱ		
環 境 教 育 実 習 I	2	実	Ⅲ (集中)		
植 物 進 化 生 態 学	2	講	Ⅳ		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A理科SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	ⅦⅧ	理科選修	

中等教育教員養成課程 理科専攻〔B類 理科〕

教科・教職に関する科目(専攻SE)

下記の授業科目から、8単位以上を修得する。

(B理科専攻SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
理 科 教 材 開 発 基 礎 I	2	講	Ⅲ	大学独自(小, 中・高(理))	
理 科 教 材 開 発 基 礎 II	2	講	Ⅲ (集中)	大学独自(小, 中・高(理))	
理 科 学 習 指 導 論	2	講	V	大学独自(小, 中・高(理))	
理 科 カ リ キ ュ ラ ム 研 究	2	講	V	大学独自(小, 中・高(理))	
理 科 教 育 臨 床	2	講	VI	大学独自(小, 中・高(理))	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、22単位を必ず修得する。

(B理科S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
理 科 専 攻 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	I		
物 理 学 概 論	2	講	Ⅱ	物理学	
物 理 学 演 習	2	演	Ⅲ	物理学	
物 理 学 実 験	1	実	I・Ⅱ	物理学実験(コンピュータ活用を含む)	
化 学 概 論	2	講	I	化学	
化 学 演 習	2	演	Ⅳ	化学	
化 学 実 験	1	実	I・Ⅱ	化学実験(コンピュータ活用を含む)	
生 物 学 概 論	2	講	Ⅲ	生物学	
生 物 学 演 習	2	演	Ⅳ	生物学	
生 物 学 実 験	1	実	I・Ⅱ	生物学実験(コンピュータ活用を含む)	
地 学 概 論	2	講	Ⅲ	地学	
地 学 演 習	2	演	Ⅳ	地学	
地 学 実 験	1	実	I・Ⅱ	地学実験(コンピュータ活用を含む)	

選択科目A(SA)

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から、30単位以上を修得する。

(B理科SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
理 科 教 育 測 定 ・ 評 価 論	2	講	Ⅲ	大学独自(小, 中・高(理))	
理 科 教 育 学 概 説	2	講	V	大学独自(小, 中・高(理))	
現 代 社 会 に お け る 理 科 教 育	2	講	Ⅱ	大学独自(小, 中・高(理))	
理 科 に お け る 環 境 教 育	2	講	Ⅵ	大学独自(小, 中・高(理))	
自 然 史 科 学	2	講	Ⅳ		
理 科 教 育 と 科 学 史	2	講	Ⅵ		
自 然 探 究 実 践 法	2	講	Ⅲ	大学独自(小, 中・高(理))	

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
放 射 線 教 育 I	2	講演	V (集中)		
放 射 線 教 育 II	2	講演	VI		
理 科 教 育 セ ミ ナ ー I	1	演	VII (集中)		
理 科 教 育 セ ミ ナ ー II	1	演	VIII (集中)		
基 礎 物 理 学	2	講	I	理科(小免のみ)	
力 学 及 び 演 習 I	2	講	III	物理学	
力 学 及 び 演 習 II	2	講	IV	物理学	
電 磁 気 学 及 び 演 習 I	2	講	III	物理学	
電 磁 気 学 及 び 演 習 II	2	講	IV	物理学	
熱 力 学 及 び 演 習	2	講	V	物理学	
統 計 力 学 及 び 演 習	2	講	VI	物理学	
量 子 力 学 及 び 演 習 I	2	講	V	物理学	
量 子 力 学 及 び 演 習 II	2	講	VI	物理学	
物 理 数 学 I	2	講	III		
物 理 数 学 II	2	講	IV		
専 修 物 理 学 実 験 A	2	講実	V		
専 修 物 理 学 実 験 B	2	講実	VI		
専 修 物 理 学 演 習 A	2	講演	V		
専 修 物 理 学 演 習 B	2	講演	VI		
現 代 物 理 学	2	講	IV	物理学	
物 性 物 理 学	2	講	VI	物理学	
量 子 物 理 学 特 論	2	講	VII	物理学	
基 礎 化 学	2	講	I	理科(小免のみ)	
基 礎 有 機 化 学	2	講	III	化学	
有 機 化 学	2	講	IV	化学	
有 機 軌 道 論	2	講	V	化学	
有 機 反 応 基 礎 論	2	講	II	化学	
有 機 化 学 実 験	2	実	V	化学実験	
分 子 設 計 と 合 成	2	講	VI	化学	
有 機 化 学 演 習	2	演	VI		
有 機 化 学 セ ミ ナ ー I	2	演	VII	化学	
有 機 化 学 セ ミ ナ ー II	2	演	VIII	化学	
基 礎 物 理 化 学	2	講	II	化学	
物 理 化 学 I	2	講	III	化学	
物 理 化 学 II	2	講	IV	化学	
物 理 化 学 III	2	講	V	化学	
物 理 化 学 実 験	2	実	V	化学実験	

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
物 理 化 学 セ ミ ナ ー I	2	講	VII	化学	
物 理 化 学 セ ミ ナ ー II	2	講	VIII	化学	
基 礎 無 機 化 学	2	講	II	化学	
無 機 化 学 I	2	講	III	化学	
無 機 化 学 II	2	講	V	化学	
分 析 化 学	2	講	IV	化学	
無 機 ・ 分 析 化 学 実 験	2	実	V	化学実験	
高 分 子 化 学	2	講	VI	化学	
無 機 化 学 演 習	2	講	VI		
無 機 化 学 セ ミ ナ ー I	2	演	VII	化学	
無 機 化 学 セ ミ ナ ー II	2	演	VIII	化学	
環 境 科 学	2	講	VI		
物 理 化 学 演 習	2	演	VI		
基 礎 生 物 学	2	講	I	理科(小免のみ)	
生 物 科 学 方 法 論	2	講	III	生物学	
生 物 学 特 別 実 験	1	実	V	生物学実験	
植 物 学 野 外 実 習	1	実	III (集中)	生物学	
植 物 系 統 学	2	講	III	生物学	
植 物 形 態 学	2	講	IV		
植 物 生 理 学	2	講	VI	生物学	
動 物 生 理 学	2	講	VI	生物学	
遺 伝 学	2	講	V	生物学	
生 物 学 特 別 演 習 A I	1	演	V	生物学	
生 物 学 特 別 演 習 A II	1	演	VI	生物学	
生 物 学 特 別 演 習 B I	1	演	V	生物学	
生 物 学 特 別 演 習 B II	1	演	VI	生物学	
生 物 学 特 別 演 習 C I	1	演	V	生物学	
生 物 学 特 別 演 習 C II	1	演	VI	生物学	
生 態 学	2	講	III		
生 化 学	2	講	III		
基 礎 地 学	2	講	I	理科(小免のみ)	
自 然 科 学 の た め の 数 学 A	2	講	I		
自 然 科 学 の た め の 数 学 B	2	講	II		
固 体 地 球 科 学 概 説	2	講	III	地学	
宇 宙 地 球 と 生 命	2	講	IV	地学	
天 文 学 実 験	1	実	VI	地学実験	
気 象 学 概 説	2	講	IV	地学	
地 球 物 理 学 実 験	1	実	VI	地学実験	

(B理科SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
宇 宙 物 理 学 演 習	2	演	V	地学	
地 球 科 学 野 外 実 習	2	実	VI (集中)	地学	
地 球 科 学 実 験	1	実	V	地学実験	
宇 宙 物 理 学	2	講	V	地学	
地 球 物 理 学	2	講	V	地学	
古 生 物 学	2	講	V	地学	
古 生 物 学 実 習	1	実	VI	地学	
地 球 化 学	2	講	V	地学	
宇 宙 科 学 特 別 演 習	2	演	VI	地学	
天 文 学 特 別 演 習	2	演	VI	地学	
気 象 科 学 特 別 演 習	2	演	VI	地学	
地 球 物 理 学 特 別 演 習	2	演	VI	地学	
地 球 科 学 特 別 演 習 A	2	演	VI	地学	
地 球 科 学 特 別 演 習 B	2	演	VI	地学	
地 球 科 学 特 別 演 習 C	2	演	VI	地学	
地 球 環 境 科 学 特 別 演 習	2	演	VI	地学	
地 殻 物 質 論	2	講	III	地学	
海 洋 科 学 教 育	2	講	III	地学	
岩 石 鉱 物 学 実 験	1	実	VI	地学実験	
地 殻 構 成 論	2	講	IV	地学	

選択科目B(SB)

(B理科SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
環 境 保 全 生 態 学	2	講	I		
地 球 環 境 論	2	講	I		
地 球 環 境 論 演 習	2	演	II		
環 境 教 育 実 習 I	2	実	III (集中)		
植 物 進 化 生 態 学	2	講	IV		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(B理科SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標 準 開 設 学 期	専 攻 ・ 選 修	備 考 (対 象)
卒 業 研 究	④	VII VIII	理科専攻	

⑦ 音楽

初等教育教員養成課程 音楽選修〔A類 音楽〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目から、2単位以上を修得する。

（A音楽専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
音 楽 科 と 情 報	2	演	Ⅱ	大学独自(小, 中・高(音))	
音 楽 授 業 実 践 演 習	2	演	Ⅵ	大学独自(幼, 小, 中・高(音))	
音 楽 科 教 材 演 習	2	演	Ⅱ	大学独自(幼, 小, 中・高(音))	
音 楽 科 教 材 特 論	2	講演	V	大学独自(幼, 小, 中・高(音))	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、22単位を必ず修得する。

（A音楽S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
音 楽 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	I		
基 礎 声 楽 実 技 I	1	演	I	声楽	
基 礎 声 楽 実 技 II	1	演	Ⅱ	声楽	
合 唱	1	演	I	声楽(合唱を含む)	
ソ ル フ ェ ー ジ ュ I	1	演	I	ソルフェージュ	
基 礎 ピ ア ノ 実 技 I	1	演	I	器楽(伴奏, 合奏を含む)	
基 礎 ピ ア ノ 実 技 II	1	演	Ⅱ	器楽(伴奏, 合奏を含む)	
基 礎 管 弦 打 実 技 I	1	演	I	器楽	
基 礎 管 弦 打 実 技 II	1	演	Ⅱ	器楽	
作 曲 法 I	2	演	I	音楽理論・作曲法	
作 曲 法 II	2	演	Ⅱ	音楽理論・作曲法(編曲法を含む)	
指 揮 法	2	演	Ⅲ	指揮法	
音 楽 学 概 論 A	2	講	I	音楽理論・音楽史	
音 楽 学 概 論 B	2	講	Ⅱ	音楽理論・音楽史(日本の伝統音楽を含む)	
音 楽 学 概 論 C	2	講	Ⅵ	音楽理論・音楽史(諸民族の音楽を含む)	

選択科目A(SA)

下記の授業科目から、「吹奏楽 I」又は「オーケストラ I」のいずれか1科目1単位を含めて6単位以上を修得する。

（A音楽SA）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
基 礎 声 楽 実 技 III	2	演	Ⅲ	声楽	
基 礎 声 楽 実 技 IV	2	演	Ⅳ	声楽	
声 楽 実 技 I	2	演	V	声楽	
声 楽 実 技 II	2	演	Ⅵ	声楽	

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
吹 奏 楽	I	1	演	V 偶	器楽(合奏を含む)
オ ー ケ ス ト ラ	I	1	演	V 奇	器楽(合奏を含む)
ソ ル フ ェ ー ジ ュ	II	1	演	II	ソルフェージュ
基 礎 ピ ア ノ 実 技	III	2	演	III	器楽(伴奏, 合奏を含む)
基 礎 ピ ア ノ 実 技	IV	2	演	IV	器楽(伴奏, 合奏を含む)
ピ ア ノ 実 技	I	2	演	V	器楽(伴奏, 合奏を含む)
ピ ア ノ 実 技	II	2	演	VI	器楽(伴奏, 合奏を含む)
基 礎 管 弦 打 実 技	III	2	演	III	器楽(合奏を含む)
基 礎 管 弦 打 実 技	IV	2	演	IV	器楽(合奏を含む)
管 弦 打 実 技	I	2	演	V	器楽(合奏を含む)
管 弦 打 実 技	II	2	演	VI	器楽(合奏を含む)
作 曲 研 究	A	2	演	III 奇	音楽理論・作曲法
作 曲 研 究	B	2	演	IV 奇	音楽理論・作曲法
作 曲 研 究	C	2	演	V 偶	音楽理論・作曲法
作 曲 研 究	D	2	演	VI 偶	音楽理論・作曲法
吹 奏 楽	II	1	演	V 偶 (集中)	器楽(合奏を含む)
オ ー ケ ス ト ラ	II	1	演	V 奇 (集中)	器楽(合奏を含む)
音 楽 学 基 礎 研 究 A	2	講	I		
音 楽 学 基 礎 研 究 B (外 国 語 活 用 科 目)	2	講	III		
音 楽 学 基 礎 研 究 C	2	講	V		
音 楽 学 基 礎 研 究 D	2	講	VII		
音 楽 教 育 特 別 研 究 A	2	講	V	大学独自(小, 中・高(音))	
音 楽 教 育 特 別 研 究 B	2	講	VI	大学独自(小, 中・高(音))	
音 楽 教 育 特 別 研 究 C	2	講	V (集中)	大学独自(小, 中・高(音))	
音 楽 教 育 特 別 研 究 D	2	講演	VI	大学独自(小, 中・高(音))	
音 楽 学 研 究 A	2	講	II		
音 楽 学 研 究 B (外 国 語 活 用 科 目)	2	講	IV		
音 楽 学 研 究 C	2	講	VI		
音 楽 学 研 究 D	2	演	VIII		
音 楽 学 特 別 研 究 A	2	演	V		
音 楽 学 特 別 研 究 B	2	演	VI		
合 唱 指 導 法	2	演	IV		
音 楽 心 理 学	2	演	VI		
邦 楽 歌 唱 法 A	1	実	IV	声楽(日本の伝統的な歌唱を含む)	
邦 楽 歌 唱 法 B	1	実	III	声楽(日本の伝統的な歌唱を含む)	
和 楽 器	A	1	実	III	器楽(和楽器を含む)

(A音楽SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
和 楽 器	B 1	実	Ⅳ	器楽(和楽器を含む)	
和 楽 器	C 1	実	Ⅳ	器楽(合奏及び和楽器を含む)	
和 楽 器	D 1	実	Ⅲ	器楽(和楽器を含む)	
民 族 音 楽 演 習	A 2	演	V		
民 族 音 楽 演 習	B 2	演	V (集中)		
ポ ピ ュ ラ ー 音 楽 演 習	2	演	Ⅵ		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A音楽SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	ⅦⅧ	音楽選修	

中等教育教員養成課程 音楽専攻〔B類 音楽〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目は必修なので、8単位を必ず修得する。

(B音楽専攻SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	開設学年 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
音 楽 科 と 情 報	2	演	Ⅱ	大学独自(小, 中・高(音))	
音 楽 授 業 実 践 演 習	2	演	Ⅵ	大学独自(幼, 小, 中・高(音))	
音 楽 科 教 材 演 習	2	演	Ⅱ	大学独自(幼, 小, 中・高(音))	
音 楽 科 教 材 特 論	2	講演	V	大学独自(幼, 小, 中・高(音))	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、22単位を必ず修得する。

(B音楽S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	開設学年 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
音 楽 専 攻 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	I		
基 礎 声 楽 実 技 I	1	演	I	声楽	
基 礎 声 楽 実 技 II	1	演	Ⅱ	声楽	
合 唱	1	演	I	声楽(合唱を含む)	
ソ ル フ ェ ー ジ ュ I	1	演	I	ソルフェージュ	
基 礎 ピ ア ノ 実 技 I	1	演	I	器楽(伴奏, 合奏を含む)	
基 礎 ピ ア ノ 実 技 II	1	演	Ⅱ	器楽(伴奏, 合奏を含む)	
基 礎 管 弦 打 実 技 I	1	演	I	器楽	
基 礎 管 弦 打 実 技 II	1	演	Ⅱ	器楽	
作 曲 法 I	2	演	I	音楽理論・作曲法	
作 曲 法 II	2	演	Ⅱ	音楽理論・作曲法(編曲法を含む)	
指 揮 法	2	演	Ⅲ	指揮法	
音 楽 学 概 論 A	2	講	I	音楽理論・音楽史	
音 楽 学 概 論 B	2	講	Ⅱ	音楽理論・音楽史(日本の伝統音楽を含む)	
音 楽 学 概 論 C	2	講	Ⅵ	音楽理論・音楽史(諸民族の音楽を含む)	

選択科目A(SA)

下記の授業科目から、「邦楽歌唱法A」又は「邦楽歌唱法B」のいずれか1科目1単位、「吹奏楽Ⅰ」又は「オーケストラⅠ」のいずれか1単位、「和楽器A」「和楽器B」「和楽器C」「和楽器D」の中から1科目1単位を含めて30単位以上を修得する。

(B音楽SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	開設学年 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
基 礎 声 楽 実 技 Ⅲ	2	演	Ⅲ	声乐	
基 礎 声 楽 実 技 Ⅳ	2	演	Ⅳ	声乐	
声 楽 実 技 Ⅰ	2	演	Ⅴ	声乐	
声 楽 実 技 Ⅱ	2	演	Ⅵ	声乐	
吹 奏 楽 Ⅰ	1	演	Ⅴ偶	器楽(合奏を含む)	
オ ー ケ ス ト ラ Ⅰ	1	演	Ⅴ奇	器楽(合奏を含む)	
ソ ル フ ェ ー ジ ュ Ⅱ	1	演	Ⅱ	ソルフェージュ	
基 礎 ピ ア ノ 実 技 Ⅲ	2	演	Ⅲ	器楽(伴奏, 合奏を含む)	
基 礎 ピ ア ノ 実 技 Ⅳ	2	演	Ⅳ	器楽(伴奏, 合奏を含む)	
ピ ア ノ 実 技 Ⅰ	2	演	Ⅴ	器楽(伴奏, 合奏を含む)	
ピ ア ノ 実 技 Ⅱ	2	演	Ⅵ	器楽(伴奏, 合奏を含む)	
基 礎 管 弦 打 実 技 Ⅲ	2	演	Ⅲ	器楽(合奏を含む)	
基 礎 管 弦 打 実 技 Ⅳ	2	演	Ⅳ	器楽(合奏を含む)	
管 弦 打 実 技 Ⅰ	2	演	Ⅴ	器楽(合奏を含む)	
管 弦 打 実 技 Ⅱ	2	演	Ⅵ	器楽(合奏を含む)	
作 曲 研 究 A	2	演	Ⅲ奇	音楽理論・作曲法	
作 曲 研 究 B	2	演	Ⅳ奇	音楽理論・作曲法	
作 曲 研 究 C	2	演	Ⅴ偶	音楽理論・作曲法	
作 曲 研 究 D	2	演	Ⅵ偶	音楽理論・作曲法	
吹 奏 楽 Ⅱ	1	演	Ⅴ偶 (集中)	器楽(合奏を含む)	
オ ー ケ ス ト ラ Ⅱ	1	演	Ⅴ奇 (集中)	器楽(合奏を含む)	
音 楽 学 基 礎 研 究 A	2	講	Ⅰ		
音 楽 学 基 礎 研 究 B (外 国 語 活 用 科 目)	2	講	Ⅲ		
音 楽 学 基 礎 研 究 C	2	講	Ⅴ		
音 楽 学 基 礎 研 究 D	2	講	Ⅶ		
音 楽 教 育 特 別 研 究 A	2	講	Ⅴ	大学独自(小, 中・高(音))	
音 楽 教 育 特 別 研 究 B	2	講	Ⅵ	大学独自(小, 中・高(音))	
音 楽 教 育 特 別 研 究 C	2	講	Ⅴ (集中)	大学独自(小, 中・高(音))	
音 楽 教 育 特 別 研 究 D	2	講演	Ⅵ	大学独自(小, 中・高(音))	
音 楽 学 研 究 A	2	講	Ⅱ		
音 楽 学 研 究 B (外 国 語 活 用 科 目)	2	講	Ⅳ		
音 楽 学 研 究 C	2	講	Ⅵ		
音 楽 学 研 究 D	2	演	Ⅷ		

(B音楽SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	開設学年 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
音 楽 学 特 別 研 究 A	2	演	V		
音 楽 学 特 別 研 究 B	2	演	VI		
合 唱 指 導 法	2	演	IV		
音 楽 心 理 学	2	演	VI		
邦 楽 歌 唱 法 A	1	実	IV	声楽(日本の伝統的な歌唱を含む)	
和 楽 器 A	1	実	III	器楽(和楽器を含む)	
和 楽 器 B	1	実	IV	器楽(和楽器を含む)	
邦 楽 歌 唱 法 B	1	実	III	声楽(日本の伝統的な歌唱を含む)	
和 楽 器 C	1	実	IV	器楽(合奏及び和楽器を含む)	
和 楽 器 D	1	実	III	器楽(和楽器を含む)	
民 族 音 楽 演 習 A	2	演	V		
民 族 音 楽 演 習 B	2	演	V (集中)		
ポ ピ ュ ラ ー 音 楽 演 習	2	演	VI		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(B音楽SZ)

授 業 科 目	単 位 数	開設学年 学期	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	VII VIII	音楽専攻

⑧ 美術

初等教育教員養成課程 美術選修〔A類 美術〕

教科・教職に関する科目(専攻SE)

下記の授業から、2単位以上を修得する。

(A美術専攻SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
図 画 工 作 ・ 美 術 科 と 情 報	2	演	Ⅱ	大学独自(小, 中・高(美)(工))	
図 画 工 作 科 教 材 論	2	演	Ⅱ	大学独自(幼, 小, 中・高(美)(工))	
図 画 工 作 科 カ リ キ ュ ラ ム 論	2	講	Ⅵ	大学独自(幼, 小)	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、20単位を必ず修得する。

(A美術S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
美 術 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
図 画 工 作 科 基 礎	2	演	Ⅱ	図画工作(小免のみ)	
絵 画 基 礎 Ⅰ	2	演	Ⅰ	絵画(映像メディア表現を含む)	
彫 刻 基 礎 Ⅰ	2	演	Ⅰ	彫刻	
デ ザ イ ン 基 礎 Ⅰ	2	演	Ⅰ	デザイン(映像メディア表現を含む)	
工 芸 基 礎 Ⅰ	2	演	Ⅰ	工芸 工芸制作(プロダクト制作を含む)	
西 洋 美 術 史 概 論	2	講	Ⅱ	(美術用)美術理論及び美術史	
美 術 演 習 Ⅰ	2	演	Ⅲ		
美 術 演 習 Ⅱ	2	演	Ⅳ		
日 本 東 洋 美 術 史 概 論	2	講	Ⅲ	(美術用) 美術理論及び美術史(鑑賞並びに日本の 伝統美術及びアジアの美術を含む) (工芸用) 美術史(鑑賞並びに日本の伝統工芸及 びアジアの工芸を含む)	

選択科目A(SA)

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から、8単位以上を修得する。

(A美術SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
美 術 演 習 III	2	演	V		
美 術 演 習 IV	2	演	VI		
絵 画 基 礎 II	2	演	II	絵画	
絵 画 演 習 A	2	演	III	絵画	
絵 画 演 習 B	2	演	IV	絵画	
絵 画 演 習 C	2	演	V	絵画	
絵 画 演 習 D	2	演	V	絵画	
彫 刻 基 礎 II	2	演	II	彫刻	
彫 刻 演 習 A	2	演	III	彫刻	
彫 刻 演 習 B	2	演	IV	彫刻	
デ ザ イ ン 基 礎 II	2	演	II	デザイン	
デ ザ イ ン 演 習 A	2	演	III	デザイン	
デ ザ イ ン 演 習 B	2	演	IV	デザイン	
工 芸 基 礎 II	2	演	II	工芸 工芸制作(プロダクト制作を含む)	
工 芸 演 習 A	2	演	III	工芸 工芸制作	
工 芸 演 習 B	2	演	III	工芸 工芸制作	
工 芸 演 習 C	2	演	IV	工芸 工芸制作	
美 術 史 演 習 A	2	演	VI	(美術用)美術理論及び美術史	
美 術 史 演 習 B	2	演	VII奇	(美術用)美術理論及び美術史	
美 術 史 演 習 C	2	演	VII偶	(美術用)美術理論及び美術史	
現 代 美 術 史 概 論	2	講	IV	(美術用)美術理論及び美術史	
美 術 科 教 育 演 習 I	2	演	I	大学独自(幼, 小, 中・高(美)(工))	
美 術 科 教 育 演 習 II	2	演	II	大学独自(幼, 小, 中・高(美)(工))	
美 術 科 教 育 演 習 III	2	演	III	大学独自(幼, 小, 中・高(美)(工))	
美 術 科 教 育 演 習 IV	2	演	IV	大学独自(幼, 小, 中・高(美)(工))	
工 芸 ・ デ ザ イ ン 理 論	2	講	V	(工芸用)工芸理論及びデザイン理論	
図 法 ・ 製 図	2	演	II	図法及び製図	
美 術 史 実 地 研 修	2	演	IV (集中)	(美術用)美術理論及び美術史	
美 学	2	講	VI	(美術用)美術理論及び美術史	
西 洋 美 術 史 演 習 I	2	演	VI奇		
西 洋 美 術 史 演 習 II	2	演	VI偶		
日 本 東 洋 美 術 史 演 習 I	2	演	VI奇		
日 本 東 洋 美 術 史 演 習 II	2	演	VI偶		

(A美術SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
美 術 家 教 育 と 美 術 科 教 育	2	講	I	大学独自(小, 中・高(美)(工))	
美 術 教 育 基 礎 研 究	2	演	III	大学独自(小, 中・高(美)(工))	
鑑 賞 教 育	2	講	IV	大学独自(小, 中・高(美)(工))	

選択科目B(SB)

(A美術SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	諸 資 格	備 考 (対 象)
生 涯 学 習 概 説 I	2	講	I		司書 社会教育主事 学芸員 (生涯学習概論)	
生 涯 学 習 概 説 II	2	講	II		社会教育主事 学芸員 (生涯学習概論)	
生 涯 学 習 社 会 と 博 物 館	2	講	III		学芸員 (博物館教育論)	
博 物 館 学 基 礎 論	2	講	IV		学芸員 (博物館概論)	
文 化 財 科 学 概 説	2	講	I			
表 装 実 習	2	実	VI (集中)			
文 化 財 保 存 ・ 修 復 研 究 A	2	演	IV奇			
文 化 財 保 存 ・ 修 復 研 究 B	2	演	IV偶			

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので, 4単位を必ず修得する。

(A美術SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標 準 開 設 学 期	専 攻 ・ 選 修	備 考 (対 象)
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	美術選修	

中等教育教員養成課程 美術専攻〔B類 美術〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目は必修なので、8単位を必ず修得する。

(B美術専攻SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
図 画 工 作 ・ 美 術 科 と 情 報	2	演	Ⅱ	大学独自(小, 中・高(美)(工))	
美 術 科 教 材 論 Ⅰ (平 面)	2	演	Ⅲ	大学独自(小, 中・高(美)(工))	
美 術 科 教 材 論 Ⅱ (立 体)	2	演	Ⅳ	大学独自(小, 中・高(美)(工))	
美 術 科 カ リ キ ュ ラ ム 論	2	講	Ⅵ	大学独自(中・高(美)(工))	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、34単位を必ず修得する。

(B美術S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
美 術 専 攻 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
絵 画 基 礎 Ⅰ	2	演	Ⅰ	絵画(映像メディア表現を含む)	
絵 画 基 礎 Ⅱ	2	演	Ⅱ	絵画	
彫 刻 基 礎 Ⅰ	2	演	Ⅰ	彫刻	
彫 刻 基 礎 Ⅱ	2	演	Ⅱ	彫刻	
デ ザ イ ン 基 礎 Ⅰ	2	演	Ⅰ	デザイン(映像メディア表現を含む)	
デ ザ イ ン 基 礎 Ⅱ	2	演	Ⅱ	デザイン	
工 芸 基 礎 Ⅰ	2	演	Ⅰ	工芸 工芸制作(プロダクト制作を含む)	
工 芸 基 礎 Ⅱ	2	演	Ⅱ	工芸 工芸制作(プロダクト制作を含む)	
西 洋 美 術 史 概 論	2	講	Ⅱ	(美術用)美術理論及び美術史	
日 本 東 洋 美 術 史 概 論	2	講	Ⅲ	(美術用) 美術理論及び美術史(鑑賞並びに日本の 伝統美術及びアジアの美術を含む) (工芸用) 美術史(鑑賞並びに日本の伝統工芸及 びアジアの工芸を含む)	
美 術 演 習 Ⅰ	2	演	Ⅲ		
美 術 演 習 Ⅱ	2	演	Ⅳ		
美 術 演 習 Ⅲ	2	演	Ⅴ		
美 術 演 習 Ⅳ	2	演	Ⅵ		
現 代 美 術 史 概 論	2	講	Ⅳ	(美術用)美術理論及び美術史	
美 学	2	講	Ⅵ	(美術用)美術理論及び美術史	

選択科目A(SA)

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から、18単位以上を修得する。

(B美術SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
絵 画 演 習 A	2	演	Ⅲ	絵画	
絵 画 演 習 B	2	演	Ⅳ	絵画	
絵 画 演 習 C	2	演	Ⅴ	絵画	
絵 画 演 習 D	2	演	Ⅴ	絵画	
彫 刻 演 習 A	2	演	Ⅲ	彫刻	
彫 刻 演 習 B	2	演	Ⅳ	彫刻	
デ ザ イ ン 演 習 A	2	演	Ⅲ	デザイン	
デ ザ イ ン 演 習 B	2	演	Ⅳ	デザイン	
工 芸 演 習 A	2	演	Ⅲ	工芸 工芸制作	
工 芸 演 習 B	2	演	Ⅲ	工芸 工芸制作	
工 芸 演 習 C	2	演	Ⅳ	工芸 工芸制作	
美 術 科 教 育 演 習 Ⅰ	2	演	Ⅰ	大学独自(幼, 小, 中・高(美)(工))	
美 術 科 教 育 演 習 Ⅱ	2	演	Ⅱ	大学独自(幼, 小, 中・高(美)(工))	
美 術 科 教 育 演 習 Ⅲ	2	演	Ⅲ	大学独自(幼, 小, 中・高(美)(工))	
美 術 科 教 育 演 習 Ⅳ	2	演	Ⅳ	大学独自(幼, 小, 中・高(美)(工))	
工 芸 ・ デ ザ イ ン 理 論	2	講	Ⅴ	(工芸用)工芸理論及びデザイン理論	
図 法 ・ 製 図	2	演	Ⅱ	図法及び製図	
美 術 史 実 地 研 修	2	演	Ⅳ (集中)	(美術用)美術理論及び美術史	
西 洋 美 術 史 演 習 Ⅰ	2	演	Ⅵ奇		
西 洋 美 術 史 演 習 Ⅱ	2	演	Ⅵ偶		
日 本 東 洋 美 術 史 演 習 Ⅰ	2	演	Ⅵ奇		
日 本 東 洋 美 術 史 演 習 Ⅱ	2	演	Ⅵ偶		
美 術 史 演 習 A	2	演	Ⅵ	(美術用)美術理論及び美術史	
美 術 史 演 習 B	2	演	Ⅶ奇	(美術用)美術理論及び美術史	
美 術 史 演 習 C	2	演	Ⅶ偶	(美術用)美術理論及び美術史	
美 術 家 教 育 と 美 術 科 教 育	2	講	Ⅰ	大学独自(小, 中・高(美)(工))	
美 術 教 育 基 礎 研 究	2	演	Ⅲ	大学独自(小, 中・高(美)(工))	
鑑 賞 教 育	2	講	Ⅳ	大学独自(小, 中・高(美)(工))	

選択科目B(SB)

(B美術SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
生 涯 学 習 概 説 I	2	講	I		司書 社会教育主事 学芸員 (生涯学習概論)	
生 涯 学 習 概 説 II	2	講	II		社会教育主事 学芸員 (生涯学習概論)	
生 涯 学 習 社 会 と 博 物 館	2	講	III		学芸員 (博物館教育論)	
博 物 館 学 基 礎 論	2	講	IV		学芸員 (博物館概論)	
文 化 財 科 学 概 説	2	講	I			
表 装 実 習	2	実	VI (集中)			
文 化 財 保 存 ・ 修 復 研 究 A	2	演	IV奇			
文 化 財 保 存 ・ 修 復 研 究 B	2	演	IV偶			

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(B美術SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	美術専攻	

⑨ 保健体育

初等教育教員養成課程 保健体育選修〔A類 保健体育〕

教科・教職に関する科目(専攻SE)

下記の授業科目のうち、「保健体育科と情報」「保健体育科教材研究」「保健体育科カリキュラム開発論」の中から1科目2単位以上を修得する。

(A保健体育専攻SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
保 健 体 育 科 と 情 報	2	講演	Ⅱ	大学独自(小, 中・高(保体))	選択必修
保 健 体 育 科 模 擬 授 業 演 習 A	2	講演	Ⅳ	大学独自(小)	
保 健 体 育 科 教 材 研 究	2	講	Ⅳ	大学独自(小, 中・高(保体))	選択必修
体 育 科 学 習 評 価 論	2	講	Ⅲ偶	大学独自(小, 中・高(保体))	
教 科 体 育 ・ 特 活 指 導 計 画 論	2	講	Ⅲ奇	大学独自(小, 中・高(保体))	
保 健 体 育 科 カ リ キ ュ ラ ム 開 発 論	2	講	Ⅴ	大学独自(小, 中・高(保体))	選択必修

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、23単位を必ず修得する。

(A保健体育S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
保 健 体 育 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
保 健 体 育 科 演 習	2	演	Ⅴ		
人 体 解 剖 生 理 学	2	講	Ⅰ	生理学 解剖学	
学 校 保 健 学 概 説	2	講	Ⅱ	学校保健(小児保健, 精神保健, 学校 安全及び救急処置を含む)	
衛 生 ・ 公 衆 衛 生 学	2	講	Ⅱ	衛生学及び公衆衛生学(予防医学を含む)	
体 育 ・ ス ポ ー ツ 心 理 学 概 論	2	講	Ⅱ	体育心理学	
野 外 環 境 教 育 学	2	講演	Ⅲ		
体 つ く り 運 動 A	1	実	Ⅰ	体育実技	
器 械 運 動 A	1	実	Ⅰ	体育実技	
陸 上 A	1	実	Ⅰ	体育実技	
水 泳 A	1	実	Ⅰ	体育実技	
表 現 運 動	1	実	Ⅳ	体育実技	
バ ス ケ ッ ト ボ ー ル A	1	実	Ⅲ	体育実技	
サ ッ カ ー A	1	実	Ⅲ	体育実技	
ソ フ ト ボ ー ル A	1	実	Ⅱ	体育実技	
ソ フ ト バ レ ー ボ ー ル	1	実	Ⅱ	体育実技	

選択科目A(SA)

下記の授業科目から、「野外環境教育実習(夏季)」「野外環境教育実習(冬季)」「スケート実習」「スキー実習」のうち1科目以上を含め、併せて5単位以上を修得する。

(A保健体育SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
運 動 生 理 学 概 論	2	講	Ⅲ	生理学(運動生理学を含む)	
体 育 原 理 概 論	2	講	Ⅰ	体育原理	
体 育 史 概 論	2	講	Ⅱ	体育原理	
ス ポ ー ツ バイオメカニクス 概 論	2	講	Ⅲ	生理学(運動生理学を含む)	
ス ポ ー ツ バイオメカニクス 演 習	2	演	Ⅵ		
体 育 ・ ス ポ ー ツ 社 会 学	2	講	Ⅳ	体育社会学	
体 育 ・ ス ポ ー ツ 経 営 学	2	講	Ⅳ	体育経営管理学	
救 急 処 置 法	2	講	Ⅱ	学校保健(学校安全, 救急処置を含む)	
子 ど も と か ら だ	2	講	Ⅴ		
保 健 体 育 ・ ス ポ ー ツ 専 門 英 語 演 習 (外 国 語 活 用 科 目)	2	演	Ⅴ		
野 外 環 境 教 育 指 導 演 習	2	演	Ⅴ		
体 育 史 実 習	1	実	Ⅴ 奇 (集中)		
遊 び と 発 育 ・ 発 達	2	講	Ⅲ		
障 害 児 の 運 動	2	講演	Ⅳ		
身 体 表 現 論	2	講	Ⅴ		
野 外 環 境 教 育 実 習 (夏 季)	1	実	Ⅲ (集中)	体育実技	4科目のうち、 1科目を 選択必修
野 外 環 境 教 育 実 習 (冬 季)	1	実	Ⅳ偶 (集中)	体育実技	
ス ケ ー ト 実 習	1	実	Ⅳ奇 (集中)	体育実技	
ス キ ー 実 習	1	実	Ⅳ (集中)	体育実技	

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A保健体育SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	ⅦⅧ	保健体育選修	

中等教育教員養成課程 保健体育専攻〔B類 保健体育〕

教科・教職に関する科目(専攻SE)

下記の授業科目から、「保健体育科と情報」「保健体育科模擬授業演習B」「保健体育科教材研究」「保健体育科カリキュラム開発論」の4科目8単位を必ず修得する。

(B保健体育専攻SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
保 健 体 育 科 と 情 報	2	講演	Ⅱ	大学独自(小, 中・高(保体))	必修
保 健 体 育 科 模 擬 授 業 演 習 B	2	講演	Ⅳ	大学独自(中・高(保体))	必修
保 健 体 育 科 教 材 研 究	2	講	Ⅳ	大学独自(小, 中・高(保体))	必修
体 育 科 学 習 評 価 論	2	講	Ⅲ偶	大学独自(小, 中・高(保体))	
教 科 体 育 ・ 特 活 指 導 計 画 論	2	講	Ⅲ奇	大学独自(小, 中・高(保体))	
保 健 体 育 科 カリキュラム 開 発 論	2	講	Ⅴ	大学独自(小, 中・高(保体))	必修

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、36単位を必ず修得する。

(B保健体育S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
保 健 体 育 専 攻 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
保 健 体 育 科 演 習	2	演	Ⅴ		
人 体 解 剖 生 理 学	2	講	Ⅰ	生理学 解剖学	
学 校 保 健 学 概 説	2	講	Ⅱ	学校保健(小児保健, 精神保健, 学校 安全及び救急処置を含む)	
衛 生 ・ 公 衆 衛 生 学	2	講	Ⅱ	衛生学及び公衆衛生学(予防医学を含む)	
体 育 ・ ス ポ ー ツ 心 理 学 概 論	2	講	Ⅱ	体育心理学	
体 育 ・ ス ポ ー ツ 社 会 学	2	講	Ⅳ	体育社会学	
柔 道	1	実	Ⅲ	体育実技	
剣 道	1	実	Ⅲ	体育実技	
器 械 運 動 B	1	実	Ⅰ	体育実技	
陸 上 B	1	実	Ⅰ	体育実技	
水 泳 B	1	実	Ⅰ	体育実技	
ダ ン ス	1	実	Ⅱ	体育実技	
バ ス ケ ッ ト ボ ー ル B	1	実	Ⅳ	体育実技	
サ ッ カ ー B	1	実	Ⅲ	体育実技	
ソ フ ト ボ ー ル B	1	実	Ⅲ	体育実技	
バ レ ー ボ ー ル	1	実	Ⅳ	体育実技	
運 動 生 理 学 概 論	2	講	Ⅲ	生理学(運動生理学を含む)	
体 育 原 理 概 論	2	講	Ⅰ	体育原理	
体 育 史 概 論	2	講	Ⅱ	体育原理	

(B保健体育S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
体 育 ・ ス ポ ー ツ 経 営 学	2	講	Ⅳ	体育経営管理学	
運 動 方 法 学 総 論	2	講	Ⅳ	運動学(運動方法学を含む)	
運 動 部 活 動 指 導 演 習	2	講演	V		

選択科目A(SA)

下記の授業科目から、「野外環境教育実習(夏季)」「野外環境教育実習(冬季)」「スケート実習」「スキー実習」のうち1科目以上を含め、併せて16単位以上を修得する。

(B保健体育SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 指 導 実 習	1	実	Ⅵ		
体 育 史 演 習	2	演	V 偶		
体 育 史 実 習	1	実	V 奇 (集中)		
ス ポ ー ツ バ イ オ メ カ ニ ク ス 概 論	2	講	Ⅲ	生理学(運動生理学を含む)	
ス ポ ー ツ バ イ オ メ カ ニ ク ス 演 習	2	演	Ⅵ		
救 急 処 置 法	2	講	Ⅱ	学校保健(学校安全, 救急処置を含む)	
子 ど も と か ら だ	2	講	V		
保 健 体 育 ・ ス ポ ー ツ 専 門 英 語 演 習 (外 国 語 活 用 科 目)	2	演	V		
ラ グ ビ ー	1	実	Ⅳ 偶	体育実技	
ハ ン ド ボ ー ル	1	実	Ⅳ 奇	体育実技	
体 つ く り 運 動 B	1	実	I 奇	体育実技	
運 動 生 理 学 演 習	2	演	V	生理学	保健のみ
障 害 児 の 運 動	2	講演	Ⅳ		
身 体 表 現 論	2	講	V		
野 外 環 境 教 育 学	2	講演	Ⅲ		
野 外 環 境 教 育 指 導 演 習	2	演	V		
遊 び と 発 育 ・ 発 達	2	講	Ⅲ		
野 外 環 境 教 育 実 習 (夏 季)	1	実	Ⅲ (集中)	体育実技	4科目のうち、 1科目を 選択必修
野 外 環 境 教 育 実 習 (冬 季)	1	実	Ⅳ 偶 (集中)	体育実技	
ス ケ ー ト 実 習	1	実	Ⅳ 奇 (集中)	体育実技	
ス キ ー 実 習	1	実	Ⅳ (集中)	体育実技	

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(B保健体育SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	VⅦⅧ	保健体育専攻	

⑩ 家庭

初等教育教員養成課程 家庭選修〔A類 家庭〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目から、「家庭科と情報」を含めて、4単位以上を修得する。

（A家庭専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
家 庭 科 と 情 報	2	演	Ⅳ	情報処理	必修
家 庭 科 教 材 論 Ⅰ	2	講	Ⅰ	大学独自(小, 中・高(家))	
家 庭 科 教 材 論 Ⅱ	2	講	Ⅲ	大学独自(小, 中・高(家))	
家 庭 科 カ リ キ ュ ラ ム 論	2	講	Ⅵ	大学独自(小, 中・高(家))	

専攻に関する科目

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので、12単位を必ず修得する。

（A家庭S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
家 庭 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
栄 養 学 概 論	2	講	Ⅳ	食物学(栄養学を含む)	
被 服 学 Ⅰ	2	講	Ⅰ	被服学	
家 庭 経 営 学	2	講	Ⅰ	家庭経営学(家庭経済学を含む)	
住 居 学	2	講	Ⅲ	住居学	
児 童 学 Ⅰ	2	講演	Ⅲ	保育学	

選択科目A（SA）

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から、16単位以上を修得する。

（A家庭SA）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
食 品 学 概 論	2	講	Ⅱ	食物学(食品学を含む)	
被 服 学 Ⅱ	2	講	Ⅰ	被服学	
被 服 学 Ⅲ	2	講	Ⅱ	被服学	
被 服 学 実 験 ・ 実 習 A	1	実	Ⅲ	被服学	
被 服 学 実 験 ・ 実 習 B	1	実	Ⅴ	被服学	
被 服 学 演 習 A	2	演	Ⅱ	被服学(被服製作実習を含む)	
被 服 学 演 習 B	2	演	Ⅲ	被服学(被服製作実習を含む)	
食 物 学 概 論	2	講	Ⅲ	食物学	
調 理 学 概 論	2	講	Ⅰ	食物学	

(A家庭SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
食 物 学 実 験 ・ 実 習 A	1	実	Ⅱ (集中)	食物学(調理実習を含む)	
食 物 学 実 験 ・ 実 習 B	1	実	Ⅲ (集中)	食物学(調理実習を含む)	
食 物 学 実 験 ・ 実 習 C	1	実	Ⅵ	食物学(調理実習を含む)	
生 活 経 営 学	2	講	Ⅲ	家庭経営学(家庭経済学を含む)	
生 活 設 計 論	2	講	Ⅴ	家庭経営学(家庭経済学を含む)	
消 費 者 教 育	2	講	Ⅰ	家庭経営学	
住 環 境 論	2	演	Ⅳ	住居学	
生 活 環 境 論	2	演	Ⅴ	住居学	
住 居 設 計 製 図	1	演	Ⅴ	住居学(製図を含む)	
家 庭 看 護 学	2	講	Ⅵ	保育学(家庭看護を含む)	
家 族 関 係 学	2	演	Ⅳ	家庭経営学(家族関係学を含む)	
家 庭 工 学	2	講	Ⅱ	家庭電気・機械	
乳 幼 児 と 生 活	2	演	Ⅴ	保育学	
児 童 学 Ⅱ	2	演	Ⅳ (集中)	保育学(実習を含む)	
家 庭 科 演 習 (外 国 語 活 用 科 目)	2	演	Ⅵ		

選択科目B(SB)

(A家庭SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
児 童 福 祉 論	2	講	Ⅲ		社会福祉士 (児童・家庭福祉)	
老 人 福 祉 論	2	講	Ⅳ		社会福祉士 (高齢者福祉)	
家 族 社 会 学	2	講	Ⅲ偶	社会学		
ジ ェ ン ダ ー の 社 会 学	2	講	Ⅳ奇	社会学		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A家庭SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	ⅦⅧ	家庭選修	

中等教育教員養成課程 家庭専攻〔B類 家庭〕

教科・教職に関する科目(専攻SE)

下記の授業科目は必修なので、8単位を必ず修得する。

(B家庭専攻SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
家 庭 科 と 情 報	2	演	Ⅳ	情報処理	
家 庭 科 教 材 論 Ⅰ	2	講	Ⅰ	大学独自(小, 中・高(家))	
家 庭 科 教 材 論 Ⅱ	2	講	Ⅲ	大学独自(小, 中・高(家))	
家 庭 科 カ リ キ ュ ラ ム 論	2	講	Ⅵ	大学独自(小, 中・高(家))	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、27単位を必ず修得する。

(B家庭S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
家 庭 専 攻 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
栄 養 学 概 論	2	講	Ⅳ	食物学(栄養学を含む)	
家 庭 経 営 学	2	講	Ⅰ	家庭経営学(家庭経済学を含む)	
住 居 設 計 製 図	1	演	Ⅴ	住居学(製図を含む)	
住 居 学	2	講	Ⅲ	住居学	
食 物 学 実 験 ・ 実 習 A	1	実	Ⅱ (集中)	食物学(調理実習を含む)	
食 品 学 概 論	2	講	Ⅱ	食物学(食品学を含む)	
児 童 学 Ⅰ	2	講演	Ⅲ	保育学	
児 童 学 Ⅱ	2	演	Ⅳ (集中)	保育学(実習を含む)	
家 族 関 係 学	2	演	Ⅳ	家庭経営学(家族関係学を含む)	
家 庭 工 学	2	講	Ⅱ	家庭電気・機械	
家 庭 看 護 学	2	講	Ⅵ	保育学(家庭看護を含む)	
被 服 学 Ⅰ	2	講	Ⅰ	被服学	
被 服 学 実 験 ・ 実 習 A	1	実	Ⅲ	被服学	
被 服 学 演 習 A	2	演	Ⅱ	被服学(被服製作実習を含む)	

選択科目A(SA)

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から、25単位以上を修得する。

(B家庭SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
食 物 学 実 験 ・ 実 習 B	1	実	Ⅲ (集中)	食物学(栄養学, 食品学及び調理実習を含む)	
食 物 学 実 験 ・ 実 習 C	1	実	Ⅵ	食物学(栄養学, 食品学及び調理実習を含む)	
食 物 学 概 論	2	講	Ⅲ	食物学	
調 理 学 概 論	2	講	Ⅰ	食物学	
被 服 学 実 験 ・ 実 習 B	1	実	Ⅴ	被服学	
被 服 学 Ⅱ	2	講	Ⅰ	被服学	
被 服 学 Ⅲ	2	講	Ⅱ	被服学	
被 服 学 演 習 B	2	演	Ⅲ	被服学(被服製作実習を含む)	
生 活 経 営 学	2	講	Ⅲ	家庭経営学(家庭経済学を含む)	
生 活 設 計 論	2	講	Ⅴ	家庭経営学(家庭経済学を含む)	
消 費 者 教 育	2	講	Ⅰ	家庭経営学	
住 環 境 論	2	演	Ⅳ	住居学	
生 活 環 境 論	2	演	Ⅴ	住居学	
乳 幼 児 と 生 活	2	演	Ⅴ	保育学	
家 庭 科 活 用 演 習 (外 国 語 活 用 科 目)	2	演	Ⅵ		

選択科目B(SB)

(B家庭SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
児 童 福 祉 論	2	講	Ⅲ		社会福祉士 (児童・家庭福祉)	
老 人 福 祉 論	2	講	Ⅳ		社会福祉士 (高齢者福祉)	
家 族 社 会 学	2	講	Ⅲ偶	社会学		
ジ ェ ン ダ ー の 社 会 学	2	講	Ⅳ奇	社会学		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(B家庭SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	ⅦⅧ	家庭専攻	

⑪ 英語

初等教育教員養成課程 英語選修〔A類 英語〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目から、4単位を必ず修得する。

（A英語専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
英 語 科 と 情 報	2	演	Ⅱ	大学独自(小・中・高(英))	
英 語 科 教 材 論	2	演	Ⅳ	大学独自(小・中・高(英))	
英 語 教 育 の 現 状 と 課 題	2	演	Ⅳ	大学独自(小・中・高(英))	
英 語 科 と 異 文 化 理 解	2	演	Ⅴ	大学独自(小・中・高(英))	
第 二 言 語 習 得	2	演	Ⅴ	大学独自(小・中・高(英))	

専攻に関する科目

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので、14単位を必ず修得する。

（A英語S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
英 語 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
英 会 話 Ⅰ	1	演	Ⅰ	英語コミュニケーション	
英 会 話 Ⅱ	1	演	Ⅱ	英語コミュニケーション	
英 語 音 声 学 概 論	2	演	Ⅰ	英語学	
小 学 校 英 語 教 育 概 論 Ⅰ	2	講	Ⅲ		AB類 英語のみ
小 学 校 英 語 教 育 概 論 Ⅱ	2	講	Ⅳ		AB類 英語のみ
小 学 校 英 語 教 育 演 習 Ⅰ	2	演	Ⅴ		AB類 英語のみ
小 学 校 英 語 教 育 演 習 Ⅱ	2	演	Ⅵ		AB類 英語のみ

選択科目A(SA)

下記の授業科目から、14単位以上を修得する。

（A英語SA）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
英 語 読 解 Ⅰ	1	演	Ⅰ	英語コミュニケーション	
英 語 読 解 Ⅱ	1	演	Ⅱ	英語コミュニケーション	
英 会 話 Ⅲ	1	演	Ⅲ	英語コミュニケーション	
英 会 話 Ⅳ	1	演	Ⅳ	英語コミュニケーション	
英 作 文 Ⅰ	1	演	Ⅰ	英語コミュニケーション	
英 作 文 Ⅱ	1	演	Ⅱ	英語コミュニケーション	
英 作 文 Ⅲ	1	演	Ⅲ	英語コミュニケーション	

(A英語SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
英 文 法 演 習 A	2	演	I	英語学	
英 文 法 演 習 B	2	演	II	英語学	
現 代 英 語 学 I	2	講	III	英語学	
現 代 英 語 学 II	2	講	IV	英語学	
英 語 史 概 論	2	講	IV	英語学	
イ ギ リ ス 文 化 概 論	2	講	II	異文化理解	
ア メ リ カ 文 化 概 論	2	講	I	異文化理解	
英 米 文 学 概 論 A	2	講	III	英語文学	
英 米 文 学 概 論 B	2	講	IV	英語文学	
文 法 理 論 A	2	演	V 奇	英語学	
文 法 理 論 B	2	演	V 偶	英語学	
歴 史 英 語 学 A	2	演	VI 奇	英語学	
歴 史 英 語 学 B	2	演	VI 偶	英語学	
英 文 法 特 論 A	2	演	VI 奇	英語学	
英 文 法 特 論 B	2	演	VI 偶	英語学	
英 文 法 研 究	2	演	VI	英語学	
イ ギ リ ス 文 学 I	2	演	V	英語文学	
イ ギ リ ス 文 学 II	2	演	VI	英語文学	
ア メ リ カ 文 学 I	2	演	V	英語文学	
ア メ リ カ 文 学 II	2	演	VI	英語文学	
英 米 文 学 基 礎 講 読	2	演	III	英語文学	
英 語 圏 文 化 演 習 A	2	演	V	異文化理解	
英 語 圏 文 化 演 習 B	2	演	VI	異文化理解	
英 語 教 育 学 研 究	2	演	VI		
英 語 指 導 実 践 演 習	2	演	V (集中)		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A英語SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標 準 開 設 学 期	専 攻 ・ 選 修	備 考 (対 象)
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	英語選修	

中等教育教員養成課程 英語専攻〔B類 英語〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目から、8単位以上を修得する。

（B英語専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
英 語 科 と 情 報	2	演	Ⅱ	大学独自(小・中・高(英))	
英 語 科 教 材 論	2	演	Ⅳ	大学独自(小・中・高(英))	
英 語 教 育 の 現 状 と 課 題	2	演	Ⅳ	大学独自(小・中・高(英))	
英 語 科 と 異 文 化 理 解	2	演	Ⅴ	大学独自(小・中・高(英))	
第 二 言 語 習 得	2	演	Ⅴ	大学独自(小・中・高(英))	

専攻に関する科目

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので、29単位を必ず修得する。

（B英語S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
英 語 専 攻 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
英 語 読 解 Ⅰ	1	演	Ⅰ	英語コミュニケーション	
英 語 読 解 Ⅱ	1	演	Ⅱ	英語コミュニケーション	
英 会 話 Ⅰ	1	演	Ⅰ	英語コミュニケーション	
英 会 話 Ⅱ	1	演	Ⅱ	英語コミュニケーション	
英 会 話 Ⅲ	1	演	Ⅲ	英語コミュニケーション	
英 会 話 Ⅳ	1	演	Ⅳ	英語コミュニケーション	
英 作 文 Ⅰ	1	演	Ⅰ	英語コミュニケーション	
英 作 文 Ⅱ	1	演	Ⅱ	英語コミュニケーション	
英 作 文 Ⅲ	1	演	Ⅲ	英語コミュニケーション	
英 文 法 演 習 A	2	演	Ⅰ	英語学	
英 文 法 演 習 B	2	演	Ⅱ	英語学	
英 語 音 声 学 概 論	2	演	Ⅰ	英語学	
現 代 英 語 学 Ⅰ	2	講	Ⅲ	英語学	
英 語 史 概 論	2	講	Ⅳ	英語学	
イ ギ リ ス 文 化 概 論	2	講	Ⅱ	異文化理解	
ア メ リ カ 文 化 概 論	2	講	Ⅰ	異文化理解	
英 米 文 学 概 論 A	2	講	Ⅲ	英語文学	
英 米 文 学 概 論 B	2	講	Ⅳ	英語文学	

選択科目A(SA)

下記の授業科目から、23単位以上を修得する。

(B英語SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
現 代 英 語 学 II	2	講	IV	英語学	
文 法 理 論 A	2	演	V 奇	英語学	
文 法 理 論 B	2	演	V 偶	英語学	
歴 史 英 語 学 A	2	演	VI 奇	英語学	
歴 史 英 語 学 B	2	演	VI 偶	英語学	
英 文 法 特 論 A	2	演	VI 奇	英語学	
英 文 法 特 論 B	2	演	VI 偶	英語学	
英 文 法 研 究	2	演	VI	英語学	
イ ギ リ ス 文 学 I	2	演	V	英語文学	
イ ギ リ ス 文 学 II	2	演	VI	英語文学	
ア メ リ カ 文 学 I	2	演	V	英語文学	
ア メ リ カ 文 学 II	2	演	VI	英語文学	
英 米 文 学 基 礎 講 読	2	演	III	英語文学	
英 語 圏 文 化 演 習 A	2	演	V	異文化理解	
英 語 圏 文 化 演 習 B	2	演	VI	異文化理解	
英 語 教 育 学 研 究	2	演	VI		
英 語 指 導 実 践 演 習	2	演	V (集中)		
小 学 校 英 語 教 育 概 論 I	2	講	III		AB類 英語のみ
小 学 校 英 語 教 育 概 論 II	2	講	IV		AB類 英語のみ
小 学 校 英 語 教 育 演 習 I	2	演	V		AB類 英語のみ
小 学 校 英 語 教 育 演 習 II	2	演	VI		AB類 英語のみ

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(B英語SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	英語専攻	

⑫ 学校教育

初等教育教員養成課程 学校教育選修〔A類 学校教育〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目から、2単位以上を修得する。

（A学校教育専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
学 校 教 育 と 情 報	2	講演	Ⅱ	大学独自(幼, 小, 中, 高)	
教 材 論	2	講演	Ⅳ	大学独自(幼, 小, 中, 高)	
カ リ キ ュ ラ ム 論	2	講演	Ⅴ	大学独自(幼, 小, 中, 高)	

専攻に関する科目

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので、14単位を必ず修得する。

（A学校教育S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
学 校 教 育 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
教 育 学 研 究 入 門	2	講	Ⅰ		
教 育 実 践 研 究	2	講演	Ⅱ		
教 育 基 本 文 献 講 読 Ⅰ	2	演	Ⅲ		
教 育 基 本 文 献 講 読 Ⅱ (外 国 語 文 活 用 科 目)	2	演	Ⅳ		
教 育 実 験 観 察 法	2	演	Ⅲ		
教 育 調 査 法	2	演	Ⅳ		

選択科目A(SA)

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から、14単位以上を修得する。

（A学校教育SA）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
教 育 哲 学 特 講	2	講	Ⅴ		
教 育 哲 学 演 習	2	演	Ⅵ		
外 国 教 育 史 特 講	2	講	Ⅴ		
外 国 教 育 史 演 習	2	演	Ⅵ		
教 育 社 会 学 特 講	2	講	Ⅴ		
教 育 社 会 学 演 習	2	演	Ⅵ		
教 育 経 営 学 特 講	2	講	Ⅴ		
教 育 経 営 学 演 習	2	演	Ⅵ		
教 育 法 制 特 講	2	講	Ⅴ		
教 育 法 制 演 習	2	講	Ⅵ		

(A学校教育SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
教 育 工 学 特 講	2	講	V		
特 別 活 動 論 特 講	2	講	V		
特 別 活 動 論 演 習	2	演	VI		
教 育 方 法 学 特 講	2	講	V		
教 育 方 法 学 演 習	2	演	VI		
カ リ キ ュ ラ ム 論 特 講	2	講	V		
カ リ キ ュ ラ ム 論 演 習	2	演	VI		
学 習 指 導 論 特 講	2	講	V		
学 習 指 導 論 演 習	2	演	VI		
学 校 教 育 特 講	2	講	V		
学 校 教 育 演 習	2	演	VI		
教 育 学 研 究 法 A	2	講演	IV		
教 育 学 研 究 法 B	2	講演	IV		
教 育 学 研 究 法 C	2	講演	IV		
教 育 学 研 究 法 D	2	講演	IV		
教 育 学 研 究 法 E	2	講演	IV		

選択科目B(SB)

(A学校教育SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
日 本 教 育 史 特 講	2	講	VI		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A学校教育SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標 準 開 設 学 期	専 攻 ・ 選 修	備 考 (対 象)
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	学校教育選修	

⑬ 学校心理

初等教育教員養成課程 学校心理選修〔A類 学校心理〕

教科・教職に関する科目(専攻SE)

下記の授業科目から、2単位以上を修得する。

(A学校心理専攻SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
授 業 実 践 の 心 理 学	2	講	Ⅳ	大学独自(幼, 小, 中, 高)	
教 授 学 習 プ ロ セ ス と そ の 評 価	2	演	Ⅵ	大学独自(幼, 小, 中, 高)	
特 別 支 援 教 育 と 支 援 シ ス テ ム	2	講	Ⅲ	大学独自(幼, 小, 中, 高)	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、18単位を必ず修得する。

(A学校心理S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
学 校 心 理 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ			
心 理 学 概 論	2	講	Ⅰ		社会福祉士 (心理学と心理的 支援)	
発 達 心 理 学 (児 童 期 ・ 青 年 期)	2	講	Ⅱ			
心 理 学 統 計 法 Ⅰ	1	演	Ⅱ			
心 理 学 統 計 法 Ⅱ	1	演	Ⅱ			
行 動 観 察 法	2	演	Ⅲ			
質 問 紙 調 査 法	2	演	Ⅳ			
実 験 研 究 法	2	演	Ⅲ			
教 育 心 理 学 実 験	1	実	Ⅴ			
学 校 心 理 学 応 用 研 究 Ⅰ	1	演	Ⅴ			
学 校 心 理 学 応 用 研 究 Ⅱ	2	演	Ⅵ			

選択科目A(SA)

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から、10単位以上を修得する。

(A学校心理SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
社 会 行 動 実 践 演 習	2	演	Ⅳ		
発 達 過 程 実 践 演 習	2	演	Ⅴ		
教 育 相 談 実 践 演 習	2	演	Ⅴ		
発 達 心 理 学 (乳 幼 児 期)	2	講	Ⅰ		
社 会 ・ 集 団 ・ 家 族 心 理 学	2	講	Ⅲ		
知 覚 ・ 認 知 心 理 学	2	講	Ⅳ		

(A学校心理SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
感 情 ・ 人 格 心 理 学	2	講	V		
神 経 ・ 生 理 心 理 学	2	講	VI		
学 校 臨 床 実 践 演 習	2	演	VI		

選択科目B(SB)

(A学校心理SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
教 育 ・ 心 理 デ ー タ 解 析 法	2	演	III		
人 間 理 解 の 心 理 学	2	講	II		
教 育 ・ 学 校 心 理 学	2	講	I		
心 理 的 ア セ ス メ ン ト A	2	演	V		
学 習 ・ 言 語 心 理 学	2	講	VI		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A学校心理SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標 準 開 設 学 期	専 攻 ・ 選 修	備 考 (対 象)
卒 業 研 究	④	VII VIII	学校心理選修	

⑭ 国際教育

初等教育教員養成課程 国際教育選修〔A類 国際教育〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目から、4単位以上を修得する。

（A国際教育専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
教 材 論	2	講	Ⅳ	大学独自(幼, 小, 中, 高)	
カ リ キ ュ ラ ム 論	2	講	Ⅴ	大学独自(幼, 小, 中, 高)	
国 際 教 育 臨 床	2	講演	Ⅲ	大学独自(幼, 小, 中, 高)	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、16単位を必ず修得する。

（A国際教育S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
国 際 教 育 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
国 際 教 育 基 本 文 献 講 読	2	演	Ⅱ		
国 際 教 育 特 別 研 究	2	演	Ⅵ		
国 際 教 育 と プ ロ ジ ェ ク ト	2	講	Ⅳ		
異 文 化 間 心 理 学	2	講	Ⅳ		
比 較 教 育 思 想 論	2	講	Ⅲ		
国 際 教 育 政 策 論	2	講	Ⅳ		
国 際 教 育 交 流 史	2	講	Ⅲ		

選択科目A(SA)

「国際教育演習A～F」の中から3科目6単位以上を修得し、選択科目Aと選択科目Bを併せて12単位以上を修得する。

（A国際教育SA）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
国 際 教 育 演 習 A	2	演	Ⅴ		
国 際 教 育 演 習 B	2	演	Ⅵ		
国 際 教 育 演 習 C	2	演	Ⅴ		
国 際 教 育 演 習 D	2	演	Ⅵ		
国 際 教 育 演 習 E	2	演	Ⅴ		
国 際 教 育 演 習 F	2	演	Ⅵ		
Cross-cultural Ideas and Activities	2	講演	Ⅰ		
Cross-cultural Teaching Practice	2	講演	Ⅱ		

(A国際教育SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
日 本 教 育 史 特 講	2	講	VI		
比 較 教 育 学 研 究	2	講	V		
教 育 開 発 と 教 育 協 力	2	講	VI		
海 外 ・ 帰 国 児 童 生 徒 教 育 論	2	講	IV		
外 国 人 児 童 生 徒 教 育	2	講	VI		

選択科目B(SB)

(A国際教育SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
心 理 学 概 論	2	講	I		社会福祉士 (心理学と心理的 支援)	
心 理 学 統 計 法 I	1	演	II			
心 理 学 統 計 法 II	1	演	II			
人 間 理 解 の 心 理 学	2	講	II			

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A国際教育SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	国際教育選修	

⑮ 情報教育

初等教育教員養成課程 情報教育選修〔A類 情報教育〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目から、4単位以上を修得する。

（A情報教育専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
教 育 情 報 化 教 材 論 A	2	講演	Ⅲ	大学独自(小, 中, 高)	
教 育 情 報 化 教 材 論 B	2	講演	Ⅳ	大学独自(小, 中, 高)	
教 育 情 報 化 臨 床	2	講演	Ⅵ	大学独自(小, 中, 高)	

専攻に関する科目

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので、10単位を必ず修得する。

（A情報教育S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
情 報 教 育 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
教 育 と 情 報	2	講演	Ⅱ	大学独自(小, 中, 高)	
授 業 に お け る ICT 活 用	2	講演	Ⅲ	大学独自(小, 中, 高)	
情 報 教 育 概 論	2	講演	Ⅲ	大学独自(小, 中, 高)	
情 報 数 学 基 礎	2	講演	Ⅰ		

選択科目A(SA)

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から、18単位以上を修得する。

（A情報教育SA）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
情 報 メ デ ィ ア 論	2	講演	Ⅳ	大学独自(小, 中, 高)	
ソ フ ト ウ ェ ア シ ス テ ム 概 論	2	講演	Ⅱ		
ハ ー ド ウ ェ ア 工 学 演 習 A	1	演	Ⅴ		
ハ ー ド ウ ェ ア 工 学 演 習 B	1	演	Ⅵ奇		
ハ ー ド ウ ェ ア 工 学 演 習 C	1	演	Ⅵ偶		
社 会 情 報 学 演 習 A	1	演	Ⅴ		
社 会 情 報 学 演 習 B	1	演	Ⅵ奇		
社 会 情 報 学 演 習 C	1	演	Ⅵ偶		
ICT 教 授 学 習 支 援 演 習 A	1	演	Ⅴ		
ICT 教 授 学 習 支 援 演 習 B	1	演	Ⅵ奇		
ICT 教 授 学 習 支 援 演 習 C	1	演	Ⅵ偶		
情 報 教 育 学 演 習 A	1	演	Ⅴ		
情 報 教 育 学 演 習 B	1	演	Ⅵ奇		
情 報 教 育 学 演 習 C	1	演	Ⅵ偶		

選択科目B(SB)

(A情報教育SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
知 覚 ・ 認 知 心 理 学	2	講	Ⅳ		
情 報 科 学 の た め の 微 分 積 分 Ⅰ	2	講演	Ⅰ		
情 報 科 学 の た め の 微 分 積 分 Ⅱ	2	講演	Ⅱ		
情 報 科 学 の た め の 線 形 代 数 Ⅰ	2	講演	Ⅰ		
情 報 科 学 の た め の 線 形 代 数 Ⅱ	2	講演	Ⅱ		
デ ー タ 分 析 の 基 礎 Ⅰ	2	講演	Ⅲ		
デ ー タ 分 析 の 基 礎 Ⅱ	2	講演	Ⅳ		
計 算 機 シ ス テ ム 概 説	2	講演	Ⅰ		
プ ロ グ ラ ミ ン グ Ⅰ	2	講	Ⅰ		
プ ロ グ ラ ミ ン グ 演 習 Ⅰ	2	演	Ⅰ		
プ ロ グ ラ ミ ン グ Ⅱ	2	講	Ⅱ		
プ ロ グ ラ ミ ン グ 演 習 Ⅱ	2	演	Ⅱ		
応 用 プ ロ グ ラ ミ ン グ	2	講演	Ⅲ		
数 値 計 算	2	講演	Ⅲ		
ソ フ ト ウ ェ ア 工 学 演 習 A	1	演	V		
ソ フ ト ウ ェ ア 工 学 演 習 B	1	演	Ⅵ奇		
ソ フ ト ウ ェ ア 工 学 演 習 C	1	演	Ⅵ偶		
計 算 機 科 学 演 習 A	1	演	V		
計 算 機 科 学 演 習 B	1	演	Ⅵ奇		
計 算 機 科 学 演 習 C	1	演	Ⅵ偶		
対 話 メ デ ィ ア 工 学 演 習 A	1	演	V		
対 話 メ デ ィ ア 工 学 演 習 B	1	演	Ⅵ奇		
対 話 メ デ ィ ア 工 学 演 習 C	1	演	Ⅵ偶		
知 能 情 報 工 学 演 習 A	1	演	V		
知 能 情 報 工 学 演 習 B	1	演	Ⅵ奇		
知 能 情 報 工 学 演 習 C	1	演	Ⅵ偶		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A情報教育SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	ⅦⅧ	情報教育選修	

⑯ 環境教育

初等教育教員養成課程 環境教育選修〔A類 環境教育〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

（A環境教育専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
環 境 教 育 カ リ キ ュ ラ ム ・ 方 法 論	2	講演	Ⅲ	大学独自(幼, 小, 中, 高)	
環 境 教 育 と 情 報	2	講演	Ⅲ	大学独自(幼, 小, 中, 高)	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、14単位を必ず修得する。

（A環境教育S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
環 境 教 育 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	I		
自 然 環 境 調 査 法 A	2	演	Ⅲ		
自 然 環 境 調 査 法 B	2	演	Ⅲ		
地 域 の 環 境 学 と 農 的 体 験 I	2	講演	Ⅳ		
環 境 と 産 業 社 会	2	講	Ⅱ		
地 球 環 境 論	2	講	I		
環 境 教 育 概 論	2	講演	Ⅱ		

選択科目A(SA)

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から、14単位以上を修得する。

（A環境教育SA）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
環 境 教 育 実 習 I	2	演	Ⅲ (集中)		
環 境 教 育 実 習 II	2	演	Ⅳ		
環 境 教 育 演 習 I	2	演	Ⅴ		
環 境 教 育 演 習 II	2	演	Ⅵ		
環 境 教 育 演 習 III	2	演	Ⅶ		
環 境 教 育 演 習 IV	2	演	Ⅷ		
社 会 環 境 調 査 法	2	講	Ⅳ		
地 域 の 環 境 学 と 農 的 体 験 II	2	講演	Ⅳ		
エ コ ス ク ー ル 論	2	講	Ⅳ		

(A環境教育SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
都 市 環 境 論	2	講	V			
環 境 問 題 研 究 A	2	講	V 奇			
環 境 問 題 研 究 B	2	講	V 偶			
植 物 進 化 生 態 学	2	講	IV			
環 境 保 全 生 態 学	2	講	I			
自 然 環 境 実 験 I	1	実	Ⅲ (集中)			
自 然 環 境 実 験 II	1	実	V			
地 球 環 境 論 演 習	2	演	II			
河 川 環 境 論	2	講	V			
博 物 館 と 展 示 の 活 用	2	講	IV		学芸員 (博物館展示論)	
自 然 体 験 学 習 論	2	講	V			
自 然 体 験	2	講演	V			

選択科目B(SB)

(A環境教育SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
社 会 学 概 論	2	講	I	社会学	
法 学 政 治 学 概 論	2	講	II	法律学(国際法を含む) 政治学(国際政治を含む)	
地 理 学 概 論	2	講	I	地理学 人文地理学	
自 然 環 境	2	講	III	地理学 自然地理学	
物 理 学 実 験	1	実	I・II	物理学実験(コンピュータ活用を含む)	
化 学 実 験	1	実	I・II	化学実験(コンピュータ活用を含む)	
地 学 実 験	1	実	I・II	地学実験(コンピュータ活用を含む)	
生 物 学 実 験	1	実	I・II	生物学実験(コンピュータ活用を含む)	
化 学 概 論	2	講	I	化学	
生 物 学 概 論	2	講	III	生物学	

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A環境教育SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	VII/VIII	環境教育選修	

⑪ ものづくり技術

初等教育教員養成課程 ものづくり技術選修〔A類 ものづくり技術〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

（Aものづくり技術専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
も の づ く り 教 育 と 教 材	2	講	Ⅳ	大学独自(幼, 小, 中, 高)	
も の づ く り 教 育 臨 床	2	講	Ⅲ	大学独自(幼, 小, 中, 高)	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、10単位を必ず修得する。

（Aものづくり技術S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
も の づ く り 技 術 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
工 業 数 学 Ⅰ	2	講	Ⅰ		
工 業 物 理 学 Ⅰ	2	講	Ⅰ		
情 報 と も の づ く り	2	講演	Ⅱ		
電 気 と も の づ く り	2	講演	Ⅳ		

選択科目A(SA)

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から、18単位以上を修得する。

（Aものづくり技術SA）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
基 礎 製 図	2	講実	Ⅰ	木材加工(製図及び実習を含む) 工業	
金 属 加 工 Ⅰ	3	講実	Ⅱ	金属加工(製図及び実習を含む) 工業	
栽 培	3	講実	Ⅲ	栽培(実習を含む)	
工 業 数 学 Ⅱ	2	講	Ⅱ		
工 業 物 理 学 Ⅱ	2	講	Ⅱ		
も の づ く り 特 別 演 習 Ⅰ	2	講演	Ⅴ		
も の づ く り 特 別 演 習 Ⅱ	2	講演	Ⅴ		
も の づ く り 特 別 演 習 Ⅲ	2	講演	Ⅴ		
も の づ く り 特 別 演 習 Ⅳ	2	講演	Ⅴ		
も の づ く り 特 別 演 習 Ⅴ	2	講演	Ⅴ		
も の づ く り 特 別 演 習 Ⅵ	2	講演	Ⅴ		

選択科目B(SB)

(Aものづくり技術SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
木 材 加 工 概 論	2	講	I	木材加工(製図及び実習を含む) 工業	
木 材 加 工 I	1	実	II	木材加工(実習を含む) 工業	
木 材 加 工 II	3	講実	III	木材加工(製図及び実習を含む) 工業	
金 属 加 工 II	2	講	IV	金属加工 工業	
機 械 工 学 の 基 礎	3	講実	IV	機械(実習を含む) 工業	
電 気 回 路	3	講実	III	電気(実習を含む) 工業	
応 用 情 報 処 理 I	2	講演	III	情報とコンピュータ(実習を含む) 工業	
職 業 指 導	2	講	V	職業指導	
近 現 代 社 会 と 技 術 ・ 職 業 教 育	2	講	VIII		
科 学 技 術 と 技 術 科 の 授 業	2	講	V	大学独自(中(技), 高(工))	
技 術 ・ 工 業 と 情 報	2	講演	II	情報とコンピュータ(実習を含む) 工業	
応 用 情 報 処 理 II	2	講演	V 偶	情報とコンピュータ(実習を含む) 工業	
応 用 情 報 処 理 III	2	講演	V 奇	情報とコンピュータ(実習を含む) 工業	
計 算 機 ハ ー ド ウ ェ ア	2	講演	III	コンピュータ及び情報処理 (実習を含む)	中(技術)、高校(工業) 使用不可
計 測 と 制 御	2	講演	VI	コンピュータ及び情報処理 (実習を含む)	中(技術)、高校(工業) 使用不可
電 子 物 性 論	2	講	VI 奇	電気 工業	
情 報 処 理 特 別 演 習	2	講演	VI		
電 子 物 性 特 別 演 習	2	講演	VI		
熱 ・ 流 体 工 学 特 別 演 習	2	講演	VI		
機 械 工 学 特 別 演 習	2	講演	VI		
技 術 ・ 職 業 教 育 学 特 別 演 習	2	講演	VI		
加 工 ・ も の づ く り 特 別 演 習	2	講演	VI		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(Aものづくり技術SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	VII VIII	ものづくり技術選修	

⑮ 幼児教育

初等教育教員養成課程 幼児教育選修〔A類 幼児教育〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目は必修なので、 8 単位を必ず修得する。

（A幼児教育専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
保 育 者 論	2	講	Ⅵ	大学独自（幼）	
乳 幼 児 心 理 学	2	講	Ⅰ	大学独自（幼）	
幼 児 教 育 学	2	講	Ⅰ	大学独自（幼）	
幼 児 の 健 康 指 導 研 究	2	講	Ⅶ	大学独自（幼）	

幼稚園の教科に関する専門的事項（SK）

下記の授業科目は必修なので、 16 単位を必ず修得する。

（ 幼 教 ）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
音 楽 表 現 Ⅰ	2	演	Ⅰ	音楽	
ピ ア ノ 基 礎 Ⅰ	2	演	Ⅲ	音楽	
保 健 体 育 Ⅰ	2	演	Ⅰ	体育	
保 健 体 育 Ⅱ	2	演	Ⅳ	体育	
美 術 Ⅰ	2	演	Ⅰ	図画工作	
美 術 Ⅱ	2	演	Ⅲ	図画工作	
国 語 科 研 究	2	講	Ⅴ	国語（書写を含む）	
生 活 科 研 究	2	講	Ⅴ・Ⅵ	生活	

専攻に関する科目

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので、 14 単位を必ず修得する。

（A幼児教育S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
幼 児 教 育 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
乳 児 保 育 Ⅰ	2	講	Ⅰ		
保 育 原 理	2	講	Ⅳ	大学独自（幼）	
子 ど も 家 庭 支 援 の 心 理 学	2	講	Ⅵ		
幼 児 体 育 特 講	2	演	Ⅴ	保育内容「健康」	
保 育 内 容 総 論	2	演	Ⅳ		
幼 児 教 育 と 情 報	2	演	Ⅱ	大学独自（幼）	

選択科目A(SA)

選択科目Aから10単位以上を修得し、選択科目Bと併せて18単位以上を修得する。

(A幼児教育SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
音 楽 表 現 II	2	演	II		
総 合 音 楽 表 現	2	演	VI	保育内容「表現」	
幼 児 心 理 学 演 習 I	2	演	IV		
幼 児 心 理 学 演 習 II	2	演	V		
子 ども 家 庭 支 援 論	2	講	II		
子 ども の 健 康 と 安 全	2	演	III		
障 害 児 保 育	2	演	III		
保 育 臨 床 相 談	2	演	VII		
ピ ア ノ 基 礎 II	2	演	IV		
ピ ア ノ 表 現 演 習	2	演	V		
幼 児 の 身 体 表 現	2	演	V	保育内容「表現」	
乳 児 保 育 II	2	演	II		
社 会 的 養 護 I	2	講	II		
社 会 的 養 護 II	2	演	IV		
小 児 栄 養 演 習	2	演	II		
保 育 実 習 I	2	実	IV (集中)		
保 育 実 習 II	2	実	VI (集中)		
保 育 実 習 事 前 ・ 事 後 指 導	2	演	III		
保 育 実 習 III	2	実	VII (集中)		

選択科目B(SB)

(A幼児教育SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
社 会 福 祉 原 論 I	2	講	I		社会福祉士 (社会福祉の原理と政策)	
児 童 福 祉 論	2	講	III		社会福祉士 (児童・家庭福祉)	
発 達 心 理 学 (乳 幼 児 期)	2	講	I			

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A幼児教育SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	幼児教育選修	

① 技術

中等教育教員養成課程 技術専攻〔B類 技術〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目は必修なので、8単位を必ず修得する。

（B技術専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
科 学 技 術 と 技 術 科 の 授 業	2	講	V	大学独自(中(技), 高(工))	
技 術 ・ 工 業 と 情 報	2	講演	II	情報とコンピュータ(実習を含む) 工業	
も の づ く り 教 育 と 教 材	2	講	IV	大学独自(幼, 小, 中, 高)	
も の づ く り 教 育 臨 床	2	講	III	大学独自(幼, 小, 中, 高)	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、31単位を必ず修得する。

（B技術S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
技 術 専 攻 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	I		
基 礎 製 図	2	講実	I	木材加工(製図及び実習を含む) 工業	
木 材 加 工 概 論	2	講	I	木材加工(製図及び実習を含む) 工業	
木 材 加 工 I	1	実	II	木材加工(実習を含む) 工業	
金 属 加 工 I	3	講実	II	金属加工(製図及び実習を含む) 工業	
機 械 工 学 の 基 礎	3	講実	IV	機械(実習を含む) 工業	
工 業 数 学 I	2	講	I		
工 業 数 学 II	2	講	II		
工 業 物 理 学 I	2	講	I		
工 業 物 理 学 II	2	講	II		
電 気 回 路	3	講実	III	電気(実習を含む) 工業	
応 用 情 報 処 理 I	2	講演	III	情報とコンピュータ(実習を含む) 工業	
栽 培	3	講実	III	栽培(実習を含む)	
職 業 指 導	2	講	V	職業指導	

選択科目A(SA)

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から、併せて21単位以上を修得する。

(B技術SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
木 材 加 工 II	3	講実	Ⅲ	木材加工(製図及び実習を含む) 工業	
金 属 加 工 II	2	講	Ⅳ	金属加工 工業	
電 磁 波 概 論	2	講	Ⅳ	電気(実習を含む) 工業	
電 子 工 学 概 論	2	講演	Ⅵ	電気 工業	
半 導 体 概 論	2	講	Ⅵ偶	電気 工業	
電 子 物 性 論	2	講	Ⅵ奇	電気 工業	
電 子 物 性 特 別 演 習	2	講演	Ⅵ		
応 用 情 報 処 理 II	2	講演	Ⅴ偶	情報とコンピュータ(実習を含む) 工業	
応 用 情 報 処 理 III	2	講演	Ⅴ奇	情報とコンピュータ(実習を含む) 工業	
応 用 情 報 処 理 IV	2	講演	Ⅶ		
情 報 処 理 特 別 演 習	2	講演	Ⅵ		
機 械 工 学 A I	2	講	Ⅳ	機械 工業	
機 械 工 学 A II	2	講演	Ⅴ	機械 工業	
機 械 工 学 B	2	講	Ⅵ	機械 工業	
流 体 力 学	2	講	Ⅴ		
熱・流体工学特別演習	2	講演	Ⅵ		
近現代社会と技術・職業教育	2	講	Ⅷ		
技術・職業教育学特別演習	2	講演	Ⅵ		
機 械 工 学 特 別 演 習	2	講演	Ⅵ		
加 工・ものづくり特別演習	2	講演	Ⅵ		

選択科目B(SB)

(B技術SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
自 然 科 学 の た め の 数 学 A	2	講	Ⅰ		
自 然 科 学 の た め の 数 学 B	2	講	Ⅱ		
計 算 機 ハ ー ド ウ ェ ア	2	講演	Ⅲ	コンピュータ及び情報処理 (実習を含む)	中(技術)、高校 (工業)使用不可
計 測 と 制 御	2	講演	Ⅵ	コンピュータ及び情報処理 (実習を含む)	中(技術)、高校 (工業)使用不可
物 理 数 学 I	2	講	Ⅲ		
物 理 数 学 II	2	講	Ⅳ		
情 報 メ デ ィ ア 論	2	講演	Ⅳ	大学独自(小, 中, 高)	

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(B技術SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	技術専攻	

② 書道

中等教育教員養成課程 書道専攻〔B類 書道〕

教科・教職に関する科目(専攻SE)

下記の授業科目は必修なので、8単位を必ず修得する。

(B書道専攻SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
書 道 科 と 情 報	2	演	Ⅱ	大学独自(高(書))	
書 道 科 教 材 論 Ⅰ	2	演	Ⅳ	大学独自(高(書))	
書 道 科 教 材 論 Ⅱ	2	演	Ⅵ	大学独自(高(書))	
書 道 科 カ リ キ ュ ラ ム ・ 評 価 論	2	講	Ⅱ	大学独自(高(書))	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、40単位を必ず修得する。

(B書道S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
書 道 専 攻 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
漢 字 研 究 Ⅰ	2	演	Ⅰ	書道(書写を含む)	
漢 字 研 究 Ⅱ	2	演	Ⅲ	書道(書写を含む)	
仮 名 研 究 Ⅰ	2	演	Ⅰ	書道(書写を含む)	
漢 字 仮 名 交 じ り 研 究 Ⅰ	2	演	Ⅱ	書道	
篆 刻 ・ 刻 字	2	演	Ⅱ	書道	
日 本 語 文 法	2	講	Ⅲ	国語学	
書 道 史 研 究 Ⅰ	2	講	Ⅱ	書道史	
書 道 史 研 究 Ⅱ	2	講	Ⅲ	書道史	
書 論 研 究	2	演	Ⅵ	書論	
書 学 Ⅰ	2	講	Ⅳ	書論	
日 本 語 学 概 論 Ⅰ	2	講	Ⅰ	国語学(音声言語, 文章表現を含む)	
日 本 語 学 概 論 Ⅱ	2	講	Ⅱ	国語学(音声言語, 文章表現を含む)	
日 本 文 学 概 論 Ⅰ	2	講	Ⅰ	国文学	
日 本 文 学 概 論 Ⅱ	2	講	Ⅱ	国文学	
日 本 文 学 史 Ⅰ	2	講	Ⅰ	国文学(国文学史を含む)	
日 本 文 学 史 Ⅱ	2	講	Ⅱ	国文学(国文学史を含む)	
中 国 古 典 文 基 礎	2	講	Ⅱ	漢文学	
中 国 古 典 文 学 概 論	2	講	Ⅰ	漢文学	
中 国 古 典 文 献 概 論	2	講	Ⅰ	漢文学	

選択科目A(SA)

選択科目Aから、※印の授業科目「漢字研究Ⅲ」「仮名研究Ⅱ」「書作品制作研究」「中学書写B」の4科目8単位を必ず修得し、更に、選択科目A及び選択科目Bの◎印の授業科目の中から3科目6単位以上を含めて、14単位以上を修得する。

(B書道SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
漢 字 研 究 Ⅲ	2	演	Ⅳ	書道	※
仮 名 研 究 Ⅱ	2	演	Ⅲ	書道	※
漢 字 仮 名 交 じ り 研 究 Ⅱ	2	演	Ⅳ	書道	
書 作 品 制 作 研 究	2	演	Ⅵ	書道	※
中 学 書 写 B	2	講実	Ⅳ	書道(書写中心)(中免のみ)	※
中 国 古 典 演 習 A	2	演	Ⅲ	漢文学	◎
中 国 古 典 演 習 B	2	演	Ⅳ	漢文学	◎
書 写 ・ 書 道 教 育 史	2	講	Ⅳ (集中)		
書 道 史 研 究 Ⅲ	2	講	Ⅵ (集中)	書道史	
書 学 Ⅱ	2	演	Ⅵ		
書 鑑 賞 教 育 研 究	2	講	Ⅴ (集中)	書道	
書 鑑 賞 研 究	2	講演	Ⅳ奇 (集中)		
近 代 文 学 演 習 A	2	演	Ⅲ	国文学	◎
近 代 文 学 演 習 B	2	演	Ⅲ	国文学	◎
近 代 文 学 演 習 C	2	演	Ⅳ	国文学(中高(国語)のみ)	◎
近 代 文 学 演 習 D	2	演	Ⅳ	国文学(中高(国語)のみ)	◎
古 典 文 学 演 習 E	2	演	Ⅲ	国文学(中高(国語)のみ)	◎
古 典 文 学 演 習 F	2	演	Ⅲ	国文学	◎
古 典 文 学 演 習 G	2	演	Ⅲ	国文学	◎
古 典 文 学 演 習 H	2	演	Ⅳ	国文学	◎
古 典 文 学 演 習 I	2	演	Ⅳ	国文学	◎

選択科目B(SB)

(B書道SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
日 本 語 学 演 習 A	2	演	Ⅲ	国語学	◎
日 本 語 学 演 習 B	2	演	Ⅳ	国語学	◎

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(B書道SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	ⅦⅧ	書道専攻	

特別支援教育教員養成課程〔C類〕

教科・教職に関する科目(専攻SE)

下記の授業科目から、「特別な教育的ニーズの理解と支援」を含めて、2科目4単位以上を修得する。

(C特別支援教育専攻SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考(対象)
特 別 支 援 教 育 と 情 報	2	講演	Ⅱ	大学独自(小・中)	
特 別 支 援 教 育 臨 床	2	演	Ⅱ	大学独自(小・中)	
特別な教育的ニーズの理解と支援	2	演	V	教職	必修
○ 取得希望教科に対応する 「大学が独自に設定する科目」	2科目4単位			大学独自	中免

◎基礎となる免許状取得のための履修方法

(小免コース)

小免コースは、基礎となる免許状として「小学校教諭一種免許状」を必ず修得する。そのために「教科に関する専門的事項(SP)」から**指定修得単位数の科目10単位**(p.61参照)、及び必修指定以外の「教科に関する専門的事項(SP)」,卒業基準を超えて修得する「共通SE」,「専攻SE」から**6単位以上**,の**合計16単位以上**を修得する。

(中免コース)

中免コースは、基礎となる免許状として希望する教科の「中学校教諭一種免許状」を必ず修得する。そのために希望する教科の「教科に関する専門的事項」から20単位以上修得し、取得する各免許教科に対応した「大学が独自に設定する科目」と併せて**24単位以上**を修得する。

なお、「教科に関する専門的事項」はC類対象としては開設されないので、中学校免許状取得に必要な科目は、後出の「教育職員免許状取得に必要な単位及び履修方法」に定められている必修科目を含め、各教科の「専攻に関する科目」から選択履修すること。

専攻に関する科目

各専攻共通

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、26単位を必ず修得する。

(C特別支援教育S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考(対象)
特 別 支 援 教 育 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	I		
特 別 支 援 教 育 概 論	2	講	I	特別支援(基礎理論)	
聴覚言語障害心理・生理・病理A	2	講	Ⅱ	特別支援(聴覚障害)	
聴覚言語障害心理・生理・病理B	2	講	Ⅳ	特別支援(聴覚障害)	
知的障害心理・生理・病理	2	講	I	特別支援(知的障害)	
肢体不自由心理・生理・病理	2	講	Ⅲ	特別支援(肢体不自由)	
病弱心理・生理・病理	2	講	Ⅲ	特別支援(病弱者)	
聴覚言語障害教育学A	2	講	I	特別支援(聴覚障害)	
聴覚言語障害教育学B	2	講	Ⅲ	特別支援(聴覚障害)	
知的障害教育学	2	講	Ⅱ	特別支援(知的障害)	
肢体不自由教育学	2	講	Ⅳ	特別支援(肢体不自由)	
病弱教育学	2	講	Ⅳ	特別支援(病弱者)	
特 別 支 援 教 育 研 究 法	2	講	Ⅵ		

聴覚障害教育専攻

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、12単位を必ず修得する。

(C特別支援教育S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考(対象)
聴 覚 障 害 教 育 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(聴覚障害)	
聴 覚 障 害 心 理 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(聴覚障害)	
聴 覚 障 害 指 導 法	2	演	Ⅳ	特別支援(聴覚障害)	
聴 覚 障 害 児 教 育 演 習	2	演	Ⅶ	特別支援(聴覚障害)	
障 害 児 教 育 総 論	2	講	Ⅱ	特別支援(領域外)	共通開設
重 複 障 害 教 育 総 論	2	講	Ⅳ	特別支援(重複・LD)	共通開設

言語障害教育専攻

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、12単位を必ず修得する。

(C特別支援教育S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考(対象)
言 語 障 害 教 育 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(重複・LD)	
言 語 障 害 心 理 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(重複・LD)	
言 語 障 害 指 導 法	2	演	Ⅳ	特別支援(重複・LD)	
言 語 障 害 児 教 育 演 習	2	演	Ⅶ	特別支援(重複・LD)	
障 害 児 教 育 総 論	2	講	Ⅱ	特別支援(領域外)	共通開設
重 複 障 害 教 育 総 論	2	講	Ⅳ	特別支援(重複・LD)	共通開設

発達障害教育専攻

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、12単位を必ず修得する。

(C特別支援教育S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考(対象)
発 達 障 害 教 育 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(知的障害)	
発 達 障 害 心 理 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(知的障害)	
発 達 障 害 指 導 法	2	演	Ⅳ	特別支援(知的障害)	
発 達 障 害 児 教 育 演 習	2	演	Ⅶ	特別支援(知的障害)	
障 害 児 教 育 総 論	2	講	Ⅱ	特別支援(領域外)	共通開設
重 複 障 害 教 育 総 論	2	講	Ⅳ	特別支援(重複・LD)	共通開設

学習障害教育専攻

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、12単位を必ず修得する。

(C特別支援教育S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考(対象)
学 習 障 害 教 育 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(重複・LD)	
学 習 障 害 心 理 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(重複・LD)	
学 習 障 害 指 導 法	2	演	Ⅳ	特別支援(重複・LD)	
学 習 障 害 児 教 育 演 習	2	演	Ⅶ	特別支援(重複・LD)	
障 害 児 教 育 総 論	2	講	Ⅱ	特別支援(領域外)	共通開設
重 複 障 害 教 育 総 論	2	講	Ⅳ	特別支援(重複・LD)	共通開設

各専攻共通

選択科目A(SA)

下記の授業科目から、専攻ごとの履修方法により6単位以上を修得する。

聴覚障害教育専攻、発達障害教育専攻は、「言語障害」「学習障害」の領域から1科目2単位ずつ、計4単位を含めて、修得する。

言語障害教育専攻は「学習障害」の領域から、学習障害教育専攻は「言語障害」の領域から1科目2単位を含めて、修得する。

(C特別支援教育SA)

領 域	授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
聴 覚 障 害	聴 覚 障 害 教 育 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(聴覚障害)		聴覚 不可
	聴 覚 障 害 心 理 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(聴覚障害)		聴覚 不可
	聴 覚 障 害 指 導 法	2	演	Ⅳ	特別支援(聴覚障害)		聴覚 不可
言 語 障 害	言 語 障 害 教 育 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(重複・LD)		言語 不可
	言 語 障 害 心 理 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(重複・LD)		言語 不可
	言 語 障 害 指 導 法	2	演	Ⅳ	特別支援(重複・LD)		言語 不可
発 達 障 害	発 達 障 害 教 育 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(知的障害)		発達 不可
	発 達 障 害 心 理 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(知的障害)		発達 不可
	発 達 障 害 指 導 法	2	演	Ⅳ	特別支援(知的障害)		発達 不可
学 習 障 害	学 習 障 害 教 育 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(重複・LD)		学習 不可
	学 習 障 害 心 理 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(重複・LD)		学習 不可
	学 習 障 害 指 導 法	2	演	Ⅳ	特別支援(重複・LD)		学習 不可
そ の 他	障 害 者 福 祉 論	2	講	Ⅳ		社会福祉士 (障害者福祉)	

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(C特別支援教育SZ)

授 業 科 目				単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒	業	研	究	④	VIIⅧ	聴覚障害教育専攻	
卒	業	研	究	④	VIIⅧ	言語障害教育専攻	
卒	業	研	究	④	VIIⅧ	発達障害教育専攻	
卒	業	研	究	④	VIIⅧ	学習障害教育専攻	

養護教育教員養成課程 養護教育専攻〔D類 養護教育〕

養護・教職に関する科目(専攻SE)

下記の授業科目は必修なので、8単位を必ず修得する。

(D養護教育専攻SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
健 康 教 育 概 説	2	講	V	大学独自(養護)	
健 康 調 査 の 理 論 と 演 習 I	2	講演	VI	大学独自(養護)	
健 康 調 査 の 理 論 と 演 習 II	2	講演	VI	大学独自(養護)	
養 護 活 動 論	2	講	III	大学独自(養護)	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、47単位を必ず修得する。

(D養護教育S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
養 護 教 育 専 攻 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	I			
衛 生 ・ 公 衆 衛 生 学	2	講	II	衛生学及び公衆衛生学(予防医学を含む)		
保 健 行 動 科 学	2	講	III	衛生学及び公衆衛生学(予防医学を含む)		
小 児 科 学	2	講	IV	学校保健(小児保健, 精神保健, 学校安全及び救急処置を含む)		
学 校 安 全 と 危 機 管 理	2	講	III	学校保健(学校安全を含む)		
養 護 概 説	2	講	II	養護概説		
健 康 相 談 活 動 の 理 論 と 方 法	2	講演	VI	健康相談活動の理論及び方法		
健 康 と 栄 養	2	講	IV	栄養学(食品学を含む)		
解 剖 学	2	講	I	解剖学及び生理学 生理学(中高 保健)		
生 理 学	2	講	II	解剖学及び生理学 生理学(中高 保健)		
感 染 免 疫 学	2	講	III	微生物学 免疫学 薬理概論		
薬 理 学	2	講	III	微生物学 免疫学 薬理概論		
精 神 保 健 学 概 論	2	講	IV	精神保健	スクール(学校)ソーシャル ワーカー (精神保健の課題と支援)	
臨 床 医 学 I	2	講	III	看護学(救急処置を含む)		
臨 床 医 学 II	2	講	IV	看護学(救急処置を含む)		
学 校 保 健 学	2	講	II	学校保健(小児保健, 精神保健, 学校安全及び救急処置を含む)		
救 急 処 置 の 理 論 と 演 習	2	講演	V	学校保健(救急処置を含む)		
学 校 保 健 基 礎 セ ミ ナ ー	2	講	I	学校保健(小児保健, 精神保健, 学校安全及び救急処置を含む)		
学 校 看 護 学 理 論 と 演 習 I	2	講演	IV	看護学(救急処置を含む)		
学 校 看 護 学 理 論 と 演 習 II	2	講演	V	看護学(救急処置を含む)		
学 校 看 護 学 理 論 と 演 習 III	2	講演	V	看護学(救急処置を含む)		
学 校 看 護 学 理 論 と 演 習 IV	2	講演	VI	看護学(救急処置を含む)		

(D養護教育S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
臨 床 実 習 I	1	実	V (集中)	看護学(臨床実習及び救急処置を含む)	
臨 床 実 習 II	2	実	VI (集中)	看護学(臨床実習及び救急処置を含む)	

選択科目A(SA)

選択科目Aから6単位以上を修得し、選択科目Bと併せて10単位以上を修得する。

(D養護教育SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
学 校 看 護 学 概 論	2	講	III	健康相談活動の理論及び方法	
小 児 ・ 思 春 期 保 健 学	2	講	IV	学校保健(小児保健, 精神保健を含む)	
歯 科 保 健	2	講	VI	看護学(救急処置を含む)	
人 間 の 性 と 健 康	2	講	III	学校保健(小児保健, 精神保健を含む)	
病 弱 児 障 害 児 養 護 学	2	講	V	看護学(救急処置を含む)	
フ ィ ジ カ ル ア セ ス メ ン ト	2	講演	V	看護学(救急処置を含む)	
臨 床 医 学 III	2	講	V	看護学(救急処置を含む)	
臨 床 医 学 IV	2	講	V	看護学(救急処置を含む)	
臨 床 医 学 V	2	講	VI	学校保健(小児保健, 救急処置を含む)	
養 護 実 践 学	2	講	VII	養護概説	
健 康 支 援 ネットワーク 論 (外 国 語 活 用 科 目)	2	講演	VII	衛生学及び公衆衛生学 (予防医学を含む)	
精 神 保 健 学 各 論	2	講	V	精神保健	

選択科目B(SB)

(D養護教育SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
児 童 福 祉 論	2	講	III		社会福祉士 (児童・家庭福祉)	
地 域 福 祉 論 I	2	講	IV		社会福祉士 (地域福祉と包括的 支援体制)	
ス ク ー ル ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 論	2	講	VI		スクール(学校) ソーシャルワーカー	
特 別 支 援 教 育 概 論	2	講	I	特別支援(基礎理論)		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(D養護教育SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	養護教育専攻	

22

学校教育系学生のための 教員免許状の取得方法

2 2 学校教育系学生のための教員免許状の取得方法

(1) 幼稚園教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法	138
(2) 小学校教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法	140
(3) 中学校教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法	142
(4) 高等学校教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法	143
(5) 中学校・高等学校教諭各種免許状取得に必要な「教科に関する専門的事項」、 「各教科の指導法」及び「大学が独自に設定する科目」の履修方法（教科別）	
・ 中学校教諭一種免許状（国語）	144
・ 高等学校教諭一種免許状（国語）	145
・ 中学校教諭一種免許状（社会）	146
・ 高等学校教諭一種免許状（地理歴史）	147
・ 高等学校教諭一種免許状（公民）	147
・ 中学校教諭一種免許状（数学）	148
・ 高等学校教諭一種免許状（数学）	149
・ 中学校教諭一種免許状（理科）	150
・ 高等学校教諭一種免許状（理科）	151
・ 中学校教諭一種免許状（音楽）	152
・ 高等学校教諭一種免許状（音楽）	153
・ 中学校教諭一種免許状（美術）	154
・ 高等学校教諭一種免許状（美術）	155
・ 高等学校教諭一種免許状（工芸）	156
・ 中学校教諭一種免許状（保健体育）	157
・ 高等学校教諭一種免許状（保健体育）	158
・ 中学校教諭一種免許状（保健）	159
・ 高等学校教諭一種免許状（保健）	160
・ 中学校教諭一種免許状（家庭）	161
・ 高等学校教諭一種免許状（家庭）	162
・ 中学校教諭一種免許状（技術）	163
・ 高等学校教諭一種免許状（工業）	164
・ 中学校教諭一種免許状（英語）	165
・ 高等学校教諭一種免許状（英語）	166
・ 高等学校教諭一種免許状（書道）	167
(6) 各種免許状取得に必要な「大学が独自に設定する科目」について	168
(7) 特別支援学校教諭免許状取得に必要な「特別支援教育に関する科目」の履修方法	173
(8) 養護教諭一種免許状の取得に必要な授業科目の履修方法	175

(1) 幼稚園教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法

①A類幼児教育選修の学生の履修方法(主免許)

②幼児教育選修を除くA類学生(C類小免コース含む)の履修方法

③小学校教諭普通免許状を取得せずに幼稚園教諭普通免許状を取得するB類学生(C類中免コース含む)の履修方法
(B類学生であっても、小学校教諭免許状取得予定者は、②と同じ単位の修得方法となります。)

免許法上の科目区分			本学の対応授業科目等		新規修得単位等(一種)				備 考
			科目名等	単位	履修方法	①	②	③	
領域及び 保育内容 の指導法 に関する 科目	領域に關 する専門 的事項 (小学校の 教科に關 する専門 的事項)	国語 (書写含む。)	国語科研究	2	A類(SP), 幼児教育 (SK)から修得する	2	p.139 表1	2	
		算 数	算数科研究	2				2	
		生 活	生活科研究	2		2		2	
		音 楽	音楽科研究Ⅰ・Ⅱ	各1				2	
		図 画 工 作	図画工作科研究Ⅰ・Ⅱ	各1				2	
		体 育	体育科研究Ⅰ・Ⅱ	各1				2	
		その他, 上記以外の幼教(SK)				12			
	保育内容 の指導法 (情報機 器及び教 材の活用 を含む。)	健 康	保育内容「健康」	2	小免取得者は7単位 以上, 小免取得者以 外の者は5領域を満 たし14単位以上修得	2	8	14	(*注1)
		環 境	保育内容「環境」	2		2			
		人 間 関 係	保育内容「人間関係」	2		2			
		言 葉	保育内容「言葉」	2		2			
		表 現	保育内容「表現A～C」	各2		6			
		健 康	幼児体育特講	2		2			
		表 現	総合音楽表現	2					
	表 現	幼児の身体表現	2						
教育の基 礎的理解 に関する 科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門	2	必修	2			
	教育の理念並びに教育に関する歴史及 び思想		教育の理念と歴史	2	必修	2			
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び 学習の過程		教育心理学	2	必修	2			
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び 生徒に対する理解		特別支援教育の理解	2	必修	2			
	教育に関する社会的、制度的又は経営 的事項(学校と地域との連携及び学校安 全への対応を含む。)		教育組織論	2	必修	2			
	教育課程の意義及び編成の方法(カリ キュラム・マネジメントを含む。)		保育・幼児教育課程総論	2	必修	2	2	2	
道徳、総 合的な学 習の時間 等の指導 法及び生 徒指導、 教育相談 等に関する 科目	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び び方法		教育の方法とICT	2	必修	2			
	幼児理解の理論及び方法		幼児理解の理論と方法	2	必修	2	2	2	
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的 な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談の理論と方法	2	必修	2			
教育実践 に関する 科目	教育実習	幼稚園教育実習	5	必修	5				p.54～参照
		小学校教育実習(Z)	2	必修			2 (* 注2)		
		教職実践演習	保育・教職実践演習(幼稚園)	2	必修	2			
大学が独自に設定する科目			後述の(6)各種免許状取得に必要な「大学が独自に設定する科目について」(p.168～) に記載の科目の中から、幼稚園の欄に○がついているものを14単位修得する。 p.139表2により、各自必要単位数を確認すること。 ※小学校、中学校、高等学校教諭普通免許状取得のための「教育課程の理論と実践」の2単位を 充てることができる。						
合 計						71	26	46	

(*注1) 保育内容の指導法は5領域(健康・環境・人間関係・言葉・表現)にわたって履修することが望ましい。ただし、小学校教諭免許状取得者は半数までを小学校の各教科の指導法または特別活動に関する科目をもってあてることができる。

(*注2) B類学生(C類中免コース含む)が幼稚園教諭免許状を取得する場合の教育実習は小学校教育実習(Z)です。小学校教育実習(Z)を受講する前学期終了時まで「初等各教科教育法」3科目6単位以上を修得している必要があります。p.57参照

※「大学が独自に設定する科目」には、他の科目区分の余剰科目分をあてることができる。

前頁「②幼児教育選修を除くA類学生(C類小免コース含む)の履修方法」の補足説明

表1及び表2で計算することにより、「保育内容の指導法」の必要単位数が確認できるとともに、余剰科目数を把握することで、幼稚園免許の取得に必要な「大学が独自に設定する科目」の必要単位数を知ることができる。

【表1】幼稚園免許に使用できる小学校の教科に関する専門的事項(SP)

免許法上の科目区分		本学の授業科目名	単位	取得した(する)単位数
小学校の教科に関する専門的事項	国語(書写を含む。)	国語科研究	2	
	算数	算数科研究	2	
	生活	生活科研究	2	
	音楽	音楽科研究Ⅰ	1	
	図画工作	図画工作科研究Ⅰ	1	
	体育	体育科研究Ⅰ	1	
	音楽	音楽科研究Ⅱ	1	
	図画工作	図画工作科研究Ⅱ	1	
	体育	体育科研究Ⅱ	1	
幼稚園免許に使用できる小学校の教科に関する専門的事項(SP)				合計 単位

※

- 【表1】から、幼稚園免許に使用できる「小学校の教科に関する専門的事項(SP)」の単位数を確認する。
- 次に、1で算出した合計単位数を、【表2】②に記入する。
- 【表2】の計算式では、まず③「保育内容の指導法」の必要単位数を求めることができる。また、⑧余剰単位数を知ること、幼稚園免許の取得に必要な「大学が独自に設定する科目」の必要単位数を確認することができる。なお、履修すべき科目については、p.168～p.172の一覧のうち「幼稚園」欄に○が付いているものを選択すること。

【表2】幼稚園免許の取得に必要な「大学が独自に設定する科目」の単位数

科目区分	単位数
①「領域及び保育内容の指導法に関する科目」の法定必要単位数	16
②「小学校の教科に関する専門的事項(SP)」のうち幼稚園に使用できる単位数(国、算、生、音、図、体)	※ 単位
③「保育内容の指導法」の必要単位数(①－②)	
④うち半数振替分(初等各教科指導法)(③の1/2) 注1	
⑤うち「保育内容の指導法」の単位数(③の1/2) 注2	
⑥本学カリキュラムで定める「保育内容の指導法」の単位数	8
⑦「大学が独自に設定する科目」の法定必要単位数	14 注3
⑧「保育内容の指導法に関する科目」の余剰分(⑥－⑤)	
幼稚園免許の取得に必要な「大学が独自に設定する科目」の単位数(⑦－⑧)	合計 単位

注1 「④うち半数振替分(初等各教科指導法)(③の1/2)」は、小数点以下は切り下げ。

注2 「⑤うち「保育内容の指導法」の単位数(③の1/2)」は、小数点以下は切り上げ。

注3 「教育課程の理論と実践」(2単位)を修得した場合、「14」を「12」に読み替えて計算する。

(2) 小学校教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法

①A類(幼児教育選修を除く)学生、C類小免コースの履修方法(主免許)

②A類幼児教育選修が、小学校教諭普通免許状を取得する場合の履修方法

③B類生(C類中免コース含む)の学生が、小学校教諭普通免許状を選択で取得する場合の履修方法

免許法上の科目区分			本学の対応授業科目等		新規修得単位等(一種)				備 考
			科目名等	単位	履修方法	①	②	③	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語(書写含む)	国語科研究	2	A類(SP)から修得する	p.61参照			別表参照
		社会	社会科研究	2			2		
		算数	算数科研究	2			2		
		理科	理科研究	2			2		
		生活	生活科研究	2					
		家庭	家庭科研究	2			2		
		外国語	英語科研究	2			2		
		音楽	音楽科研究Ⅰ・Ⅱ	各1	10～18		10～18		
		図画工作	図画工作科研究Ⅰ・Ⅱ	各1					
		体育	体育科研究Ⅰ・Ⅱ	各1					
	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	国語(書写含む)	初等国語科教育法	2	10教科20単位必修	2	2	2	
		社会	初等社会科教育法	2		2	2	2	
		算数	初等算数科教育法	2		2	2	2	
		理科	初等理科教育法	2		2	2	2	
		生活	初等生活科教育法	2		2	2	2	
		家庭	初等家庭科教育法	2		2	2	2	
		外国語	初等英語科教育法	2		2	2	2	
		音楽	初等音楽科教育法	2		2	2	2	
		図画工作	初等図画工作科教育法	2		2	2	2	
		体育	初等体育科教育法	2		2	2	2	
教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門	2	必修	2			
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		教育の理念と歴史	2	必修	2			
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	必修	2			
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育の理解	2	必修	2			
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育組織論	2	必修	2			
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程の理論と実践	2	必修	2	2		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法		道徳教育の指導法	2	必修	2	2		
	特別活動の指導法		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2	必修	2	2		
	教育の方法及び技術情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		教育の方法とICT	2	必修	2			
	生徒指導の理論及び方法		生徒指導・進路指導の理論と方法	2	必修	2	2		
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)		教育相談の理論と方法	2	必修	2			
教育実践に関する科目	教育実習	小学校教育実習(A)	5	必修	5			p.54参照	
		小学校教育実習(Z)	2	必修			2		
	教職実践演習	教職実践演習(小・中・高)	2	必修	2				
大学が独自に設定する科目			上記の単位修得により、「大学が独自に設定する科目」に必要な2単位を充足。追加履修の必要なし。						
合 計						61～69	40	34～42	

【別表】

OB類生の小学校の教科に関する専門的事項(SP)専攻別履修方法一覧

免許法上の科目区分	本学の授業科目		修得単位数							
	科目名	単位	B国語	B社会	B数学	B理科	B音楽	B美術	B保体	B家庭
教科に関する専門的事項	国語(書写を含む。)	国語科研究	2		2	2	2	2	2	2
	社会	社会科研究	2	2		2	2	2	2	2
	算数	算数科研究	2	2	2		2	2	2	2
	理科	理科研究	2	2	2	2		2	2	2
	生活	生活科研究	2	2	2	2	2	2	2	2
	家庭	家庭科研究	2	2	2	2	2	2	2	
	外国語	英語科研究	2	2	2	2	2	2	2	2
	音楽	音楽科研究Ⅰ	1	1	1	1		1	1	1
	図画工作	図画工作科研究Ⅰ	1	1	1	1	1		1	1
	体育	体育科研究Ⅰ	1	1	1	1	1	1		1
	音楽	音楽科研究Ⅱ	1	}	}	}	}		1	1
	図画工作	図画工作科研究Ⅱ	1					1		1
	体育	体育科研究Ⅱ	1					1	1	
修得単位数			16	16	16	16	18	18	18	16

免許法上の科目区分	本学の授業科目		修得単位数			
	科目名	単位	B英語	B技術	B書道	C類(中免)
教科に関する専門的事項	国語(書写を含む。)	国語科研究	2	2		2
	社会	社会科研究	2	2	2	2
	算数	算数科研究	2	2	2	2
	理科	理科研究	2	2	2	2
	生活	生活科研究	2	2		2
	家庭	家庭科研究	2	2		2
	外国語	英語科研究	2		2	2
	音楽	音楽科研究Ⅰ	1	1	1	1
	図画工作	図画工作科研究Ⅰ	1	1	1	1
	体育	体育科研究Ⅰ	1	1	1	1
	音楽	音楽科研究Ⅱ	1	}	}	}
	図画工作	図画工作科研究Ⅱ	1			
	体育	体育科研究Ⅱ	1			
修得単位数			16	12	16	10

(3) 中学校教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法

①B類学生の履修方法(主免許)

②A類生(C類小免コース含む)及びD類生が中学校教諭普通免許状を選択で取得する場合の履修方法

免許法上の科目区分		本学の対応授業科目等		新規修得単位等(一種)			備 考
		科目名等	単位	履修方法	①	②	
					B類	A類 D類 C小免	
教科及び 教科の指 導法に関 する科目	教科に関する専門的事項	専攻科目の中で、免許法上の科目区分がされている授業科目		免許法上の必修科目を含め修得(p.144～)	20単位以上修得		
	各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	中等各教科教育法Ⅰ	2	取得する免許状の教科毎に8単位必修(p.50～)	2		
		中等各教科教育法Ⅱ	2		2		
		中等各教科教育法Ⅲ	2		2		
		中等各教科教育法Ⅳ	2		2		
教育の基 礎的理解 に関する 科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職入門	2	必修	2		
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育の理念と歴史	2	必修	2		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	必修	2		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育の理解	2	必修	2		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育組織論	2	必修	2		
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程の理論と実践	2	必修	2		2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育の指導法	2	必修	2		2
	特別活動の指導法 総合的な学習の時間の指導法	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2	必修	2		2
	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育の方法とICT	2	必修	2		
	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導・進路指導の理論と方法	2	必修	2		2
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談の理論と方法	2	必修	2		
教育実践に関する科目	教育実習	中学校教育実習(B)	5	必修	5		()はD類 詳細は p.54参照
		中学校教育実習(Z)or(D)	2(5)	必修		2(5)	
	教職実践演習	教職実践演習(小・中・高)	2	必修	2	(2)	()はD類
大学が独自に設定する科目		後述(6)各種免許状取得に必要な「大学が独自に設定する科目について」(p.168～)に記載の科目の中から、中学校の欄に○がついているものを2単位修得する。 (教科名が記載されている科目は取得する免許教科のものを修得する)					
合 計					59	32(37)	40 ()はD類

※ 「教科に関する専門的事項」は、p.144～に記載されている教科毎の必修科目を必ず修得し、20単位を満たさず不足分がある場合は「免許法上の科目」として取得免許に必要な同一の教科が記載されている科目から修得する。

※ 各教科の指導法は、取得を希望する教科の指導法4科目8単位を修得する。(p.50～)
ただし、社会科の指導法は地歴Ⅰ・Ⅱ又は公民Ⅰ・Ⅱのいずれかを含めて修得する。

※ 「大学が独自に設定する科目」には、他の科目区分の余剰科目分をあてることができる。

(4) 高等学校教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法

①B類学生の履修方法(主免許)

②A類生(C類小免コース含む)及びD類生が高等学校教諭普通免許状を選択で取得する場合の履修方法

免許法上の科目区分		本学の対応授業科目等		新規修得単位等(一種)			備 考	
		科目名等	単位	履修方法	①	②		
					B類	A・D類 C小免		A幼
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	専攻科目の中で、免許法上の科目区分がされている授業科目		免許法上の必修科目を含め修得(p.144～)	20単位以上修得			
	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	中等各教科教育法Ⅰ	2	取得する免許状の教科毎に8単位必修(p.50～)	2			
		中等各教科教育法Ⅱ	2		2			
		中等各教科教育法Ⅲ	2		2			
		中等各教科教育法Ⅳ	2		2			
教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職入門	2	必修	2			
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育の理念と歴史	2	必修	2			
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	必修	2			
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育の理解	2	必修	2			
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育組織論	2	必修	2			
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程の理論と実践	2	必修	2		2	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	特別活動の指導法 総合的な学習の時間の指導法	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2	必修	2		2
教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育の方法とICT	2	必修	2				
生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導・進路指導の理論と方法	2	必修	2			2	
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)	教育相談の理論と方法	2	必修	2				
教育実践に関する科目	教 育 実 習	中学校教育実習(B)	5	必修	5			()はD類 詳細はp.54 参照
		中学校教育実習(Z)or(D)	2(5)	必修		2(5)	2	
	教職実践演習	教職実践演習(小・中・高)	2	必修	2	(2)		()はD類
大学が独自に設定する科目		後述(6)各種免許状取得に必要な「大学が独自に設定する科目について」(p.168～)に記載の科目の中から、高等学校の欄に○がついているものを10単位修得する。 (教科名が記載されている科目は取得する免許教科のものを修得する)						
合 計					65	40(45)	46	()はD類

※ 「教科に関する専門的事項」は、p.144～に記載されている教科毎の必修科目を必ず修得し、20単位を満たさず不足分がある場合は「免許法上の科目」として取得免許に必要な同一の教科が記載されている科目から修得する。

※ 各教科の指導法は、取得を希望する教科の指導法4科目8単位を修得する。(p.50～)

ただし、地理歴史は「中等社会科・地理歴史科教育法Ⅰ・Ⅱ」、公民は「中等社会科・公民科教育法Ⅰ・Ⅱ」、

工芸は「中等工芸科教育法Ⅰ・Ⅱ」、工業は「工業科教育法Ⅰ・Ⅱ」、書道は「書道科教育法Ⅰ・Ⅱ」の2科目4単位を修得する。

※ 「大学が独自に設置する科目」には、他の科目区分の余剰科目分をあてることができる。

※ 「道徳教育の指導法」は高免取得に際しては、「大学が独自に設定する科目」の一つとして数えられる。

※ C類中免コースの学生は、大学が独自に設定する科目(10単位)の履修に注意すること。

- (5) 中学校・高等学校教諭各種免許状取得に必要な「教科に関する専門的事項」、「各教科の指導法」及び「大学が独自に設定する科目」の履修方法

中学校教諭一種免許状(国語)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
国語学(音声言語及び文章 表現に関するものを含む。)	日本語学概論Ⅰ	2	A・B国S B書S	中高(国語)
	日本語学概論Ⅱ	2		
	日本語文法	2	A国SA B国S B書S	
国文学(国文学史を含む。)	日本文学史Ⅰ	2	A・B国S B書S	
	日本文学史Ⅱ	2		
	日本文学概論Ⅰ	2		
	日本文学概論Ⅱ	2		
漢文学	中国古典文基礎	2	A・B国S B書S	
	中国古典文学概論	2	B国S B書S	
	中国古典文献概論	2		
書道(書写を中心とする。)	中学書写A } 中学書写B } 1科目選択	} 2	A国S B国S B書SA	中(国語)のみ
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等国語科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(国語)
	中等国語科教育法Ⅱ	2		
	中等国語科教育法Ⅲ	2		
	中等国語科教育法Ⅳ	2		
合 計		30		

- ①上記30単位を全部修得する。

高等学校教諭一種免許状(国語)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
国語学(音声言語及び文章 表現に関するものを含む。)	日本語学概論Ⅰ	2	A・B国S B書S	中高(国語)
	日本語学概論Ⅱ	2		
	日本語文法	2	A国SA B国S B書S	
国文学(国文学史を含む。)	日本文学史Ⅰ	2	A・B国S B書S	
	日本文学史Ⅱ	2		
	日本文学概論Ⅰ	2		
	日本文学概論Ⅱ	2		
漢文学	中国古典文基礎	2	A・B国S B書S	
	中国古典文学概論	2	B国S B書S	
	中国古典文献概論	2		
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等国語科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(国語)
	中等国語科教育法Ⅱ	2		
	中等国語科教育法Ⅲ	2		
	中等国語科教育法Ⅳ	2		
合 計		28		

①上記28単位を全部修得する。

②更にA類国語, B類国語に開設している高等学校(国語)の「教科に関する専門的事項」や, 高等学校(国語)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から6単位以上, 併せて34単位以上修得する必要がある。

計算式 ①28単位+②6単位以上≧34単位

高等学校(国語)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは, 「国語学」「国文学」「漢文学」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

中学校教諭一種免許状(社会)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
日本史及び外国史	日本史概論	2	A・B社S	中(社会) 高(地歴)
	東洋史概論	2	A社SA B社S	
	西洋史概論	2		
地理学(地誌を含む。)	地理学概論	2	A・B社S	
	自然環境	2	A社SA B社S	
	地誌学概論	2		
「法律学, 政治学」	法学政治学概論	2	A・B社S	中(社会) 高(公民)
「社会学, 経済学」	社会学概論	2	A社SA B社S	
	経済学概論	2	A社SA B社S	
「哲学, 倫理学, 宗教学」	哲学・倫理学概論	2	A社SA B社S	
	哲学と宗教	2		
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等社会科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中(社会) 高(地歴) 高(公民)
	中等社会科教育法Ⅱ	2		
	中等社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	4 ①または② の組み合 わせを修得		
	中等社会科・地理歴史科教育法Ⅱ			
	中等社会科・公民科教育法Ⅰ			
	中等社会科・公民科教育法Ⅱ			
合 計		30		

①上記30単位を全部修得する。

高等学校教諭一種免許状(地理歴史)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
日本史	日本史概論	2	A・B社S	中(社会) 高(地歴)
外国史	東洋史概論	2	A社SA	
	西洋史概論	2	B社S	
人文地理学及び自然地理学	地理学概論	2	A・B社S	
	自然環境	2	A社SA B社S	
地誌	地誌学概論	2	A社SA B社S	
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(社会(地歴))
	中等社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	2		
合	計	16		

①上記16単位を全部修得する。

②更にA類社会, B類社会に開設している高等学校(地理歴史)の「教科に関する専門的事項」から8単位以上,
併せて24単位以上修得する。

③更にA類社会, B類社会に開設している高等学校(地理歴史)の「教科に関する専門的事項」や,
高等学校(地理歴史)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から10単位以上, 併せて34単位以上
修得する必要がある。

(計算式 ①16単位+②8単位+③10単位以上 $\geq$ 34単位)

高等学校(地理歴史)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは、「日本史」「外国史」「人文地理学」
「自然地理学」「地誌」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

※「中等社会科教育法Ⅰ」「中等社会科教育法Ⅱ」を修得している場合は、③の10単位に含めることができる。

高等学校教諭一種免許状(公民)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
「法律学(国際法を含む。), 政治学(国際政治を含む。)」	法学政治学概論	2	A・B社S	中(社会) 高(公民)
「社会学, 経済学(国際経済 を含む。)」	社会学概論	2	A社SA B社S	
	経済学概論	2	A社SA B社S	
「哲学, 倫理学, 宗教学, 心理学」	哲学・倫理学概論	2	A社SA B社S	
	哲学と宗教	2		
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等社会科・公民科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	計算式 ①14単位
	中等社会科・公民科教育法Ⅱ	2		
合 計		14		

①上記14単位を全部修得する。

②更にA類社会, B類社会に開設している高等学校(公民)の「教科に関する専門的事項」から10単位以上,
併せて24単位以上修得する。

③更にA類社会, B類社会に開設している高等学校(公民)の「教科に関する専門的事項」や, 高等学校(公民)の
適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から10単位以上, 併せて34単位以上修得する必要がある。

計算式 ①14単位+②10単位+③10単位以上 $\geq$ 34単位

高等学校(公民)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは、「法律学」「政治学」「社会学」「経済学」「哲学」
「倫理学」「宗教学」である。

※法令上は「心理学」というカテゴリーも存在するが, 本学では開設していない。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

※「中等社会科教育法Ⅰ」「中等社会科教育法Ⅱ」を修得している場合は、③の10単位に含めることができる。

中学校教諭一種免許状(数学)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
代数学	代数学Ⅰ	2	A・B数S	中高(数学)
	代数学Ⅱ	2	A数SA B数S	
幾何学	幾何学Ⅰ	2	A・B数S	
	幾何学Ⅱ	2	A数SA B数S	
解析学	解析学Ⅰ	2	A・B数S	
	解析学Ⅱ	2	A数SA B数S	
「確率論, 統計学」	確率・統計Ⅰ	2	A・B数S	
	確率・統計Ⅱ	2	A数SA B数S	
コンピュータ	コンピュータ概論	2	A数SA B数S	
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等数学科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(数学)
	中等数学科教育法Ⅱ	2		
	中等数学科教育法Ⅲ	2		
	中等数学科教育法Ⅳ	2		
合 計		26		

①上記26単位を全部修得する。

②更にA類数学, B類数学に開設している中学校(数学)の「教科に関する専門的事項」から2単位以上,
併せて28単位以上修得する。

③更にA類数学, B類数学に開設している中学校(数学)の「教科に関する専門的事項」や, 中学校(数学)の
適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から2単位以上, 併せて30単位以上修得する必要がある。

計算式 ①26単位+②2単位+③2単位以上 $\geq$ 30単位

中学校(数学)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは, 「代数学」「幾何学」「解析学」「確率論」
「統計学」「コンピュータ(A・B数学の専門科目として開設しているものに限る)」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

高等学校教諭一種免許状(数学)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
代数学	代数学Ⅰ	2	A・B数S	中高(数学)
	代数学Ⅱ	2	A数SA B数S	
幾何学	幾何学Ⅰ	2	A・B数S	
	幾何学Ⅱ	2	A数SA B数S	
解析学	解析学Ⅰ	2	A・B数S	
	解析学Ⅱ	2	A数SA B数S	
「確率論, 統計学」	確率・統計Ⅰ	2	A・B数S	
	確率・統計Ⅱ	2	A数SA B数S	
コンピュータ	コンピュータ概論	2	A数SA B数S	
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等数学科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(数学)
	中等数学科教育法Ⅱ	2		
	中等数学科教育法Ⅲ	2		
	中等数学科教育法Ⅳ	2		
合 計		26		

①上記26単位を全部取得する。

②更にA類数学, B類数学に開設している高等学校(数学)の「教科に関する専門的事項」から2単位以上,
併せて28単位以上修得する。

③更にA類数学, B類数学に開設している高等学校(数学)の「教科に関する専門的事項」や, 高等学校(数学)の
適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から6単位以上, 併せて34単位以上修得する必要がある。

計算式 ①26単位+②2単位+③6単位以上 $\geq$ 34単位

高等学校(数学)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは, 「代数学」「幾何学」「解析学」「確率論」
「統計学」「コンピュータ(A・B数学の専門科目として開設しているものに限る)」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

中学校教諭一種免許状(理科)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
物理学	物理学概論 物理学演習	2 2	A理SA B理S	中高(理科)
物理学実験(コンピュータ 活用を含む。)	物理学実験	1	A・B理S	
化学	化学概論 化学演習	2 2	A理SA B理S	
化学実験(コンピュータ 活用を含む。)	化学実験	1	A・B理S	
生物学	生物学概論 生物学演習	2 2	A理SA B理S	
生物学実験(コンピュータ 活用を含む。)	生物学実験	1	A・B理S	
地学	地学概論 地学演習	2 2	A理SA B理S	
地学実験(コンピュータ 活用を含む。)	地学実験	1	A・B理S	
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等理科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(理科)
	中等理科教育法Ⅱ	2		
	中等理科教育法Ⅲ	2		
	中等理科教育法Ⅳ	2		
合	計	28		

①上記28単位を全部修得する。

②更にA類理科, B類理科に開設している中学校(理科)の「教科に関する専門的事項」や, 中学校(理科)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から2単位以上, 併せて30単位以上修得する必要がある。

計算式 ①28単位+②2単位以上≧30単位

中学校(理科)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは, 「物理学」「化学」「生物学」「地学」「物理学実験」「化学実験」「生物学実験」「地学実験」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

高等学校教諭一種免許状(理科)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
物理学	物理学概論	2	A理SA B理S	中高(理科)
	物理学演習	2		
化学	化学概論	2	A理SA B理S	
	化学演習	2		
生物学	生物学概論	2	A理SA B理S	
	生物学演習	2		
地学	地学概論	2	A理SA B理S	
	地学演習	2		
「物理学実験(コンピュータ活用を含む。), 化学実験(コンピュータ活用を含む。), 生物学実験(コンピュータ活用を含む。), 地学実験(コンピュータ活用を含む。)」	物理学実験	1	A・B理S	
	化学実験	1		
	生物学実験	1		
	地学実験	1		
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等理科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(理科)
	中等理科教育法Ⅱ	2		
	中等理科教育法Ⅲ	2		
	中等理科教育法Ⅳ	2		
合 計		28		

①上記28単位を全部修得する。

②更にA類理科, B類理科に開設している高等学校(理科)の「教科に関する専門的事項」や, 高等学校(理科)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から6単位以上, **併せて34単位以上修得する必要がある。**

計算式 ①28単位+②6単位以上≧34単位

高等学校(理科)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは, 「物理学」「化学」「生物学」「地学」「物理学実験, 化学実験, 生物学実験, 地学実験」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

中学校教諭一種免許状(音楽)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ	1	A・B音S	中高(音楽)
声乐(合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。)	合唱	1	A・B音S	
	邦楽歌唱法A	1科目選択 1	A・B音SA	
	邦楽歌唱法B			
	基礎声乐実技Ⅰ	1	A・B音S	
	基礎声乐実技Ⅱ	1		
器楽(合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。)	基礎ピアノ実技Ⅰ	1	A・B音S	
	基礎ピアノ実技Ⅱ	1		
	基礎管弦打実技Ⅰ	1		
	基礎管弦打実技Ⅱ	1		
	吹奏楽Ⅰ(偶)	1科目選択 1	A・B音SA	
	オーケストラⅠ(奇)			
	和楽器A	1科目選択 1		
	和楽器B			
	和楽器C			
	和楽器D			
指揮法	指揮法	2	A・B音S	
音楽理論, 作曲法(編曲法を含む。)及び音楽史(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。)	作曲法Ⅰ	2	A・B音S	
	作曲法Ⅱ	2		
	音楽学概論A	2		
	音楽学概論B	2		
	音楽学概論C	2		
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等音楽科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(音楽)
	中等音楽科教育法Ⅱ	2		
	中等音楽科教育法Ⅲ	2		
	中等音楽科教育法Ⅳ	2		
合	計	31		

①上記31単位を全部修得する。

高等学校教諭一種免許状(音楽)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ	1	A・B音S	中高(音楽)
声楽(合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。)	合唱	1	A・B音S	
	邦楽歌唱法A	1科目選択 1	A・B音SA	
	邦楽歌唱法B			
	基礎声楽実技Ⅰ	1	A・B音S	
	基礎声楽実技Ⅱ	1		
器楽(合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。)	基礎ピアノ実技Ⅰ	1	A・B音S	
	基礎ピアノ実技Ⅱ	1		
	基礎管弦打実技Ⅰ	1		
	基礎管弦打実技Ⅱ	1		
	吹奏楽Ⅰ(偶)	1科目選択 1	A・B音SA	
	オーケストラⅠ(奇)			
	和楽器A	1科目選択 1		
	和楽器B			
	和楽器C			
	和楽器D			
指揮法	指揮法	2	A・B音S	
音楽理論, 作曲法(編曲法を含む。)及び音楽史(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。)	作曲法Ⅰ	2	A・B音S	
	作曲法Ⅱ	2		
	音楽学概論A	2		
	音楽学概論B	2		
	音楽学概論C	2		
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等音楽科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(音楽)
	中等音楽科教育法Ⅱ	2		
	中等音楽科教育法Ⅲ	2		
	中等音楽科教育法Ⅳ	2		
合	計	31		

①上記31単位を全部修得する。

②更にA類音楽, B類音楽開設している高等学校(音楽)の「教科に関する専門的事項」や, 高等学校(音楽)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から3単位以上, 併せて34単位以上修得する必要がある。

計算式 ①31単位+②3単位以上≧34単位

高等学校(音楽)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは, 「ソルフェージュ」「声楽」「器楽」「指揮法」「音楽理論」「作曲法」「音楽史」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

中学校教諭一種免許状(美術)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
絵画(映像メディア表現を含む。)	絵画基礎Ⅰ	2	A・B美S	中高(美術)
	絵画基礎Ⅱ	2	A美SA B美S	
彫刻	彫刻基礎Ⅰ	2	A・B美S	
	彫刻基礎Ⅱ	2	A美SA B美S	
デザイン(映像メディア表現を含む。)	デザイン基礎Ⅰ	2	A・B美S	中(美術) 高(美術)(工芸)
	デザイン基礎Ⅱ	2	A美SA B美S	
工芸	工芸基礎Ⅰ	2	A・B美S	中(美術) 高(工芸)
	工芸基礎Ⅱ	2	A美SA B美S	
美術理論及び美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)	日本東洋美術史概論	2	A・B美S	中(美術) 高(美術)(工芸)
	西洋美術史概論	2	A・B美S	中高(美術)
	美学	2	A美SA B美S	
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等美術科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(美術)
	中等美術科教育法Ⅱ	2		
	中等美術科教育法Ⅲ	2		
	中等美術科教育法Ⅳ	2		
合	計	30		

①上記30単位を全部修得する。

高等学校教諭一種免許状(美術)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
絵画(映像メディア表現を含む。)	絵画基礎Ⅰ	2	A・B美S	中高(美術)
	絵画基礎Ⅱ	2	A美SA B美S	
彫刻	彫刻基礎Ⅰ	2	A・B美S	
	彫刻基礎Ⅱ	2	A美SA B美S	
デザイン(映像メディア表現を含む。)	デザイン基礎Ⅰ	2	A・B美S	中(美術) 高(美術)(工芸)
	デザイン基礎Ⅱ	2	A美SA B美S	
美術理論及び美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)	日本東洋美術史概論	2	A・B美S	中(美術) 高(美術)(工芸)
	西洋美術史概論	2	A・B美S	中高(美術)
	美学	2	A美SA B美S	
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等美術科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(美術)
	中等美術科教育法Ⅱ	2		
	中等美術科教育法Ⅲ	2		
	中等美術科教育法Ⅳ	2		
合 計		26		

①上記26単位を全部修得する。

②更にA類美術, B類美術に開設している高等学校(美術)の「教科に関する専門的事項」から2単位以上,
併せて28単位以上修得する。

③更にA類美術, B類美術に開設している高等学校(美術)の「教科に関する専門的事項」や, 高等学校(美術)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から6単位以上, 併せて34単位以上修得する必要がある。

計算式 ①26単位+②2単位+③6単位以上 $\geq$ 34単位

高等学校(美術)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは, 「絵画」「彫刻」「デザイン」「美術理論」「美術史」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

※「中等工芸科教育法Ⅰ」「中等工芸科教育法Ⅱ」を修得している場合は, ③の6単位に含めることができる。

高等学校教諭一種免許状(工芸)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
図法及び製図	図法・製図	2	AB美SA	高(工芸)
デザイン	デザイン基礎Ⅰ	2	A・B美S	中(美術)
	デザイン基礎Ⅱ	2	A美SA B美S	高(美術)(工芸)
工芸制作(プロダクト制作を含む。)	工芸基礎Ⅰ	2	A・B美S	中(美術)
	工芸基礎Ⅱ	2	A美SA B美S	高(工芸)
工芸理論, デザイン理論及び美術史(鑑賞並びに日本の伝統工芸及びアジアの工芸を含む。)	日本東洋美術史概論	2	A・B美S	中(美術) 高(美術)(工芸)
	工芸・デザイン理論	2	A・B美SA	高(工芸)
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等工芸科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(工芸)
	中等工芸科教育法Ⅱ	2		
合	計	18		

①上記18単位を全部修得する。

②更にA類美術, B類美術に開設している高等学校(工芸)の「教科に関する専門的事項」から6単位以上,
併せて24単位以上修得する。

③更にA類美術, B類美術に開設している高等学校(工芸)の「教科に関する専門的事項」や, 高等学校(工芸)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から10単位以上, 併せて34単位以上修得する必要がある。

計算式 ①18単位+②6単位+③10単位以上≧34単位

高等学校(工芸)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは, 「図法及び製図」「デザイン」「工芸制作」「工芸理論」「デザイン理論」「美術史(工芸用)」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

※「中等美術科教育法Ⅰ～Ⅳ」を修得している場合は, ③の10単位に含めることができる。

中学校教諭一種免許状(保健体育)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
体育実技	器械運動A } 1科目選択	1	A保体S	中高(保健体育)
	器械運動B } 1科目選択		B保体S	
	陸上A } 1科目選択	1	A保体S	
	陸上B } 1科目選択		B保体S	
	水泳A } 1科目選択	1	A保体S	
	水泳B } 1科目選択		B保体S	
	バスケットボールA } 1科目選択	1	A保体S	
	バスケットボールB } 1科目選択		B保体S	
	サッカーA } 1科目選択	1	A保体S	
	サッカーB } 1科目選択		B保体S	
	ソフトボールA } 1科目選択	1	A保体S	
	ソフトボールB } 1科目選択		B保体S	
	バレーボール } 1科目選択		B保体S	
	ソフトバレーボール } 1科目選択		A保体S	
「体育原理, 体育心理学, 体育経営管理学, 体育 社会学, 体育史」及び運動学 (運動方法学を含む。)	表現運動 } 1科目選択	1	A保体S	
	ダンス } 1科目選択		B保体S	
生理学(運動生理学を 含む。)	剣道 } 1科目選択	1	B保体S	
	柔道 } 1科目選択		B保体S	
「体育原理, 体育心理学, 体育経営管理学, 体育 社会学, 体育史」及び運動学 (運動方法学を含む。)	体育原理概論	2	A保体SA B保体S	
	運動方法学総論	2	B保体S	
衛生学及び公衆衛生学	人体解剖生理学	2	A・B保体S	
	運動生理学概論	2	A保体SA B保体S	
衛生学及び公衆衛生学	衛生・公衆衛生学	2	A・B保体S	中高(保健体育) 中高(保健)
学校保健(小児保健, 精神 保健, 学校安全及び救急 処置を含む。)	学校保健学概説	2	A・B保体S	
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等保健体育科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(保健体育)
	中等保健体育科教育法Ⅱ	2		
	中等保健体育科教育法Ⅲ	2		
	中等保健体育科教育法Ⅳ	2		
合 計		28		

①上記28単位を全部修得する。

②更にA類保健体育, B類保健体育に開設している中学校(保健体育)の「教科に関する専門的事項」や,
中学校(保健体育)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から2単位以上, 併せて30単位以上
修得する必要がある。

計算式 ①28単位+②2単位以上≧30単位

中学校(保健体育)の「教科に関する専門的事項」の категорияは, 「体育実技」「体育原理」
「体育心理学」「体育経営管理学」「体育社会学」「運動学」「生理学」「衛生学及び公衆衛生学」
「学校保健(小児保健)(精神保健)(学校安全)(救急処置)」である。

※法令上は「体育史」というcategoryも存在するが, 本学では開設していない。

※「教科に関する専門的事項」のcategoryは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

高等学校教諭一種免許状(保健体育)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数	開設場所	
体育実技	器械運動A 器械運動B } 1科目選択	1	A保体S B保体S	中高(保健体育)
	陸上A 陸上B } 1科目選択	1	A保体S B保体S	
	水泳A 水泳B } 1科目選択	1	A保体S B保体S	
	バスケットボールA バスケットボールB } 1科目選択	1	A保体S B保体S	
	サッカーA サッカーB } 1科目選択	1	A保体S B保体S	
	ソフトボールA ソフトボールB バレーボール ソフトバレーボール } 1科目選択	1	A保体S B保体S B保体S A保体S	
	表現運動 ダンス } 1科目選択	1	A保体S B保体S	
	剣道 柔道 } 1科目選択	1	B保体S B保体S	
	「体育原理, 体育心理学, 体育経営管理学, 体育 社会学, 体育史」及び運動学 (運動方法学を含む。)	2	A保体SA B保体S	
	運動方法学総論	2	B保体S	
	生理学(運動生理学を 含む。)	2	A・B保体S	
	運動生理学概論	2	A保体SA B保体S	
衛生学及び公衆衛生学	衛生・公衆衛生学	2	A・B保体S	中高(保健体育) 中高(保健)
学校保健(小児保健, 精神 保健, 学校安全及び救急 処置を含む。)	学校保健学概説	2	A・B保体S	
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等保健体育科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(保健体育)
	中等保健体育科教育法Ⅱ	2		
	中等保健体育科教育法Ⅲ	2		
	中等保健体育科教育法Ⅳ	2		
合 計		28		

①上記28単位を全部修得する。

②更にA類保健体育, B類保健体育に開設している高等学校(保健体育)の「教科に関する専門的事項」や, 高等学校(保健体育)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から6単位以上, 併せて34単位以上修得する必要がある。

計算式 ①28単位+②6単位以上≧34単位

高等学校(保健体育)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは, 「体育実技」「体育原理」「体育心理学」「体育経営管理学」「体育社会学」「運動学」「生理学」「衛生学及び公衆衛生学」「学校保健(小児保健)(精神保健)(学校安全)(救急処置)」である。

※法令上は「体育史」というカテゴリーも存在するが, 本学では開設していない。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

中学校教諭一種免許状(保健)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
生理学及び栄養学	健康と栄養	2	D養護S	中(保健)
	解剖学	2		
	生理学	2		
衛生学及び公衆衛生学	衛生・公衆衛生学	2	A・B保体S D養護S	
	保健行動科学	2	D養護S	
学校保健(小児保健, 精神保健, 学校安全及び救急処置を含む。)	学校保健学	} 1科目選択	D養護S	
	学校保健学概説		A・B保体S	
	小児科学	2	D養護S	
	学校安全と危機管理	2	D養護S	
	学校保健基礎セミナー	2	D養護S	
	救急処置の理論と演習	2	D養護S	
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等保健科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(保健)
	中等保健科教育法Ⅱ	2		
	中等保健科教育法Ⅲ	2		
	中等保健科教育法Ⅳ	2		
合	計	28		

①上記28単位を全部修得する。

②更に学校教育系に開設している中学校(保健)の「教科に関する専門的事項」や、中学校(保健)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から2単位以上、併せて30単位以上修得する必要がある。

計算式 ①28単位＋②2単位以上≧30単位

中学校(保健)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは、「生理学」「栄養学」

「衛生学及び公衆衛生学」「学校保健(小児保健)(精神保健)(学校安全)(救急処置)」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

中学校(保健)の必修科目以外の「教科に関する専門的事項」は以下のとおりである。

授 業 科 目	選修(専攻)名・開設状況	対応免許種		免許法上の科目
精神保健学概論	養護専攻(S)	中(保健)	高(保健)	精神保健
人間の性と健康	養護専攻(SA)	中(保健)	高(保健)	学校保健
小児・思春期保健学	養護専攻(SA)	中(保健)	高(保健)	学校保健
精神保健学各論	養護専攻(SA)	中(保健)	高(保健)	精神保健
臨床医学Ⅴ	養護専攻(SA)	中(保健)	高(保健)	学校保健
健康支援ネットワーク論	養護専攻(SA)	中(保健)	高(保健)	衛生学および公衆衛生学
人体解剖生理学	A・B保体(S)	中(保健)	高(保健)	生理学 解剖学
運動生理学概論	A保体(SA), B保体(S)	中(保健)	高(保健)	生理学
スポーツバイオメカニクス概論	A・B保体(SA)	中(保健)	高(保健)	生理学
運動生理学演習	B保体(SA)	中(保健)	高(保健)	生理学
救急処置法	A・B保体(SA)	中(保健)	高(保健)	学校保健

高等学校教諭一種免許状(保健)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数	開設場所	
「生理学, 栄養学, 微生物学, 解剖学」	健康と栄養	2	D養護S	高(保健)
	解剖学	2	D養護S	
	感染免疫学	2	D養護S	
	薬理学	2	D養護S	
	生理学	2	D養護S	
衛生学及び公衆衛生学	衛生・公衆衛生学	2	A・B保体S D養護S	
	保健行動科学	2	D養護S	
学校保健(小児保健, 精神 保健, 学校安全及び救急 処置を含む。)	学校保健学	1科目選択 2	D養護S	
	学校保健学概説		A・B保体S	
	小児科学	2	D養護S	
	学校安全と危機管理	2	D養護S	
	学校保健基礎セミナー	2	D養護S	
	救急処置の理論と演習	2	D養護S	
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等保健科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(保健)
	中等保健科教育法Ⅱ	2		
	中等保健科教育法Ⅲ	2		
	中等保健科教育法Ⅳ	2		
合	計	32		

①上記32単位を全部修得する。

②更に学校教育系に開設している高等学校(保健)の「教科に関する専門的事項」や、高等学校(保健)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から2単位以上、併せて34単位以上修得する必要がある。

計算式 ①32単位＋②2単位以上≧34単位

高等学校(保健)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは、「生理学」「栄養学」「衛生学及び公衆衛生学」「学校保健(小児保健)(精神保健)(学校安全)(救急処置)」「微生物学」「解剖学」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

中学校・高等学校(保健)の必修科目以外の「教科に関する専門的事項」は以下のとおりである。

授業科目	選修(専攻)名・開設状況	対応免許種		免許法上の科目
精神保健学概論	養護専攻(S)	中(保健)	高(保健)	精神保健
人間の性と健康	養護専攻(SA)	中(保健)	高(保健)	学校保健
小児・思春期保健学	養護専攻(SA)	中(保健)	高(保健)	学校保健
精神保健学各論	養護専攻(SA)	中(保健)	高(保健)	精神保健
臨床医学Ⅴ	養護専攻(SA)	中(保健)	高(保健)	学校保健
健康支援ネットワーク論	養護専攻(SA)	中(保健)	高(保健)	衛生学および公衆衛生学
人体解剖生理学	A・B保体(S)	中(保健)	高(保健)	生理学 解剖学
運動生理学概論	A保体(SA), B保体(S)	中(保健)	高(保健)	生理学
スポーツバイオメカニクス概論	A・B保体(SA)	中(保健)	高(保健)	生理学
運動生理学演習	B保体(SA)	中(保健)	高(保健)	生理学
救急処置法	A・B保体(SA)	中(保健)	高(保健)	学校保健

中学校教諭一種免許状(家庭)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
家庭経営学(家族関係学 及び家庭経済学を含む。)	家庭経営学	2	A・B家S	中高(家庭)
	家族関係学	2	A家SA B家S	
被服学(被服製作実習を含む。)	被服学Ⅰ	2	A・B家S	
	被服学演習A	2	A家SA	
	被服学実験・実習A	1	B家S	
食物学(栄養学, 食品学 及び調理実習を含む。)	栄養学概論	2	A・B家S	
	食品学概論	2	A家SA	
	食物学実験・実習A	1	B家S	
住居学	住居学	2	A・B家S	
	住居設計製図	1	A家SA B家S	
保育学(実習を含む。)	児童学Ⅰ	2	A・B家S	
	児童学Ⅱ	2	A家SA	
	家庭看護学	2	B家S	
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等家庭科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(家庭)
	中等家庭科教育法Ⅱ	2		
	中等家庭科教育法Ⅲ	2		
	中等家庭科教育法Ⅳ	2		
合	計	31		

①上記31単位を全部修得する。

高等学校教諭一種免許状(家庭)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
家庭経営学(家族関係学 及び家庭経済学を含む。)	家庭経営学	2	A・B家S	中高(家庭)
	家族関係学	2	A家SA B家S	
被服学 (被服製作実習を含む。)	被服学Ⅰ	2	A・B家S	
	被服学演習A	2	A家SA	
	被服学実験・実習A	1	B家S	
食物学(栄養学, 食品学 及び調理実習を含む。)	栄養学概論	2	A・B家S	
	食品学概論	2	A家SA	
	食物学実験・実習A	1	B家S	
住居学(製図を含む。)	住居学	2	A・B家S	
	住居設計製図	1	A家SA B家S	
保育学 (実習及び家庭看護を含む。)	児童学Ⅰ	2	A・B家S	
	児童学Ⅱ	2	A家SA	
	家庭看護学	2	B家S	
家庭電気・機械及び 情報処理	家庭工学	2	A家SA B家S	高(家庭)
	家庭科と情報	2	A・B家専攻SE	
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等家庭科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(家庭)
	中等家庭科教育法Ⅱ	2		
	中等家庭科教育法Ⅲ	2		
	中等家庭科教育法Ⅳ	2		
合	計	35		

①上記35単位を全部修得する。

中学校教諭一種免許状(技術)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
木材加工(製図及び実習を含む。)	基礎製図	2	AものSA B技S	中(技術) 高(工業)
	木材加工概論	2	AものSB B技S	
	木材加工 I	1		
金属加工(製図及び実習を含む。)	金属加工 I	3	AものSA B技S	
機械(実習を含む。)	機械工学の基礎	3	AものSB B技S	
電気(実習を含む。)	電気回路	3	AものSB B技S	中(技術)
栽培(実習を含む。)	栽培	3	AものSA B技S	
情報とコンピュータ (実習を含む。)	応用情報処理 I	2	AものSB B技S	中(技術) 高(工業)
	技術・工業と情報	2	AものSB B技SE	
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等技術科教育法 I	2	教育基礎科目	中高(技術)
	中等技術科教育法 II	2		
	中等技術科教育法 III	2		
	中等技術科教育法 IV	2		
合	計	29		

①上記29単位を全部修得する。

②更にB類技術に開設している中学校(技術)の「教科に関する専門的事項」や、中学校(技術)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から1単位以上、併せて30単位以上修得する必要がある。

計算式 ①29単位＋②1単位以上≧30単位

中学校(技術)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは、「木材加工」「金属加工」「機械」「電気」「栽培」「情報とコンピュータ」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

※「工業科教育法 I」「工業科教育法 II」を修得している場合は、②の1単位に含めることができる。

高等学校教諭一種免許状(工業)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
工業の関係科目	基礎製図	2	AものSA B技S	中(技術) 高(工業)
	木材加工概論	2	AものSB B技S	
	木材加工 I	1		
	金属加工 I	3	AものSA B技S	
	機械工学の基礎	3	AものSB B技S	
	電気回路	3	AものSB B技S	
	応用情報処理 I	2	AものSB B技S	
	技術・工業と情報	2	AものSB B技SE	
職業指導	職業指導	2	AものSB B技S	高(工業)
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	工業科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(工業)
	工業科教育法Ⅱ	2		
合 計		24		

①上記24単位を全部修得する。

②更にB類技術に開設している高等学校(工業)の「教科に関する専門的事項」や、高等学校(工業)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から10単位以上、併せて34単位以上修得する必要がある。

計算式 ①24単位+②10単位以上≧34単位

高等学校(工業)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは、「工業」「職業指導」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

※「中等技術科教育法 I～IV」を修得している場合は、②の10単位に含めることができる。

中学校教諭一種免許状(英語)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
英語学	英語音声学概論	2	A・B英S	中高(英語)
	英文法演習A	2	A英SA B英S	
	英文法演習B	2		
	英語史概論	2		
英語文学	英米文学概論A	2	A英SA B英S	
	英米文学概論B	2		
英語コミュニケーション	英作文Ⅰ	1	A英SA B英S	
	英会話Ⅰ	1	A・B英S	
	英語読解Ⅰ	1	A英SA B英S	
	英語読解Ⅱ	1		
異文化理解	イギリス文化概論	2	A英SA B英S	
	アメリカ文化概論	2		
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等英語科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(英語)
	中等英語科教育法Ⅱ	2		
	中等英語科教育法Ⅲ	2		
	中等英語科教育法Ⅳ	2		
合	計	28		

①上記28単位を全部修得する。

②更にA類英語、B類英語に開設している中学校(英語)の「教科に関する専門的事項」や、中学校(英語)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から2単位以上、併せて30単位以上修得する必要がある。

計算式 ①28単位＋②2単位以上≧30単位

中学校(英語)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは、「英語学」「英語文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
英語学	英語音声学概論	2	A・B英S	中高(英語)
	英文法演習A	2	A英SA B英S	
	英文法演習B	2		
	英語史概論	2		
英語文学	英米文学概論A	2	A英SA B英S	
	英米文学概論B	2		
英語コミュニケーション	英作文Ⅰ	1	A英SA B英S	
	英会話Ⅰ	1	A・B英S	
	英語読解Ⅰ	1	A英SA B英S	
	英語読解Ⅱ	1		
異文化理解	イギリス文化概論	2	A英SA B英S	
	アメリカ文化概論	2		
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等英語科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(英語)
	中等英語科教育法Ⅱ	2		
	中等英語科教育法Ⅲ	2		
	中等英語科教育法Ⅳ	2		
合	計	28		

①上記28単位を全部修得する。

②更にA類英語、B類英語に開設している高等学校(英語)の「教科に関する専門的事項」や、高等学校(英語)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から6単位以上、併せて34単位以上修得する必要がある。

計算式 ①28単位＋②6単位以上≧34単位

高等学校(英語)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは、「英語学」「英語文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

高等学校教諭一種免許状(書道)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
書道(書写を含む。)	漢字研究Ⅰ	2	B書S	高(書道)
	漢字研究Ⅱ	2		
	漢字研究Ⅲ	2	B書SA	
	仮名研究Ⅰ	2	B書S	
	仮名研究Ⅱ	2	B書SA	
	漢字仮名交じり研究Ⅰ	2	B書S	
	篆刻・刻字	2		
	書作品制作研究	2	B書SA	
書道史	書道史研究Ⅰ	2	B書S	
	書道史研究Ⅱ	2		
「書論,鑑賞」	書論研究	2	B書S	
「国文学,漢文学」	中国古典文基礎	2	B書S	
	中国古典文学概論	2		
	中国古典文献概論	2		
	日本文学概論Ⅰ	2		
	日本文学概論Ⅱ	2		
	日本文学史Ⅰ	2		
	日本文学史Ⅱ	2		
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	書道科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(書道)
	書道科教育法Ⅱ	2		
合 計		40		

①上記40単位を全部修得する。

(6) 各種免許状取得に必要な「大学が独自に設定する科目」について

学校教育系各課程において、小学校、中学校、高等学校及び幼稚園教諭免許状の取得に際し「大学が独自に設定する科目」の単位修得が必要である。修得を要する単位数は、小学校教諭一種免許状にあつては2単位、中学校教諭一種免許状にあつては4単位、高等学校教諭一種免許状にあつては12単位、幼稚園教諭一種免許状にあつては14単位である。

学校教育系で免許法上の「大学が独自に設定する科目」として認定される科目 「○・・・使用可」

区分	授業科目名	単位数	「大学が独自に設定する科目」の指定学校種				開設場所	備考
			小学校	中学校	高等学校	幼稚園		
大学が独自に設定する科目として指定される	授業観察演習	1	○	○	○	○	共通SE	
	日本教育史	2	○	○	○	○		
	西洋教育史	2	○	○	○	○		
	子ども社会学	2	○	○	○	○		
	現代学校論	2	○	○	○	○		
	学校図書館入門	2	○	○	○			
	学級経営論	2	○	○	○	○		
	教員のメンタルケアの基礎理論	2	○	○	○	○		
	環境と教育実践	2	○	○	○	○		
	教育評価の理論と実践	2	○	○	○	○		
	教室集団の人間関係	2	○	○	○	○		
	子どもの遊びと生活	2	○	○	○	○		
	特別ニーズと教育	2	○	○	○	○		
	外国人児童生徒への日本語教育	2	○	○	○	○		
	教育思想史	2	○	○	○	○		
	国際理解教育論	2	○	○	○	○		
	教職基礎としての子どもの安全管理	2	○	○	○	○		
	小学校におけるプログラミング教育	2	○					
	国際バカロレア教育論	2	○	○	○			
	教育のためのデータサイエンス	1	○	○	○	○		
	社会に開かれた探究と創造の学びのデザイン	1	○	○	○	○		
	学びを支えるファシリテーションの技法	1	○	○	○	○		
	チーム学校と多職種協働	1	○	○	○	○		
	教師のレジリエンスと自己管理能力の育成	1	○	○	○	○		
	学校教育におけるSDGs	1	○	○	○	○		
	教育評価の理論と実践	1	○	○	○	○		
	環境と教育実践	1	○	○	○	○		
	エコスクール論	1	○	○	○	○		
	地域の環境観測とその実践	1	○	○	○	○		
	子どもの遊びと生活	1	○	○	○	○		
	板書指導と手書き文字	1	○	○	○	○		
	学校におけるプログラミング教育	1	○	○	○	○		
	遊びと発育・発達	1	○	○	○	○		
	学校図書館で深める主体的な学びのデザイン	1	○	○	○	○		
	Lesson Study in Japan	2	○	○	○	○		
	いじめ・不登校と変化する社会	1	○	○	○	○		
	現代の学校と外国人児童・生徒	1	○	○	○	○		
	外国人児童生徒への日本語教育	1	○	○	○	○		
	文字文化と書写指導	1	○	○	○	○		
	不平等と教育	1	○	○	○	○		
	特別ニーズと教育	1	○	○	○	○		
	インクルーシブ教育とユニバーサルデザイン	1	○	○	○	○		
	未来の学校をみんなで創る	1	○	○	○	○		
	現代の学校をめぐる諸課題と教育行政A	1	○	○	○	○		

て い る 科 目	現代の学校をめぐる諸課題と教育行政B	1	○	○	○	○		
	教師の省察的実践のための教育思想	1	○	○	○	○		
	現代学校論	1	○	○	○	○		
	教室集団の人間関係	1	○	○	○	○		
	学級経営論	1	○	○	○	○		
	学校経営のための教育経営・教育政策	1	○	○	○	○		
	Education in Japan (A)	2	○	○	○	○		
	Education in Japan (B)	2	○	○	○	○		
	教育の情報化基礎	1	○	○	○	○		
	学校保健・衛生管理とマネジメントサイクル	1	○	○	○	○		
	教職基礎としての子供の安全	1	○	○	○	○		
	学校教育と地域連携	1	○	○	○	○		
	国語科と情報	2	○	○ 国語	○ 国語	○	A・B類国語 専攻SE	
	国語科教材論A	2	○	○ 国語	○ 国語	○		
	国語科教材論B	2	○	○ 国語	○ 国語	○		
	国語科教材論C	2	○	○ 国語	○ 国語	○		
	日本語教育概論	2	○			○	A類国語S	
	日本語教育方法論	2	○			○	A・B類国語SA	
	年少者日本語教育	2	○	○ 国語	○ 国語	○		
	日本語教育教材開発論	2	○	○ 国語	○ 国語	○		
	日本語政策論	2	○	○ 国語	○ 国語			
	日本語教育と言語学	2	○			○		
	異文化間教育	2	○			○		
	言語習得と発達	2	○			○		
	社会科と情報	2	○	○ 社会	○地歴・公民		A・B類社会 専攻SE	
	社会科カリキュラム論	2	○	○ 社会	○地歴・公民			
	社会科教材論A	2	○	○ 社会	○地歴・公民			
	社会科教材論B	2	○	○ 社会	○地歴・公民			
	社会科授業論	2	○				A・B類社会SA	
	社会科教育実践史	2	○					
	社会科教育研究入門	2	○					
	初等算数科教材論	2	○				A類数学 専攻SE	
	算数科教育臨床	2	○					

区分	授業科目名	単位数	「大学が独自に設定する科目」の指定学校種				開設場所	備考
			小学校	中学校	高等学校	幼稚園		
大学が独自に設定する科目として指定されている科目	数学カリキュラム論	2	○	○ 数学	○ 数学		A・B類数学専攻SE	
	数学科教材論	2	○	○ 数学	○ 数学		B類数学専攻SE	
	数学科教育臨床	2		○ 数学	○ 数学			
	数学教育研究	2		○ 数学	○ 数学			
	理科教材開発基礎Ⅰ	2	○	○ 理科	○ 理科		A・B類理科専攻SE	
	理科教材開発基礎Ⅱ	2	○	○ 理科	○ 理科			
	理科学習指導論	2	○	○ 理科	○ 理科			
	理科カリキュラム研究	2	○	○ 理科	○ 理科			
	理科教育臨床	2	○	○ 理科	○ 理科			
	科学教材開発研究論	2	○				A類理科専攻SE	
	理科教育測定・評価論	2	○	○ 理科	○ 理科		A・B類理科SA	
	理科教育学概説	2	○	○ 理科	○ 理科			
	現代社会における理科教育	2	○	○ 理科	○ 理科			
	理科における環境教育	2	○	○ 理科	○ 理科			
	自然探究実践法	2	○	○ 理科	○ 理科			
	音楽科と情報	2	○	○ 音楽	○ 音楽		A・B類音楽専攻SE	
	音楽科教材演習	2	○	○ 音楽	○ 音楽	○		
	音楽科教材特論	2	○	○ 音楽	○ 音楽	○		
	音楽授業実践演習	2	○	○ 音楽	○ 音楽	○		
	音楽教育特別研究A	2	○	○ 音楽	○ 音楽		A・B類音楽SA	
	音楽教育特別研究B	2	○	○ 音楽	○ 音楽			
	音楽教育特別研究C	2	○	○ 音楽	○ 音楽			
	音楽教育特別研究D	2	○	○ 音楽	○ 音楽			
	図画工作・美術科と情報	2	○	○ 美術	○美術・工芸		A・B類美術専攻SE	
	図画工作科教材論	2	○	○ 美術	○美術・工芸	○	A類美術専攻SE	
	図画工作科カリキュラム論	2	○			○		
	美術科教材論Ⅰ(平面)	2	○	○ 美術	○美術・工芸		B類美術専攻SE	
	美術科教材論Ⅱ(立体)	2	○	○ 美術	○美術・工芸			
	美術科カリキュラム論	2		○ 美術	○美術・工芸			
	美術科教育演習Ⅰ	2	○	○ 美術	○美術・工芸	○	A・B類美術SA	
	美術科教育演習Ⅱ	2	○	○ 美術	○美術・工芸	○		
	美術科教育演習Ⅲ	2	○	○ 美術	○美術・工芸	○		
	美術科教育演習Ⅳ	2	○	○ 美術	○美術・工芸	○		
	美術家教育と美術科教育	2	○	○ 美術	○美術・工芸			
	美術教育基礎研究	2	○	○ 美術	○美術・工芸			
	鑑賞教育	2	○	○ 美術	○美術・工芸			
	保健体育科と情報	2	○	○保健体育	○保健体育		A・B類保健体育専攻SE	
	保健体育科教材研究	2	○	○保健体育	○保健体育			
	体育科学習評価論	2	○	○保健体育	○保健体育			
	教科体育・特活指導計画論	2	○	○保健体育	○保健体育			
	保健体育科カリキュラム開発論	2	○	○保健体育	○保健体育			
	保健体育科模擬授業演習A	2	○				A類保健体育専攻SE	
	保健体育科模擬授業演習B	2		○保健体育	○保健体育		B類保健体育専攻SE	

区分	授業科目名	単位数	「大学が独自に設定する科目」の指定学校種				開設場所	備考
			小学校	中学校	高等学校	幼稚園		
大学が独自に設定する科目として指定されている科目	家庭科教材論Ⅰ	2	○	○ 家庭	○ 家庭		A・B類家庭専攻SE	
	家庭科教材論Ⅱ	2	○	○ 家庭	○ 家庭			
	家庭科カリキュラム論	2	○	○ 家庭	○ 家庭			
	英語科と情報	2	○	○ 英語	○ 英語		A・B類英語専攻SE	
	英語科と異文化理解	2	○	○ 英語	○ 英語			
	英語科教材論	2	○	○ 英語	○ 英語			
	英語教育の現状と課題	2	○	○ 英語	○ 英語			
	第二言語習得	2	○	○ 英語	○ 英語			
	学校教育と情報	2	○	○	○	○	A類学校教育専攻SE	
	教材論	2	○	○	○	○		
	カリキュラム論	2	○	○	○	○		
	授業実践の心理学	2	○	○	○	○	A類学校心理専攻SE	
	教授学習プロセスとその評価	2	○	○	○	○		
	特別支援教育と支援システム	2	○	○	○	○		
	教材論	2	○	○	○	○	A類国際教育専攻SE	
	カリキュラム論	2	○	○	○	○		
	国際教育臨床	2	○	○	○	○		
	教育情報化教材論A	2	○	○	○		A類情報教育専攻SE	
	教育情報化教材論B	2	○	○	○			
	教育情報化臨床	2	○	○	○			
	教育と情報	2	○	○	○		A類情報教育S	
	授業におけるICT活用	2	○	○	○			
	情報教育概論	2	○	○	○			
	情報メディア論	2	○	○	○		A情報教育SA	
	環境教育カリキュラム・方法論	2	○	○	○	○	A類環境教育専攻SE	
	環境教育と情報	2	○	○	○	○		
	ものづくり教育と教材	2	○	○	○	○	A類ものづくり技術専攻SE B類技術専攻SE	
	ものづくり教育臨床	2	○	○	○	○		
	保育者論	2				○	A類幼児教育専攻SE	
	乳幼児心理学	2				○		
	幼児教育学	2				○		
	幼児の健康指導研究	2				○		
	保育原理	2				○	A類幼児教育S	
	幼児教育と情報	2				○		
	科学技術と技術科の授業	2		○ 技術	○ 工業		B類技術専攻SE	
	書道科と情報	2			○ 書道		B類書道専攻SE	
	書道科教材論Ⅰ	2			○ 書道			
	書道科教材論Ⅱ	2			○ 書道			
	書道科カリキュラム・評価論	2			○ 書道			
	特別支援教育と情報	2	○	○			C類専攻SE	
	特別支援教育臨床	2	○	○				
	道徳教育の指導法	2			○	○	ET道徳の指導法	

区分	授業科目名	単位数	「大学が独自に設定する科目」の指定学校種				開設場所	備考
			小学校	中学校	高等学校	幼稚園		
大学が独自に設定する科目に指定されている科目	中等国語科教育法Ⅰ	2	○				中学校各教科指導法	
	中等国語科教育法Ⅱ	2	○					
	中等国語科教育法Ⅲ	2	○					
	中等国語科教育法Ⅳ	2	○					
	中等社会科教育法Ⅰ	2	○		○地歴・公民			
	中等社会科教育法Ⅱ	2	○		○地歴・公民			
	中等数学科教育法Ⅰ	2	○					
	中等数学科教育法Ⅱ	2	○					
	中等数学科教育法Ⅲ	2	○					
	中等数学科教育法Ⅳ	2	○					
	中等理科教育法Ⅰ	2	○					
	中等理科教育法Ⅱ	2	○					
	中等理科教育法Ⅲ	2	○					
	中等理科教育法Ⅳ	2	○					
	中等音楽科教育法Ⅰ	2	○					
	中等音楽科教育法Ⅱ	2	○					
	中等音楽科教育法Ⅲ	2	○					
	中等音楽科教育法Ⅳ	2	○					
	中等美術科教育法Ⅰ	2	○		○ 工芸			
	中等美術科教育法Ⅱ	2	○		○ 工芸			
	中等美術科教育法Ⅲ	2	○		○ 工芸			
	中等美術科教育法Ⅳ	2	○		○ 工芸			
	中等工芸科教育法Ⅰ	2		○ 美術	○ 美術			
	中等工芸科教育法Ⅱ	2		○ 美術	○ 美術			
	中等保健体育科教育法Ⅰ	2	○					
	中等保健体育科教育法Ⅱ	2	○					
	中等保健体育科教育法Ⅲ	2	○					
	中等保健体育科教育法Ⅳ	2	○					
	中等家庭科教育法Ⅰ	2	○					
	中等家庭科教育法Ⅱ	2	○					
	中等家庭科教育法Ⅲ	2	○					
	中等家庭科教育法Ⅳ	2	○					
	中等技術科教育法Ⅰ	2			○ 工業			
	中等技術科教育法Ⅱ	2			○ 工業			
	中等技術科教育法Ⅲ	2			○ 工業			
	中等技術科教育法Ⅳ	2			○ 工業			
	工業科教育法Ⅰ	2		○ 技術				
	工業科教育法Ⅱ	2		○ 技術				
	中等英語科教育法Ⅰ	2	○					
	中等英語科教育法Ⅱ	2	○					
	中等英語科教育法Ⅲ	2	○					
	中等英語科教育法Ⅳ	2	○					

区分	「教科に関する専門的事項」の指定授業科目	単位数	「大学が独自に設定する科目」の指定学校種				開設場所	備考
			小学校	中学校	高等学校	幼稚園		
教科に関する専門的事項の余剰科目（単位）	右記の専攻科目の中で「教科に関する専門的事項」に指定されている科目で免許法上の最低修得単位を越えて修得した科目（単位）	小学校の教科に関する専門的事項	○				専攻科目	
		各専攻・選修の専攻に関する科目		○当該免許教科に限る	○当該免許教科に限る			
		幼稚園の教科に関する科目				○		

○高等学校の「中等(教科)教育法」の取扱い(地理歴史、公民、工芸、書道を除く)

本学では、中学校免許と同様に4科目8単位を必修としているが、免許法では、高等学校免許取得に必要な「中等(教科)教育法」の単位は4単位(法定必要単位)となっている。法定必要単位との余剰分である4単位を高等学校の「大学が独自に設定する科目」の12単位に含めることができる。

○選択科目「教育実地研究Ⅱ」の取扱い

選択科目「教育実地研究Ⅱ」を履修した場合、該当の免許取得のために「大学が独自に設定する科目」の余剰科目分として、あてることができる。「○・・・使用可」

	小学校	中学校	高等学校	養護	幼稚園	備考
①A類幼児教育選修の学生	○				○	協力幼稚園での教育実習
②幼児教育選修を除くA類の学生	○				○	協力小学校での教育実習
③B類の学生		○	○			協力中・高・中等教育学校での教育実習
④D類の学生				○		協力小・中・高・中等教育学校での養護実習

○学校教育系で免許法上の「教育の基礎的理解に関する科目」の余剰分となる科目「○・・・使用可」

区分	授業科目名	単位数	「教育の基礎的理解に関する科目」の指定学校種				開設場所	備考
			小学校	中学校	高等学校	幼稚園		
	特別支援教育の理解	2	○	○	○	○	E F 教育の基礎理論	※1
	※1 C類生が「特別支援教育の理解」の単位を修得した場合							
	特別な教育的ニーズの理解と支援	2	○	○	○	○	C類専攻SE	※2
	※2 A・B・D類生が「特別な教育的ニーズの理解と支援」の単位を修得した場合							

(7) 特別支援学校教諭免許状取得に必要な「特別支援教育に関する科目」の履修方法

特別支援学校教諭の免許状を取得するには、基礎資格として小学校、中学校、高等学校又は幼稚園教諭
普通免許状を有することが必要である。

① 特別支援学校教諭一種免許状(知的障害者)(肢体不自由者)(病弱者)の3領域を取得する場合

区 分		本学の対応する開設授業科目		履修方法	備 考
欄	免 許 法 上 の 「特別支援教育に関する科目」	免許法上の最低修得単位数	授 業 科 目		
第1	特別支援教育の基礎理論に関する科目	2	特別支援教育概論	2	必修
第2	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	16	知的障害心理・生理・病理	2	8科目必修
			発達障害心理学特論	2	
			肢体不自由心理・生理・病理	2	
			病弱心理・生理・病理	2	
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		知的障害教育学	2	
			発達障害教育学特論	2	
			肢体不自由教育学	2	
			病弱教育学	2	
第3	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	5	重複障害教育総論	2	必修
			障害児教育総論	2	必修
			言語障害教育学特論	2	1科目選択
			言語障害心理学特論		
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		言語障害指導法	2	1科目選択
			学習障害教育学特論		
			学習障害心理学特論	2	
			学習障害指導法		
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習	3	特別支援学校教育実習 (旧養護学校)	3	必修
合 計		26単位以上	29単位		

② 特別支援学校教諭二種免許状(知的障害者)(肢体不自由者)(病弱者)の3領域を取得する場合

区 分		本学の対応する開設授業科目		履修 方法	備 考
欄	免 許 法 上 の 「特別支援教育に関する科目」	免許法上の最 低修得単位数	授 業 科 目		
第1	特別支援教育の基礎理論に関する科目	2	特別支援教育概論	2	全科目 必修
第2	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	8	知的障害心理・生理・病理	2	
			肢体不自由心理・生理・病理	2	
			病弱心理・生理・病理	2	
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		知的障害教育学	2	
			肢体不自由教育学	2	
			病弱教育学	2	
第3	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	3	重複障害教育総論	2	
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		障害児教育総論	2	
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習	3	特別支援学校教育実習 (旧養護学校)	3	
合 計		16単位以上		21単位	

③ 特別支援学校教諭一種免許状(聴覚障害者)(知的障害者)の2領域を取得する場合

区 分		本学の対応する開設授業科目		履修方法	備 考
欄	免 許 法 上 の 「特別支援教育に関する科目」	免許法上の最低修得単位数	授 業 科 目		
第1	特別支援教育の基礎理論に関する科目	2	特別支援教育概論	2	必修
第2	心身に障害のある幼児，児童又は生徒の心理，生理及び病理に関する科目	16	聴覚言語障害心理・生理・病理A	2	8科目必修
			聴覚言語障害心理・生理・病理B	2	
			聴覚障害心理学特論	2	
			知的障害心理・生理・病理	2	
	心身に障害のある幼児，児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		聴覚言語障害教育学A	2	
			聴覚言語障害教育学B	2	
			聴覚障害教育学特論	2	
			知的障害教育学	2	
第3	心身に障害のある幼児，児童又は生徒の心理，生理及び病理に関する科目	5	重複障害教育総論	2	必修
			障害児教育総論	2	必修
			言語障害教育学特論	2	1科目選択
			言語障害心理学特論		
	心身に障害のある幼児，児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		言語障害指導法	2	1科目選択
			学習障害教育学特論		
			学習障害心理学特論		
			学習障害指導法		
	心身に障害のある幼児，児童又は生徒についての教育実習	3	特別支援学校教育実習 (旧聾学校)	3	必修
合 計		26単位以上	29単位		

④ 特別支援学校教諭二種免許状(聴覚障害者)(知的障害者)の2領域を取得する場合

区 分			本学の対応する開設授業科目		履修方法	備 考
欄	免 許 法 上 の 「特別支援教育に関する科目」	免許法上の最低修得単位数	授 業 科 目	単位		
第1	特別支援教育の基礎理論に関する科目	2	特別支援教育概論	2	全科目必修	
第2	心身に障害のある幼児，児童又は生徒の心理，生理及び病理に関する科目	8	聴覚言語障害心理・生理・病理B	2		
			知的障害心理・生理・病理	2		
	心身に障害のある幼児，児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		聴覚言語障害教育学A	2		
			知的障害教育学	2		
第3	心身に障害のある幼児，児童又は生徒の心理，生理及び病理に関する科目	3	重複障害教育総論	2		
	心身に障害のある幼児，児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		障害児教育総論	2		
	心身に障害のある幼児，児童又は生徒についての教育実習	3	特別支援学校教育実習 (旧聾学校)	3		
合 計		16単位以上		17単位		

(8) 養護教諭一種免許状の取得に必要な授業科目の履修方法

養護教諭は、D類養護教育教員養成課程(養護教育専攻)のみが取得できる免許状であり、他の専攻・選修の学生は取得できないので注意すること。

免許法上の科目区分		本学の対応授業科目等		履修方法	備考
		授業科目	単位		
養護に関する科目	衛生学及び公衆衛生学(予防医学を含む。)	衛生・公衆衛生学	2	必修	
		保健行動科学	2	必修	
	学校保健	小児科学	2	必修	
		学校安全と危機管理	2	必修	
		学校保健学	2	必修	
		救急処置の理論と演習	2	必修	
		学校保健基礎セミナー	2	必修	
	養護概説	養護概説	2	必修	
	健康相談活動の理論及び方法	健康相談活動の理論と方法	2	必修	
	栄養学(食品学を含む。)	健康と栄養	2	必修	
	解剖学及び生理学	解剖学	2	必修	
		生理学	2	必修	
	「微生物学, 免疫学, 薬理概論」	感染免疫学	2	必修	
		薬理学	2	必修	
	精神保健	精神保健学概論	2	必修	
	看護学(臨床実習及び救急処置を含む。)	臨床医学Ⅰ	2	必修	
		臨床医学Ⅱ	2	必修	
		学校看護学理論と演習Ⅰ	2	必修	
		学校看護学理論と演習Ⅱ	2	必修	
		学校看護学理論と演習Ⅲ	2	必修	
		学校看護学理論と演習Ⅳ	2	必修	
		臨床実習Ⅰ	1	必修	
		臨床実習Ⅱ	2	必修	
教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職入門	2	必修	
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育の理念と歴史	2	必修	
	幼児, 児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	必修	
	特別の支援を必要とする幼児, 児童及び生徒に対する理解	特別支援教育の理解	2	必修	
	教育に関する社会的, 制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育組織論	2	必修	
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程の理論と実践	2	必修	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育の方法とICT	2	必修	
	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	道徳教育の指導法	2	必修	
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2	必修	
	生徒指導の理論及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)	生徒指導・進路指導の理論と方法	2	必修	
		教育相談の理論と方法	2	必修	
教育実践に関する科目	養護実習	養護実習	5	必修	
	教職実践演習	教職実践演習(養護教諭)	2	必修	
合計			74		

※上記科目を履修することで、「大学が独自に設定する科目」に必要な7単位分も含まれる。

23

資格又は受験資格取得に 必要な単位及び履修方法 （諸資格）

資格又は受験資格取得に必要な単位及び履修方法

1 司書教諭

本学の開設授業科目・単位等						講習相当科目・単位数	
授業科目	授業内容	単位	標準開設学期	開設場所	履修方法	科目	単位数
学校経営と学校図書館	学校図書館・メディアセンターの基礎及び管理運営論	2	V	教職に関する科目 [選択]	必修	学校経営と学校図書館	2
学校図書館メディアの構成	学校図書館・メディアの種類・特性、及びその選択、収集、組織化	2	V			学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	「情報活用能力」育成のための児童への支援活動 教員に対する支援活動	2	VI			学習指導と学校図書館	2
読書と豊かな人間性	読書活動と読書指導	2	V			読書と豊かな人間性	2
情報メディアの活用	情報メディアの種類・特色および学校図書館での活用	2	VI			情報メディアの活用	2

* 司書教諭の資格取得手続き

- 司書教諭資格取得には、法令上基礎となる教育職員免許状(小, 中, 高)のいずれかが必要である。
- **3年次(卒業予定年次の前年度)までに全ての必修科目を取得した者**は、4年次(卒業予定年次)の7月頃に学務課担当窓口に申請すること。
- **4年次(卒業予定年次)までに全ての必修科目を取得した者**は、卒業後(教育職員免許状取得後)の6月初旬頃に本学のホームページを参照し、「学校図書館司書教諭講習」の参加申請をすること。
(書類参加のみ、講習は受講しなくてよい)
- 上記以外の者は、教育職員免許状(幼稚園教諭免許状を除く。)取得後、毎年8月に実施される「学校図書館司書教諭講習」の実施大学に申請すること。(本学は昭和29年度以降継続して講習実施大学である。)

2 保育士

保育士は、A類幼児教育選修の学生のみが取得できる資格であり、他専攻・選修の学生は取得できないので注意すること。なお、資格取得に関する科目は、A類幼児教育選修のみに開設される。

[授業科目名等の記載については省略]

3 司書

本学の開設授業科目・単位数等						講習相当科目・単位数	
授業科目	授業内容	単位数	標準開設学期	履修方法	開設場所	科目	単位数
生涯学習概説Ⅰ	同 左	2	I	必修	E生涯学習S A・B美術SB E表現教育SB	生涯学習概論	2
図書館情報学概説Ⅰ	同 左	2	Ⅲ	必修	E生涯学習SA	図書館概論	2
情報検索技術論	同 左	2	V	1科目選択		図書館情報技術論	2
情報管理技術論	同 左	2	Ⅵ				
地域図書館経営論	同 左	2	Ⅲ	必修		図書館制度・経営論	2
地域図書館サービス論	同 左	2	Ⅳ	必修		図書館サービス概論	2
情報サービス論	同 左	2	V	必修		情報サービス論	2
子ども図書館サービス論	同 左	2	Ⅳ	必修		児童サービス論	2
資料・情報サービス演習	同 左	2	Ⅵ	1科目選択		情報サービス演習	2
情報検索演習	同 左	2	Ⅵ				
メディア資源論	同 左	2	Ⅲ	必修		図書館情報資源概論	2
資料・情報組織法Ⅰ	同 左	2	Ⅲ	必修		情報資源組織論	2
資料・情報組織法Ⅱ	同 左	2	Ⅳ	必修		情報資源組織演習	2
図書館特論	同 左	2	Ⅳ	2科目選択	E生涯学習SA	図書館基礎特論	1
学校図書館サービス特論	同 左	2	Ⅵ		E生涯学習S	図書館サービス特論	1
学術情報メディア特論	同 左	2	V		E生涯学習SA	図書館情報資源特論	1
図書館情報学概説Ⅱ	同 左	2	Ⅳ			図書・図書館史	1
図書館建築論	同 左	2	Ⅲ			図書館施設論	1
図書館情報学演習Ⅰ	同 左	2	V			図書館総合演習	1

＊司書の資格取得手続き

上記単位を取得した者で資格証明が必要な者は、大学に対し「資格取得証明書」の発行を申請すること。

4 学校司書

本学の開設授業科目・単位数等					「学校司書のモデルカリキュラム」 における文部科学省の提示科目		
授業科目名	単 位 数	標 準 開 設 学 期	履 修 方 法	開設場所		科目名	単 位 数
学校経営と学校図書館	2	V	必修	教職に関する科目〔選択〕	学校図書館の運営・管理・サービスに関する科目	学校図書館概論	2
情報管理技術論	2	VI	1 科 目 選 択	E生涯学習 SA		図書館情報技術論	2
情報検索技術論	2	V				図書館情報資源概論	2
メディア資源論	2	III	必修			情報資源組織論	2
資料・情報組織法Ⅰ	2	III	必修			情報資源組織演習	2
資料・情報組織法Ⅱ	2	IV	必修			学校図書館サービス論	2
学校図書館サービス特論	2	VI	必修	E生涯学習 S		学校図書館情報サービス論	2
情報サービス論	2	V	必修	E生涯学習 SA			
資料・情報サービス演習	2	VI	1 科 目 選 択				
情報検索演習	2	VI					
教育の理念と歴史	2	I・II	必修	学校教育系 教育基礎科目	児童生徒に対する教育支援に関する科目	学校教育概論	2
教育心理学	2	III	必修				
特別支援教育の理解	2	I・II	1 科 目 選 択				
特別な教育的ニーズの 理解と支援	2	V					
教育課程の理論と実践	2	IV	必修				
学習指導と学校図書館	2	VI	必修	教職に関する科目〔選択〕		学習指導と学校図書館	2
読書と豊かな人間性	2	V	必修			読書と豊かな人間性	2

* 学校司書の資格取得手続き

上記単位を取得した者で資格証明が必要な者は、大学に対し「学校司書に関する科目の単位修得証明書」の発行を申請すること。

5 社会教育主事(社会教育士)

本 学 の 開 設 授 業 科 目 ・ 単 位 数 等						講習相当科目・単位数	
授業科目	授業内容	単位数	標準 開設 学期	開設場所	履修方法	科 目	単位数
生涯学習概説Ⅰ	同 左	2	Ⅰ	E生涯学習S	必修	生涯学習概論	4
生涯学習概説Ⅱ	同 左	2	Ⅱ	A・B美術SB E表現教育SB			
生涯学習支援論Ⅰ	同 左	2	Ⅲ	E生涯学習SA		生涯学習支援論	4
生涯学習支援論Ⅱ	同 左	2	Ⅳ				
社会教育経営論Ⅰ	同 左	2	Ⅴ	E生涯学習SA		社会教育経営論	4
社会教育経営論Ⅱ	同 左	2	Ⅵ				
社会教育演習Ⅰ	同 左	2	Ⅴ	E生涯学習SA		社会教育演習、社会教育実 習又は社会教育課題研究 のうち1以上の科目	3
社会教育演習Ⅱ	同 左	2	Ⅵ				
社会教育実習A	同 左	1	Ⅲ	E生涯学習SA	1科目以上 選択必修	社会教育実習	1
社会教育実習B	同 左	1	Ⅳ				
現代社会と生涯学習	同 左	2	Ⅰ	E生涯学習S	4科目以上 選択必修	社会教育特講	8
生涯学習とキャリア形成	同 左	2	Ⅱ				
同和問題と社会教育	同 左	2	Ⅱ	E生涯学習SA			
地域教育基礎論	同 左	2	Ⅲ				
コミュニティ形成と社会教育	同 左	2	Ⅲ				
社会教育実践論	同 左	2	Ⅳ				
性と人権	同 左	2	Ⅳ				

＊社会教育主事の資格および社会教育士(養成課程)の称号取得手続き

上記単位を取得した者で資格および称号証明が必要な者は、大学に対し「社会教育主事に関する科目の単位修得証明書」の発行を申請すること。

6 学芸員

本 学 の 開 設 授 業 科 目 ・ 単 位 数 等						学芸員に関する科目・単位数		
授業科目	授業内容	単位 数	標準開 設学期	開設場所	履修方法		科 目	単位 数
生涯学習社会と博物館	同 左	2	Ⅲ	E生涯学習S A・B美術SB	必修	10 科 目 22 単 位 以 上 修 得 す る こ と	博物館教育論	2
博物館学基礎論	同 左	2	Ⅳ	E生涯学習SA A・B美術SB			博物館概論	2
博物館資料論	同 左	2	Ⅲ	E生涯学習SA			博物館資料論	2
博物館経営論	同 左	2	Ⅲ				博物館経営論	2
博物館実習Ⅰ	同 左	④	ⅤⅥ	E生涯学習SA			博物館実習	3
博物館実習Ⅱ	同 左	②	ⅦⅧ					
博物館情報・メディア論	同 左	2	Ⅳ	E生涯学習SA			博物館情報・メディア論	2
生涯学習概説Ⅰ	同 左	2	Ⅰ	E生涯学習S A・B美術SB E表現教育SB	1 科 目 選 択		生涯学習概論	2
生涯学習概説Ⅱ	同 左	2	Ⅱ	E生涯学習SA A・B美術SB E表現教育SB				
博物館資料保存論	同 左	2	Ⅳ	E生涯学習SA	必修		博物館資料保存論	2
博物館展示論	同 左	2	Ⅴ	E生涯学習SA	1 科 目 選 択	博物館展示論	2	
博物館と展示の活用	同 左	2	Ⅳ	A環境SA				

*履修上の注意

「博物館実習Ⅰ」は「生涯学習社会と博物館」「博物館学基礎論」の単位修得後に履修すること。

なお、「生涯学習社会と博物館」⇒「博物館学基礎論」の順番に履修すること。

「博物館実習Ⅱ」は「博物館実習Ⅰ」の単位修得後に履修するが、「博物館実習Ⅱ」の履修前までに資格取得に必要な他の科目全てを修得済みであることが望ましい。

*学芸員の資格取得手続き

上記単位を修得した者で資格証明が必要な者は、大学に対し「資格取得証明書」の発行を申請すること。

7 その他

本学は公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成免除適応コースに認定されている。

申請により、「共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、公認スポーツプログラマーの専門講習、公認ジュニアスポーツ指導員の専門講習、公認水泳指導員の専門講習が免除され、公認水泳コーチの資格が取得可能。

取得を希望する者は説明会等の掲示を確認すること。

[授業科目名等の記載については省略]

24

学校教育系 専攻・選修ガイド

目 次

【学校教育系】

初等教育教員養成課程（A 類）

国語選修	・ ・ ・ ・ ・	184
社会選修	・ ・ ・ ・ ・	187
数学選修	・ ・ ・ ・ ・	191
理科選修	・ ・ ・ ・ ・	193
音楽選修	・ ・ ・ ・ ・	197
美術選修	・ ・ ・ ・ ・	199
保健体育選修	・ ・ ・ ・ ・	202
家庭選修	・ ・ ・ ・ ・	204
英語選修	・ ・ ・ ・ ・	206
学校教育選修	・ ・ ・ ・ ・	208
学校心理選修	・ ・ ・ ・ ・	210
国際教育選修	・ ・ ・ ・ ・	212
情報教育選修	・ ・ ・ ・ ・	214
環境教育選修	・ ・ ・ ・ ・	216
ものづくり技術選修	・ ・ ・ ・ ・	218
幼児教育選修	・ ・ ・ ・ ・	221

中等教育教員養成課程（B 類）

国語専攻	・ ・ ・ ・ ・	223
社会専攻	・ ・ ・ ・ ・	225
数学専攻	・ ・ ・ ・ ・	230
理科専攻	・ ・ ・ ・ ・	232
音楽専攻	・ ・ ・ ・ ・	236
美術専攻	・ ・ ・ ・ ・	238
保健体育専攻	・ ・ ・ ・ ・	241
家庭専攻	・ ・ ・ ・ ・	243
英語専攻	・ ・ ・ ・ ・	245
技術専攻	・ ・ ・ ・ ・	247
書道専攻	・ ・ ・ ・ ・	250

特別支援教育教員養成課程（C 類）

養護教育教員養成課程（D 類）

初等教育教員養成課程(A類) 国語選修

1. 選修の目的・目標

A類国語選修は、基本的に小学校教員の養成を国語教育という立場から行おうとするものです。国語教育を成り立たせるものは基礎科学と教科教育学です。両者は車の両輪のようなものです。国語科は基礎科学の日本語学・日本文学(古典文学・近代文学)・中国古典学と、教科教育学の国語科教育学、以上の四つの専門領域から成り立っています。また、2年次からは日本語教育コースが設けられており、外国人児童生徒への日本語教育に関する領域も加わります。皆さんが、これらのどの領域に重点を置いて学ぶのかは自由です。履修の仕方によって自分なりの国語教育観・言語教育観がつけられ、逆に自分の国語教育観・言語教育観によって履修科目が決まってくるともいえます。

2. カリキュラムの特色と構造

カリキュラムには、全学を対象とした教養科目があり、その上に立って教育基礎科目と国語選修の専攻科目があります。専攻科目は(1)教科・教職に関する科目(①小学校の教科に関する専門的事項(SP)と②教科・教職に関する科目(共通SE, 専攻 SE)に分類される)、(2)専攻に関する科目(必修 S・選択 SA)、(3)卒業研究(SZ)の3種類の科目から成っています。

これらの専攻科目は、(1)の①は小学校で指導する各教科についての知識や技能を学び、(2)で国語および日本語教育の専攻に関する専門性を深める科目を学びます。そして(3)卒業研究は4年間の学習と研究の集大成として卒業論文を作成します。

このうち(1)の①については次の通りです。

①小学校の教科に関する専門的事項は、小学校の各教科についての知識や技能を学ぶものです。A類の学生は小学校教諭の1種免許状を取得することが卒業要件となっているので、そのために必要な単位です。10教科のうち「国語」については、国語科の学生は(2)の専攻に関する科目をこれに当てることができますから「国語」に関する科目を別に履修する必要はありません。したがって9教科(社会、算数、理科、生活、家庭、英語、音楽、図画工作、体育)、計16単位が履修単位となります。

それ以外の専攻科目については、3. 履修の方法で説明します。

3. 履修の方法

専攻科目については2. カリキュラムの特色と構造で説明した「①小学校の教科に関する専門的事項」以外に、「②教科・教職に関する科目」「専攻に関する科目(必修S・選択SA)」があります。

「②教科・教職に関する科目」は、教科教育学と教科専門を横断した応用的科学です。「国語科と情報」「国語科教材論A」「国語科教材論B」「国語科教材論C」の中から、合計4単位以上の履修が必要です。

「専攻に関する科目」は必修科目の「国語選修入門セミナー」、「日本語学概論Ⅰ・Ⅱ」、「日本文学史Ⅰ・Ⅱ」、「日本文学概論Ⅰ・Ⅱ」、「中国古典文基礎」、「日本語教育概論」、「中学書写A」合計20単位は、必ず修得して下さい。

また選択科目Aの中から8単位以上を選択し、修得します。その際、演習科目6単位を必ず履修すること。すなわち、次の科目から3科目以上を必ず選択して下さい。

日本語学演習A	日本語学演習B	現代日本語文法Ⅱ	
古典文学演習A	古典文学演習B	古典文学演習C	古典文学演習D
近代文学演習A	近代文学演習B	近代文学演習C	近代文学演習D
中国古典演習A	中国古典演習B	中国古典演習C	

日本語教育コース(2年次より設置)の学生は、選択科目Aの中から次の3科目(6単位)を含め10単位以上を選択し、修得するようにしてください。(上記演習科目の代わりとして履修することが望まれます。)

日本語教育方法論 年少者日本語教育 日本語教育基礎研究

卒業研究は国語科では「卒業論文」をこれにあてています。必修4単位です。

卒業論文作成に向けて、3年次春学期・秋学期に下記の授業があります。春学期に 1 科目、秋学期に 1 科目、計2科目(4単位)を必ず選択し、修得して下さい。

(春学期)

日本語学基礎研究 古典文学基礎研究 近代文学基礎研究 中国古典学基礎研究

国語科教育基礎研究 日本語教育基礎研究

(秋学期)

日本語学応用研究 古典文学応用研究 近代文学応用研究 中国古典学応用研究

国語科教育応用研究 日本語教育応用研究

なお卒業論文に関する詳しい説明は国語科「あなたのための履修ガイド」を参照してください。

専攻科目以外の履修等については、教育基礎科目として教育実習があります。3年生9月に教育実地研究Ⅰ、4年生の5～6月に教育実地研究Ⅱ(選択)があります。

4. 4年間の標準的履修モデル

学 年	1		2		3		4	
学 期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
専攻SE科目 (選択必修)		国語科と情報	国語科教材論B	国語科教材論A		国語科教材論C		
S 科 目 (必修)	日本文学概論Ⅰ 日本文学史Ⅰ 日本語学概論Ⅰ 日本語教育概論 国語選修入門セミナー	日本文学概論Ⅱ 日本文学史Ⅱ 日本語学概論Ⅱ 中国古典文基礎				中学書写A		
SA科目 (選択)			日本語学演習A, B 現代日本語文法Ⅱ 古典文学演習A～D 近代文学演習A～D 中国古典演習A, B	児童文学 日本語教育と言語学 日本語教育方法論 現代日本語文法Ⅰ	現代文化論 日本語教育教材開発論 日本語政策論 言語習得と発達	日本語学基礎研究 古典文学基礎研究 近代文学基礎研究 中国古典学基礎研究 国語科教育基礎研究 日本語教育基礎研究 のうちのいずれか 中国古典演習C	日本語学応用研究 古典文学応用研究 近代文学応用研究 中国古典学応用研究 国語科教育応用研究 日本語教育応用研究 のうちのいずれか 日本語音声	
SZ科目							卒業研究	
教育実習等	介護等体験(特別支援学校)		介護等体験(社会福祉施設)		事前事後指導 9月:教育実地研究Ⅰ		6月:教育実地研究Ⅱ 教職実践演習	
教室行事	4月:オリエンテーション						12月:卒論提出 1月:卒論発表会	
その他					3年生キャリア支援セミナー (教員・企業・公務員等) 10月東京教師養成塾募集		4年生キャリア支援セミナー (教員志望) 7月～教員採用試験	

4年間の標準的履修モデル(日本語教育コース) SA科目を20単位修得する場合

学 年	1		2		3		4	
学 期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
専攻SE科目(選択必修)		国語科と情報	国語科教材論B	国語科教材論A		国語科教材論C		
S科目(必修)	日本文学概論Ⅰ 日本文学史Ⅰ 日本語学概論Ⅰ 日本語教育概論 国語選修入門セミナー	日本文学概論Ⅱ 日本文学史Ⅱ 日本語学概論Ⅱ 中国古典文基礎				中学書写A		
SA科目(選択)			日本語教育方法論 現代日本語文法Ⅰ 日本語教育と言語学	(以下よりいずれか2科目) 現代日本語文法Ⅱ 言語習得と発達 日本語政策論 日本語教育教材開発論	異文化間教育 日本語教育基礎研究	年少者日本語教育 日本語教育応用研究		
SZ科目							卒業研究	
教育実習等	介護等体験(特別支援学校)		介護等体験(社会福祉施設)		事前事後指導 9月:教育実地研究Ⅰ		6月:教育実地研究Ⅱ 教職実践演習	
教室行事	4月:オリエンテーション						12月:卒論提出 1月:卒論発表会	
その他					3年生キャリア支援セミナー(教員・企業・公務員等) 10月東京教師養成塾募集		4年生キャリア支援セミナー(教員志望) 7月～教員採用試験	

- ※2年次から日本語教育コースを希望する学生は、教科・教職に関する科目(共通SE)として「外国人児童生徒への日本語教育」を履修しておくこと。また、教養科目総合学芸領域(CA)として「現代社会と日本語」を履修しておくことが望ましい。
- ※副免許で中学校教諭一種免許状(国語)、高等学校教諭一種免許状(国語)を取得する際の必須科目である「中国古典文献概論」については、2年次に履修してください。

5. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

国語科を卒業した人の就職先を大別すると、教職と教職外に分けられます。また本学や他大学の大学院に進学する人もあります。ここ数年、教員の採用数は増加の傾向にあり、小学校教員として就職する人が増えつつあります。3年生の秋学期に募集のある東京教師養成塾に応募し、東京都の教員に採用された人もいます。中学校・高等学校も少しずつではありますが、採用数が増える傾向にあります。ただし高等学校の教員については最近大学院修了者を採用するところが増えていきますので、そのことを念頭において進路を考える必要があります。教職外では企業・公務員として就職する人もあります。

初等教育教員養成課程(A類) 社会選修

1. 選修の目的・目標

A類社会選修は、1学年70名、総数では280名に及ぶ学生が所属し、B類社会専攻とともに社会科教室を構成しています。本選修は、主として小学校教員をめざす学生が、社会のしくみと原理について確実な知識を習得し、社会について学問的に考える能力を養うこと、またそれをもとに児童・生徒の社会への関心を高め、公民的資質の基礎を養成できる人材、いいかえれば「社会と社会科に強い小学校教員」になることができる人材を育成することを目的としています。

2. カリキュラムの特色と構造

社会科教室には歴史学、地理学、哲学、法学・政治学、経済学、社会学、社会科教育学の7つの分野があり、合わせて30名近くの教員がいます。それ以外にも社会科に関連する分野を担当している教育支援系の教員がおり、専門科目の勉強やゼミ活動の指導、卒論指導などを受けることができます。以下では、社会科教室の専攻科目を中心にカリキュラムの特色を説明します。

1年次には、まず春学期に社会選修入門セミナー(S)を履修し高等学校までとは異なる大学での(そして学芸大社会科教室での)勉学の方法について学びます。あわせて春学期・秋学期にわたって必修の概論科目(S)とその他の選択科目(SA)を履修し、社会科の基礎的な概念や考え方を学びます。

2年になると7つの分野のいずれかに所属し、各分野の特色ある「選択科目 A」(SA)を中心に履修して、専門領域について体系的に学習を深めていきます。これは基礎知識にもとづいて応用力を獲得し「社会に強くなる」ことを目的としています。これと並行して初等社会科教育法(「教育課程及び指導法に関する科目」)および社会科共通の「教科・教職に関する科目」(専攻SE)を履修し、社会科の考え方や教育・教材開発にかかわる方法論、授業研究などに関して学びを深め、将来、「社会科に強い」教員として応用できる実践力を養います。

本選修のカリキュラムの重要な特色は、演習を中心とする少人数教育です。教員や仲間と社会と社会科に関する議論を通じて学問の楽しさを実感できるでしょう。分野によっては野外での実地調査も行います。2年では各分野の基礎的な演習、3年ではより進んだレベルの演習に参加し、卒業論文の準備をしながら研究を進めます。4年次には約1年かけて学生生活の集大成となる質の高い卒業論文の完成をめざします。

3. 履修の方法

A類社会選修は小学校教員免許の取得を主な目的としてカリキュラムが構成されています。教員免許取得に必要な科目のアウトラインは教職免許法によって定められていますが、A類の卒業要件を満たすように履修していけば必要な単位が修得できるようになっています。なお「社会科と情報」「社会科カリキュラム論」「社会科教材論A」「社会科教材論B」の4科目は、教科と教職の両方にかかわる本学独特の科目(「教科・教職に関する科目」(専攻SE))で、2科目4単位の履修が卒業要件となっていますが、それにかかわらず4科目全てを履修することが望まれます。特に「社会科と情報」は必ず履修するようにしてください。

4. 4年間の標準的履修モデル(選修内の行事予定)

A類社会選修の専攻科目を中心にして、4年間の標準的な履修の流れを表に示しました。卒業に必要な単位を修得し、卒業要件である小学校教員免許を取得するには、これ以外に教養科目(22単位)、教育基礎科目(教育実習を含む47単位)をそれぞれの履修基準に従って履修し、最終的に129単位以上を修得する必要があります。

「専攻SE科目」から「その他」までの4項目は、A類社会選修に共通の必修科目と教室行事です。必修の

専攻SE科目, S科目はできるだけ標準開設学期に, 専攻科目に優先して履修してください。

5番目の項目から下は, 2年から所属する分野別に, 主な選択科目と行事をあげています。自分の所属する分野の授業科目を中心に履修していきますが, 選択科目は社会科共通なので, 時間割の上で履修可能であればどの科目も履修できます。なお各分野で標準開設学期の厳守やその他の履修条件を定めている科目があるので, 2年次以降毎年度開催される分野別のオリエンテーションには必ず出席し, その指示に従ってください。

各分野の詳細については, B類社会専攻の「4. 社会科各分野の特色紹介」を参照してください。

学 年	1		2		3		4	
学 期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
専攻SE科目		社会科と情報	社会科カリキュラム論			社会科教材論 A・B		
S科目	地理学概論 日本史概論 社会選修入門セミナー	社会科概論 A 法学政治学概論						
教育実習等	介護等体験(特別支援学校)		介護等体験(社会福祉施設)		9月:教育実地研究 I		5～6月:教育実地研究 II (選択) (EZ)教職実践演習	
その他 (専攻共通)	(春学期) 4月:新入生研修 12月:分野分け説明会 1～2月:所属分野確定				(春学期) 3年生キャリア支援セミナー(教員・企業・公務員等) 10月:東京教師養成塾募集		(春学期) 4年生キャリア支援セミナー(教員志望者) 7月～:教員採用試験	
歴史学分野 SA科目		東洋史概論 西洋史概論	歴史学文献 講読 A・B・C 歴史学概論	歴史学基礎 演習 A・B	日本史演習 A I, B I, C I 東洋史演習 I 西洋史演習 A I, B I	日本史演習 A II, B II, C II 東洋史演習 II 西洋史演習 A II, B II 日本史研究 A, B, C 東洋史研究 西洋史研究 A, B	(SZ)卒業研究	(SZ)卒業研究
歴史学分野 行事			4月各ゼミで歓迎会 東京学芸大学史学会		4月:東京学芸大学史学会 2月:卒業論文発表会への参加 (全員参加)		4月:東京学芸大学史学会 2月:卒業論文発表会での発表 (全員参加)	
地理学分野 SA科目		地理学研究 法	自然環境 地域調査法* 地理学基礎演 習 I *	地誌学概論 地理学基礎 演習 II *	臨地研究 I * 自然地理学実 習 I・II *	臨地研究実習 (10月上旬)* 臨地研究 II * 人文地理学実 習*	(SZ)卒業研究 地理学演習 I *	(SZ)卒業研究 地理学演習 II *
			III人文地理学研究・V地理情報と地図 IV自然地理学研究・VI地誌学研究・VII環境地理学研究 *印は指定の学期に必ず履修する。					
地理学分野 行事			4月:歓迎会 6月:学芸地理学会総会		4月:歓迎会 6月:学芸地理学会総会		4月:歓迎会 6月:学芸地理学会総会 2月:卒論発表会	
哲学分野 SA科目	哲学・倫理学 概論	哲学と宗教	哲学基礎資 料講読 東洋哲学史 I 西洋哲学史	哲学・倫理学 基礎演習 宗教思想基 礎演習 東洋哲学史 II	宗教思想の 諸問題 心の哲学と知 識論 応用倫理	哲学特殊研究 A・B・C	(SZ 卒業研究)	(SZ 卒業研究)

哲学分野行事			4月:歓迎会		1月:卒論構想発表会		11月:卒論中間報告 2月:卒論発表会	
	1		2		3		4	
学 期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
法学・政治 学分野 SA科目			憲法 A 民法 A・C 刑法A・C 教育と法 政治学 A	憲法 B・C 民法 B 刑法B 政治学 B 法学政治学 基礎演習*	法学政治学 演習 I*	法学政治学演 習 II*	(SZ 卒業研究)	(SZ 卒業研究)
			* 演習は卒業研究には必須・指定学期に履修 憲法 ABC, 民法 ABC, 刑法 ABC, 教育と法は隔年開講					
法学・政治 学分野行事			4月:歓迎会				7月:卒論中間報告 11月:卒論第2回中間報告 2月:卒論最終報告会	
経済学分野 SA科目		経済学概論	経済学基礎 演習 I* 経済学基礎 A	経済学基礎 演習 II* 経済学基礎 B	経済学演習 I * 経済学応用 A	経済学演習 II 経済学応用B 経済学応用C 経済学応用D	(SZ 卒業研究)	
			* 演習は卒業研究には必須					
経済学分野 行事			4月:歓迎会				卒論中間報 告(7・11月)	卒論最終報 告会(2月)
社会学分野 SA科目	社会学概論		社会学入門 演習 地域を探索 社会調査 I 現代社会と 世代* 社会学史* 家族社会学* 都市社会学	社会学基礎 演習 地域を探索 社会調査 II アイデンティ ティと社会* ジェンダーの 社会学* コミュニケー ションの社会 学*	社会学演習 I	社会学演習 II	(SZ) 卒業研究	(SZ)卒業研究
			*隔年開講					
社会学分野 行事			4月:歓迎会		7月上旬:分 野合宿			2月上旬:卒 論発表会
社会科教育 学分野SA 科目			社会科地域 教材論 I 地理教育実 践論	社会科教育 実践史 社会科授業 論 歴史教育実 践論	社会科地域 教材論 II 比較社会科 教育論 I, II	社会科教育研 究入門 公民教育実践 論	社会科地域 教材論 III (SZ) 卒業研究	(SZ)卒業研究
社会科教育 学分野行事			東京学芸大学社会科教育学 会例会(年3回)		東京学芸大学社会科教育学 会例会(年3回)		東京学芸大学社会科教育学 会例会(年3回)	

* 社会科専攻必修科目(S)だけでは中学校社会科, 高校地理歴史科・公民科の免許取得に必要な条件を満たしていません。
選択科目(SA)を利用して必要単位を履修してください。

* いわゆる「介護等体験特例法」により, 小・中学校教諭の普通免許状を取得するには, 特別支援学校(2日間), 社会福祉施設等(5日間)の2種類, 合計7日間以上の介護等体験をする必要があります。学校教育系では1・2年次の2回に分けて実施します。
指定されたスケジュールに従って必ず介護等体験を行ってください。

5. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

A類社会選修では東京都はじめ各道府県の小学校教員が一般的な進路です。なおA類生が中学社会科, 高校地理歴史科・高校公民科の免許を取得するにはB類生と同様の履修が必要となります。B類社会専攻のスタディガイドを参考にしてください。教員以外にも, 非教育職公務員(東京都・区市町村, 国の機関など), 民間教育機関, 教育系出版社, 旅行社などの一般企業, 銀行, 証券会社, コンピュータソフトウェア関連会社など, 進路は多岐にわたります。本学の教職大学院や他大学の大学院へ進学してさらに研鑽を積む学生もいます。

初等教育教員養成課程(A類) 数学選修

1. 選修の目的・目標

数学科教室は、学生の数学的能力の育成と、小学校教員としての資質の養成を目的とし、以下の事項を教育の目標とする。

- (1) 小学校算数の内容を考察し、数学教育の理論と実践についての素養を身につける
- (2) 数学に対する興味と理解を深める。
- (3) 数学を学ぶことによって、自然や社会に対して自らの頭で論理的に考える態度を育てる。

2. カリキュラムの特色と構造

数学は、一步一步階段を上るように学習を積み重ねていく学問である。数学科における各科目は、このことを考慮して1・2年次に基礎数学、線形数学、微分・積分、代数学、幾何学、確率・統計等の数学の基礎となる科目、3・4年次に代数学各論、幾何学各論、解析学各論、確率論各論等のさらに高度な数学の科目とカリキュラムや指導法に関する数学教育の科目を、「教科・教職に関する科目(専攻SE)」,「必修科目(S)」,「選択科目A(SA)」に配置してある。4年次での卒業研究では、数学、数学教育から選択した分野内の1つのテーマについてより深い専門的な学習をする。

3. 履修の方法

- (1) 教科・教職に関する科目(専攻SE)のうち「数学カリキュラム論」,「初等算数教科教材論」,「算数科教育臨床」の中から2科目4単位以上を修得する。
- (2) 数学科の専攻科目はすべて標準履修学期に履修すること。上位学年の科目を履修する事はできない。
- (3) 卒業研究を履修するためには必修科目(S科目)の「数学選修入門セミナー(2単位)」,「微分・積分学(4単位)」,「線形数学(4単位)」,「解析学Ⅰ(2単位)」,「代数学Ⅰ(2単位)」,「幾何学Ⅰ(2単位)」,「確率・統計Ⅰ(2単位)」の合計18単位をすべて修得していなければならない。
- (4) 中学校および高等学校の数学科教員免許状を取得するには、必修科目に加えて、「代数学Ⅱ」,「幾何学Ⅱ」,「解析学Ⅱ」,「確率・統計Ⅱ」,「コンピュータ概論」をふくむ教育職員免許法上の科目合計20単位以上を修得し、「中等数学科教育法Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ」の計8単位を修得しなければならない。スタディガイドの学校教育系学生のための教員免許状の取得方法を参照して下さい。
- (5) 4年次(秋学期)には、教育基礎科目の必修科目として「教職実践演習」を履修する。

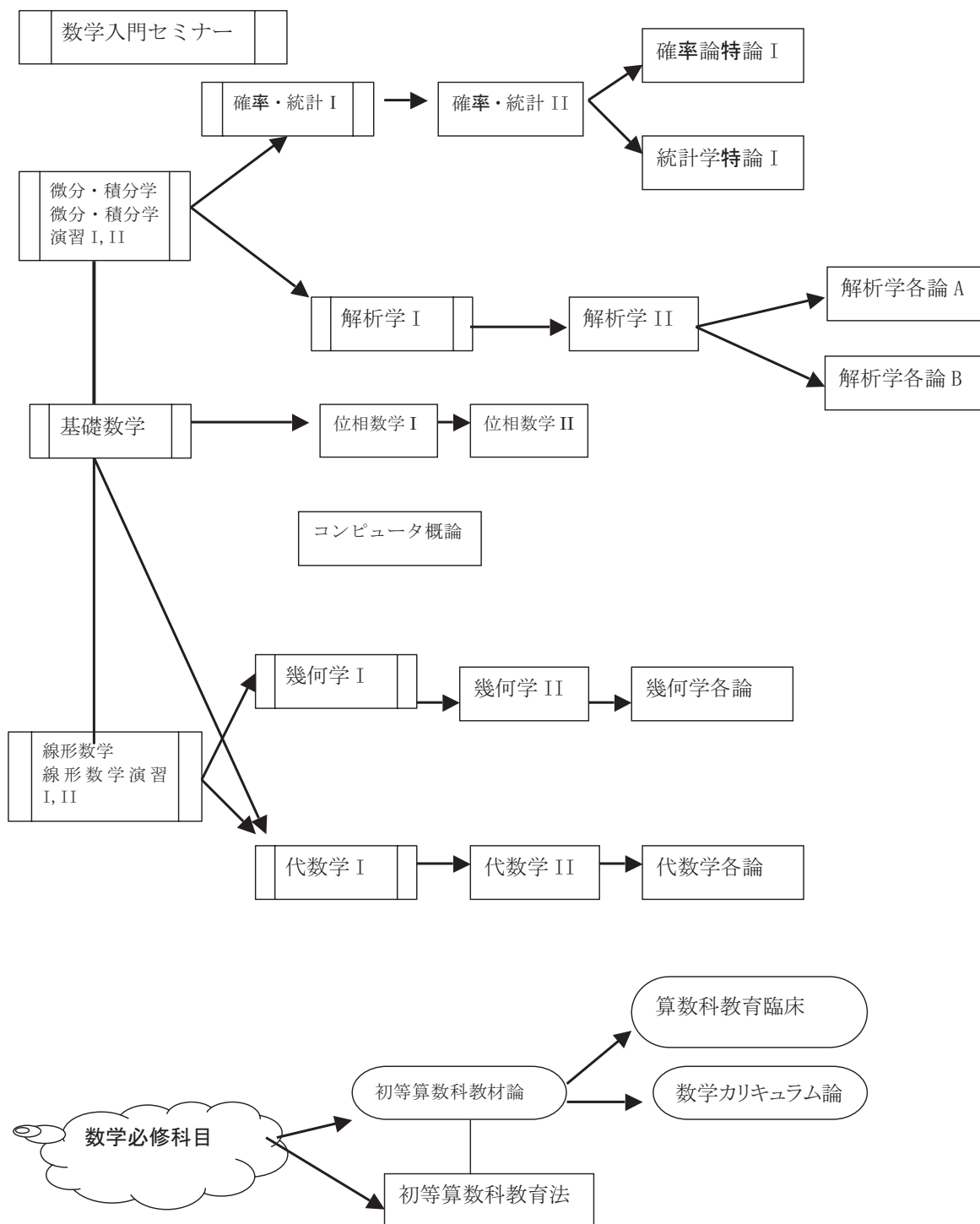
4. 4年間の標準的履修モデル

学年	1		2		3		4	
学期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
必修	微分・積分学 線形数学 入門セミナー		代数学Ⅰ 幾何学Ⅰ 解析学Ⅰ 確率・統計Ⅰ					卒業研究
SE科目			授業観察演習		初等算数教科教材論	数学カリキュラム論 算数科教育臨床		
SA科目	微分・積分学演習Ⅰ 線形数学演習Ⅰ 基礎数学	微分・積分学演習Ⅱ 線形数学演習Ⅱ	位相数学Ⅰ コンピュータ概論	代数学Ⅱ 幾何学Ⅱ 解析学Ⅱ 確率・統計Ⅱ 位相数学Ⅱ	代数学各論 幾何学各論 解析学各論A 確率論特論Ⅰ 統計学特論Ⅰ	解析学各論B		
				上記から専門に合わせて2～4科目			3年次のSA科目のうち未履修科目	
					9月:事前・事後指導 教育実地研究Ⅰ		5～6月:教育実地 研究Ⅱ(選択)	10月:選択実習 教職実践演習
教育実習								
ET				初等算数科教育法				
中・高 のた め の 免 許 取 得			代数学Ⅰ 幾何学Ⅰ 解析学Ⅰ 確率・統計Ⅰ コンピュータ概論 中等数学科教育法Ⅰ	代数学Ⅱ 幾何学Ⅱ 解析学Ⅱ 確率・統計Ⅱ	SA科目から教育職員免許法上の科目 2単位以上		9～10月: 選択実習	
教室行事	1年オリエンテーション		2年オリエンテーション		3年オリエンテーション	卒業研究室決定		
その他	(春学期) 1年生キャリア支援セミナー		(春学期) 2年生キャリア支援セミナー		(春学期) 3年生キャリア支援セミナー (教員・企業・公務員等) 10月:東京教師養成塾募集		(春学期) 4年生キャリア支援セミナー(教員志望) 7月～:教員採用試験	

5. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

卒業要件をみれば、小学校教諭一種免許状を取得することができ、さらに必要科目を修得すれば中学校、高等学校の免許状も取得することができる。教育界のみならず一般社会において数学的能力をもった人が必要とされている。数学科で勉強したことを生かして、全国の公立および私立の小、中、高等学校教員になる卒業生が圧倒的に多いのは勿論だが、大学院へ進学する人もいる。国家公務員、地方公務員になる人や、一般企業では情報・通信関連企業、銀行、各種メーカー等に進む人など多彩である。

初等教育教員養成課程 数学選修〔A類 数学〕



初等教育教員養成課程(A類) 理科選修

1. 選修の目的・目標

本学初等教育教員養成課程(A類)理科選修は、理科を得意とする小学校教員の養成を目的としている。カリキュラムの目標として、共通科目、教育基礎科目や自由選択科目の履修を通じ、幅広い教養を身につけ、現代的教育課題や教職への高い意識を養い、選修科目の履修を通じ、深い専門性を身につけることを目指している。教員免許状としては、小学校教諭一種免許状が取得できる。

2. カリキュラムの特色と構造

理科教室が開設する科目群は、理科に関わる全領域と理科教育学にわたり、「教科・教職に関する科目」と「専攻に関する科目」に分類される。自然科学を理解するための学習方法には特質ある取り組み方が知られている。その一般的な取り組み方は、高等学校までの学習を基盤とし、大学として基本的事項の整理から始め、段階を経て徐々に専門性を高めていき、高度な内容へと発展させていくものである。理科教室の科目群はこの特質を考慮して学期配列されている。

A類理科選修では、1年次に物理学教室・化学教室・生物学教室・地学教室・理科教育学教室のいずれかに配属される。基本的事項として開設する物理学・化学・生物学・地学・理科教育学の全分野にわたる「専攻に関する科目」には、理科の4分野の名称(以降「～」)を冠する必修科目「～実験」4科目と「～基礎」4科目がある。また「理科選修入門セミナー」も1年次に履修する。これら基本的・基礎的内容の学びの上に、主に2年次以降(一部は1年次秋学期以降)、「教科・教職に関する科目」とともに、より専門的な内容の「専攻に関する科目」の選択科目が理科の4分野及び理科教育学分野に体系立てて用意されている。「教科・教職に関する科目」の単位数は4単位以上、「専攻に関する科目」の単位数は28単位以上である。「専攻に関する科目」には、講義以外に、実験・実習・演習という形態で開設される科目があることは、理科のカリキュラムの特徴である。A類理科選修では、参考まで、理科教室以外が開設する科目群、例えば「小学校の教科に関する専門的事項」についても合計16単位を履修することを付記しておく。

3年次には研究室に配属される。「専攻に関する科目」の必修である「卒業研究」は、配属された研究室の教員のもとで理科の各分野の専門的な研究を行い、大きく成長を遂げる。これまでの科目群での学びの上に、「卒業研究」に取り組むというカリキュラムの全体が、専門性に基づいた教員養成課程を構成している。

3. 履修の方法

(1)教科・教職に関する科目(専攻SE)

専攻SE科目として6科目を開設する。履修基準では、6科目から2科目選択すれば良いとなっているが、「理科カリキュラム研究」、「科学教材開発研究論」、及び「理科教育臨床」の3科目は、教員養成におけるコアカリキュラムとして位置づけられており、履修することを勧める。

(2)卒業研究

(物理学教室)

卒業研究は3年次から配属される研究室毎に実施する。卒業研究には次の専門科目、すなわち「自然科学のための数学A・B」、「物理数学Ⅰ・Ⅱ」、「力学及び演習Ⅰ・Ⅱ」、「電磁気学及び演習Ⅰ・Ⅱ」、「熱力学及び演習」、「統計力学及び演習」、及び「量子力学及び演習Ⅰ・Ⅱ」を履修しておくことが望ましい。特に、「自然科学のための数学A・B」を1年次に、「物理数学Ⅰ・Ⅱ」を2年次に必修と思って必ず履修しておくことが非常に重要である。3年次には配属された研究室が開講している「物理学専修実験A・B」あるいは「物理学専修演習A・B」を履修し、4年次の卒業研究に備える。

（化学教室）

卒業研究には化学に対する幅広い知識と、深い理解が必要となるため、化学分野に開設されている専門科目をより多く系統的に履修することが望まれる。特に、Ⅴ期に開設される「物理化学実験」、「無機・分析化学実験」、「有機化学実験」を履修・単位を修得し、実験と安全に関する知識や技能を習得すること、「教職実践演習」の履修条件を満たしていることを卒業研究にとりかかるための要件としている。3年次に各研究室へ配属され、研究室のゼミに参加して研究内容に関連する基礎を学び、4年次に卒業研究を行う。

（生物学教室）

3年次から各研究室に配属されるが、そのためには必修科目の他に、選択科目(SAおよびSB)に開設されている生物学分野の講義・演習・実験・実習を体系立て積極的に履修することが望まれる。Ⅲ期に開設される「生物科学方法論」は各研究室で行われている研究内容を解説しているので、卒業研究にとりかかるための参考になる。

（地学教室）

3年次に各研究室へ配属され、そこで卒業研究を行う。それぞれの研究室で行われるゼミや巡検とは別に、必修科目はもちろん、選択科目(SAおよびSB)に開設されている地学分野の講義・演習・実験・実習を体系立って積極的に履修することが望ましい。なお、岩石鉱物学に興味のある学生は無機化学や物理化学などに関する科目を、地質古生物学に興味のある学生は植物系統学や動物系統学などに関する科目を履修しておくことが重要である。また、天文学や地球物理学(気象学・地震学)に関心のある学生は、数学(「自然科学のための数学A」「自然科学のための数学B」「物理数学Ⅰ」「物理数学Ⅱ」)、および物理学(力学、熱力学、電磁気学など)に関する科目を必修科目に準ずるものとして必ず履修しておくことが重要である。

（理科教育学教室）

理科教育学の特徴は、自然科学の専門分野の理解を基礎として、それを教育学的視点でとらえ直すことである。専攻SE科目の「理科教材開発基礎Ⅰ・Ⅱ」を履修し単位を修得することを卒業研究に取りかかるための要件としている。また、理科教育学教室で開設している選択科目(SA)に加え、理科の他の教室の選択科目を、講義・演習・実験・実習にわたって積極的に幅広く履修することが望まれる。このことは、理科教育学的な研究を進める基礎としても重要である。

4. 免許や進路について

○取得する免許

小学校教諭一種免許状

○単位修得を条件に取得可能な免許・資格(注)

幼稚園・中学校・高等学校・特別支援学校教諭の一種免許状、司書教諭、司書、社会教育主事、学芸員など。
(注)履修方法によっては取得困難な場合もある。

◇進路

東京都他全国各地の公立および私立小学校教員、あるいは中学校教員、高等学校教員、民間教育機関、博物館、民間企業への就職、もしくは大学院修士課程、教職大学院等への進学などである。

5. 4年間の標準的履修モデル(選修内の行事予定)

次頁以降の表を参照されたい。

4年間の標準的履修モデル

学年	1		2		3		4	
学期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
専攻 SE 科目			理科教材開発基礎Ⅰ 理科教材開発基礎Ⅱ (集中) 科学教材開発研究論		理科学習指導論 理科カリキュラム研究	理科教育臨床		
S 科目	理科選修入門セミナー 基礎物理学 基礎化学 基礎生物学 基礎地学 理科実験 〔注1〕	理科実験						
選択 SA SB	「専攻に関する科目」の選択科目については下に示す。							
教育 実習			観察実地研究		事前・事後指導 9月: 教育実地研究Ⅰ		5～6月 教育実地研究Ⅱ(選択)	教職実践演習
教室 行事	所属教室決定							
その他					(春学期) 3年生キャリア支援セミナー (教員・企業・公務員等) 10月:東京教師養成塾募集		(春学期) 4年生キャリア支援セミナー (教員志望) 7月～:教員採用試験	

注1 理科実験;Ⅰ期とⅡ期に物理学実験,化学実験,生物学実験,地学実験の4実験をすべて履修しなければならない。

「専攻に関する科目」の選択科目(SA, SB)

1. 領域ごとの科目群を下記の表に示す。学生は選んだ領域の科目群を系統的に履修する。

学 年	1		2		3		4	
学 期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
物理学の 科目群	自然科学のための数学A	物理学概論 自然科学のための数学B	物理学演習 力学及び演習Ⅰ 電磁気学及び演習Ⅰ 物理数学Ⅰ	力学及び演習Ⅱ 電磁気学及び演習Ⅱ 物理数学Ⅱ 現代物理学	熱力学及び演習 量子力学及び演習Ⅰ 専修物理学〔注2〕	物性物理学 統計力学及び演習 量子力学及び演習Ⅱ 専修物理学〔注2〕	量子物理学特論	
化学の科目群	化学概論	基礎物理学 基礎無機化学 有機反応基礎論	物理化学Ⅰ 無機化学Ⅰ 基礎有機化学	化学演習 物理化学Ⅱ 分析化学 有機化学	物理化学実験 無機・分析化学実験 有機化学実験 物理化学Ⅲ 無機化学Ⅱ 有機軌道論	物理化学演習 無機化学演習 有機化学演習 分子設計と合成 高分子化学 環境科学	物理化学セミナーⅠ 無機化学セミナーⅠ 有機化学セミナーⅠ	物理化学セミナーⅡ 無機化学セミナーⅡ 有機化学セミナーⅡ

学年	1		2		3		4	
学期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
生物学の 科目群			生物学概論 生物科学方法論 植物系統学 植物学野外実習 (集中) 生態学 生化学	生物学演習 植物形態学	生物学特別実 験 遺伝学 生物学特別演 習 I	植物生理学 生物学特別 演習 II		動物生理学
地学の科 目群	自然科学の ための数学A	自然科学の ための数学B	地学概論 大気物理学概説 固体地球科学概 説 地殻物質論 海洋科学教育	地学演習 宇宙地球と 生命 気象学概説 地殻構成論	宇宙物理学 宇宙物理学演 習 地球物理学 地球科学実験 古生物学 地球化学 地球科学野外 実習(集中)	天文学実験 地球物理学 実験 岩石鉱物学 実験 古生物学実 習 特別演習 〔注3〕		
理科教 育学の 科目群 (専攻 SE を含む)		現代社 会にお ける理 科教育	理科教材開発基 礎 I 理科教材開発基 礎 II (集中) 理科教育測定・ 評価論 自然探究実践法 科学教材開発研 究論 海洋科学教育	自然史科学	理科学習指導 論 理科カリキュラ ム研究 理科教育学概 説 放射線教育 I (集中)	理科教育臨 床 理科教育と 科学史 理科におけ る環境教育 放射線教育 II	理科教育セミ ナー I (集中)	理科教育 セミナー II (集 中)

注2：専修物理学実験A，B，専修物理学演習A，B，のいずれかをV期からVI期に履修することが望ましい。

注3：特別演習は次の8分野の演習からなる。この中から1分野を選択する。

宇宙科学特別演習，天文学特別演習，気象科学特別演習，地球物理学特別演習，地球科学特別演習A，B，C，
地球環境科学特別演習

初等教育教員養成課程(A類) 音楽選修

1. 選修の目的・目標

教員養成を主たる目的として設置されている課程であり、基本的に小学校の教員を養成するカリキュラムが組まれています。小学校教員を目指すカリキュラムですから小学校の全教科と音楽の教科に強い教員を養成しています。従って4年間で小学校全体の教育全般と音楽科の知識、技能に優れた教員を養成するためのカリキュラムが組まれています。

2. カリキュラムの特色と構造

音楽選修のカリキュラムは、音楽教育に関わる音楽全般の基礎的な知識と技能を習得し、さらに高度な実践力を養えるように構成されています。

第1年次から第2年次(第Ⅰ学期から第Ⅳ学期)までの2年間に、初等教育教員として必要な基礎的な知識と技能を幅広く習得します。第3年次以降は、6つの分野(声楽、ピアノ、管弦打、作曲、音楽学、音楽教育)から、授業を選択して履修することになります。これらを通じて、音楽教育の理論と実践に関する幅広い素養と高度な実践力を備えた人材の育成を目指しています。

3. 履修の方法

○教科・教職に関する科目(専攻SE)

「音楽科と情報」「音楽科教材演習」「音楽授業実践演習」「音楽科教材特論」は音楽教育の基礎的な科目であり、現代のニーズに応じた科目です。履修基準では1科目2単位を選択必修とされていますが、4科目を出来るだけ修得して下さい。

○専攻に関する科目(S, SA)

音楽科の必修科目として22単位を必ず修得すること。選択科目は、「吹奏楽Ⅰ」「オーケストラⅠ」のいずれか1つを含めて6単位以上修得して下さい。

○卒業研究(SZ)

最終年次には、4年間の学習成果の集大成として卒業研究(必修4単位)を行います。第3年次より、それまでの学習で生じた関心や課題意識に応じて選択科目を履修し、卒業研究に向けて準備を進めます。卒業研究のオリエンテーションは別途行うので、必ず出席するようにして下さい。

4. 進路(就職・進学)について

音楽教室では、授業に関連して様々な自主ゼミや研究発表会(演奏会)、各種音楽教育セミナー、教員就職のための講習会等を実施しています。そのような行事等に主体的に参加して学習を深めることも、自身のキャリアを築いていくためには重要です。

卒業後の進路としては、小学校の全科教諭、音楽専科教諭が主ですが、社会教育の指導者、教職大学院への進学、民間企業等への就職も見られます。

5. 4年間の標準的履修モデル(選修内の行事予定)

初等教育教員養成課程 音楽選修 (履修例)

学 年	1		2	
学 期	I	II	III	IV
専攻SE 科目		音楽科と情報 音楽科教材演習		
S科目	音楽選修入門セミナー 基礎声楽実技Ⅰ 基礎ピアノ実技Ⅰ 基礎管弦打実技Ⅰ 作曲法Ⅰ 音楽学概論A 合唱 ソルフェージュⅠ	基礎声楽実技Ⅱ 基礎ピアノ実技Ⅱ 基礎管弦打実技Ⅱ 作曲法Ⅱ 音楽学概論B	指揮法	
SA科目		ソルフェージュⅡ	基礎声楽実技Ⅲ 基礎ピアノ実技Ⅲ 基礎管弦打実技Ⅲ 邦楽歌唱法または和楽器	基礎声楽実技Ⅳ 基礎ピアノ実技Ⅳ 基礎管弦打実技Ⅳ 和楽器または邦楽歌唱法
教育実習				
教室行事	教員志望者講演会		教員志望者講演会	
その他				

学 年	3		4	
学 期	V	VI	VII	VIII
専攻SE 科目	音楽科教材特論	音楽授業実践演習		
S科目		音楽学概論C		
SA科目	声楽実技Ⅰ オーケストラⅠⅡまたは吹奏楽ⅠⅡ 音楽教育特別研究A 民族音楽演習	声楽実技Ⅱ 音楽教育特別研究 ポピュラー音楽演習		
教育実習	事前事後指導 9月:教育実地研究Ⅰ (附属)		5～6月:教育実地研究Ⅱ(協力校)	教職実践演習
教室行事	教員志望者講演会		教員志望者講演会	
その他	オーケストラ、吹奏楽の演奏会 3年生キャリア支援セミナー (教員・企業・公務員等) 東京教師養成塾募集(5月) 教師力養成特別講座(万ゼミ)受講受付(10月)		4年生キャリア支援セミナー(教員志望) 7月～:教員採用試験	

初等教育教員養成課程(A類) 美術選修

1. 選修の目的・目標

A類美術選修では、小学校の図画工作専科や美術・図工を得意にする小学校全科の優れた教員の養成を目的にしています。大学生活の4年間に、小学校の全教科の学習内容や指導法を習得しながら、美術の専門的な実技や理論を学ぶことによって、小学校の子どもたちの成長に欠かせない豊かな感性と創造力を育むための表現力、鑑賞力、コミュニケーション能力を身につけることが目標です。

2. カリキュラムの特色と構造

美術科は、絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学、美術科教育学の6つの領域から構成されています。その中心になる専攻科目の授業がS科目(必修科目)とSA科目(選択科目)です。S・SA科目の授業は、関心を持った領域を1つ選んで、段階的に知識と能力を伸ばしながら、美術と教育への理解を深めることができるよう工夫されています。

1年次は、まず、それぞれの領域の基礎力を養うため、春学期と秋学期に集中的にS科目を履修します。この間に、自分がどの領域に関心を持てるか、いろいろ試してみることがポイントです。

2年次に、どれか1つの領域を選んでS科目「美術演習Ⅰ・Ⅱ」を履修します。専門的な知識と能力を段階的に身につけていくのが目的です。3年次にSA科目「美術演習Ⅲ・Ⅳ」を履修し、最後に、卒業研究に進みます。自分の関心を専門的な知識と能力に結びつけ、研究テーマを深めていくのが目的です。

また、美術科教育学の学習をより深めたい人や美術科教育学の領域で卒業研究を行いたい人は、1年次にSA科目「美術科教育演習Ⅰ・Ⅱ」を、2年次にSA科目「美術科教育演習Ⅲ・Ⅳ」を履修します。

この他にもSA科目やSB科目(選択科目)が開講されています。自分の実力の幅を広げるため、関心に応じて積極的に履修することを勧めます。

3. 履修の方法

(1)教科・教職に関する科目(専攻SE)の履修

教育基礎科目と専攻科目の橋渡しをする大事な科目です。卒業要件上は2単位以上を履修することとしていますが、できるだけ3科目全てを履修するのがよいでしょう。

(2)教育基礎科目と小学校の教科に関する専門的事項(SP)

教職に関する基本的な科目です。2年次の春学期に「初等図画工作科教育法」を、4年次の秋学期に「教職実践演習」を履修します。また、2～3年次に小学校の教科に関する科目「〇〇科研究」と「初等〇〇科教育法」を履修して、図工以外の各教科の内容と指導法を学習します。

(3)卒業研究

卒業研究(必修4単位)は、最終年次に行なう4年間の学習成果の集大成です。6つの領域(絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学、美術科教育学)のなかから領域を1つ選んで研究テーマを決め、教員の指導を受けながら作品を制作したり論文を作成したりします。成果は卒業制作展や論文発表会で公表します。できるだけ早めに自分に合った研究テーマを見つけることがポイントです。

4. 4年間の標準的履修モデル(選修内の行事予定)

学 年	1		2	
学 期	I	II	III	IV
専攻SE 科目		図画工作・美術科と情報 図画工作科教材論		
S科目 (必修)	絵画基礎 I 彫刻基礎 I デザイン基礎 I 工芸基礎 I 美術選修入門セミナー	図画工作科基礎 西洋美術史概論	美術演習 I 日本東洋美術史概論	美術演習 II
主な SA科目 (選択)	美術家教育と美術科教育 美術科教育演習 I	絵画基礎 II 彫刻基礎 II デザイン基礎 II 工芸基礎 II 美術科教育演習 II 図法・製図	絵画演習 A 彫刻演習 A デザイン演習 A 工芸演習 A・B 美術教育基礎研究 美術科教育演習 III	絵画演習 B 彫刻演習 B デザイン演習 B 工芸演習 C 鑑賞教育 現代美術史概論 美術史実地研修(集中) 美術科教育演習 IV
教育実習				
教室行事	6・11 月:「先輩に聞こう」		6・11 月:「先輩に聞こう」	
その他	介護等体験(特別支援学校)		介護等体験(社会福祉施設)	

学 年	3		4	
学 期	V	VI	VII	VIII
専攻SE 科目		図画工作科カリキュラム論		
S科目			(SZ 卒業研究)	(SZ 卒業研究)
主な SA科目 (選択)	美術演習 III 絵画演習 C・D 工芸・デザイン理論	美術演習 IV 美学 美術史演習 A	美術史演習 B・C	
教育実習	9 月:教育実地研究 I		5～6 月:教育実地研究 II	
教室行事	6・11 月:「先輩に聞こう」		8 月:教員採用試験面接・実技対策ゼミ	
その他	(春学期)3年生キャリア支援セミナー (教員・企業・公務員等) 10 月:教師力養成特別講座(万ゼミ)募集 10 月:東京教師養成塾募集		(春学期)4年生キャリア支援セミナー(教員志望) 7 月～:教員採用試験 10 月:大学院入試	

5. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

1・2年次は、学外の教育ボランティアや各種のボランティア活動に積極的に参加することを勧めます。見聞を広めることによって、自分なりの教育観を養うことができます。

3・4年次には教育実習が行なわれます。3年次は、9月に附属小学校で「教育実地研究 I」を経験し

ます。3年次の春学期までに決められた単位を修得しないと教育実習に参加できないので注意が必要です。4年次は、5～6月に公立小学校で「教育実地研究Ⅱ」を経験します。実習を終えると7月には各都道府県の教員採用試験があります。3年次から計画的に準備をして、試験に臨む必要があります。「教育実地研究Ⅱ」は選択ですが、教員を目指す方は極力受講するようにしてください。

卒業後は、小学校の全科教員や図画工作科専科教員になる人、教職大学院へ進学する人などがいます。その他の進路に民間企業や公務員などがありますが、どの場合も、美術の魅力を人に伝えられる真の実力を備えた、教育に強い人材として活躍することが期待されています。

初等教育教員養成課程(A類) 保健体育選修

1. 選修の目的・目標

優れた小学校教員の養成を目的としていることはA類の他の選修と同様ですが、学級担任を基本とする小学校教員に求められる基本的な資質に加え、特に運動をめぐる専門的知識と一定の実技能力を有することにより、小学校教育の場で、日々の体育の授業や体育的な諸行事、体育や保健のカリキュラム編成等々において中心的な役割を果たすことのできる小学校教員を養成することを目指しています。

2. カリキュラムの特性と構造

保健体育科の専門領域には、「体育学」「運動学」「保健体育教育学」という大きく分けると3つの学問領域があります。カリキュラムに開設されている科目は、それぞれこれらの領域と深く関わっています。

皆さんは先ず、必修科目(S)や選択科目(SA, SB)の1～2年次に開講されている講義や実技を履修しながら、運動・スポーツや体育に関わるどのような領域に特に関心を持てるかを探っていきましょう。そして、自分が興味を持てる領域が見えてきたら、その領域に関連する科目を積極的に加えながら、自ら学習を深めていってください。

また、A類選修生が中学校(保健体育)や高等学校(保健体育)の副免許取得を希望する場合は、取得に必要な指定科目を加えて履修する必要がありますので注意してください。

3. 履修の方法

(1)教科・教職に関する科目(専攻 SE)

「保健体育科と情報」「保健体育科教材研究」「保健体育科カリキュラム開発論」の中から1科目2単位以上を履修してください。

(2)卒業研究

4年次になると、大学での学習の言わば総まとめとなる必修の卒業研究があります。どの領域の先生に指導を受けて論文を書いていくかは、おおよそ2年次の終わりまでに決められるとよいでしょう。3年次に進む際に、卒業研究を行うために所属する研究室の希望を出すことになるからです。

日頃の学習の中で見出された学問的な関心を、関連する科目の履修で深めながら、徐々に卒業研究へと発展させていくことが望まれます。

4. 4年間の標準履修モデル(選修内の行事予定)

1年次:履修ガイダンス, チューター配当

I 期(春学期)

II 期(秋学期)

保健体育選修入門セミナー(S)
人体解剖生理学 (S) / 陸上 A (S)
器械運動 A (S) / 体づくり運動 A (S)
水泳 A (S)
体育原理概論 (SA) 他



保健体育科と情報(専攻 SE)
体育・スポーツ心理学概論 (S)
学校保健学概説 (S) / 衛生・公衆衛生学 (S)
ソフトバレーボール(S) / ソフトボール A (S)
体育史概論 (SA) / 救急処置法 (SA) 他

研究室仮所属希望調査

2年次:履修ガイダンス, 研究室仮所属

III 期(春学期)

IV 期(秋学期)

体育科学習評価論(専攻 SE: 偶)
教科体育・特活指導計画論(SE: 奇)
バスケットボール A (S) / サッカー A (S)
野外環境教育学 (S) / 運動生理学概論(SA)
スポーツバイオメカニクス概論 (SA) / 遊びと発育・発達(SA)
野外環境教育実習(夏季)(SA: 集中) 他



保健体育科模擬授業演習 A (専攻 SE)
保健体育科教材研究(専攻 SE)
表現運動(S) / 障害児の運動 (SA)
体育・スポーツ社会学 (SA) / 体育・スポーツ経営学 (SA)
スキー実習 (SA: 集中) / スケート実習 (SA: 奇・集中)
野外環境教育実習(冬季)(SA: 偶・集中) 他

研究室所属希望

3年次:卒業研究室所属

V 期(春学期)

VI 期(秋学期)

保健体育科カリキュラム開発論(専攻 SE)
保健体育科演習 (S)
保健体育・スポーツ専門英語演習 (SA)
身体表現論 (SA) / 子どもとからだ (SA)
野外環境教育指導演習 (SA) 他



スポーツバイオメカニクス演習 (SA)
(卒業研究に向けた個別準備・学習)

3 年生キャリア支援セミナー

10 月: 東京教師養成塾募集

実習事前指導 9~10 月: 教育実習(教育実地研究 I) 実習事後指導

4年次

VII 期(春学期)

VIII 期(秋学期)

卒業研究

教職実践演習 卒業研究

4 年生キャリア支援セミナー

5~6 月: 教育実習(教育実地研究 II)(選択) 7 月: 教員採用試験

9~10 月: 教育実習(副免許) 10 月: 大学院(修士課程・教職大学院)入試

5. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

学習計画を立てるに当たり、大学での学習の重要な柱である教育実習をひとつの手がかりにするとよいでしょう。3年次の9~10月には、附属小学校で初めての「教育実習(教育実地研究 I)」が行われます。この基礎実習に参加するために必要な履修単位を確実に修得することは勿論、他教科の教科教育法に関する科目もできるだけ履修して実習に備える必要があります。また、3年次春学期開講の「教育実習事前の指導」に合格しないと教育実地研究 I には参加できないことに特に注意してください。

4年次の春学期中の5~6月には、公立小学校での「教育実習(教育実地研究 II)」が行われます。この実習のすぐ後の7月には教員採用試験が待っていますので、3年次からの準備が欠かせません。9~10月には中学・高校ほかの副免許取得希望者の教育実習があり、10月には大学院(修士課程・教職大学院)入試があります。副免許や進学を希望する場合は、できるだけ早くから準備しておくことが望まれます。

初等教育教員養成家庭(A類) 家庭選修

1. 選修の目的・目標

家庭選修の目的は、大きく分けて3つあります。

- ①小学校教員免許を取得する。
- ②小学校全教科の中でも特に家庭科を専門的に学び、小学校の現場では、家庭科の教科研究のリーダーになる資質を養う。
- ③児童の家庭生活を中心とした生活実態に根ざした指導が出来る能力を養う。

家庭科は、家庭を中心とした「人間の生活」を対象とし、現代生活の中で生ずる生活の諸側面(衣・食・住・保育・家族の営み)の問題を把握し、その解決をはかる能力を養うことによって、生活の自立と生きる力の育成をめざしている教科です。家庭科の専門的な学びは、小学生の子どもたちの生活に根ざした指導に活かされます。

2. カリキュラムの特色と構造

小学校全科の指導方法の学習を主体とし、それに加えて家庭科並びに家庭科の基礎科学である生活科学の5領域の概要を学ぶ構成になっています。すなわち、教育基礎科目の教育課程及び指導法に関する科目(ET)として、小学校各教科指導法を10教科20単位、専攻科目の小学校教科に関する科目を9科目16単位(家庭科研究を除く)修得する必要があります。その中の「初等家庭科教育法」は自教科の指導法として2年生春学期に開講されます。

家庭科の専門科目は、食品・栄養・繊維・洗剤の実験、調理・被服製作・住居設計の実習、保育園訪問、模擬授業の実践などが多彩に用意されています。

3. 履修の方法

共通科目や教職専門科目の他、家庭科の専門科目も1年次から順次開講され、授業によっては内容に系統性があり、前もって受講しておく必要のある授業があります。各学年で用意されている授業については、なるべくその学年でとるように心がけてください。

(1)教科・教職に関する科目(専攻SE)

「家庭科と情報」「家庭科教材論Ⅰ」「家庭科教材論Ⅱ」「家庭科カリキュラム論」は、なるべく全てを履修するようにしてください。

(2)卒業研究

卒業論文を書くために所属する研究室は、3年生の春学期に希望をとり、秋学期が始まる前に決定します。3年生秋学期からは、ゼミに所属して各々の分野の研究を開始します。ゼミに所属するために履修しておかなければならない授業もありますので、注意して下さい。

4. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

4年間は、あっという間に過ぎてしまいます。学習に積極的に取り組み、大学でしか得られない様々な知見を身につけ、自分の進路を開拓してください。家庭科教室の卒業生は、多彩な能力を発揮して小中高等学校の教員のほか、大学院進学や専門性を生かして生活関連企業に就職し、幅広く活躍しています。また、生涯学習の視点から行政分野に進む人もいます。何事にも意欲的に取り組むことで、様々な道が拓けてくるでしょう。

5. 4年間の家庭科関連科目の標準的履修モデル(A類)

学年	1		2		3		4	
学期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
専攻 S E 科目	家庭科教材論 I		家庭科教材論 II	家庭科と情報		家庭科カリキュラム論		
S 科目	家庭経営学 被服学 I 家庭選修入門セミナー		住居学 児童学 I	栄養学概論				
S A 科目	消費者教育 調理学概論 被服学 II	食品学概論 被服学 III 被服学演習 A 家庭工学 食物学実験・実習 A(集中)	被服学演習 B 被服学実験・実習 A 食物学実験・実習 B(集中) 食物学概論 生活経営学	住環境論 児童学 II(集中) 家族関係学	被服学実験・実習 B 生活設計論 生活環境論 住居設計製図 乳幼児と生活	家庭看護学 家庭科演習 食物学実験・実習 C		
教育 実習			授業観察演習(9月)		事前・事後指導 9月: 教育実地研究 I		5～6月: 教育実地研究 II	教職実践演習
教室 行事	家庭科棟大掃除 兼交流会・履修相談会		家庭科棟大掃除 兼交流会	卒業研究発表会 (参加) 卒業研究説明会	家庭科棟大掃除 兼交流会	卒業研究発表会 (参加) 教員就職等対策 相談会	家庭科棟大掃除 兼交流会	卒業研究発表会
その他					(春学期) 3年生キャリア支援セミナー (教員・企業・公務員等) 10月東京教師養成塾募集		(春学期) 4年生キャリア支援セミナー (教員志望) 7月～:教員採用試験	

初等教育教員養成課程(A類) 英語選修

1. 選修の目的・目標

世界中の人々との距離がいろいろな意味で飛躍的に近くなった今日、英語を学ぶ意義はますます高まってきています。こうした流れの中、2020年度から小学校5・6年生において「外国語(英語)」が教科化され、3・4年生に対しても「外国語活動」が導入されました。英語学習のスタートを援助する確かな英語力と英語指導力をそなえた小学校教員を養成し、世に送り出すことが、本選修の目的であり目標です。

2. カリキュラムの特色と構造

本選修のカリキュラムは、1) 小学校英語教育の理論や実践を学ぶための科目、2) 英語力を高めるための科目、3) 英語を科学的に分析する科目、4) 英米の文学・文化について学ぶ科目、という4種類の科目から構成されていて、しっかりとした体系性と豊かな多様性を持っている点が特色です。特に、上記1)の中には、本選修を特徴づける「小学校英語教育概論Ⅰ・Ⅱ」と「小学校英語教育演習Ⅰ・Ⅱ」という科目が含まれています。

開設科目の年次的な構成としては、1, 2年次は、英語に関する必須の知識と技能を学ぶ科目が中心となり、3年次は、各自が興味をもった分野を更に深く学ぶための科目が多く用意されています。4年次は、4年間の勉学の集大成として英語で卒業論文を書きます。

3. 履修の方法

(1) 教科・教職に関する科目(専攻 SE)/専攻に関する科目: 必修科目(S) 選択科目A(SA)

教科・教職に関する科目(専攻 SE)を4単位、必修科目(S)を14単位、選択科目A(SA)を14単位以上修得してください。科目の詳細は Study Guide【学校教育系】の英語選修のページを参照してください。

(2) 卒業研究

必修です。卒業論文は英語で執筆します。3年次の11月末に、英語教育学・英語学・英米文学文化の3分野の中から、執筆希望領域を選び、希望する指導教員名と共に届け出ます。提出の締切りは4年次の12月22日(土日祝日の場合はその前日)です。

卒業論文のテーマを見つけるためには、普段から、自分が興味を持った点、疑問点などを大切にする必要があります。一見小さな問題も、掘り下げていくとしばしば興味深いテーマに繋がります。また、当該分野の英語論文を積極的に読んで、英語論文の構成や表現に慣れ親しんでおくことも大変重要です。

(3) その他

教養科目の語学領域に関しては、必修の「英語コミュニケーションA・B」、選択の「メディア英語 A・B」「英語リーディング A・B」「英語リスニング&スピーキング A・B」「英語集中演習 A・B・C」は語学技能検定で一定のスコアを取得した場合等に単位認定の申請が可能ですが、英語選修の学生として英語力を高める機会を確保するためにも、履修することを強く勧めます。なお、中学校・高校での実習を希望する場合は、語学技能検定での一定のスコア取得、もしくは語学領域選択科目の一定の単位修得が必要となります。

4. 4年間の標準的履修モデル(選修内の行事予定)

この表は、専攻 SE 科目と S 科目以外は、ほんの数科目を例示したものです。小学校教員は全教科を教えますので、他に多くの授業科目を取る必要があります。他専攻・選修の科目にも十分注意を払い、自分自身にとって最も良い履修プランを工夫して下さい。

学年	1		2		3		4	
学期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
専攻 SE 科目					英語科と異文化理解 英語科教材論			
S 科目	英語音声学概論 英会話 I 英語選修入門セミナー	英会話 II	小学校英語教育概論 I	小学校英語教育概論 II	小学校英語教育演習 I	小学校英語教育演習 II		
SA 科目	英文法演習 A アメリカ文化概論など	英文法演習 B イギリス文化概論など	英会話 III 英米文学概論 A など	英会話 IV 英語史概論 など	英語圏文化演習 A など	英文法研究 など		
教育実習					前期:事前指導 9月:教育実地研究 I 11月:事後指導		5～6月:教育実地研究 II (選択)	教職実践演習
教室行事					11月 卒論領域届け		11月 卒論題目届け 12月 卒論提出	
その他	介護等体験 (特別支援学校)		介護等体験 (社会福祉施設)		3年生 キャリア支援セミナー 東京教師養成塾募集		4年生 キャリア支援セミナー 7月～:教員採用試験	

5. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

中・高の英語教員免許も取得する場合には、『スタディガイド』巻末の説明をよく読んで、早くから慎重に計画を立ててください。また、在学中に留学を考えている人は、一年間の留学の場合には通常卒業に5年かかりますので、特に慎重に履修計画を立ててください。

教員採用に当たっては、教育ボランティアやクラブ活動の経験が重視される傾向があります。また、最近では、教職大学院に進学する人も増えています。進路に関しては、指導教員に相談すると共に、大学が用意している各種の講習会なども積極的に利用するようにしましょう。

初等教育教員養成課程(A類) 学校教育選修

1. 選修の目的・目標

本選修は、小学校教科に対応したコースではなく、小学校教育全般にかかわる内容を広範にかつ深く学ぶ特色あるコースです。教育学を深く学んだ小学校教員の養成をめざす本選修では国内外及び古今の教育事情に精通した教育学のプロフェッショナルが学生の学習・研究および実践を支援します。主として教育哲学、教育史、教育方法・内容、教育制度・行政・経営、教育社会学の5領域の学修を通して、多様な教育事象の理論と実践およびそれらを統合する知識と技能を追究することができる選修です。

2. カリキュラムの特色と構造

本選修のカリキュラムは、上記の目的を達成するために系統的に構成されています。A類の他の選修と同様、本選修も「教養科目」「教育基礎科目」を履修します。「教育基礎科目」には「教職入門」「教育の理念と歴史」「教育組織論」「初等教育の内容と方法」など教育学の基礎をなす諸科目が含まれています。

本選修では上記の諸科目の履修と並行して「専攻科目」を履修します。本選修のコア(中核)・カリキュラムである「教科・教職に関する科目(専攻SE)」(3科目)および教育学の研究方法論の基礎を身につける「専攻必修科目(S)」(7科目)を学び、「選択科目A」(5研究法・11特講・10演習)および「選択科目B」の中から自己の関心と問題意識に応じて14単位以上を修得します。「選択科目A」のうち特に深く研究したい内容や分野を「卒業研究」へと発展させることが期待されています。

なお、学部・選修での基礎的な理論に基づいて授業を行う機会として附属小学校での教育実地研究Ⅰ(第Ⅴ期必修)と公立小学校での教育実地研究Ⅱ(第Ⅶ期選択)を履修します。

3. 履修の方法

(1) 教科・教職に関する科目(専攻 SE)

「学校教育と情報」「教材論」「カリキュラム論」の3科目のうち2単位以上履修しなければなりません。3科目全部(6単位)を履修することが望ましいとされています。

(2) 卒業研究

・第Ⅴ学期開始直前に卒業研究ガイダンス、第Ⅶ学期に卒業研究中間発表会、第Ⅷ学期に卒業研究発表会が行われ、全員出席することが義務づけられています。

第Ⅴ学期中に卒業研究の計画書を作成・提出し、それをもとに指導教員が決定されます。

・専攻に関する科目の選択科目(SA)のうち、卒業研究として取り組もうとする領域にかかわる特講(第Ⅴ学期)と演習(第Ⅵ学期)は受講しておくことが望ましいとされています。

4. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

別記の履修モデルをいつも念頭に置いてください。必修科目は必ず履修し所要単位を確実に修得するとともに、自己の関心や問題意識に基づいて選択科目を計画的に履修することが肝要です。講義・演習・実習をいっそう充実させるためには自学こそ不可欠です。充実した成果の蓄積を期待します。

卒業後の進路をできるだけ早期に決定し、それに向けて準備を始めてください。大学も、進路決定に有益で充実した多様な企画を実施しますので、できるだけ参加して自己の進路決定に役立ててください。

5. 4年間の標準的履修モデル(選修内の行事予定)

学 年	1		2		3		4	
学 期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
専攻SE 科目		学校教育 と情報		教材論	カリキュラ ム論			
S科目	学校教育 選修入門 セミナー 教育学研 究入門	教育実践 研究	教育基本 文献講読 I 教育実験 観察法	教育基本 文献講読 II 教育調査 法				
SA科目				教育学研 究法A～ E	教育哲学 特講ほか 11特講	教育哲学 演習ほか 10演習	卒業研究 (SZ)	卒業研究 (SZ)
教育実習					9月: 教育実地 研究I		5～6月: 教育実地 研究II(選 択)	教職実践 演習
教室行事	4月:履修ガイダンス 「教育学道場」*を含む。 5月:新入生歓迎行事		4月:2年次履修指導**		4月:3年次履修指導** 7月:卒業研究ガイダンス		9月:卒業研究中間発表 会 2月:卒業研究発表会 3月:「学校教育卒論グ ランプリ」*選考	
その他	介護等体験 (特別支援学校)		介護等体験 (社会福祉施設)		3年生キャリア支援セミナー (教員・企業・公務員等) 東京教師養成塾募集		4年生キャリア支援セミナー (教職志望) 7月～:教員採用試験	

* いずれも、本選修独自で実施している行事です。

** 前年度にあたる3月末に行われることもあります。

初等教育教員養成課程(A類) 学校心理選修

1. 選修の目的・目標

学校心理選修は、子どもや学校の問題に対し教育心理学の専門性で対応できる「心を知る教師」の養成を目的としている。そのため、A類の他の選修のように特定の教科を専門とせず、子どもたちの「心の発達」「友人関係や学級集団」「学習の仕組み」「学校への不適応」「測定と教育評価」など、教育活動の様々な面を支える心理学の知識と技術を学ぶ。

2. カリキュラムの特色と構造

学校心理選修では、学校における学習や行動の諸問題についてデータをもとに考察する力をつけるために、1～2年次にデータ分析法(心理学統計法など)、2～3年次に心理学の方法論(行動観察法、実験研究法、質問紙調査法、教育心理学実験)の科目をそれぞれ必修として課している。そして、これらで身につけた研究能力を3～4年次の「学校心理学応用研究Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究」で実践していくカリキュラムとなっている。

選択科目は、1)教育心理学の5領域(発達、集団過程、教授学習過程、教育評価、学校臨床)について演習形式で学習する科目(発達過程実践演習、社会行動実践演習、教育相談実践演習、学校臨床実践演習など)と、2)教育実践の基礎となる多様な心理学を学ぶ科目(発達心理学、社会・集団・家族心理学、知覚・認知心理学、感情・人格心理学、神経・生理心理学など)からなる。また専攻SE科目では、現代教育の重要なトピックを教育心理学の立場から学習する。

3. 履修の方法

(1)教科・教職に関する科目(専攻 SE)

「特別支援教育と支援システム」「授業実践の心理学」「教授学習プロセスとその評価」の3科目は、2単位(1科目)の修得が卒業要件だが、いずれも教職に重要な科目なのですべて履修することが望ましい。

(2)必修科目(S)

必修科目(S)の授業は心理学の研究法を身につけるために構造化されている。このため標準開設学期どおりに履修すること。特に「心理学統計法Ⅰ・Ⅱ」は、この科目の内容を理解していることを前提に上位学年の授業が組まれているため、極力1年次に単位を修得すること。

(3)選択科目(SA・SB)

「人間理解の心理学」「教育・心理データ解析法」は選択科目(SB)であるが、これらの履修を前提に上位学年の授業が組まれているため、必ず全員が標準開設学期に履修すること。この2つの授業を履修していない場合、上位学年の授業が理解できない場合がある。

(4)卒業研究に向けて

3年次の春学期に卒業研究のための研究室配属を行う。研究室では、卒業研究に向けた指導をゼミ形式で受ける。卒業研究の学びは、3年次は「学校心理学応用研究Ⅰ・Ⅱ」、4年次は「卒業研究」としてそれぞれ単位化されている。

研究室に配属されるためには、「心理学統計法Ⅰ・Ⅱ(2つで1科目)」「教育・心理データ解析法」「行動観察法」「質問紙調査法」「実験研究法」の5科目のうち4科目以上の単位を修得していることが条件となる。この条件を満たさない場合、卒業が延期にならざるを得ないので、十分に注意すること。

4. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

2～3年次における研究法の授業では、データ収集・分析など授業時間外での学習が多く要求される。また3年次後半～4年次は、卒業研究や教員採用試験準備などに追われることが多い。さらにA類の学生としての教職関連科目が数多くあることを考えると相当に多忙な4年間であり、計画的に単位を修得することが重要である。

卒業後は、小学校教員等の教職につく者が大半であるが、教育者としてのステップアップを目指し大学院に進学する者も多い。いずれにしろ早期に進路を考え、それに応じた学習を進めていくことが重要である。

5. 4年間の標準的履修モデル(選修内の行事予定)

学年	1 年		2 年		3 年		4 年	
	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
専攻 SE 科目			特別支援教育と支援システム	授業実践の心理学		教授学習プロセスとその評価		
S 科目	学校心理選修入門セミナー	発達心理学(児童期・青年期)	実験研究法	質問紙調査法	教育心理学実験	学校心理学応用研究Ⅱ	卒業研究	
	心理学概論	心理学統計法Ⅰ・Ⅱ	行動観察法		学校心理学応用研究Ⅰ			
SA 科目	発達心理学(乳幼児期)		社会・集団・家族心理学	知覚・認知心理学	感情・人格心理学	神経・生理心理学		
				社会行動実践演習	教育相談実践演習	学校臨床実践演習		
					発達過程実践演習			
SB 科目	教育・学校心理学	人間理解の心理学	教育・心理データ解析法		心理的アセスメントA	学習・言語心理学		
教育実習			9月:授業観察演習(選択)		9月:教育実地研究Ⅰ		5～6月:教育実地研究Ⅱ(選択)	教職実践演習
教室行事	新入生オリエンテーション			就職・進学支援行事	研究室配属		卒論中間発表会	卒論発表会
その他					3年生キャリア支援セミナー	東京教師養成塾募集	4年生キャリア支援セミナー 7月～:教員採用試験	

初等教育教員養成課程(A類) 国際教育選修

1. 選修の目的・目標

本選修は、変動する国際社会の中で、その一員として生きていくための主体性を備えた上で、広い視野を持ち、世界に通用する初等教育教員を育成することを目的とし、人間形成や教育の国際化に関心を持ち、異なる文化を持つ人々を理解し、受容しようとする態度をもつ人材を育成する。

2. カリキュラムの特色と構造

国際教育選修では、幅広く学問を習得し、それを実践に生かしつつ、実践から得た経験を学問に還元するという循環を促すカリキュラム作りを心がけている。国際教育選修の専門科目は、次のような構造にしたがって構成されている。基本的に、学生自らが考え、自主的に探究を進めるような能力と態度を養うことを目指している。

- ① 国際教育の基礎と基本的理論を理解するための科目(2年次までの必修科目):「国際教育選修入門セミナー」、「国際教育基本文献講読」、「国際教育とプロジェクト」、「異文化間心理学」、「比較教育思想論」、「国際教育政策論」、「国際教育交流史」、「国際理解教育論」(共通 SE 科目ではあるが国際教育選修は必修)
- ② 国際教育の実践力や研究力を磨く科目:「国際教育臨床」、「国際教育特別研究」、「国際教育演習 A～F」
- ③ 各自の興味・関心に対応した選択必修科目:「日本教育史特講」、「比較教育学研究」、「教育開発と教育協力」、「海外・帰国児童生徒教育論」、「外国人児童生徒教育」

3. 履修の方法

(1) 教科・教職の科目(共通 SE)および(専攻 SE)の履修

- * 共通 SE 科目のうち「国際理解教育論」(2単位)は必修であるので、必ず履修し単位を修得する。その他に、共通 SE 科目の中から1科目以上を履修し、あわせて3単位以上を修得する。
- * 専攻 SE 科目の「カリキュラム論」(2単位)、「教材論」(2単位)、「国際教育臨床」(2単位)の3科目のうち2科目4単位以上を必ず履修し単位を修得する。
- * 上記の条件(共通 SE から3単位・専攻 SE から4単位)を満たした上で、共通 SE 科目および専攻 SE 科目から、あわせて13単位(必修分の7単位に加えて6単位)以上を修得すること。

(2) 小学校の教科に関する科目(SP)の履修

- * 「国語科研究」(2単位)、「生活科研究」(2単位)、「英語科研究」(2単位)、「音楽科研究Ⅰ」(1単位)、「図画工作科研究Ⅰ」(1単位)、「体育科研究Ⅰ」(1単位)の6科目9単位は必ず修得する。
- * 「音楽科研究Ⅱ」(1単位)、「図画工作科研究Ⅱ」(1単位)、「体育科研究Ⅱ」(1単位)の3科目のなかから1科目1単位を必ず修得する。

(3) 卒業研究

4年間の学問探究の集大成として位置づけられる。3年生秋学期の「国際教育特別研究」で各自の興味・関心によりテーマを設定して研究の基礎を学び、4年生ではそのテーマをより深く探究する。

4. 4年間の標準的履修モデル(選修・専攻内の行事予定)

学 年	1		2		3		4	
学 期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
SE科目			・国際教育 臨床	・教材論	・カリキュ ラム論			
S科目	・国際教育 選修入門セ ミナー	・国際教 育基本文 献講読 ・【共通 SE 科目】 国際理解 教育論	・比較教育 思想論 ・国際教育 交流史	・異文化間 心理学 ・国際教育 政策論 ・国際教育 とプロジェ クト		・国際教育特 別研究	卒業研究	卒業研究
SA科目 (SB 科目)	・Cross- cultural Ideas and Activities (心理学概 論)	・Cross- cultural Teaching Practice (心理統 計法 I・ II) (人間理 解の心理 学)		・海外・帰 国児童生 徒教育論	・国際教育 演習 [A,C,E] ・比較教育 学研究	・国際教育 演習 [B,D,F] ・日本教育史 特講 ・教育開発と 教育協力 ・外国人児童 生徒教育		
教育実習			授業観察 演習		事前・事後 の指導 9月:教育 実地研究 I		5～6月: 教育実地 研究 II	教職実践 演習
教室行事							卒業研究発表会	
その他					3年生キャリア支援セミナー (教員・企業・公務員等) 10月:東京教師養成塾募集		4年生キャリア支援セミナー (教員志望) 7月～:教員採用試験	

5. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

4年間の学習計画は、卒業必須単位の履修に留まることなく、各自の学問的な探究心と、異文化コミュニケーション能力の向上のための学習意欲に基づいて、1年次より、将来のビジョンを見据えて立案していくことが望まれる。卒業後に、初等教育におけるグローバル人材として、自信をもって仕事にチャレンジしていくことができるように、学習計画の振り返りと修正を行うことによって、4年間の学習を、将来へ方向づけた構造あるものにしていく。卒業後は、公・私立初等教育機関における教育職として、国際的な視野からの教育実践、帰国児童、外国人児童、在外日本人への教育の研究、民間企業における教材開発や子ども支援、大学院における専門的研究等、いずれの進路においても、常に、国際的視野からの教育について、正しい判断力を持ち、貢献ができるように、4年間の積極的な学習態度が期待される。

なお、大学での学びと両立させるかたちで、教育実習や就職後にスムーズな教育実践ができるようにするための学校ボランティアへの参加等も視野に入れながら、各自の学習計画を立ててほしい。

初等教育教員養成課程（A類） 情報教育選修

1. 選修の目的・目標

情報教育選修は、情報通信技術（ICT）の専門的知識に基づき、学校における教育の情報化の指導的役割を果たすことのできる小学校教員の養成を目的としています。そこで、A類共通の目標である各教科の指導力など小学校教員としての素養を身につけるとともに、情報科学と、それらと教育を結びつける知識を学ぶことで、教科等指導での情報教育やICT活用、校務の情報化を計画・指導・評価できる力を養います。

2. カリキュラムの特色と構造

情報科学の基礎をしっかりと身につけるために、共通科目である「情報」を基本に、「計算機システム概説」「ソフトウェアシステム概説」でコンピュータやネットワークの仕組みを、「プログラミングⅠ・Ⅱ」「プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ」でプログラミング技術を、「情報数学基礎」「数値計算」で数理的側面を、「情報メディア論」で社会的側面を学びます。また、情報科学を学ぶためには数学の知識も必要なため、微分積分、線形代数、データ分析を用意しています。情報教育選修では教育の情報化について広く深く理解することが重要であり、「教育と情報」を基礎とし、情報教育に関しては「情報教育概論」で、教科等指導でのICT活用に関しては「教育情報化教材論A・B」「授業におけるICT活用」で学びます。これらと教育実地研究Ⅰの総括として「教育情報化臨床」をⅥ期に開講します。

3. 履修の方法

(1) 教科・教職の科目（専攻 SE 科目）

「教育情報化教材論A・B」「教育情報化臨床」の3科目は、卒業要件としては2科目の単位取得ですが、3科目すべてを履修してください。

(2) 専門系演習

専門系演習は、SA科目の「情報教育学演習A・B・C」、「ハードウェア工学演習A・B・C」、「社会情報学演習A・B・C」、「ICT教授学習支援演習A・B・C」、SB科目の「ソフトウェア工学演習A・B・C」、「計算機科学演習A・B・C」、「知能情報工学演習A・B・C」、「対話メディア工学演習A・B・C」からなります。専門系演習を履修するためには、履修する年度の前年度末（標準では2年次終了時点）に総取得単位数が62単位以上、かつ情報教育選修の専攻に関する科目（S, SA, SB）から20単位以上取得している必要があります。

(3) 卒業研究

情報教育選修では、3年次から研究室に所属し、研究室の枠組みの中で、3年次にはより専門的な知識や卒業研究のスタイルを学ぶ演習、4年次には卒業研究に取り組みます。研究室は教育支援課程（E類）情報教育コースと合同です。どのような研究室があるかは、情報教育選修／コースの web サイト（<http://joho.u-gakugei.ac.jp/>）を閲覧してください。

ⅦⅧ期（標準では4年次）の卒業研究の履修のためには、上記専門系演習のうちAが付く演習（Ⅴ期開設）から最低1単位の単位を取得していること、上記専門系演習のうちBまたはCが付く演習（Ⅵ期開設）から最低1単位の単位を取得していることが必要で、さらに、SB科目のうち、計算機システム概説、プログラミングⅠ・Ⅱ、プログラミング演習Ⅰ・Ⅱの単位を取得していることも必須と考えています。

卒業研究に取り組むためにはSE, SA, SB科目はすべて履修することが望まれます。加えて、教育支援課程（E 類）情報教育コースで開設されている科目は、情報教育選修の開設科目では取り扱わない情報科学・情報工学分野の様々な内容を深く学ぶ科目ですので、履修を勧めます。

(4) 小学校の教科に関する専門的事項の履修方法について

情報教育選修では「小学校の教科に関する科目」の指定修得単位は10単位（うち7単位が必修）です。卒業要件16単位を満足するための残り6単位は、指定習得単位分以外の「小学校の教科に関する専門的事項」、共通SE科目の3単位を超える分、専攻SE科目の4単位を超える分で満たす必要があります。

(5) 中等数学免許科目の履修について

数学選修・数学専攻で開講される解析学Ⅰ・Ⅱ，幾何学Ⅰ・Ⅱ，代数学Ⅰ・Ⅱ，確率・統計Ⅰ・Ⅱを自由選択科目として履修をする際，情報教育選修を対象としたクラスが開講されている場合は，そのクラス以外の履修はできません。

4. 4年間の標準的履修モデル(選修内の行事予定)

学 年	1		2	
開設学期	I	II	III	IV
専攻 SE			教育情報化教材論A	教育情報化教材論B
専攻科目	情報教育選修入門セミナー 計算機システム概説 プログラミングⅠ プログラミング演習Ⅰ 情報数学基礎 情報科学のための微分積分Ⅰ 情報科学のための線形代数Ⅰ	教育と情報 プログラミングⅡ プログラミング演習Ⅱ ソフトウェアシステム概論 情報科学のための微分積分Ⅱ 情報科学のための線形代数Ⅱ	授業におけるICT活用 情報教育概論 データ分析の基礎Ⅰ 数値計算 応用プログラミング	情報メディア論 データ分析の基礎Ⅱ
その他	情報 憲法 CA 科目 英語コミュニケーション 初習語学 スポーツ実習 教育組織論 特別支援教育の理解	人権 CA 科目 英語コミュニケーション 初習語学 ウェルネス概論 教職入門 教育理念と歴史	教育情報化支援教材論 他 E 類専攻科目 共通 SE:授業観察演習，他 初習語学 教育心理学 小教科目 ☐ 解析学Ⅰ ☐ 幾何学Ⅰ ☐ 代数学Ⅰ ☐ 確率・統計Ⅰ ☐ 中等数学科教育法Ⅰ	E 類専攻科目 初習語学 道徳教育の指導法 各教科指導法 小教科目 初等教育の内容と方法 ☐ 中等教育の内容と方法 ☐ 解析学Ⅱ ☐ 幾何学Ⅱ ☐ 代数学Ⅱ ☐ 確率・統計Ⅱ ☐ 中等数学科教育法Ⅱ
教室行事	4月：入学オリエンテーション		12月：研究室配属オリエンテーション	

学 年	3		4	
開設学期	V	VI	VII	VIII
専攻 SE		教育情報化臨床		
専攻科目			卒業研究	
専門系演習	専門系演習 A	専門系演習B/C		
その他	E 類専攻科目 生徒指導・進路指導の理論と方法 各教科指導法 小教科目 共通 SE ☐ 中等数学科教育法Ⅲ	E 類専攻科目 教育相談の理論と方法 特別活動・総合的な学習の時間の指導法 各教科指導法 小教科目 共通 SE ☐ 中等数学科教育法Ⅳ		
教育実習	事前事後指導 教育実地研究Ⅰ		教育実地研究Ⅱ	教職実践演習
教室行事			2月：卒業研究発表	

注意：このモデルは，あくまで数多くある選択からの科目例，履修時期，履修数です。このモデルでの履修を強制するものではありません。

☐印は中高数学科免許取得に必要な科目の一部です。履修を強制するものではありません。また時間割上他の科目と重なる可能性があります。

5. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

情報教育選修は，初等教育教員養成課程(A類)の学生として教職関連科目を履修しながら，授業時間外に取り組む学習を課すことが多い専門科目を履修します。また，3，4年次には，教育支援課程(E類)情報教育コースの学生とともに情報科学・情報工学・教育工学の専門的な卒業研究を実施しながら，教育実習や教員採用試験準備などをするようになります。加えて教育支援課程情報教育コース開設科目の履修も推奨していますので，学部4年間は相当に多忙であることが予想されます。そこで，計画的に無理をせず着実な学習を進めていくことが大切です。卒業後の進路としては，小学校教員を第一に，官公庁や一般企業への就職の他，教育者としてのステップアップを目指し教職大学院(情報教育サブプログラム)や，これからの教育を考えるために修士課程(教育 AI 研究プログラム)に進学することも勧めます。いずれにしても早期に進路を考え，それに応じた学習を進めていくことが重要です。

初等教育教員養成課程(A類) 環境教育選修

1. 選修の目的・目標

深刻化する環境問題に対応し、持続可能な社会を構築していくことは、現代社会において最も重要な課題である。環境問題は、その影響がおよぶ範囲や対象がますます多様で複雑なものになっている。この現状の中、小学校段階から子ども達の自然環境や社会制度に対する関心や認識を深めることが必要である。

環境教育選修では、自然科学・人文社会科学を横断する環境学に関する知識を学ぶだけでなく、持続可能な社会を実現しようという意志と実践力を涵養し、また、そのための智慧について小学校を主体とした学校教育においてどのように展開していくか考えていくことを目標とする。

2. カリキュラムの特色と構造

環境教育選修のカリキュラムは、(1) 我々の生活が、自然、社会・文化といったものが複雑に重なり合った「環境」のなかで成り立っていると考え、この我々にとっての「環境」を一つのシステムとして学んでいくこと、(2) そのために自然科学と人文社会科学の2分野にまたがって複眼的なものごとを見ていくことができるようにすること、(3) そして、「環境」を科学的に認識するだけでなく、「環境」を豊かに感じとり、よりよい「環境」を生み出していくための、感性・理性・実践力を身につけ学校教育で展開する力をつけることができるように組み立てられている。

専攻SE科目とS科目は、「環境」を認識し環境教育を展開するための基礎的な知識を学ぶ授業である。「調査法」科目では、それぞれ自然と社会のあり方を把握するための技法・技術を実習的な要素を通して身につける。これらの科目では自然科学と人文社会科学、そして教育学の分野をバランスよく学んでいく。SA科目、SB科目は、専攻SE科目やS科目で学んだことを基礎として、より専門的な分野に分かれて発展的なことから学ぶとともに、授業によっては校外に出て実習的な活動も行う。

3. 履修の方法(履修指導内容)

(1) 教育基礎科目及びA類共通科目の履修

教育基礎科目では、定められた単位を修得すること。

専攻 SE・SA は環境教育を学ぶ上で特に重要な科目であり計画的に全般を履修するのが望ましい。

(2) 卒業研究

2年生秋学期に卒業研究を行なう研究室の志望調査がなされ、その結果に基づいて、3年生春学期より各研究室に所属する。各研究室では、ゼミなどを通じて卒業研究を行なう。例年7月に卒業研究の中間報告会を、2月上旬に、1～4年生が出席して卒業論文発表会を開催する。また、卒業研究を履修するまでに必要単位は取得しておくことが望ましい。

4. 4年間の標準的履修モデル(選修・専攻内の行事予定)

学 年	1		2		3		4	
学 期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
専攻 SE 科目			環境教育 と情報 環境教育 カリキュラ ム・方法論					
S科目	環境教育選 修入門セミ ナー 地球環境論	環境と産 業社会 環境教育 概論	自然環境 調査法 A 自然環境 調査法 B	地域の環 境学と農 的体験 I				
SA科目	環境保全生 態学	地球環境 論演習	環境教育 実習 I (集 中) 自然環境 実験 I (集 中)	地域の環 境学と農 的体験 II 環境教育 実習 II 社会環境 調査法 植物進化 生態学 博物館と 展示の活 用 エコスク ール論	環境教育演 習 I 都市環境論 自然環境実 験 II 河川環境論 自然体験学 習論 自然体験 環境問題研 究 A (奇数 年) 環境問題研 究 B (偶数年)	環境教育 演習 II	環境教育 演習 III	環境教育 演習 IV
教育実習					教育実地研 究 I 事前事後指 導		教育実地 研究 II (選 択)	教職実践 演習
教室行事	4 月: 新入生研修		11 月: 研究室紹介 12~1 月: 研究室志望調査		7 月・12 月: 卒業研究中間報告 会		2 月上旬: 卒業論文発表会	
その他					(春学期) 3年生キャリア支援セミナー (教員・企業・公務員等)		(春学期) 4年生キャリア支援セミナー (教員志望) 7月~: 教員採用試験	

5. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

必修科目(S, 専攻SE 科目)は, この選修で学ぶ上で基礎となる事柄を学ぶ授業であるので, 標準開設学期に履修し終えること。専攻SE 科目は 2 科目を履修しなければならない。地域の環境学と農的体験 I・II については同一学期に受講すること。環境教育選修の教員が開設しているSA科目の授業は, 可能な限りすべて履修すること。隔年で開講されるものや集中講義形式になっているものがあるので, 留意すること。選択科目については, 他専攻が開設している授業であっても, 自分の学習テーマに沿ったものであれば, 積極的に受講することが望ましい。各人の履修計画について指導教員に個別に相談することも歓迎する。

進路については, 大学院進学者が1割, 教員・公務員 7 割, そのほか 2 割といったようになっている。

初等教育教員養成課程(A類) ものづくり技術選修

1. 選修の目的・目標

本選修は、すべての子どもたちが学ぶべき普通教育の視点に立ち、創造して新しい価値を生み出す、技術的で総合的な問題解決の力(ものづくり技術の力)を身に付けた小学校教員を養成することをめざしています。これからの小学校には、子どもたちの健やかな成長・発達のために、技術の科学や STEM/STEAM*の見方・考え方を積極的に活かすことができる小学校教員が不可欠です。本選修では、ものづくり技術の力を通して、身のまわりの生活や学校、社会を友だちや周囲の人々と協同して切り開き、学校現場において、工夫・創造性に満ちたイノベーションを広く推し進めていくことができる教員を育成することを目的としています。

*【STEM/STEAM】 S 科学・T 技術・E 工学・A 芸術とリベラルアーツ・M 数学の見方・考え方を横断的・総合的に活用して、新たな価値を生み出すために創造的に問題を解決していこうとする教育が世界的にも重視されています。

2. カリキュラムの特色と構造

本選修は、エンジニアリングの活動を問題解決の教育に取り入れたものづくり技術の教育方法について学ぶとともにものづくり技術の力の基礎となる技術、技能、科学を結びつけた能力を身に付けるため、中学校技術科につながる基礎の内容を学びます。その他、小学校教員免許状の取得に必要な内容も学びます。本選修では、このような「ものづくり技術の力」を身につけるため、授業づくりに関する各種の授業科目のほか、電気や機械、情報、加工等のものづくり技術の専門授業科目を設けています。また、ものづくり技術の基礎となる技能を身につけるため、実習や演習を中心とした授業科目も多く開講されています。

社会では周囲の人々と協同して、身のまわりの生活や社会を切り開くため、工夫・創造性に満ちたイノベーションを広く推し進めていくことができるような力が求められています。このような要求に対応するため、「ものづくり技術の力」を基盤にした企画・創造力を高めることができるようなプロジェクト型・問題解決型の授業科目や、相手意識にたった「ものづくり力」を発揮するための授業科目が開講されています。

3. 履修の方法

(1)教科・教職の科目(専攻SE)

「ものづくり教育と教材」、「ものづくり教育臨床」は必ず履修する必要があります。

(2)専攻科目

数学と物理は専門科目の修得に必須となる内容です。工業数学Ⅰ(S)、工業物理学Ⅰ(S)、工業数学Ⅱ(SA)、工業物理学Ⅱ(SA)は1年生の間に必ず修得してください。工業数学Ⅱおよび工業物理学Ⅱは必修科目(S科目)ではありませんが、積極的に履修するようにしてください。これらに限らず、自分に不足していると感じる内容は1～2年生の間に積極的に履修してください。さらに、履修する全ての科目について予習と復習を必ず行なってください。みなさんは学位と教員免許を取得して卒業していきます。それにふさわしい専門性と思考力を身につけるように努力してください。

なお「小学校の教科に関する科目」については、16単位に満たない単位数分の科目を必修指定外の「小学校の教科に関する科目」または共通SE中の科目から選択し、併せて16単位となるように履修してください。

(3)卒業研究

卒業研究は究極の問題解決型学習です。積極的に研究に取り組んでください。卒業研究では、ものづくり技術教育の基礎となる専門分野に関して、指導教員の指導を受けながら特定のテーマについて研究を行い

ます。

卒業研究のスケジュール(概略)

2年生12月～3年生4月:研究室を決定

3年生4月:卒業研究スタート

(3年生次の履修に関しては各研究室の教員による履修指導に基づいて履修内容を決めて下さい。)

4年生5月～10月:中間発表会

4年生2月:卒業論文発表会

各研究室への配属は、配属学生の学業成績のバランスと本人の希望等を勘案して取り決める予定です。卒業研究が実施される2年間には、3年生6月:附属学校における教育実習の準備開始、9月～10月:教育実習、3年生次後半:教員採用試験準備・就職活動開始、4年生6月頃:協力校における教育実習(選択)、7月以降:教員採用試験(1次試験・2次試験)があります。このため、時間を有効に使いながら、積極的に研究に取り組む姿勢が重要です。

(4)その他

副免(卒業要件に含まれない教員免許状)として、中学校技術科教員免許状及び高等学校工業科教員免許状の取得希望者は、1年生の間に数学(行列{固有値、行列式など}、高階微分方程式の解法、積分{多重積分、線積分}、複素数など)や物理学(力学、電磁気学など)の十分な理解とともに履修を終わらせてください。工業物理ⅠⅡ及び工業数学ⅠⅡの単位を取得した後にSA科目にある専攻科目の受講をすること。また、できるだけ1年生次に「中等技術科教育法Ⅰ・Ⅱ」を履修するようにしてください。

4. 4年間の標準的履修モデル(選修・専攻内の行事予定)

学年	1		2		3		4	
学期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
専攻SE科目			ものづくり教育臨床	ものづくり教育と教材				
S科目	ものづくり技術選修入門セミナー 工業数学Ⅰ 工業物理学Ⅰ	情報とものづくり		電気とものづくり				
SA科目	基礎製図	金属加工Ⅰ 工業数学Ⅱ 工業物理学Ⅱ	栽培		ものづくり特別演習Ⅰ～Ⅵ			
SB科目	木材加工概論	木材加工Ⅰ 技術・工	電気回路応用情報処理Ⅰ	金属加工Ⅱ 機械工学の基礎	職業指導 応用情報処理Ⅱ・Ⅲ	電子物性論 計測と制御 情報処理特		近現代社会と技術・職業教育

		業と情報	木材加工Ⅱ 計算機ハードウェア		科学技術と 技術科の授業	別演習 電子物性特別演習 熱・流体工学特別演習 機械工学特別演習 技術・職業教育学特別演習 加工・ものづくり特別演習		
教育実習					事前・事後指導 9月：教育実習		5～6月：選択実習 10月：選択実習	教職実践演習
教室行事			12月：研究室説明会		4月：研究室配属		5月：中間発表会 9月：中間発表会 2月：卒業論文発表会	
その他					(春学期) 3年生キャリア支援セミナー (教員・企業・公務員等) (秋学期) 10月：東京教師養成塾募集		(春学期) 4年生キャリア支援セミナー (教員志望) 7月～：教員採用試験	

(注)SB科目は、他選修・専攻での開設が優先されます。履修時期は、各自で適宜設定してください。

5. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

本選修の所属学生は、4年間を通じて自ら主体的に小学校教育と常にかかわれるよう心掛け、準備・計画・実際の働きかけをしましょう。4年間の本選修の教育研究・実践活動をとおして、小学校教育のもつ奥深さと意義を感得し、卒業後は小学校教員となり、本選修で培った能力を発揮して、豊かで多様な教育活動を実現していくことを期待します。

選択科目(SB)の開講時間が必修科目の開講時間と重なっていることがあります。その場合は必修科目を優先して受講するようにして下さい。

本選修は教職大学院への進学も推奨しています。教職大学院を修了することにより、専修教員免許状を取得することができ、より視野の広いスクール・リーダーとしての専門的力量を身につけることができます。なお1年生～2年生の間に教職大学院に進学することを決めている学生は、希望すれば2年生次に次世代学校リーダー養成コースへの登録、もしくは3年生次に教員養成高度化大学間連携コースへの登録をおこなうことにより、教職大学院へ特別に進学することができます(次世代学校リーダー養成コースは3年生次より開始;教員養成高度化大学間連携コースは4年生次より開始)。さらに、博士課程を修了し、博士号を取得した者には、大学教員などの研究職への道も開けます。

初等教育教員養成課程(A類) 幼児教育選修

1. 選修の目的・目標

幼児教育選修は質の高い幼稚園教員、保育士、その他幼児教育の専門家を養成することを設置の目的としています。本選修では、幼児教育のニーズが多様化するなか、保育士資格を希望する者に必要な授業科目を整備しています。また、最新の幼稚園教育要領、保育所保育指針等にもとづき、乳児期、幼児期、児童期への発達や学びの連続性をふまえた教育や、園と家庭、地域との連携をふまえた教育を推進できる力量をもつ幼児教育の専門職の養成を目指しています。

2. カリキュラムの特色と構造

上記の目標を達成するためのカリキュラムは、一つに教育職員免許法に定められた幼稚園教諭一種免許状の取得に必要な授業科目を用意しているのが特色です。一方、保育士の資格取得に必要な授業科目には、幼稚園教員免許の学習内容と重なる部分がありますが、保育士に特有の専門性を身につけるための科目を選択科目として用意しています。

本選修に固有の授業科目は、教科・教職に関する科目(専攻 SE)、幼稚園の教科に関する専門的事項(SK)、専攻に関する科目(必修 S、選択 SA)の他、教育実習、卒業研究などで構成され、保育者としての専門性を獲得してほしいと願っています。保育士の資格取得のためには、児童福祉関係の科目、養護原理、乳児保育や小児栄養などに加え、保育所や福祉施設での実習を用意しています。

3. 履修の方法

この数年の学生の履修状況を見ると、卒業要件である幼稚園教諭一種免許状と、希望による保育士資格の取得をほぼ全員が達成しています。さらに、小学校教諭一種免許状もほとんどの学生が取得して卒業しています。慎重に計画を立てて着実に単位履修を進めてほしいと思います。

(1)教科・教職に関する科目(専攻SE)

教科・教職の科目には「幼児教育学」、「乳幼児心理学」、「保育者論」、「幼児の健康指導研究」があり、幼児教育選修の専門的な内容を扱う必修科目になっています。

(2)卒業研究

幼児教育選修の卒業研究(卒論)は、指導教員の指導のもと、幼児の発達や教育等に関わる様々な内容のなかから自らテーマを決め、研究に取り組みます。これを通じて、多くの理論に触れたり、論理的な思考力や研究方法を学びます。

4. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

幼児教育選修は少人数であることや、将来保育という仕事を目指すという具体的なイメージを共有していることなどから、クラスメイトが明るく活発で、大変親しい関係にあります。学習計画を立てることにしても、支え合って4年間を過ごしている様子です。学年の上下の交流も盛んで、勉強の仕方を先輩から聞くこともあるようです。

卒業後の進路は、幼稚園や保育所等が9割以上で、その他は大学院への進学、企業になっています。

5. 4年間の標準的履修モデル(選修内の行事予定)

学 年	1		2		3		4	
学 期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
専攻SE 科目	幼児教育学 乳幼児心理学					保育者論	幼児の健康指導研究	
幼稚園 教科 (SK)	音楽表現 I 保健体育 I 美術 I		ピアノ基礎 I 美術 II	保健体育 II	国語科研究	生活科学研究		
S科目	乳児保育 I 幼児教育選 修入門セミナー	幼児教育 と情報		保育原理 保育内容 総論	幼児体育 特講	子ども家庭 支援の心理学		
SA科目		社会的養 護 I 乳児保育 II 音楽表現 II 小児栄養 演習 子ども家庭 支援論	保育実習 事前・事後 指導 子どもの健康と安全 障害児保育	幼児心理学演習 I ピアノ基礎 II 社会的養 護 II 保育実習 I	幼児心理学演習 II ピアノ表現 演習 幼児の身体表現	総合音楽 表現 保育実習 II	保育臨床 相談 保育実習 III	
教育実習					事前・事後 の指導 教育実地 研究 I (附属幼稚園での実習)		教育実地 研究 II (公立幼稚園等での実習)	保育・教職 実践演習
行事	教員との顔合わせ 新入生歓迎会:学生行事				卒業論文構想発表会		卒業論文発表会 卒業生送別会:学生行事	
その他					3年生キャリア支援セミナー (教員・企業・公務員等) 東京教師養成塾募集 (小1種免取得予定者)		4年生キャリア支援セミナー (教職志望) 6月～:教員採用試験	

中等教育教員養成課程(B類) 国語専攻

1. 専攻の目的・目標

B類国語専攻は、基本的に中学校教員の養成を国語教育という立場から行おうとするものです。国語教育を成り立たせるものは基礎科学と教科教育学です。両者は車の両輪のようなものです。国語科は基礎科学の日本語学・日本文学(古典文学・近代文学)・中国古典学と、教科教育学の国語科教育学、以上の四つの専門領域から成り立っています。皆さんが、これらのどの領域に重点を置いて学ぶのかは自由です。履修の仕方によって自分なりの国語教育観がつくられ、逆に自分の国語教育観によって履修科目が決まってくるともいえます。

2. カリキュラムの特色と構造

カリキュラムには、全学を対象とした教養科目があり、その上に立って教育基礎科目と国語専攻の専攻科目があります。専攻科目は(1)教科・教職に関する科目(共通SE, 専攻SE), (2)専攻に関する科目(必修S・選択SA) (3)卒業研究(SZ)の3種類の科目から成っています。

これらの専攻科目は、(1)は教科教育学と教科専門とを横断した応用的科学です。(2)は国語の専攻に関する専門性を深める科目を学びます。そして(3)卒業研究は4年間の学習と研究の集大成として卒業論文を作成します。

3. 履修の方法

「教科・教職に関する科目」は、「国語科と情報」「国語科教材論A」「国語科教材論B」「国語科教材論C」全てが必修科目です。

「専攻に関する科目」は、必修科目の「国語専攻入門セミナー」、「日本語学概論Ⅰ・Ⅱ」、「日本語文法」、「日本文学史Ⅰ・Ⅱ」、「日本文学概論Ⅰ・Ⅱ」、「中国古典文基礎」、「中国古典文学概論」、「中国古典文献概論」、「中学書写B」合計24単位は、必ず修得して下さい。

また選択科目 A の中から28単位以上を選択し、修得します。選択にあたっては次のことを注意してください。

カリキュラムのB類国語、選択科目Aの中から計28単位以上を選択し、修得する必要があります。この場合基本的には「国語学」「国文学」「漢文学」をそれぞれ何単位修得してもかまいません。

ただし、選択科目の選定にあたっては必ず演習科目を6科目(12単位)以上履修して下さい。演習科目は次のとおりです。これらの科目は上に述べた28単位の中に含まれます。

日本語学演習A	日本語学演習B	現代日本語文法Ⅱ		
古典文学演習E	古典文学演習F	古典文学演習G	古典文学演習H	古典文学演習I
近代文学演習A	近代文学演習B	近代文学演習C	近代文学演習D	
中国古典演習A	中国古典演習B	中国古典演習C		

卒業研究は国語科では「卒業論文」をこれにあてています。必修4単位です。

卒業論文作成に向けて、3年次春学期・秋学期に下記の授業があります。春学期に1科目、秋学期に1科目、計2科目(4単位)を必ず選択し、修得して下さい。

(春学期)

日本語学基礎研究 古典文学基礎研究 近代文学基礎研究 中国古典学基礎研究
国語科教育基礎研究 日本語教育基礎研究

(秋学期)

日本語学応用研究 古典文学応用研究 近代文学応用研究 中国古典学応用研究
国語科教育応用研究 日本語教育応用研究

なお卒業論文に関する詳しい説明は国語科「あなたのための履修ガイド」を参照してください。

専攻科目以外の履修等については、教育基礎科目として教育実習があります。3年生9月に教育実地研究Ⅰ、4年生の5～6月に教育実地研究Ⅱ（選択）があります。

4. 4年間の標準的履修モデル

学 年	1		2		3		4	
学 期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
専攻SE科目(必修)		国語科と情報	国語科教材論B	国語科教材論A		国語科教材論C		
S科目(必修)	国語専攻入門セミナー 日本文学概論Ⅰ 日本文学史Ⅰ 日本語学概論Ⅰ 中国古典文学概論 中国古典文献概論	日本文学概論Ⅱ 日本文学史Ⅱ 日本語学概論Ⅱ 中国古典文基礎	日本語文法	中学書写B				
SA科目(選択)			日本語学演習A, B 現代日本語文法Ⅱ 古典文学演習E～I 近代文学演習A～D 中国古典演習A, B	児童文学 日本語教育と言語学 日本語教育方法論 現代日本語文法Ⅰ	現代文化論 日本語教育教材開発論 日本語政策論 言語習得と発達	日本語学基礎研究 古典文学基礎研究 近代文学基礎研究 中国古典学基礎研究 国語科教育基礎研究 日本語教育基礎研究 のうちのいずれか 中国古典演習C 異文化間教育	日本語学応用研究 古典文学応用研究 近代文学応用研究 中国古典学応用研究 国語科教育応用研究 日本語教育応用研究 のうちのいずれか 日本語音声	
SZ科目							卒業研究	
教育実習等	介護等体験(特別支援学校)		介護等体験(社会福祉施設)		事前事後指導 9月:教育実地研究Ⅰ		6月:教育実地研究Ⅱ 教職実践演習	
教室行事	4月:オリエンテーション				1月:卒論発表会		12月:卒論提出 1月:卒論発表会	
その他					3年生キャリア支援セミナー(教員・企業・公務員等) 10月 東京教師養成塾募集(学校教育系のみ)		4年生キャリア支援セミナー(教員志望) 7月～教員採用試験	

5. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

国語科を卒業した人の就職先を大別すると、教職と教職外に分けられます。また本学や他大学の大学院に進学する人もあります。ここ数年、小学校教員の採用数は増加の傾向にあります。3年生の秋学期に募集のある東京教師養成塾に応募し、東京都の教員に採用された人もいます。中学校・高等学校も少しずつではありますが、採用数が増える傾向にあります。ただし高等学校の教員については最近大学院修了者を採用するところが増えていきますので、そのことを念頭において進路を考えることが必要です。教職外では企業・公務員として就職する人もあります。

中等教育教員養成課程(B類) 社会専攻

1. 専攻の目的・目標

B類社会専攻は、1学年25名、総数では100名に及ぶ学生が所属し、A類社会選修とともに社会科教室を構成しています。本専攻は、主として中学校・高等学校の社会科教員をめざす学生が、社会のしくみと原理について確実に専門的な知識を習得し、社会について学問的に考える能力を養うこと、またそれをもとに生徒の社会への関心を高め、公民的資質の基礎を養成できる人材、いいかえれば「社会と社会科に強い中学・高等学校教員」になることができる人材を育成することを目的としています。

2. カリキュラムの特色と構造

社会科は人文科学、社会科学、社会科教育学の3つの領域にまたがり、範囲が非常に広い教科です。社会科の各専門領域について深く勉強し、また多面的な理解と視野を育て、かつ教科の指導方法や指導能力を身につけるために、社会科教室は歴史学、地理学、哲学、法学・政治学、経済学、社会学、社会科教育学の7つの分野から構成されています。社会科教室には合わせて30名近くの教員が所属し、教育と研究に従事しています。社会科教室以外にも社会科に関連する分野を担当している教育支援系の教員がおり、専門科目の勉強やゼミ活動の指導、卒論指導などを受けることができます。

B類社会専攻のカリキュラムの構造は、同じ社会科教室を構成しているA類社会選修のカリキュラムと似ています。まず1年次の春学期に社会専攻入門セミナー(S)を履修し、高等学校までとは異なる大学での(そして学芸大社会科教室での)勉学の方法について学びます。あわせて1・2年次を中心に、必修の概論科目(S)を履修し、社会科の基礎的な概念や考え方を学びます。特に1年次には、2年からの本格的な分野分けにそなえ、卒業までにどのような領域やテーマを深く学びたいのかじっくり考えてください。2年以降は、7つの分野のいずれかに所属します。所属分野を基盤にして、大学院生や上級生と交流を図りつつ、各分野の特色ある「専攻選択科目」(SA)を中心に履修するほか、ゼミナールでの活動、自主的な勉強会、卒業論文の作成などを進めます。この方式は学生が社会科の指導法や指導能力を身につけるだけでなく、専門知識を基礎とした実践的な応用力を獲得することを目的としています。これと並行して、社会科共通の「教科・教職に関する科目」(専攻SE)を履修し、中等社会科教育法(「教育課程及び指導法に関する科目」)とはまた別の観点から社会科独自の考え方や教育にかかわる方法論、技術などを学び、教員として将来応用できる実践力を養います。

本専攻のカリキュラムの重要な特色は、演習を中心とする少人数教育です。毎週のゼミでは教員や仲間と議論しながら学問の楽しさを実感できるでしょう。分野によっては野外での実地調査を行います。2年では各分野の基礎的な演習、3年ではより高度なレベルの演習に参加し、卒業論文の準備をしながら研究を進めます。4年次には約1年かけて、学生生活の集大成となる質の高い卒業論文の完成をめざします。

B類の学生は中学・高校で特定の教科・科目を教える教員をめざすので、専攻の教科および指導法について高度な専門性を求められています。それは卒業基準単位数の中に占める専門教科の比率が高いことにも表れています。皆さんは中学や高校時代の先生が「なんて博学で、深い見識をもっているのだろう!」と驚き、その先生に影響を受けて、「地理を勉強したい」「歴史学者になりたい」「倫理の先生になりたい」などと思ったことがあるかもしれません。そうした教科の専門性を育て、生徒の鋭い知的関心を大いに伸ばせるような指導力を養ってほしいと思います。

3. 履修の方法

B類社会専攻は中学社会科、高校地歴科・公民科の教員免許取得を中心にカリキュラムが構成されています。教員免許取得に必要な科目のアウトラインは教職免許法によって定められていますが、B類の卒業要件を満たすように履修していけば必要な単位が修得できるようになっています。なお「社会科と情報」「社会科カリキュラム論」「社会科教材論A」「社会科教材論B」の4つは、教科と教職の両方にかかわる本学独特の科目

で、教科・教職に関する科目(専攻SE)として4科目全て必修になっています。

4. 社会科各分野の特色紹介

【歴史学分野】歴史学には教員が6名います。他の課程を担当する教員も指導に協力しており、日本史・東洋史・西洋史それぞれの古代・中世・近世・近現代など様々な地域や時代を専門に研究することができます。学生・院生に教員が加わった自主ゼミが8作られており、ゼミでの活動を通じて、論文の読み方、卒論テーマの選択など正規のカリキュラムを補う様々な技術を学ぶほか、くずし字で書かれた古文書解読や何千年も前に書かれた文章にふれるなど、ふだん味わえない知的な体験ができます。さらに教員・学生・院生に卒業生も加わった「東京学芸大学史学会」という学会が組織されており、史跡・博物館などの見学や第一線で活躍されている研究者を招いての講演会・シンポジウムなどが行われています。

【地理学分野】自然地理学・人文地理学・地誌学の三分野からなり、自然環境から経済・社会・文化・歴史など非常に幅広い領域を含みます。特に地域・社会における観察や実地調査などのフィールドワークを重視しています。3年次の「臨地研究」は自分の研究テーマに沿ってフィールドワークを行い、卒業研究につなげる実践的科目です。正規の授業のほかに学生・院生・教員による自主ゼミナールが毎週開かれ、活発な議論がかわされています。地理学を通じて得た経験は教育現場での教材開発や地域学習、行政や企業での企画調査にも生かすことができます。さらに教員・在校生・卒業生で構成する「東京学芸大学地理学会」が組織され、毎年講演会、談話会や巡検を実施し、その成果を機関誌「学芸地理」で発表しています。

【哲学分野】哲学は「人間いかに生きるべきか」という根源的な問題を考える学問です。本分野では社会科教室所属の教員のほか、他課程の教員の指導も含めて、日本・中国・インド・イスラム・ヨーロッパなど、古今東西の思想・哲学にわたって幅広い学習をすることができます。また倫理学・宗教学も含まれているので、道德教育や宗教教育の研究も可能です。教育の荒廃が大きな社会問題になっている今日、先哲の教えを参考にしながら教育の本質や理念を深く考えるのは極めて重要といえましょう。環境倫理や生命倫理、比較文化・思想に関心のある学生も歓迎します。本分野では原典で学習をする機会があり、英・仏・独・中のほか、熱意さえあれば普通学習する機会の少ないサンスクリット語・アラビア語・西洋古典語などの学習もできます。

【法学・政治学分野】法学・政治学は、大きく法律系と政治系に分かれています。法律学のうち、私法学は市民の財産関係と家族関係を律する法を、公法学は公共団体(国家・自治体など)と市民および公共団体相互の関係を律する法を対象にします。政治学は政治権力の獲得・行使に関するルールと活動、統治(ガバナンス)のシステムと市民の参加を対象にします。法律系の演習では、判例の研究を通じて紛争がどのように法的に解決されているかを学び、法解釈の技術を身につけます。政治系の演習では国内・国際政治の諸事象をテーマに、政治学の分析方法とセンスを養います。国民の権利意識が高まり法教育が推進される今日、教員を志望する人が法学・政治学を学ぶ意義は高まっているといえるでしょう。

【経済学分野】経済学は現代社会の経済・経営の側面を解明する学問です。日本経済は国際化、情報化、少子高齢化、雇用流動化など大きな構造変化を迎えています。私たちの日常生活、学生生活にも経済的な要因が中心的作用を及ぼしているのはいうまでもありません。本分野では他課程の教員も含めて、財政学、金融、社会保障、国際経済、環境経済、労務管理などを学ぶことができます。経済学・経営学は対象が明確で、数量化されたデータを扱い、分析の論理と方法論を重視します。体系的な訓練によって分析手法を身につければ、それによって客観性のある確実な経済分析をすることができます。卒業後の進路は小中高の教員のほか、公務員、民間企業、大学院進学など多岐にわたっています。

【社会学分野】社会学の面白さは、様々な社会現象や社会問題に関して、人々が「なぜそのようなことをしているのか」、「他の人がそれをどのように受け止めているのか」を問い、理論研究とともに、フィールドワーク・インタビュー・アンケート調査・文献調査などから得た色々なタイプのデータを用いて、多面的に考えられる点にあります。具体的には、コミュニケーション・家族・地域といった小学校・中学校の社会や高校の現代社会の内容に密接に関わる領域に加え、アイデンティティ・グローバル社会・情報社会など今日の社会の先端的な動向

や、まちづくり・景観・NPO・DV・逸脱といった実践的なテーマを深く学ぶとともに、このような幅広い視野から児童・生徒や教師、学校、教育制度のあり方を考えていくことができます。2年生から始まる少人数のゼミや分野行事などを通じて、学生どうしや教員と学生とのコミュニケーションを図ることを大切に、教員や社会人として求められる自分自身のものの見方や考え方を構築することをめざします。

【社会科教育学分野】社会科教育学は、専門科学の成果を基礎として、児童・生徒の社会認識を実際どのように養っていくかという教育的課題を追究します。具体的には社会科の学習指導法、教材の開発、授業分析など、教育実践と深くかかわる領域を研究しています。また小学校の生活科、高校の地理歴史科、公民科、さらに国際理解教育、多文化教育、環境教育、平和教育、人権教育などの新しい課題にも積極的に取り組んでいます。教員と学生、学生相互の交流が盛んで、きめ細かい指導、学生の主体的な共同学習と人間的啓発が行われています。毎年夏期には全学年が参加して特定地域の社会事象をテーマ別に調査し、それをもとに授業づくりの演習を行う「社会科地域教材論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を合宿集中授業で行い、社会科教師に不可欠な地域調査の方法を学び、授業づくりの応用力を養います。分野の性格から、学生のほとんどが教職志望で、毎年多くの学生が教師となって巣立っています。

5. 4年間の標準的履修モデル(専攻内の行事予定)

表ではB類社会専攻の専攻科目を中心にして、4年間の標準的な履修の流れを示しました。卒業に必要な単位を修得し、卒業要件である中・高等学校教員免許を取得するには、これ以外に教養科目(22単位)、教育基礎科目(教育実習を含む35単位)をそれぞれの履修基準に従って履修し、最終的に130単位以上を取得する必要があります。

「専攻SE科目」から「その他」までの4項目は、B類社会専攻の学生全員に共通の必修科目と主な教室行事です。必修の専攻SE科目、S科目はできるだけ標準開設学期に、専攻科目に優先して履修してください。

5番目の項目から下は、2年以降に所属する分野別に、主な選択科目と行事をあげています。自分の所属する分野の欄にある授業科目を中心に履修していきますが、選択科目は社会科共通なので、時間割の上で履修可能であればどの科目も履修できます。なお各分野で標準履修学期の厳守やその他の履修条件を定めている科目がありますので、分野のオリエンテーションには必ず出席し、その指示に従ってください。

学 年	1		2		3		4	
学 期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
専攻SE科目		社会科と情報	社会科カリキュラム論			社会科教材論 A・B		
S科目	地理学概論 日本史概論 哲学・倫理学概論 社会学概論 社会専攻入門セミナー	社会科概論 B 法学政治学概論 東洋史概論 西洋史概論 経済学概論 哲学と宗教	自然環境	地誌学概論				
教育実習等	介護等体験(特別支援学校)		介護等体験(社会福祉施設)		9月:教育実地研究Ⅰ		5～6月:教育実地研究Ⅱ(選択) (E2)教職実践演習	
その他 (専攻共通)	(春学期) 4月:新入生研修 12月:分野分け説明会 1～2月:所属分野確定				(春学期) 3年生キャリア支援セミナー(教員・企業・公務員等) 10月:東京教師養成塾募集		(春学期) 4年生キャリア支援セミナー(教員志望者) 7月～:教員採用試験	

学 年	1		2		3		4	
学 期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
歴史学分野 SA科目			歴史学概論 歴史学文献 講読 A・B・C 日本史基礎 講義 東洋史基礎 講義	歴史学基礎 演習 A・B 西洋史基礎 講義	日本史演習 A I, B I, C I 東洋史演習 I 西洋史演習 A I, B I	日本史演習 A II, B II, C II 東洋史演習 II 西洋史演習 A II, B II 日本史研究 A, B, C 東洋史研究 西洋史研究 A, B	(SZ) 卒業研究	(SZ) 卒業研究
歴史学分野 行事			4月各ゼミで歓迎会 東京学芸大学史学会		4月:東京学芸大学史学会 2月:卒業論文発表会への参加 (全員参加)		4月:東京学芸大学史学会 2月:卒業論文発表会での発 表(全員参加)	
地理学分野 SA科目		地理学研究 法	地域調査法* 地理学基礎演 習 I *	地理学基礎 演習 II *	臨地研究 I * 自然地理学実 習 I・II *	臨地研究実習 (10月上旬)* 臨地研究 II * 人文地理学実習 *	(SZ) 卒業研究 地理学演習 I *	(SZ) 卒業研究 地理学演習 II *
			III 人文地理学研究・V 地理情報と地図 IV 自然地理学研究・VI 地誌学研究・VII 環境地理学研究 *印は指定の学期に必ず履修する。					
地理学分野 行事			4月:歓迎会 6月:学芸地理学会総会		4月:歓迎会 6月:学芸地理学会総会		4月:歓迎会 6月:学芸地理学会総会 2月:卒論発表会	
哲学分野 SA科目			哲学基礎資 料講読 東洋哲学史 I 西洋哲学史 II	哲学・倫理学 基礎演習 宗教思想基 礎演習 東洋哲学史 II	宗教思想の 諸問題 心の哲学と 知識論 応用倫理	哲学特殊研究 A・B・C	(SZ 卒業研究)	(SZ 卒業研究)
哲学分野 行事			4月:歓迎会		1月:卒論構想発表会		11月:卒論中間報告 2月:卒論発表会	
法学・政治 学分野 SA科目			憲法 A 民法 A・C 刑法 A・C 教育と法 政治学 A	憲法 B・C 民法 B 刑法 B 政治学 B 法学政治学 基礎演習*	法学政治学 演習 I *	法学政治学演 習 II *	(SZ 卒業研究)	(SZ 卒業研究)
			* 演習は卒業研究には必須・指定学期に履修 憲法 ABC, 民法 ABC, 刑法 ABC, 教育と法は隔年開講					
法学・政治 学分野行事			4月:歓迎会				7月:卒論中間報告 11月:卒論第2回中間報告 2月:卒論最終報告会	
経済学分野 SA科目			経済学基礎 演習 I * 経済学基礎 A	経済学基礎 演習 II * 経済学基礎 B	経済学演習 I * 経済学応用 A	経済学演習 II 経済学応用 B 経済学応用 C 経済学応用 D	(SZ 卒業研究)	
			* 演習は卒業研究には必須					
経済学分野 行事			4月:歓迎会				卒論中間報 告(7・11月)	卒論最終報 告会(2月)

	1		2		3		4	
学 期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
社会学分野 SA科目			社会学入門 演習 地域を探索 社会調査Ⅰ 現代社会と 世代* 社会学史* 家族社会学* 都市社会学	社会学基礎 演習 地域を探索 社会調査Ⅱ アイデンティ ティと社会* ジェンダーの 社会学* コミュニケー ションの社会 学*	社会学演習Ⅰ	社会学演習Ⅱ	(SZ)卒業研究	(SZ)卒業研究
			*隔年開講					
社会学分野 行事			4月:歓迎会		7月上旬:分 野合宿			2月上旬:卒 論発表会
社会科教育 学分野SA 科目			社会科地域 教材論Ⅰ 地理教育実 践論	社会科教育 実践史 社会科授業 論 歴史教育実 践論	社会科地域 教材論Ⅱ 比較社会科 教育論Ⅰ,Ⅱ	社会科教育研 究入門 公民教育実践 論	社会科地域 教材論Ⅲ (SZ)卒業研究	(SZ)卒業研究
社会科教育 学分野行事			東京学芸大学社会科教育学 会例会(年3回)		東京学芸大学社会科教育学 会例会(年3回)		東京学芸大学社会科教育学 会例会(年3回)	

* 社会科必修科目(S)だけでは高等学校地理歴史科・公民科の免許取得に必要な条件を満たしていません。選択科目(SA)を利用して必要単位を履修してください。

* いわゆる「介護等体験特例法」により、小・中学校教諭の普通免許状を取得するには、特別支援学校(2日間)、社会福祉施設等(5日間)の2種類、合計7日間以上の介護等体験をする必要があります。学校教育系では1・2年次の2回に分けて実施します。指定されたスケジュールに従って必ず介護等体験を行ってください。

* B類生が小学校教員免許を取得するには、A類生と同様に免許科目を履修し、小学校で教育実習を行う必要があります。小学校教員免許に必要な科目のうち、教員養成系の必修科目や社会科の専攻科目でない科目は、卒業に必要な単位に上乗せで履修することになります。

6. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

B類社会専攻では東京都や各地の中学校教員や高等学校教員が一般的な進路です。ただし近年では、中学校社会科、高校地歴科・公民科の教員就職はどこでも難関です。教員をめざしながらやむをえず他の業種に就職する、あるいはさらにそれから「社会人教員」に再チャレンジする人もいます。B類社会専攻のカリキュラムは教員にならない人にも十分応えられるだけの内容を持っています。教員以外では、非教育職公務員(東京都・区市町村、国の機関など)、民間教育機関、教育系出版社、旅行社など一般企業、銀行、証券会社、記録映画制作会社、コンピュータソフトウェア関連会社など、進路は多岐にわたります。中学校・高校教員は高度な専門知識と指導力を求められるので、本学の教職大学院や他大学の大学院へ進学してさらに研鑽を積む学生も数多くいます。

中等教育教員養成課程(B類) 数学専攻

1. 専攻の目的・目標

数学科教室は、学生の数学的能力の育成と、中学校・高等学校教員としての資質の養成を目的とし、以下の事項を教育の目標とする。

- (1) 中学校・高等学校の数学の内容、数学教育の理論と実践についての素養を身につける。
- (2) 数学に対する興味と理解を深める。
- (3) 数学を学ぶことによって、自然や社会に対して自らの頭で論理的に考える態度を育てる。

2. カリキュラムの特色と構造

数学は、一步一步階段を上るように学習を積み重ねていく学問である。数学科における各科目は、このことを考慮して1・2年次に基礎数学、線形数学、微分・積分、代数学、幾何学、確率・統計等の数学の基礎となる科目、3・4年次に代数学特論、幾何学特論、解析学特論、確率論特論等のさらに高度な数学の科目とカリキュラムや指導法に関する数学教育の科目を、「教科・教職に関する科目(専攻SE)」、「必修科目(S)」、「選択科目A(SA)」に配置してある。4年次での卒業研究では、数学、数学教育から選択した分野内の1つのテーマについてより深い専門的な学習をする

3. 履修の方法

- (1) 教科・教職に関する科目(専攻SE)は、「数学科教材論」「数学カリキュラム論」「数学科教育臨床」「数学教育研究」の4つの授業科目は必修なので、8単位を必ず修得する。
- (2) 数学科の専攻科目はすべて標準履修学期に履修すること。上位学年の科目を履修する事はできない。
- (3) 卒業研究を履修するためには必修科目(S科目)の「数学入門セミナー(2単位)」、「微分・積分学(4単位)」、「線形数学(4単位)」、「解析学Ⅰ(2単位)」、「代数学Ⅰ(2単位)」、「幾何学Ⅰ(2単位)」、「確率・統計Ⅰ(2単位)」の合計18単位をすべて修得していなければならない。
- (4) 小学校教員免許状の取得については、スタディガイドの学校教育系学生のための教員免許状の取得方法を参照して下さい。
- (5) 4年次(秋学期)には、教育基礎科目の必修科目として「教職実践演習」を履修する。

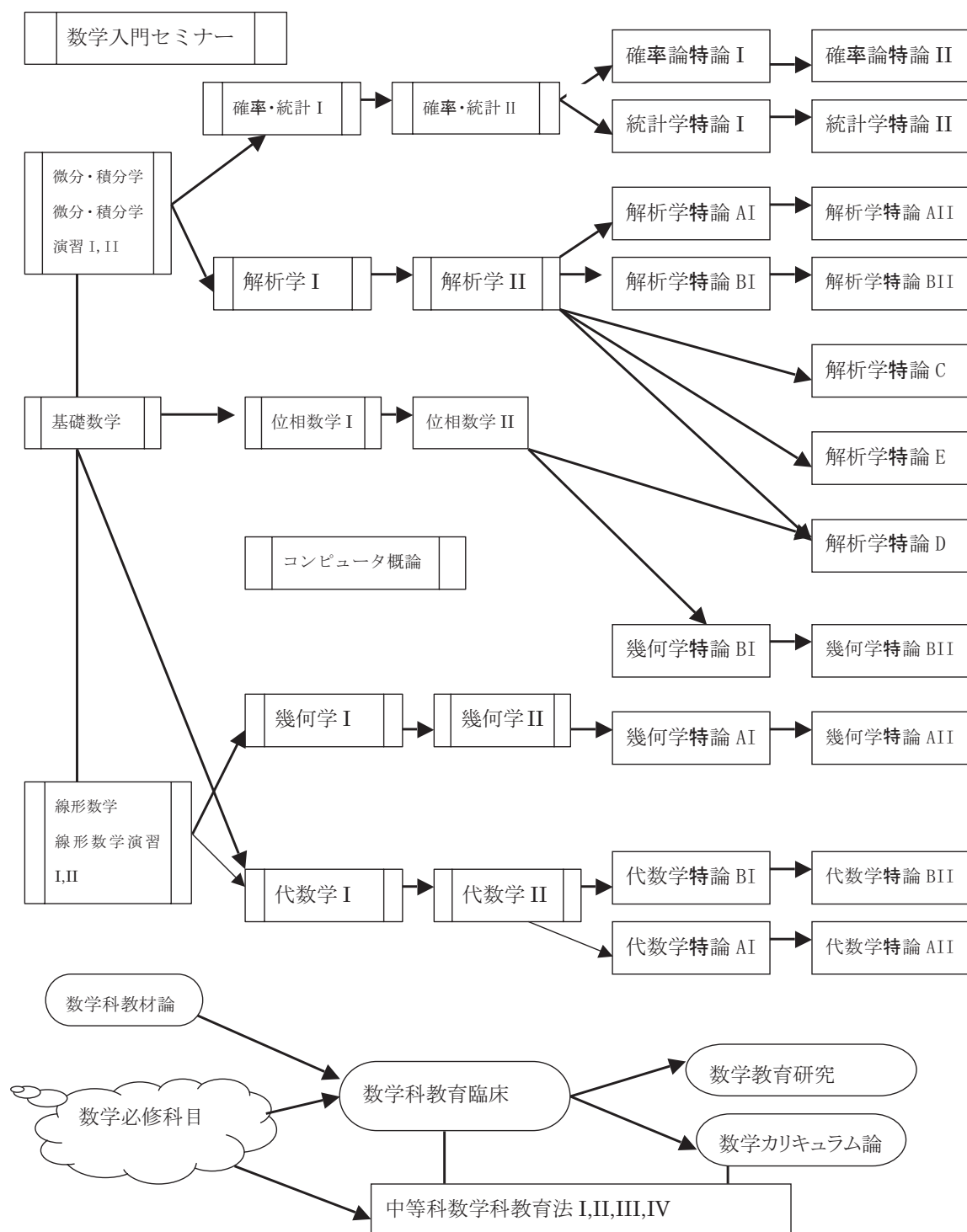
4. 4年間の標準的履修モデル

学年	1		2		3		4	
学期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
必修	微分・積分学 線形数学		代数学I	代数学II				卒業研究
			幾何学I	幾何学II				
			解析学I	解析学II				
	微分・積分学演習I	微分・積分学演習II	確率・統計I	確率・統計II				
	線形数学演習I	線形数学演習II	位相数学I					
	基礎数学		コンピュータ概論					
入門セミナー								
SE科目			授業観察演習	数学科教材論	数学科教育臨床	数学カリキュラム論 数学教育研究		
SA科目		微分・積分学演習I	位相数学I		代数学特論AI	代数学特論AII		
		線形数学演習II	コンピュータ概論		代数学特論BI	代数学特論BII		
					幾何学特論AI	幾何学特論AII		
					幾何学特論BI	幾何学特論BII		
					解析学特論AI	解析学特論AII		
					解析学特論BI	解析学特論BII		
					解析学特論C	解析学特論D		
					解析学特論E	確率論特論II		
					確率論特論I	統計学特論II		
					統計学特論I			
				上記から専門に合わせて2～4科目		3年次のSA科目のうち未履修科目		
教育実習				事前・事後指導 9月：教育実地研究I		5～6月：教育実地研究II	10月：選択実習 教職実践演習	
ET			中等数学科教育法I	中等数学科教育法II	中等数学科教育法III	中等数学科教育法IV		
教室行事	1年オリエンテーション		2年オリエンテーション		3年オリエンテーション	卒業研究室決定		
その他	(春学期) 1年生キャリア支援セミナー		(春学期) 2年生キャリア支援セミナー		(春学期) 3年生キャリア支援セミナー (教員・企業・公務員等) 10月：東京教師養成熟募集		(春学期) 4年生キャリア支援セミナー（教員志望） 7月～：教員採用試験	

5. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

卒業要件をみれば、中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状を取得することができる。教育界のみならず一般社会において数学的能力をもった人が必要とされている。数学科で勉強したことを生かして、全国の公立および私立の小、中、高等学校教員になる卒業生が圧倒的に多いのはもちろんだが、大学院へ進学する人もいる。国家公務員、地方公務員になる人や、一般企業では情報・通信関連企業、銀行、各種メーカー等に進む人など多彩である。

中等教育教員養成課程 数学専攻〔B類数学〕



中等教育教員養成課程(B類) 理科専攻

1. 専攻の目的・目標

本学中等教育教員養成課程(B類)理科専攻は、中学校、高等学校または中高一貫校の理科教員の養成を目的としている。カリキュラムの目標として、共通科目、教育基礎科目や自由選択科目の履修を通じ、幅広い教養を身につけ、現代的教育課題や教職への高い意識を養い、専攻科目の履修を通じ、深い専門性を身につけることを目指している。教員免許状としては、中学校教諭一種免許状(理科)と高等学校教諭一種免許状(理科)が取得できる。

2. カリキュラムの特色と構造

理科教室が開設する科目群は、理科に関わる全領域と理科教育学にわたり、「教科・教職に関する科目」と「専攻に関する科目」に分類される。自然科学を理解するための学習方法には特質ある取り組み方が知られている。その一般的な取り組み方は、高等学校までの学習を基盤とし、大学として基本的事項の整理から始め、段階を経て徐々に専門性を高めていき、高度な内容へと発展させていくものである。理科教室の科目群はこの特質を考慮して学期配列されている。

B類理科専攻では、1年次に物理学教室・化学教室・生物学教室・地学教室のいずれかに配属される。基本的事項として開設する物理学・化学・生物学・地学・理科教育学の全分野にわたる「専攻に関する科目」には、理科の4分野の名称(以降「～」)を冠する必修科目「～実験」4科目、「～概論」4科目、及び「～演習」4科目(一部は2年次に開設)がある。また「理科専攻入門セミナー」も1年次に履修する。これら基本的・基礎的内容の学びの上に、主に2年次以降(一部は1年次秋学期以降)、「教科・教職に関する科目」とともに、より専門的な内容の「専攻に関する科目」の選択科目が理科の4分野及び理科教育学分野に体系立てて用意されている。「教科・教職に関する科目」の単位数は8単位以上、「専攻に関する科目」の単位数は52単位以上であり、高度で豊かな自然科学の知識・技能を習得できる。「専攻に関する科目」には、講義以外に、実験・実習・演習という形態で開設される科目があることは、理科のカリキュラムの特徴である。

3年次には研究室に配属される。「専攻に関する科目」の必修である「卒業研究」は、配属された研究室の教員のもとで理科の各分野の専門的な研究を行い、大きく成長を遂げる。これまでの科目群での学びの上に、「卒業研究」に取り組むというカリキュラムの全体が、専門性に基づいた教員養成課程を構成している。

3. 履修の方法

(1)教科・教職に関する科目(専攻SE)

専攻SE科目として5科目を開設する。「理科学習指導論」、「理科カリキュラム研究」、「理科教材開発基礎Ⅰ」、「理科教材開発基礎Ⅱ」、及び「理科教育臨床」のうち4科目を選択して必ず履修すること(選択必修)。

(2)卒業研究 (物理学教室)

卒業研究は3年次から配属される研究室毎に実施する。卒業研究には次の専門科目、すなわち「自然科学のための数学A・B」、「物理数学Ⅰ・Ⅱ」、「力学及び演習Ⅰ・Ⅱ」、「電磁気学及び演習Ⅰ・Ⅱ」、「熱力学及び演習」、「統計力学及び演習」、及び「量子力学及び演習Ⅰ・Ⅱ」を履修しておくことが望ましい。特に、「自然科学のための数学A・B」を1年次に、「物理数学Ⅰ・Ⅱ」を2年次に必修と思って必ず履修しておくことが非常に重要である。3年次には配属された研究室が開講している「物理学専修実験A・B」あるいは「物理学専修演習A・B」を履修し、4年次の卒業研究に備える。

（化学教室）

卒業研究には化学に対する幅広い知識と、深い理解が必要となるため、化学分野に開設されている専門科目をより多く系統的に履修することが望まれる。特に、Ⅴ期に開設される「物理化学実験」、「無機・分析化学実験」、「有機化学実験」を履修・単位を修得し、実験と安全に関する知識や技能を習得すること、「教職実践演習」の履修条件を満たしていることを卒業研究にとりかかるための要件としている。3年次に各研究室へ配属され、研究室のゼミに参加して研究内容に関連する基礎を学び、4年次に卒業研究を行う。

（生物学教室）

3年次から各研究室に配属されるが、そのためには必修科目の他に、選択科目（SAおよびSB）に開設されている生物学分野の講義・演習・実験・実習を体系立て積極的に履修することが望まれる。Ⅲ期に開設される「生物科学方法論」は各研究室で行われている研究内容を解説しているので、卒業研究にとりかかるための参考になる。

（地学教室）

3年次に各研究室へ配属され、そこで卒業研究を行う。それぞれの研究室で行われるゼミや巡検とは別に、必修科目はもちろん、選択科目（SAおよびSB）に開設されている地学分野の講義・演習・実験・実習を体系立って積極的に履修することが望ましい。なお、岩石鉱物学に興味のある学生は無機化学や物理化学などに関する科目を、地質古生物学に興味のある学生は植物系統学や動物系統学などに関する科目を履修しておくことが重要である。また、天文学や地球物理学（気象学・地震学）に関心のある学生は、数学（「自然科学のための数学 A」「自然科学のための数学 B」「物理数学Ⅰ」「物理数学Ⅱ」）、および物理学（力学、熱力学、電磁気学など）に関する科目を必修科目に準ずるものとして必ず履修しておくことが重要である。

4. 免許や進路について

○取得する免許

中学校教諭一種免許状（理科）、高等学校教諭一種免許状（理科）

○単位修得を条件に取得可能な免許・資格（注）

幼稚園・小学校・特別支援学校教諭の一種免許状、司書教諭、司書、社会教育主事、学芸員など。

（注）履修方法によっては取得困難な場合もある。

◇進路

東京都他全国各地の公立および私立中学校教員あるいは高等学校教員、もしくは小学校教員、民間教育機関、博物館、民間企業への就職、もしくは大学院修士課程、教職大学院等への進学などである。

5. 4年間の標準的履修モデル（専攻内の行事予定）

次頁以降の表を参照されたい。

4年間の標準的履修モデル

学年	1		2		3		4	
学期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
専攻 SE 科目			理科教材 開発基礎 I 理科教材 開発基礎 II(集中)		理科学習 指導論 理科カリ キュラム 研究	理科教育 臨床		
S 科目	理科専攻入 門セミナー 化学概論 理科実験 〔注1〕	物理学概論 理科実験	物理学演 習 生物学概 論 地学概論	化学演習 生物学演 習 地学演習				
選択 S A S B	物理学，化学，生物学，地学，理科教育学の分野ごとに下記の表に示す。							
教育 実習			観 察 実 地 研究		事前・事後 指導 9月：教育 実 地 研 究 I		5～6月 教育実地 研究II(選 択)	教 職 実 践 演習
教室 行事	所属教室決 定							
その 他					(春学期) 3年生キャリア支援セミナ ー(教員・企業・公務員等)		(春学期) 4年生キャリア支援セミナ ー(教員志望) 7月～:教員採用試験	

注1： 理科実験；I期とII期に物理学実験，化学実験，生物学実験，地学実験の4実験をすべて履修しなければならない。

「専攻に関する科目」の選択科目（S A，S B）

1. 領域ごとの科目群を下記の表に示す。学生は選んだ領域の科目群を系統的に履修する。

学 年	1		2		3		4	
学 期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
物理学の 科目群	自然科学 のための数 学A	自然科学 のための数 学B	力学及び演習I 電磁気学及び演 習I 物理数学I	力学及び演 習II 電磁気学及 び演習II 物理数学II 現代物理学	熱力学及び演 習 量子力学及び 演習I 専修物理学 〔注2〕	物性物理学 統計力学及 び演習 量子力学及 び演習II 専修物理学 〔注2〕	量子物理学特論	
化学の科 目群	基礎化 学	基礎物 理化学 基礎無 機化学 有機反 応基礎 論	物理化学I 無機化学I 基礎有機化学	物理化学II 分析化学 有機化学	物理化学実験 無機・分析化 学実験 有機化学実験 物理化学III 無機化学II 有機軌道論	物理化学演 習 無機化学演 習 有機化学演 習 分子設計と 合成 高分子化学 環境科学	物理化学セミナ ーI 無機化学セミナ ーI 有機化学セミナ ーI	物理化学 セミナー II 無機化学 セミナー II 有機化学 セミナー II

学 年	1		2		3		4	
学 期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
生物学の 科目群			生物科学方法論 植物系統学 植物学野外実習 (集中) 生態学 生化学	植物形態学	生物学特別実 験 遺伝学 生物学特別演 習 I	植物生理学 生物学特別 演習 II		動物生理 学
地学の科 目群	自然科学 のための数 学 A	自然科学 のための数 学 B	大気物理学概説 固体地球科学概 説 地殻物質論	宇宙地球と 生命 気象学概説 地殻構成論	宇宙物理学 宇宙物理学演 習 地球物理学 地球科学実験 古生物学 地球化学 地球科学野外 実習(集中)	天文学実験 地球物理学 実験 岩石鉱物学 実験 古生物学実 習 特別演習 〔注 3〕		

注 2：専修物理学実験 A，B，専修物理学演習 A，B，のいずれかを V 期から VI 期に履修することが望ましい。

注 3：特別演習は次の 8 分野の演習からなる。この中から 1 分野を選択する。

宇宙科学特別演習，天文学特別演習，気象科学特別演習，地球物理学特別演習，地球科学特別演習 A，B，C，
地球環境科学特別演習

学年	1		2		3		4	
学期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
理科教 育学の 科目群		現代社 会にお ける理 科教育	理科教育測定・ 評価論 自然探究実践法 科学教材開発研 究論 海洋科学教育	自然史科学	理科教育学概 説 放射線教育 I (集中)	理科教育と 科学史 理科におけ る環境教育 放射線教育 II		

中等教育教員養成課程(B類) 音楽専攻

1. 専攻の目的・目標

教員養成を主たる目的として設置されている課程であり、基本的に中学校・高等学校の教員を養成するカリキュラムが組まれています。東京学芸大学のB類音楽専攻は全国の教員養成系大学の中で最も多いスタッフを抱え、専門性の高い教師を目指すために、ふさわしい充実したカリキュラムが組まれています。これらを通じて音楽教育の理論と実践について高い素養を備えた人材の育成を目指しています。

2. カリキュラムの特色と構造

音楽専攻のカリキュラムは、中等教育に関わる音楽全般の基礎的な知識と技能の習得と、各人の専門分野の深化という、ふたつの目的が達成できるように構成されています。

第1年次で、中等教育教員として必要な基礎的な知識と技能を幅広く習得します。第3年次からは、各自の専門領域を高めるために、6つの分野(声楽、ピアノ、管弦打、作曲、音楽学、音楽教育)から一つを選択し、各分野を中心に卒業研究を完成させます。

3. 履修の方法

○教科・教職に関する科目(専攻SE)

「音楽科と情報」「音楽科教材演習」「音楽科教材特論」「音楽授業実践演習」は中等音楽教育の基礎的な科目であり、現代のニーズに応じた科目です。4科目8単位を必ず修得して下さい。

○専攻に関する科目(S, SA)

音楽科の必修科目(S)として22単位を必ず修得して下さい。

選択科目(SA)は、「邦楽歌唱法A」又は「邦楽歌唱法B」のいずれか1科目1単位、「吹奏楽 I」「オーケストラ I」のいずれか1科目1単位、「和楽器A」「和楽器B」「和楽器C」「和楽器D」から1科目1単位を含めて30単位以上を修得して下さい。

○卒業研究(SZ)

音楽専攻では3年次から、6つの分野(声楽、ピアノ、管弦打、作曲、音楽学、音楽教育)よりひとつを選択し、卒業研究として継続的に研究を行います。選択した分野の以下の卒業研究に関する授業科目を履修して下さい。

声楽:声楽実技Ⅰ・Ⅱ, ピアノ:ピアノ実技Ⅰ・Ⅱ, 管弦打:吹奏楽Ⅰ・ⅡおよびオーケストラⅠ・Ⅱのうちいずれか 作曲:作曲研究A・BまたはC・D, 音楽学:音楽学基礎研究A, 音楽学研究C, 音楽教育:音楽教育特別研究A～Dより2科目以上。

4. 進路(就職・進学)について

音楽教室では、授業に関連して様々な自主ゼミや研究発表会(演奏会)、各種音楽教育セミナー、教員就職のための講習会等を実施しています。そのような行事等に主体的に参加して学習を深めることも、自身のキャリアを築いていくためには重要です。

進路としては、中・高等学校の音楽科教諭、小学校の音楽専科教諭、民間企業等の他、大学院、留学、研究生等、進学して研鑽を積む学生もいます。

5. 4年間の標準的履修モデル(専攻内の行事予定)

中等教育教員養成課程 音楽専攻 (B類音楽 卒業研究にピアノを選択にした例)

学 年	1		2	
学 期	I	II	III	IV
専攻SE 科目		音楽科と情報 音楽科教材演習		
S科目	音楽専攻入門セミナー 基礎声楽実技Ⅰ 基礎ピアノ実技Ⅰ 基礎管弦打実技Ⅰ 作曲法Ⅰ 音楽学概論A 合唱 ソルフェージュⅠ	基礎声楽実技Ⅱ 基礎ピアノ実技Ⅱ 基礎管弦打実技Ⅱ 作曲法Ⅱ 音楽学概論B	指揮法	
SA科目		ソルフェージュⅡ	基礎声楽実技Ⅲ 基礎ピアノ実技Ⅲ 基礎管弦打実技Ⅲ 邦楽歌唱法 B または和楽 器 A	基礎声楽実技Ⅳ 基礎ピアノ実技Ⅳ 基礎管弦打実技Ⅳ 和楽器 B または邦楽歌唱 法 A
教育実習				
教室行事	教員志望者講演会		教員志望者講演会	
その他				

学 年	3		4	
学 期	V	VI	VII	VIII
専攻SE 科目	音楽科教材特論	音楽授業実践演習		
S科目		音楽学概論C		
SA科目	ピアノ実技Ⅰ オーケストラⅠ・Ⅱ また は吹奏楽Ⅰ・Ⅱ 音楽教育特別研究 A・C 民族音楽演習 A・B	ピアノ実技Ⅱ 音楽教育特別研究 B・D ポピュラー音楽演習		
教育実習	事前事後指導 9月:教育実地研究Ⅰ (附属)		5～6月:教育実地研究Ⅱ (協力校)	教職実践演習
教室行事	教員志望者講演会		教員志望者講演会	
その他	オーケストラ、吹奏楽の演奏会 3年生キャリア支援セミナー(教員・企業・公務員等) 東京教師養成塾募集(5月) 教師力養成特別講座(万ゼミ)受講受付(10月)		4年生キャリア支援セミナー(教員志望) 7月～:教員採用試験	

中等教育教員養成課程(B類) 美術専攻

1. 専攻の目的・目標

B類美術専攻では、中学校の美術や高等学校の美術・工芸の優れた教員の養成を目的にしています。大学生活の4年間に、中・高の美術や工芸の学習内容や指導法を習得しながら、美術や工芸の高度で専門的な実技や理論を学ぶことによって、中学校や高等学校の生徒たちに求められる豊かな感性と創造力を育むための表現力、鑑賞力、コミュニケーション能力を身につけることが目標です。

2. カリキュラムの特色と構造

美術科は、絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学、美術科教育学の6つの領域から構成されています。その中心になる専攻科目の授業がS科目(必修科目)とSA科目(選択科目)です。S・SA科目の授業は、関心を持った領域を1つ選んで、段階的に知識と能力を伸ばしながら、美術と教育への理解を深めることができるよう工夫されています。

1年次は、まず、それぞれの領域の基礎力を養うため、春学期と秋学期に集中的にS科目を履修します。この間に、自分がどの領域に関心を持てるか、いろいろ試してみることがポイントです。

2年次に、どれか1つの領域を選んでS科目「美術演習Ⅰ・Ⅱ」を履修します。専門的な知識と能力を段階的に身につけていくのが目的です。3年次に「美術演習Ⅲ・Ⅳ」を履修し、最後に、卒業研究に進みます。自分の関心を専門的な知識と能力に結びつけ、研究テーマを深めていくのが目的です。また、美術科教育学の学習をより深めたい人や美術科教育学の領域で卒業研究を行いたい人は、1年次にSA科目「美術科教育演習Ⅰ・Ⅱ」を、2年次にSA科目「美術科教育演習Ⅲ・Ⅳ」を履修します。この他にもSA科目やSB科目(選択科目)が開講されています。自分の実力の幅を広げるため、関心に応じて積極的に履修することを勧めます。

3. 履修の方法

(1) 教科・教職の科目(専攻SE)の履修

教育基礎科目と専攻科目の橋渡しをする大事な科目です。「図画工作・美術科と情報」「美術科カリキュラム論」「美術科教材論Ⅰ(平面)」「美術科教材論Ⅱ(立体)」はすべて必修科目です。

(2) 教育基礎科目

教職に関する基本的な科目です。2～3年次に「中等美術科教育法Ⅰ～Ⅳ」を、4年次の秋学期に「教職実践演習」を履修します。また、高校工芸の免許取得には3年次に「中等工芸科教育法Ⅰ・Ⅱ」を履修します。

(3) 卒業研究

卒業研究(必修4単位)は、最終年次に行なう4年間の学習成果の集大成です。6つの領域(絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学、美術科教育学)のなかから領域を1つ選んで研究テーマを決め、教員の指導を受けながら作品を制作したり論文を作成したりします。成果は卒業制作展や論文発表会で公表します。できるだけ早めに自分に合った研究テーマを見つけることがポイントです。

4. 4年間の標準的履修モデル(専攻内の行事予定)

学 年	1		2	
学 期	I	II	III	IV
専攻SE 科目 (必修)		図画工作・美術科と情報	美術科教材論Ⅰ(平面)	美術科教材論Ⅱ(立体)
S科目 (必修)	絵画基礎Ⅰ 彫刻基礎Ⅰ デザイン基礎Ⅰ 工芸基礎Ⅰ 美術専攻入門セミナー	絵画基礎Ⅱ 彫刻基礎Ⅱ デザイン基礎Ⅱ 工芸基礎Ⅱ 西洋美術史概論	美術演習Ⅰ 日本東洋美術史概論	美術演習Ⅱ 現代美術史概論
主な SA科目 (選択)	美術家教育と美術科教育 美術科教育演習Ⅰ	図法・製図 美術科教育演習Ⅱ	絵画演習A 彫刻演習A デザイン演習A 工芸演習A・B 美術教育基礎研究 美術科教育演習Ⅲ	絵画演習B 彫刻演習B デザイン演習B 工芸演習C 鑑賞教育 美術史実地研修 (集中) 美術科教育演習Ⅳ
教育実習				
教室行事	6・11月:「先輩に聞こう」		6・11月:「先輩に聞こう」	
その他	介護等体験(特別支援学校)		介護等体験(社会福祉施設)	

学 年	3		4	
学 期	V	VI	VII	VIII
専攻SE 科目		美術科カリキュラム論		
S科目	美術演習Ⅲ	美術演習Ⅳ 美学	(SZ 卒業研究)	(SZ 卒業研究)
主な SA科目 (選択)	絵画演習C・D 工芸・デザイン理論	美術史演習A	美術史演習B・C	
教育実習	9月:教育実地研究Ⅰ		5～6月:教育実地研究Ⅱ	
教室行事	6・11月:「先輩に聞こう」		8月:教員採用試験面接・実技対策ゼミ	
その他	(春学期)3年生キャリア支援セミナー (教員・企業・公務員等) 10月:教師力養成特別講座(万ゼミ)募集 10月:東京教師養成塾募集		(春学期)4年生キャリア支援セミナー(教員志望) 7月～:教員採用試験 10月:大学院入試	

5. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

1・2年次は、学外の教育ボランティアや各種のボランティア活動に積極的に参加することを勧めます。見聞を広めることによって、自分なりの教育観を養うことができます。

3・4年次には教育実習が行なわれます。3年次は、9月に附属中学校で「教育実地研究Ⅰ」を経験します。3年次の春学期までに決められた単位を修得しないと教育実習に参加できないので注意が必要です。4年次は、5～6月に中学・高校で「教育実地研究Ⅱ」を経験します。実習を終えると7月には各都道府県の教員採用試験があります。3年次から計画的に準備をして、試験に臨む必要があります。

「教育実地研究Ⅱ」は選択ですが、教員を目指す方は極力受講するようにしてください。

卒業後は、中学校の美術や高等学校の美術・工芸の教員になる人、教職大学院へ進学する人などがいます。この他の進路に民間企業や公務員などがありますが、どの場合も、美術の魅力を人に伝えられる真の実力を備えた、教育に強い専門家として活躍することが期待されています。

中等教員養成課程(B類) 保健体育専攻

1. 専攻の目的・目標

優れた中学校・高等学校の保健体育科教員を養成することを目指しています。そのために、中・高等学校に求められる基本的な資質に加え、特に保健体育の授業や運動の指導に関して高度な専門性を身につけることを大きな目標にしています。

2. カリキュラムの特性と構造

保健体育科の専門領域には、「体育学」「運動学」「保健体育教育学」という大きく分けると3つの学問領域があります。カリキュラムに開設されている科目は、それぞれこれらの領域と深く関わっています。

皆さんはまず、必修科目(S)や選択科目(SA, SB)の1～2年次に開講されている講義や実技を履修しながら、運動・スポーツや体育に関わるどのような領域に特に関心が持てるかを探っていきましょう。そして、自分が興味を持てる領域が見えてきたら、その領域に関連する科目を積極的に加えながら、自ら学習を深めていってください。

また、B類専攻生が小学校ほかの副免許取得を希望する場合は、取得に必要な指定科目を加えて履修する必要がありますので注意してください。

3. 履修の方法

(1)教科・教職に関する科目(専攻 SE)

「保健体育科と情報」「保健体育科模擬授業演習B」「保健体育科教材研究」「保健体育科カリキュラム開発論」の4科目8単位を必ず履修してください。

(2)卒業研究

4年次になると、大学での学習の言わば総まとめとなる必修の卒業研究があります。どの領域の先生に指導を受けて論文を書いていくかは、おおよそ2年次の終わりまでに決められるとよいでしょう。3年次に進む際に、卒業研究を行うために所属する研究室の希望を出すことになるからです。

日頃の学習の中で見出された学問的な関心を、関連する科目の履修で深めながら、徐々に卒業研究へと発展させていくことが望めます。

例えば、1年次秋学期開講の「体育史概論」をきっかけに体育の歴史的研究に関心をもったならば、3年次春学期開講の「体育史実習」や「体育史演習」も履修しながら卒業研究につなげていくとよいでしょう。

4. 4年間の標準履修モデル(専攻内の行事予定)

1 年次：履修ガイダンス，チューター配当

I 期（春学期）

保健体育専攻入門セミナー(S)
人体解剖生理学 (S) / 体育原理概論 (S)
器械運動 B (S) / 水泳 B (S) / 陸上 B (S)
体づくり運動 B (SA：奇) 他

II 期（秋学期）

保健体育科と情報 (専攻 SE)
体育・スポーツ心理学概論 (S)
学校保健学概説 (S) / 衛生・公衆衛生学 (S)
体育史概論 (S) / ダンス (S)
救急処置法 (SA) 他

研究室仮所属希望調査

2 年次：履修ガイダンス，研究室仮所属

III 期（春学期）

体育科学習評価論 (専攻 SE：偶)
教科体育・特活指導計画論 (専攻 SE：奇)
運動生理学概論(S) / サッカー B (S)
柔道 (S) / 剣道 (S) / ソフトボール B (S)
野外環境教育学 (SA) / スポーツバイオメカニクス概論 (SA)
遊びと発育・発達(SA)
野外環境教育実習 (夏季) (SA：集中) 他

IV 期（秋学期）

保健体育科模擬授業演習 B (専攻 SE)
保健体育科教材研究 (専攻 SE)
体育・スポーツ経営学 (S) / バスケットボール B (S)
体育・スポーツ社会学 (S) / バレーボール (S)
運動方法学総論 (S) / 障害児の運動 (SA)
ラグビー (SA：偶) / ハンドボール (SA：奇)
スキー実習 (SA：集中) / スケート実習 (SA：奇・集中)
野外環境教育実習 (冬季) (SA：偶・集中) 他

研究室所属希望

3 年次：卒業研究室所属

V 期（春学期）

保健体育科カリキュラム開発論 (専攻 SE)
保健体育科演習(S) / 運動部活動指導演習(S)
保健体育・スポーツ専門英語演習 (SA)
体育史実習 (SA：奇) / 子どもとからだ (SA)
身体表現論 (SA) / 野外環境教育指導演習 (SA) 他

3 年生キャリア支援セミナー

VI 期（秋学期）

スポーツバイオメカニクス演習 (SA)
(卒業研究に向けた個別準備・学習)

10 月：東京教師養成塾募集

実習事前指導

9～10 月：教育実習（教育実地研究 I）実習事後指導

2 月：教育実習（副免許）

4 年次

VII 期（春学期）

卒業研究

4 年生キャリア支援セミナー

VIII 期（秋学期）

教職実践演習 卒業研究

5～6 月：教育実習（教育実地研究 II）（選択） 7 月：教員採用試験

10 月：大学院（修士課程・教職大学院）入試

5. 4 年間の学習計画や進路(進学・就職)について

学習計画を立てるに当たり，大学での学習の重要な柱である教育実習をひとつの手がかりにするとよいでしょう。3 年次の 9～10 月には，附属中学校・高等学校・国際中等教育学校で初めての「教育実習（教育実地研究 I）」が行われます。この基礎実習に参加するために必要な履修単位を確実に修得することは勿論，中・高等学校で教えることになる実技と保健に関する科目でもできるだけ履修して実習に備える必要があります。また，3 年次春学期開講の「教育実習事前の指導」に合格しないと教育実地研究 I には参加できないことに特に注意してください。

3 年次 2 月には小学校ほかの副免許取得希望者の教育実習があります。4 年次の春学期中の 5～6 月には，主に出身中学か高校での「教育実習（教育実地研究 II）」が行われます。この実習のすぐ後の 7 月には教員採用試験が待っていますので，3 年次からの準備が欠かせません。10 月には大学院（修士課程・教職大学院）入試があります。したがって，副免許や進学を希望する場合は，できるだけ早くから準備しておくことが望まれます。

中等教育教員養成家庭(B類) 家庭専攻

1. 専攻の目的・目標

家庭専攻の目的は、大きく分けて4つあります。

- ①家庭科は生活・文化を伝承し、社会や環境とのつながりを学び創る教科です。
- ②生活科学と家庭科教育を実践的・体験的に学びます。
- ③家庭科に強く、子どもの生活全般を支える教員を養成します。
- ④地域や社会と連携した主体的な学びを大切にします。

こうした内容を体系的に学ぶために、講義を受け基礎的な知識を身につけるとともに、実験や実習に積極的に参加してください。

2. カリキュラムの特色と構造

1, 2年次には、衣食住・家族・保育、家庭経済学、家庭科教育法の基礎を学び、3年次から教育実習があります。3年次秋学期からは各研究室に所属し、自分の関心分野を卒業論文にまとめていきます。授業内容は、食品・栄養・繊維・洗剤の実験、調理・被服製作・住居設計の実習、家族についてのロールプレイやディベート、保育園訪問、パソコンを用いた生活設計シミュレーション、模擬授業の実践など、多彩に用意されています。

3. 履修の方法

共通科目や教職専門科目の他、家庭科の専門科目も1年次から順次開講され、授業によっては内容に系統性があり、前もって受講しておく必要のある授業があります。各学年で用意されている授業については、なるべくその学年でとるように心がけてください。特に実験・実習系の授業は、多人数を受け入れることはできませんので注意してください。

(1)教科・教職に関する科目(専攻SE)

「家庭科と情報」「家庭科教材論Ⅰ」「家庭科教材論Ⅱ」「家庭科カリキュラム論」全てを履修してください。

(2)卒業研究

卒業論文を書くために所属する研究室は、3年生の春学期に希望をとり、秋学期が始まる前に決定します。3年生秋学期からは、ゼミに所属して各々の分野の研究を開始します。研究室によっては、履修を勧められる授業があります。

4. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

4年間は、あっという間に過ぎてしまいます。学習に積極的に取り組み、大学でしか得られない様々な知見を身につけ、自分の進路を開拓してください。家庭科教室の卒業生は、多彩な能力を発揮して小中高等学校の教員のほか、大学院進学や専門性を生かして生活関連企業に就職し、幅広く活躍しています。また、生涯学習の視点から行政分野に進む人もいます。何事にも意欲的に取り組むことで、様々な道が拓けてくるでしょう。

5. 4年間の家庭科関連科目の標準的履修モデル(B類)

学年	1		2		3		4	
学期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
専攻 S E 科目	家庭科教材論Ⅰ		家庭科教材論Ⅱ	家庭科と情報		家庭科カリキュラム論		
S 科目	家庭経営学 被服学Ⅰ 家庭専攻入門セミナー	食品学概論 家庭工学 被服学演習A 食物学実験・実習A(集中)	住居学 被服学実験・実習A 児童学Ⅰ	家族関係学 児童学Ⅱ(集中) 栄養学概論	住居設計製図	家庭看護学		
S A 科目	消費者教育 調理学概論 被服学Ⅱ	被服学Ⅲ	食物学実験・実習B(集中) 食物学概論 生活経営学 被服学演習B	住環境論	被服学実験・実習B 生活設計論 生活環境論 乳幼児と生活	食物学実験・実習C 家庭科演習		
教育 実習			授業観察演習(9月)		事前・事後指導 9月: 教育実地研究Ⅰ		5～6月: 教育実地研究Ⅱ	教職実践演習
教室 行事	家庭科棟大掃除 兼交流会・履修相談会		家庭科棟大掃除 兼交流会	卒業研究発表会 (参加) 卒業研究説明会	家庭科棟大掃除 兼交流会	卒業研究発表会 (参加) 教員就職等対策 相談会	家庭科棟大掃除 兼交流会	卒業研究 発表会
その他					(春学期) 3年生キャリア支援セミナー (教員・企業・公務員等) 10月東京教師養成塾募集		(春学期) 4年生キャリア支援セミナー (教員志望) 7月～:教員採用試験	

中等教育教員養成課程(B類) 英語専攻

1. 専攻の目的・目標

世界中の人々との交流の機会が飛躍的に増えた今日、英語を学ぶ意義はなお一層高まっていて、英語教師の責任とやりがいもそれだけ大きくなっています。優れた英語教師は、高い英語の技能を持つと同時に、英語とそれを取り巻く文化についての深い教養を身に付け、英語を学ぶ楽しさを生徒たちに伝えることができる卓越した指導力を持たねばなりません。中・高等学校の英語教師として、そのような優れた人材を育て世に送り出すことが、本専攻の目的であり目標です。

2. カリキュラムの特色と構造

本専攻のカリキュラムは、1) 英語教育の理論や実践を学ぶための科目、2) 英語力を高めるための科目、3) 英語を科学的に分析する科目、4) 英米の文学・文化について学ぶ科目、という4種類の科目から構成されていて、しっかりとした体系性と豊かな多様性を持っている点が特色です。1, 2年次は、主として必修科目により、英語教師にとって必須の英語に関する知識と技能を学びます。3年次は、英語教育関係の科目が増え、また、各自が興味をもった分野を更に深く学べるよう、選択科目が多く用意されています。4年次は、4年間の勉学の集大成として英語で卒業論文を書きます。

3. 履修の方法

(1) 教科・教職に関する科目(専攻 SE)/専攻に関する科目:必修科目(S)選択科目A(SA)

教科・教職に関する科目(専攻 SE)を8単位以上、必修科目(S)を29単位、選択科目A(SA)を23単位以上修得してください。科目の詳細は Study Guide【学校教育系】の英語専攻のページを参照してください。

(2) 卒業研究

必修です。卒業論文を英語で執筆します。3年次の11月末に、英語教育学・英語学・英米文学文化の3分野の中から、執筆希望領域を選び、希望する指導教員名と共に届け出ます。提出の締切りは4年次の12月22日(土日祝日の場合はその前日)です。

卒業論文のテーマを見つけるためには、普段から、自分が興味を持った点、疑問点などを大切にする必要があります。一見小さな問題も、掘り下げていくとしばしば興味深いテーマに繋がります。また、当該分野の英語論文を積極的に読んで、英語論文の構成法や表現に慣れ親しんでおくことも大変重要です。

(3) その他

教養科目の語学領域に関しては、必修の「英語コミュニケーションA・B」、選択の「メディア英語 A・B」「英語リーディング A・B」「英語リスニング&スピーキング A・B」「英語集中演習 A・B・C」は語学技能検定で一定のスコアを取得した場合等に単位認定の申請が可能ですが、英語専攻の学生として英語力を高める機会を確保するためにも、履修することを強く勧めます。なお、中学校・高校で実習を行うには、語学技能検定での一定のスコア取得、もしくは語学領域選択科目の一定の単位取得が必要となります。

4. 4年間の標準的履修モデル(専攻内の行事予定)

この表は、専攻 SE 科目と S 科目以外は、ほんの数科目を例示したものです。他専攻の科目にも十分注意を払って、自分自身にとって最も良い履修プランを工夫して下さい。

学年	1		2		3		4	
学期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
専攻 S E 科目		英語科と 情報		英語科教材 論 英語教育の 現状と課題	第二言語 習得 英語科と 異文化理解			
S 科目	英語専攻入門 セミナー 英語読解 I 英文法演習 A アメリカ 文化概論 英語音声学 概論 英作文 I 英会話 I	英語読解 II 英文法演習 B イギリス 文化概論 英作文 II 英会話 II	現代英語学 I 英米文学概 論 A 英作文 III 英会話 III	英語史概論 英米文学概 論 B 英会話 IV				
SA 科目			小学校英語 教育概論 I 英米文学基 礎講読 など	小学校英語 教育概論 II 現代英語学 II など	文法理論 A・B イギリス文学 I アメリカ文学 I 小学校英語 教育演習 I など	歴史英語学 A・B 英文法研究 イギリス文学 II アメリカ文学 II 小学校英語 教育演習 II 英語教育学 研究など		
教育 実習					前期:事前指導 9月:教育実地研究 I 11月:事後指導		5～6月: 教育実地 研究 II (選択)	教職 実践 演習
教室 行事					11月 卒論領域届け		11月 卒論題目届け 12月 卒論提出	
そ の 他	介護等体験 (特別支援学校)		介護等体験 (社会福祉施設)		3年生キャリア支援セミナー 東京教師養成塾募集 (小免取得予定者)		4年生キャリア支援 セミナー 7月～教員採用試験	

5. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

小学校教員免許も取得する場合には『スタディガイド』巻末の説明をよく読んで、早くから慎重に計画を立ててください。また、在学中に留学を考えている人は、一年間の留学の場合には通常卒業に5年かかりますので、特に慎重に履修計画を立ててください。

教員採用に当たっては、教育ボランティアやクラブ活動の経験が重視される傾向があります。また、最近では、大学院に進学して専修免許状を取る人も増えています。進路に関しては、指導教員に相談すると共に、大学が用意している各種の講習会なども積極的に利用するようにしましょう。

中等教育教員養成課程(B類) 技術専攻

1. 専攻の目的・目標

本専攻は、技術に関する科学と教育学を学ぶことを通して、中学校の技術科教員や高等学校の工業科教員などの技術を教える教師として、あるいは技術者・科学者など広く実社会において科学・技術に関わる専門家として、活躍する人材を育成することを目的とします。本専攻の学生には、中学校技術科と高等学校工業科の教員免許状の取得に必要な専門教育の他、科学・技術に関する種々な専門教育をしっかりと学ぶことが求められます。

2. カリキュラムの特色と構造

本専攻では、中学校技術科と高等学校工業科の教員免許状の取得に必要な専門教育として、電子工学、機械工学、加工学、情報工学、栽培学、技術・職業教育学等の「技術に関する科学」と「教育学」に関する各種の授業科目を設けています。技術の世界を教える教師は、生徒を魅了する授業を行うために、科学・技術に関する体系づけられた知識と深い洞察力を身に付ける必要があります。本専攻ではこのような観点から、科学的に考える力を養い、体系的な知識を十分学習できるように専門教育のカリキュラムが組まれています。さらに、中学校技術科および高等学校工業科では実習が重視されていることから、実習を中心にした授業科目も多く開講しています。

3. 履修の方法

(1) 教科・教職の科目(専攻SE)

「技術・工業と情報」、「科学技術と技術科の授業」、「ものづくり教育と教材」、「ものづくり教育臨床」は必ず履修する必要があります。

(2) 専攻科目

数学と物理は専門科目の修得に必須となる内容です。工業数学Ⅰ・Ⅱおよび工業物理学Ⅰ・Ⅱは1年生の間に必ず修得してください。これらに限らず、自分に不足していると感じる内容は1～2年生の間に積極的に履修してください。さらに、全ての科目について予習と復習を必ず行なってください。みなさんは学位と教員免許を取得して卒業していきます。それにふさわしい専門性と思考力を身につけるように授業課題は独力で解答する等の努力してください。

(3) 卒業研究

卒業研究は究極の問題解決型学習です。積極的に研究に取り組んでください。卒業研究では電子工学、機械工学、加工学、情報工学、技術教育学等の専門分野の内容に関して、指導教員の指導を受けながら特定のテーマについて研究を行います。

卒業研究のスケジュール(概略)

2年生12月～3年生4月:研究室を決定

3年生4月:卒業研究スタート

(3年生次の履修に関しては各研究室の教員による履修指導に基づいて履修内容を決めて下さい。)

4年生5月～10月:中間発表会

4年生2月:卒業論文発表会

各研究室への配属は、配属学生の学業成績のバランスと本人の希望等を勘案して取り決める予定です。また卒業研究が実施される2年間には、3年生6月:附属学校における教育実習の準備開始、9月:教育実習、3年生次後半:教員採用試験準備・就職活動開始、4年生6月頃:協力校における教育実習(選択)、7月以降:教員採用試験(1次試験・2次試験)があります。このため、時間を有効に使い

ながら、積極的に研究に取り組む姿勢が重要です。

4. 4年間の標準的履修モデル(専攻内の行事予定)

学 年	1		2		3		4	
学 期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
専攻 SE 科目		技術・工業と 情報	ものづくり 教育臨床	ものづくり 教育と教材	科学技術と技 術課の授業			
S 科目	技術専攻入門 セミナー 基礎製図 木材加工概論 工業数学 I 工業物理学 I	金属加工 I 木材加工 I 工業数学 II 工業物理学 II	電気回路 応用情報処 理 I 栽培	機械工学の 基礎	職業指導			
SA 科目			木材加工 II	電磁波概論 機械工学 A I 金属加工 II	電子工学概論 応用情報処理 II 応用情報処理 III 機械工学 A II 流体力学	半導体概論 電子物性論 電子物性特別 演習 情報処理特別 演習 機械工学 B 熱・流体工学特 別演習 技術・職業教育 学特別演習 機械工学特別 演習 加工・ものづく り特別演習	応用情報処 理 IV	近現代 社会と 技術・ 職業教 育
SB 科目	自然科学の ための数学 A	自然科学の ための数学 B	計算機ハー ドウェア 物理数学 I	物理数学 II 情報メディ ア論		計測と制御		
教 育 実 習					事前・事後指導 9月:教育実地 研究 I		5～6月:教 育実地研究 II	教職実 践演習
教 室 行 事			1 2 月:研究室説明会		4 月:研究室配属		5 月:中間発表 1 0 月:中間発表会 2 月:卒業論文発表会	
その他					(春学期) 3 年生キャリア支援セミナー (教員・企業・公務員等) (秋学期) 1 0 月:東京教師養成塾募集		(春学期) 4 年生キャリア支援セ ミナー(教員志望) 7 月～:教員採用試験	

(注)SB科目は、他選修・専攻での開設が優先されます。履修時期は、各自で適宜設定してください。

5. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

1年生の間に共通科目、数学(行列{固有値, 行列式など}, 高階微分方程式の解法, 積分{多重積分, 積分}, 複素数など)や物理学(力学, 電磁気学など)の十分な理解とともに履修を終わらせてください。

3年生次までには教育基礎科目の履修を終わらせてください。専攻科目は1年生次から開設されており, 3年生次までに必修科目の履修を終わらせるのがよいでしょう。

2年生次の12月～3年次の4月にかけて卒業研究を行う研究室を決定し, 3年生4月から卒業研究に取り組むことになります。3年生次には, 卒業後に教職につくか, 進学するか, 企業等に就職するかを定め, 必要な準備を行うようにしてください。何れの選択を行なった学生も4年生次に東京都等の教員採用試験を受け, 各自の実力を確認して下さい。

選択科目(SB)の開講時間が必修科目の開講時間と重なっていることがあります。その場合は必修科目を優先して受講するようにして下さい。

本専攻は教職大学院への進学も推奨しています。教職大学院を修了することにより, 専修教員免許状を取得することができ, より視野の広いスクール・リーダーとしての専門的力量を身につけることができます。なお1年生～2年生の間に教職大学院に進学することを決めている学生は, 希望すれば2年生次に次世代学校リーダー養成コースへの登録, もしくは3年生次に教員養成高度化大学間連携コースへの登録をおこなうことにより, 教職大学院へ特別選抜で受験することができます(次世代学校リーダー養成コースは3年生次より開始;教員養成高度化大学間連携コースは4年生次より開始)。さらに, 博士課程を修了し, 博士号を取得した者には, 大学教員などの研究職への道も開けます。

中等教育教員養成課程(B類) 書道専攻

1. 専攻の目的・目標

中等教育教員養成課程(B類)書道専攻は、高等学校芸術科書道の教員養成を主な目的とした専攻です。4年間で高等学校教諭一種免許状及び中学校教諭一種免許状(国語)を取得するのに必要な授業科目を履修し、これらの科目の履修を通して、社会人として必要な知識や教養、また教員として求められる教育全般の知識、さらに高等学校芸術科「書道」及び中学校「国語」の教員として欠くことのできない専門的な知識や技能、指導法等を身につけることを目標としています。

2. カリキュラムの特色と構造

B類書道専攻のカリキュラムは、教員としての十分な素養、学問に裏付けられた技能、教育法を修得し、さらには教育実践力を養うことができるよう、全学対象の「教養科目」、学校教育系対象の「教育基礎科目(教育実習を含む)」、書道専攻の「専攻科目」から構成されています。「専攻科目」には「教科・教職に関する科目(共通SE)」、「教科・教職に関する科目(専攻SE)」、「専攻に関する科目」＝「必修科目」「選択科目A」「選択科目B」「卒業研究」があり、書道実技、書道の歴史や理論、書写・書道教育の理論や指導法、国語の4つの領域についてバランスよく学んでいきます。さらに、中学校「国語」教員免許の取得のために、国語領域の科目が多く設定されており、国語科の基礎科学や教科教育学を履修できるようになっています。

3. 履修の方法

(1) 教科・教職に関する科目(専攻SE)

「書道科と情報」「書道科教材論Ⅰ」「書道科教材論Ⅱ」「書道科カリキュラム・評価論」はすべて履修してください。

(2) 「専攻に関する科目」

書道専攻の必修科目(S)は40単位すべて履修してください。選択科目A(SA)、選択科目B(SB)から14単位以上を各領域バランスよく履修しながら、書道や国語の能力を高めてください。

(3) 教育実習

教育基礎科目に位置づけられる教育実習は3年次の「教育実地研究Ⅰ」(必修)と4年次の「教育実地研究Ⅱ」(選択)があります。「教育実地研究Ⅰ」は附属高校(書道)、もしくは附属中学校(国語)で行いますので、国語の基礎科目や教科教育学についてもしっかり学んでおくことが重要です。また、「教育実地研究Ⅱ」(選択)は協力校で行い、自分で母校等の実習校を捜す必要がありますので、履修する場合は早いうちから母校の先生等と相談しておいてください。

(4) 卒業研究

卒業研究は「作品制作研究」と「卒業論文」の両方を行います。「作品制作研究」は各担当教員の指導を定期的に受けるとともに、あらかじめ定められた曜日・時限に行う実技指導、批評会等を通じて制作を進めます。「卒業論文」は書写・書道教育や書学・書道史等についての実践・歴史・理論研究等を行います。卒業論文指導教員の指導を定期的に受けるとともに、中間報告会等における指導を通じて執筆します。3年次までに「卒業研究」のための十分な準備をしておくことが不可欠です。

4. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

B類書道専攻は高等学校芸術科書道の教員が一般的な進路ですが、近年では教員募集が極めて少数に限られるため、中・高等学校の国語の教員や小学校の教員となる人も増えています。このほか非教育職公務員や教育系出版社等の民間企業に就職し、4年間で習得した知識や技能を別の世界で発揮する人もいます。また、本学の教職大学院など、大学院へ進学して、書写・書道教育に関する実践・歴史・理論研究や書学・書道史における歴史・理論研究を継続する学生もいます。

5. 4 年間の標準的履修モデル

学 年	1		2	
学 期	I (春学期)	II (秋学期)	III (春学期)	IV (秋学期)
専攻 SE 科目		書道科と情報 書道科カリキュラム・ 評価論		書道科教材論 I
S 科目	書道専攻入門セミナー 漢字研究 I 仮名研究 I 日本語学概論 I 日本文学概論 I 日本文学史 I 中国古典文学概論 中国古典文献概論	漢字仮名交じり研究 I 篆刻・刻字 書道史研究 I 日本語学概論 II 日本文学概論 II 日本文学史 II 中国古典文基礎	日本語文法 漢字研究 II 書道史研究 II	書学 I
ET 科目			書道科教育法 I	書道科教育法 II
S A 科目			仮名研究 II 中国古典演習 A 近代文学演習 A・B 古典文学演習 E・F・G	漢字研究 III 古典文学演習 H・I 中国古典演習 B 中学書写 B 書鑑賞研究 (集中) 漢字仮名交じり研究 II 書写・書道教育史 (集中) 近代文学演習 C・D
SB 科目			日本語学演習 A	日本語学演習 B
教室行事	教室書作展 11 月：専攻書作展		教室書作展 11 月：専攻書作展	
そ の 他	4 月～ 各都道府県市教員採用試験説明会		前年度 3 月末～ 各都道府県市教員採用試験説明会	

学 年	3		4	
学 期	V (春学期)	VI (秋学期)	VII (春学期)	VIII (秋学期)
専攻 SE 科目		書道科教材論 II		
S 科目		書論研究		
SA 科目	書鑑賞教育研究 (集中)	書作品制作研究 書道史研究 III (集中) 書学 II		
SB 科目				
教育実習	事前事後指導 9 月：教育実地研究 I (附属中学校・高校)		5～6 月： 教育実地研究 II (協力 校)	教職実践演習
教室行事	教室書作展 11 月：専攻書作展		教室書作展 11 月：専攻書作展 2 月：卒論発表会／卒業制作展	
その他	前年度 3 月末～ 各都道府県市教員採用試験説明会 3 年生キャリア支援セミナー (教員・企業・公務員等) 10 月東京教師養成塾募集		4 年生キャリア支援セミナー (教員志望) 7 月～ 教員採用試験	

特別支援教育教員養成課程(C類)

1. 課程の目的・目標

本課程(C類)の目的は、第一に、歴史、原理、制度、心理、生理、病理、教育課程、指導法、教授法など、特別支援教育全般に関する豊かな専門的知識と実践力を兼ね備えた教育者を養成することです。第二に、2年次から聴覚障害、言語障害、発達障害、学習障害の4つの専攻に分かれますが、それぞれの専攻に対応する障害に関する豊かな専門的知識と実践力を兼ね備えた教育者を養成することです。

2. カリキュラムの特色と構造

本課程(C類)の学生は、その進路に関わらず、特別支援学校教諭一種免許状(4領域:聴覚・知的・肢体・病弱)と、その基礎免許となる小学校教諭一種免許状(または中学校教諭一種免許状)を取得しなければなりません。他の課程や専攻と比較して、C類の学生は取得すべき単位数が多いため、履修計画を慎重に練る必要があります。基礎免許の上に特別支援学校の免許を取得しなければならない点がカリキュラムの第一の特徴です。

免許に関わる4領域に対応した教育学や生理・心理・病理学の共通専攻科目を学ぶほかに、2年次になると専攻に分かれて、専門科目を積み上げていきます。障害ごとの専門性を育成することがカリキュラムの第二の特徴です。

3年次には実験・演習を通して障害理解や査定方法・支援方法を学ぶ「特別支援教育研究法」があります。また、秋学期には基礎免許取得のための小学校(または中学校)での教育実習もあります。これらの授業や実習を通して身につけた知識を土台として、3年次の秋学期に特別支援学校で教育実習を行うことになります。卒業論文については、関心あるテーマを、各指導教員の教育演習を通して理解を深め、一年をかけてまとめていくことになります。卒業論文の作成は4年間の大学での学習の集大成ともいえるでしょう。

3. 履修の方法

(1)教科・教職の科目(専攻SE), 専攻に関する科目(S, SA)

特別支援教育教員養成課程では、【教科・教職に関する科目】として、1年次に「特別支援教育と情報」「特別支援教育臨床」、3年次に「特別な教育的ニーズの理解と支援」が開設されています。また、【専攻に関する科目】として、1年次に「特別支援教育入門セミナー」「特別支援教育概論」「聴覚言語障害心理・生理・病理A」「知的障害心理・生理・病理」「聴覚言語障害教育学A」「知的障害教育学」が必修としてあります。2年次では肢体不自由および病弱の教育学と生理・心理・病理学を学習するとともに、4つの専攻に分かれて、各専攻で指定する必修科目と選択科目を受講します。

(2)卒業研究

4年次に卒業論文を書くことが必修です。3年次に開設される専攻に関する科目の「特別支援教育研究法」(必修科目)は、卒業論文執筆に向けての基礎的な知識や技能を身につける上でも重要な科目となります。

4. 4年間の標準的履修モデル(専攻の行事予定)

学年	1年		2年		3年		4年	
学期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
専攻SE科目		特別支援 教育と情 報 特別支援 教育臨床			特別な教 育的ニー ズの理解 と支援			
S・SA科目	8単位	6 単位	14 単位	12 単位		2単位	2単位	
教育実習					教育実地 研究 I (小・中 学校)	特別支援 学校実習		教職実践 演習
教室行事	オリエン テーショ ン	特別支援 学校・学 級等の見 学	専攻決定	キャリア懇 談会 I	キャリア懇 談会 II	研究室配 属	卒業論文 デザイン検 討会 キャリア懇 談会 III	卒業論文 提出 発表会
その他					(春学期) 3年生キャリア支援セミ ナー (教員・企業・公務員 等) 10月:東京教師養成 塾募集		(春学期) 4年生キャリア支援セミ ナー(教員志望) 7月～:教員採用試験	

5. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

卒業要件を満たすための取得単位数が多く、基礎免許状の種類や専攻に応じて受講すべき授業が一人ひとり異なるため、1年次から卒業までの見通しを持った綿密な学習計画が必要です。卒業後の進路としては特別支援学校、小・中学校の特別支援学級や通級指導教室などの教師はもちろん、通常の学級の教師として専門性を発揮する卒業生も増えています。教職大学院や特別支援教育特別専攻科(専修免許状コース)に進学する学生もあり、さらに連合大学院博士課程に進学して、研究者として教育系大学等の研究機関で活躍している先輩も少なくありません。

養護教育教員養成課程(D類) 養護教育専攻

1. 専攻の目的・目標

本専攻は、食生活の偏り、体力・運動能力の低下、睡眠不足、肥満、不定愁訴、慢性疾患、不登校、いじめ、薬物乱用、性的逸脱行為など、今日の子どもの多様で複雑な健康課題に対して、こころとからだの両面から健康支援ができる養護教諭の養成を目指します。さらに、子どもの発達段階をふまえたうえで、子どものさまざまな健康課題に対応できる能力、従来の問題対処型から予防的対応ができる資質と能力、学校医・病院・保健所・児童相談所など地域の社会資源との連携をマネジメントできる能力の育成を目指します。

2. カリキュラムの特色と構造

養護教諭には、救急処置、健康教育・保健指導、健康相談活動、健康診断・健康評価、学校環境の安全衛生、疾病予防教育などのさまざまな専門的知識と技術が求められます。そのため、養護教育学、看護学、医学、健康教育学、保健学、心理学、栄養学など多岐にわたる学問的基礎を学びながら養護教諭に必要な力量が形成されるように、授業科目と授業内容を展開します。3年次には養護実習に加え、病院や保健センターなどでの実習により実践力を高めます。これらの授業科目を通じ、子どものこころとからだの健康課題と心身の症状に関する知識や技術、心身の観察や情報収集、問題解決の方法など、養護教諭に求められる資質の育成に努めます。

3. 履修の方法

(1) 養護・教職の科目(専攻SE)

「健康教育概説」「養護活動論」「健康調査の理論と演習Ⅰ」「健康調査の理論と演習Ⅱ」の4科目は、全員が履修して下さい。

(2) SA・SB科目の履修について

養護教諭の職務の特性から、幅広い知識が必要となりますので、SA・SB科目は可能な限り、数多く履修してください。

(3) 看護学科目の履修について

臨床実習の履修条件として、臨床実習Ⅰは、学校看護学理論と演習Ⅰを、臨床実習Ⅱは、学校看護学理論と演習Ⅱ～Ⅳを履修していることが必須です。

(4) 卒業研究

卒業研究は、全員が各研究室に所属し、担当教員と相談の上、研究を進めていきます。

(5) 教科(保健科)の免許科目について

養護教諭として保健の授業を行うために、できる限り教科(保健科)の免許科目を履修し、中・高(保健)の免許を取得して下さい。

4. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

多岐にわたる学問領域から成る科目を履修する必要があるため、さらに臨床実習前に必ず修得すべき単位も多くあります。そのため、カリキュラムはかなり過密になることが予測されます。再履修がないよう、十分留意して学習に励みましょう。

教職大学院には養護教育サブプログラムがあり、そこに進学する学生もいます。将来地域の養護教諭のリーダーとして活躍することが期待される本学の学生には、教職大学院への進学も考えて欲しいと思います。

5. 4年間の標準的履修モデル(専攻内の行事予定)

学 年	1		2		3		4	
学 期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
SE科目			・養護活動論		・健康教育概説	・健康調査の理論と演習 I, II		
S科目	・学校保健基礎セミナー ・解剖学 ・養護専攻入門セミナー	・生理学 ・養護概説 ・学校保健学 ・衛生・公衆衛生学	・保健行動科学 ・学校安全と危機管理 ・感染免疫学 ・薬理学 ・臨床医学 I	・小児科学 ・健康と栄養 ・精神保健学概論 ・臨床医学 II ・学校看護学理論と演習 I	・学校看護学理論と演習 II ・学校看護学理論と演習 III ・救急処置の理論と演習 ・臨床実習 I (集中)	・学校看護学理論と演習 IV ・臨床実習 II (集中) ・健康相談活動の理論と方法		
SA科目			・学校看護学概論 ・人間の性と健康	・小児・思春期保健学	・病弱児障害児養護学 ・フィジカルアセスメント ・精神保健学各論 ・臨床医学 III ・臨床医学 IV	・歯科保健 ・臨床医学 V	・養護実践学 ・健康支援ネットワークワーキング論	
養護実習					9月: 教育実地研究 I (附属学校) ・養護実習事前事後指導		5～6月 教育実地研究 II (選択) (公立学校)	教職実践演習 (養護)
保健科科目				・中等保健科教育法 I	・中等保健科教育法 II	・中等保健科教育法 III	・中等保健科教育法 IV ・教育実習 (保健) ・事前事後指導 (保健)	教職実践演習 (小・中・高)
卒業研究							卒業研究発表	
その他					3年生キャリア支援セミナー (教員・企業・公務員等)		4年生キャリア支援セミナー (教員志望) 7月～教員採用試験	

学 生 番 号	氏 名
—	



国立大学法人

東京学芸大学

Tokyo Gakugei University